

2019年度

(平成31年度)

授 業 概 要

＜子ども運動教育学科＞

仙台大学 体育学部

○子ども運動教育学科

1. 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

- ・教育学・保育学の関連分野を修得し、多面的な履修を通じて卒業後社会で専門性を発揮できる力と専門的な学修能力を養うとともに、幼児の運動遊びの支援・助長に深い知識と感性を有して、保育・幼児教育に従事する上での専門的な知識を修得し、これを実践できる力を身に付けること
 - ・その上で、現代社会において幼児の運動遊びの支援・助長に深い知識と感性を有して、保育・幼児教育上、果たすべき役割を深く理解すること
- (1) 幼児への運動遊びの支援・助長に関する専門的・応用的な知識・技術を身につけることができる
 - (2) 幼児への運動遊びの支援・助長が果たす役割を深く理解することができる
 - (3) 保育・幼児教育の指導の場において、知識・技能を相手に的確に伝えることができる
 - (4) 多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて適切にコミュニケーションができる
 - (5) 論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組むことができる

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

- ・幼児期の子どもの運動遊びの支援・助長に関する教育を「体育学」の領域を基盤として行うとともに、幼児期の子どもの発育発達に係る「教育学・保育学」にまたがる領域をも取り込み、この分野の実践的な学習を通じ、幼稚園教諭、保育士、幼児体育指導者などを養成するカリキュラムを用意しています。
- i) 幼児期の子どもの運動遊びを軸とした保育・幼児教育について専門的知識・技能を修得する科目
- ii) その基盤となる体育学の領域での体育・スポーツ健康科学関係科目
- iii) 子どもの運動遊びを軸として幼児期の子どもの発育発達段階を踏まえた保育や幼児教育を進める上で必要となる教育学・保育学の領域での科目
- iv) 教育学、保育学の一環での保育上の表現技術及び保育実習の内容を理解する科目
- v) 地域社会や各家庭の保護者への運動遊びを軸とした保育や幼児教育の指導を行える者を育成する科目
- vi) 教職に関する科目の他、就学前の幼・小児の保育に関する保育士資格関連科目

●将来の進路

幼稚園教諭、保育士、幼児体育指導者、各種公務員、一般企業ほか

予習・復習（授業時間外学修）について（注意）

文部科学省の定める「大学設置基準」においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

本学においては「講義」、「演習」の科目は一部科目を除き2単位（必要な総学修時間は90時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの60時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

また、「実験」、「実習」、「実技」の科目は一部科目を除き1単位（必要な総学修時間は45時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの15時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

履修計画を立てる際には、以上のような予習・復習の時間が必要であることを十分に考慮に入れてください。

< 目 次 >

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

| | |
|---------------------|---|
| 導入演習 | 2 |
| 情報処理 | 3 |
| 学習基礎教養演習 | 4 |
| 英語A (含外国語コミュニケーション) | 5 |
| 英語B (含外国語コミュニケーション) | 6 |

《教養展開科目》

(人文分野)

| | |
|------------------|----|
| 哲学入門 | 8 |
| 現代の思想 | 9 |
| 心理学概論 | 10 |
| 人の心と行動 | 11 |
| ことばと人間A | 12 |
| ことばと人間B (鎌田クラス) | 13 |
| ことばと人間B (菊地博クラス) | 14 |

(社会分野)

| | |
|----------------|----|
| 社会学概論 | 16 |
| 社会構造と人間関係 | 17 |
| 消費経済とスポーツ | 18 |
| 世界経済・日本経済とスポーツ | 19 |
| 法学 | 20 |
| 歴史学入門 | 21 |
| 歴史と人間 | 22 |

(自然分野)

| | |
|---------|----|
| 生物科学 | 24 |
| エコロジー概論 | 25 |
| 教養数学 | 26 |

(教養演習)

| | |
|--------------|----|
| 体育系大学の基礎教養 | 28 |
| 仙台大学の専門教養演習Ⅰ | 29 |
| 仙台大学の専門教養演習Ⅱ | 30 |
| 全学教養演習 | 31 |

《海外文化科目》

| | |
|-------------------|----|
| イングリッシュ・トランスレーション | 34 |
| イングリッシュ・リーディングA | 35 |
| イングリッシュ・リーディングB | 36 |
| 英会話A | 37 |
| 英会話B | 38 |
| スポーツ&イングリッシュ | 39 |
| ドイツ語Ⅰ | 40 |
| ドイツ語Ⅱ | 41 |
| スペイン語Ⅰ | 42 |
| スペイン語Ⅱ | 43 |
| 中国語Ⅰ | 44 |
| 中国語Ⅱ | 45 |
| 韓国語Ⅰ | 46 |
| 韓国語Ⅱ | 47 |

《人生設計科目》

| | |
|-------------|----|
| キャリアプランニングⅠ | 50 |
| キャリアプランニングⅡ | 51 |
| キャリアプランニングⅢ | 52 |

2. 専門基礎科目

《講義》

| | |
|-----------------|----|
| スポーツ社会学 | 54 |
| スポーツ心理学 | 55 |
| スポーツバイオメカニクス | 56 |
| 運動生理学 | 57 |
| スポーツ指導の基礎 (含実習) | 58 |
| 幼少年体育論 | 59 |
| 子どもの生活Ⅰ | 60 |
| 子どもの生活Ⅱ | 61 |
| 体育講義 | 62 |
| 幼児体育論 | 63 |
| 子どもと発育 | 64 |

《実技》

| | | | |
|-----------------|----|---------------------|-----|
| 子どもとあそび | 66 | 幼少年スポーツ教育論 | 102 |
| トレーニングの基礎 | 67 | 体育原理 | 103 |
| 陸上競技 | 68 | スポーツ医学概論 | 104 |
| 器械運動（男子） | 69 | 運動障害救急法（含実習） | 105 |
| 器械運動（女子） | 70 | 運動学（含運動方法学） | 106 |
| 水泳 | 71 | スポーツ栄養学 | 107 |
| バレーボール | 72 | スポーツ史 | 108 |
| バスケットボール（児玉クラス） | 73 | 衛生・公衆衛生学 | 109 |
| バスケットボール（佐藤クラス） | 74 | | |
| ハンドボール | 75 | 4. 応用科目 | |
| サッカー（吉井クラス） | 76 | 日本国憲法 | 112 |
| サッカー（黒澤クラス） | 77 | 教育の制度B | 113 |
| ラグビー | 78 | 教育と社会 | 114 |
| 柔道 | 79 | 幼児理解の理論と方法 | 115 |
| 剣道 | 80 | （教育相談、カウンセリング基礎を含む） | |
| ダンスⅠ | 81 | 教育方法論B | 116 |
| 海浜実習 | 82 | 保育内容指導論 | 117 |
| スキーⅠ | 83 | 乳児保育 | 118 |
| スケート | 84 | 社会的養護内容 | 119 |
| キャンプ | 85 | 相談援助 | 120 |
| | | 社会的養護 | 121 |
| | | 障害児保育 | 122 |
| | | 保育相談支援 | 123 |
| | | 教職論C | 124 |
| | | 音楽表現Ⅰ | 125 |
| | | 音楽表現Ⅱ | 126 |
| | | 絵画・造形表現Ⅰ | 127 |
| | | 絵画・造形表現Ⅱ | 128 |
| | | 運動・身体表現Ⅰ | 129 |
| | | 運動・身体表現Ⅱ | 130 |
| | | 体育原理 | 131 |
| | | 保育課程論 | 132 |
| | | 子どもとことばⅠ | 133 |
| | | 子どもとことばⅡ | 134 |
| | | 保育内容総論 | 135 |
| | | 保育内容演習（健康） | 136 |
| | | 保育内容演習（人間関係） | 137 |

3. 発展科目

| | |
|-----------|-----|
| 幼児体育指導論 | 88 |
| 教育の基礎理論B | 89 |
| 子どもの心理学Ⅰ | 90 |
| 子どもの心理学Ⅱ | 91 |
| 子どもとリズム表現 | 92 |
| 社会福祉 | 93 |
| 児童家庭福祉 | 94 |
| 家庭支援論 | 95 |
| 幼児健康教育論 | 96 |
| 子どもの保健Ⅰ① | 97 |
| 子どもの保健Ⅰ② | 98 |
| 子どもの保健Ⅱ | 99 |
| 子どもの食と栄養 | 100 |
| 子どもの安全管理 | 101 |

| | |
|----------------|-----|
| 保育内容演習（環境） | 138 |
| 保育内容演習（言葉） | 139 |
| 保育内容演習（表現） | 140 |
| スポーツコーチング概論 | 141 |
| スポーツトレーナー概論 | 142 |
| スポーツマネジメント概論 | 143 |
| ジュニアスポーツコーチング論 | 144 |
| テーピング | 145 |
| レクリエーション実技Ⅰ | 146 |
| 体操（含体づくり運動） | 147 |
| 新体操 | 148 |
| エアロビックダンス | 149 |
| テニス | 150 |
| ボランティア活動実践A | 151 |
| ボランティア活動実践B | 152 |
| ボランティア活動実践C | 153 |
| 海外短期研修A | 154 |
| 海外短期研修B | 155 |
| 海外短期研修C | 156 |

5. 資格関連科目

| | |
|------------------|-----|
| 保育実習Ⅰ | 158 |
| 保育実習指導Ⅰ | 159 |
| 保育実習指導Ⅱ | 160 |
| 幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導） | 161 |
| 教職総合演習（幼稚園） | 162 |

6. 自由科目

| | |
|-----------------|-----|
| レクリエーション実技Ⅱ | 164 |
| レジャー・レクリエーション論 | 165 |
| スポーツマネジメント実習 | 166 |
| アスレティックトレーニング論Ⅰ | 167 |
| トレーニング方法論 | 168 |
| スポーツ医学A | 169 |
| スポーツ医学B | 170 |
| コンディショニング論 | 171 |
| コンディショニング実習 | 172 |

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 導入演習 Seminar of Introduction (P.A.) | | | 担当教員 | 各担任 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。 | | | | | (1) (2) (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行います。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス [内容] 導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学修] 自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。 | | | ⑨ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容] 「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学修] 授業の復習 |
| ② | [テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学修] 新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。 | | | ⑩ | [テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学修] 事前に資料を読んでおくこと |
| ③ | [テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学修] 卒業までの計画や目標について考えてみること | | | ⑪ | [テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ④ | [テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学修] これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみること | | | ⑫ | [テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑤ | [テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学修] 仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑥ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学修] 大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 体育大生とモラル(5) [内容] 学科ごとによる全体発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑦ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容] 「いまどきの大学・いまどきの大学生—ユニバーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学修] テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 後期に向けて [内容] 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学修] 演習の振り返りと自己評価 |
| ⑧ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容] 「大学で身につけるべきこと—学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学修] テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 [授業外学修] これまでの資料などに目を通しておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。授業内レポート、宿題・授業外レポート等の返却を希望する者に対しては、各担任が解説を交えて返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 実施しない |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 出席 | | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない ・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する ・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する ・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある | | | | | |
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習 | | | 関連資格 | |
| 教科書 | オリエンテーション時に資料を配布 | | | 参考書 | オリエンテーション時に資料を配布 |
| オフィスアワー | 各担任の時間帯を確認すること | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|--|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 情報処理 Data Processing (L.) | | | 担当教員 | 内野秀哲・相場徹 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | ICT関連としてCMC管理運営の実務経験、及び高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるべきであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 1. ICTに関する基本的な事柄が説明できる。 2. 状況や対象に応じて処理機能を選択できる。 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | 適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学修] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと | | | ⑨ | [テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること |
| ② | [テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学修] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと |
| ③ | [テーマ] ICTスキルの把握(履修前) [内容] ICTスキルについて、受講前の状況を各自で把握しておくための調査を行い、個々の目標設定についても検討する。 [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること | | | ⑪ | [テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること |
| ④ | [テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること | | | ⑫ | [テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと | | | ⑬ | [テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的現象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること |
| ⑥ | [テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること | | | ⑭ | [テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学修] これまでの提示資料や例題等を整理し、理解を深めておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学修] これまでの提示資料や例題等を整理し、理解を深めておくこと |
| ⑧ | [テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること | | | ⑯ | [テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学修] これまでの提示資料や例題等を整理し、理解を深めておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。レポート等はLMS(アプリ)上で共有し、相互評価なども行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | ○ | | ○ | 加減点要素 |
| 授業外レポート | | | | ○ | 欠格条件 |
| 演習・実技 | | | | | 加減点要素 |
| 授業態度 | | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 使用しない(プリント教材を使用) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50 | | | | その他 |
| | | | | | 連絡先:hd-uchino@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | 学習基礎教養演習 | | | | 担当教員 | 各担当教員 |
| | Introduction to Academic Writing | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は大学入学以前にすでに形成されているはずだが、さらなる醸成が求められている。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。 | | | | | | (1) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 1. 語彙力を上げることができる(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになる。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになる。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. 文献検索、引用を適切に付記できる。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションできる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | パラグラフ構造を理解するとともに、ある主題について分節化の重要性を理解できる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 適切な日本語を用いて課題に熱心に取り組むことができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 日本語の文章として適切なパラグラフを書くことができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4. 教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要と目標を説明した上で、パラグラフとは何かを概説する。 [授業外学修] 配布されたレジュメを読む。 | | | ⑨ | [テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学修] 次回の目標規定文を考えてくる。 | |
| ② | [テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文を漢字かな混じり文へ変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落落きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。 | | | ⑩ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしがたって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する。 [授業外学修] 目標規定文の問題点を明確にする。 | |
| ③ | [テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるトピック、サポート、コンクルーディングセンテンスの再確認し、パラグラフ・アウトラインを作成する。 [授業外学修] パラグラフ・アウトラインに関する課題をこなす。 | | | ⑪ | [テーマ] 2000字程度のレポートの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料とその引用について考える。 [授業外学修] 論文の引用注に関する課題をこなす。 | |
| ④ | [テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類を考える。 [授業外学修] 分類に関する課題をこなす。 | | | ⑫ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうることを考えて説明する。 [授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。 | |
| ⑤ | [テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となることを説明する。 [授業外学修] 比較・対照に関する課題をこなす。 | | | ⑬ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学修] パラグラフ・アウトラインの課題を復習する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] 原因・結果のパラグラフは使用頻度が高いので、とくに習熟する必要があることを念頭において説明する。 [授業外学修] 原因・結果に関する課題をこなす。 | | | ⑭ | [テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学修] 他の学生のレポートを読んでくる。 | |
| ⑦ | [テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解と展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するためのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学修] パラグラフ展開に関する課題をこなす。 | | | ⑮ | [テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学修] 自身のレポートに対するコメントに回答できるよう準備する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学修] 小論文の構成に関する課題をこなす。 | | | ⑯ | [テーマ] レポート返却、総評 [内容] レポートを返却し、総評を述べる。 [授業外学修] レポートの指摘事項を踏まえ全15回の総復習をする。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には各担当教員の研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。 ・パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くときに必要となる基礎的なスキルであるため、積極的にこの授業に臨むこと。 |
| 定期試験 | — | — | — | — | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | ○ | 20% | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | ○ | 30% | |
| 演習・実技 | — | — | — | — | 評価対象外 | |
| 授業態度 | ◎ | ○ | ○ | ○ | 50% | |
| 出席 | — | — | — | — | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 導入演習、キャリアプランニング1、体育系大学の基礎教養等 | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | レジュメを配布する | | | | 参考書 | 授業中に指示する |
| オフィスアワー | 各クラスの担当教員に確認すること | | | | その他 | 各クラスの担当教員に確認すること |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|---|--|
| 授業科目名 | | 英語A(含む外国語コミュニケーション) English A (including Foreign Language Communication) | | | 担当教員 | 鎌田・菊地博・Parangi・(志子田) |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校・高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。この科目は「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Writing(作文)」・「Listening(聞き取り)」・「Speaking(会話)」・「語学学習システム」の7分野で構成される。受講生はその日に取り組む分野を選択する。それぞれの分野では習熟度に応じた教材・課題が用意されている。学生は自分の能力に合わせて教材・課題を選択することになる。取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC400点を到達目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 | | | | |
| □ | 情意的領域 | | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 英語Aの授業の受講方法について説明する。 (後期の英語Bの受講方法も基本的に同じなので併せて説明する) [授業外学修] 受講方法について理解すること | | | ⑨ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ② | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑩ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ③ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑪ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ④ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑫ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ⑤ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑬ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ⑥ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑭ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ⑦ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑮ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | |
| ⑧ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑯ | [テーマ] ポイント確認日 [内容] これまでに取得したそれぞれの分野ごとのポイント及び合計ポイントを確認する | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになる。学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 ・学生各自には、受講方法についての自由が与えられている。一方その結果については自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるように。 ・取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 ・獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないの、入力にはくれぐれも注意すること。 |
| 定期試験 | | | | | 80% | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 20% | |
| 授業外レポート | | ○ | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 英語B(含む外国語コミュニケーション) | | | 関連資格 | 教員免許 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 特に指定しない | |
| オフィスアワー | 火曜日:14:20～15:50(鎌田)、水曜日:12:40～14:10(菊地) | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|---|---|----------------|
| 授業科目名 | | 英語B(含む外国語コミュニケーション) English B (including Foreign Language Communication) | | | 担当教員 | 鎌田・菊地博・Parangi・(志子田) | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校・高等学校の教員経験を有する | |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 英語Aと同様に英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。この科目は「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Writing(作文)」・「Listening(聞き取り)」・「Speaking(会話)」・「語学学習システム」の7分野で構成される。受講生はその日に取り組む分野を選択する。それぞれの分野では習熟度に応じた教材・課題が用意されている。学生は自分の能力に合わせて教材・課題を選択することになる。取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。 | | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC450点を到達目標とする。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 英語Aの授業の受講方法について説明する。 (後期の英語Bの受講方法も基本的に同じなので併せて説明する) [授業外学修] 受講方法について理解すること | | | ⑨ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ② | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑩ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ③ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑪ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ④ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑫ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ⑤ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑬ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ⑥ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑭ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ⑦ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑮ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | |
| ⑧ | [テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学修] 「語学学習システム」の課題に取り組む | | | ⑯ | [テーマ] ポイント確認日 [内容] これまでに取得したそれぞれの分野ごとのポイント及び合計ポイントを確認する | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになる。学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 ・学生各自には、受講方法についての自由が与えられている。一方その結果については自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるように。 ・取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 ・獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないため、入力にはくれぐれも注意すること。 | |
| 定期試験 | | | | | 80% | | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 20% | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | 英語A(含む外国語コミュニケーション) | | | 関連資格 | 教員免許 | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 特に指定しない | | |
| オフィスアワー | 火曜日:14:20～15:50(鎌田)、水曜日:12:40～14:10(菊地) | | | その他 | | | |

《教養展開科目》

(人文分野)

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|--------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 哲学入門 Introduction to Philosophy | | | 担当教員 | 小松 恵一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1～3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| ひとは神にはなれない。ひとは限界を持つ。そもそも限界があることを認識し、それがどのような限界なのかを理解することは、どのようにして可能なか。ものを認識する場合、行為する場合、その限界がどのように現れるか、限界の認識がもたらす帰結は何か。こうした問いを突き詰めて考えてみる。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1. 自らを振り返りつつ、つまり、自分の経験から出発して、一般的な議論へと水準を高めてゆくこと、それが考えるという営為なのだということ。2. しかし、それができる前提は、自分の立場を直ちに一般化することではなく、自分の限界を知る自己認識が不可欠なこと。3. 自己認識が他者を理解することに通じ、相互的理解、相互的許容、相互承認への可能性を開くこと。こうしたことを理解することを目標とする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 授業に登場する哲学用語を理解する。論理の組み立てを把握できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 受動的にただ聞き流しているだけでなく、自らと自らの周囲に照らして考えようと努める。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 学んだ概念、論理を使って、自らの置かれた状況を考察し、表現できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 1. 「知識」、「知」、「知っている」、「分かる」ということ、こうした圏域の事例を、解釈学などを使って解説し、検討してみるのが、第1回から第7回 | | | | | |
| 2. 「わたし」と「本当のこと」、「間違い」の関係を問うのが、第8回から第12回 | | | | | |
| 3. 第13回以降は、以上を前提として、「生きる」ことへと話を進める。途中で小レポートを随時課す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 哲学とは何か。「知っている」と「知らない」の間 [内容] 中間者としての人間。「人間は本性的に知ることを欲する」(アリストテレス)という在り方をソクラテスを例にして考えてみよう。 [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] 「真理」というものはあるのか。 [内容] 絶対的な真理に到達できないなら、「真理」は無意味になるのか。「わたしはわたし、あなたはあなた」で済む？(相対主義)小レポート [授業外学修] |
| ② | [テーマ] 哲学のはじまり。哲学的な問い [内容] どのような日常的な経験が哲学にいきなうか。ルーティーン的日常とその断絶。「・・・とは何か」という問い。(ソクラテス) [授業外学修] | | | ⑩ | [テーマ] 「良識はこの世でもっとも公平に分配されている」(デカルト)? [内容] 良識(真理へ向かう思考能力)が公平に分配されているとすると、人間は皆「真理」に到達できることになる(理想的に)。普遍的人間理性(カント)。 [授業外学修]返却された小レポートを検討する |
| ③ | [テーマ] 「問い」と「答え」の論理学 [内容] 日常で繰り返される「問い」と「答え」の仕組み。それと、哲学における「・・・とは何か」というタイプの問いとの相違。 [授業外学修] | | | ⑪ | [テーマ] 全面的な「間違い」もないこと、「間違い」理由 [内容] 「間違い」はどうして起こるのか。それと、「本当のこと」との関係はどうなっているのか。すべて「間違い」だ、ということはあり得ない。(カント) [授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 「分かる」ことと「分からない」こと [内容] なぜ分かるのか。なぜ分からないのか。「理解」という現象をなるべく具体的事例を通して考え、その構造を析出してみよう。 [授業外学修] | | | ⑫ | [テーマ] 「間違い」を前提にした「人間観」 [内容] 人間が等しく「本当」と「間違い」に開かれていることから、近代的で倫理的な含意を有する「人間観」(「人間学」)が帰結する。(カント) [授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] 「部分」は「全体」を前提し、「全体」は「部分」を前提にする [内容] 解釈学と呼ばれる哲学の動向の概略を開示する。特に、解釈学的循環について理解を深める。ソクラテスの産婆術。(ガダマー)小レポート [授業外学修] | | | ⑬ | [テーマ] 「本当のこと」と「人間観」と「行為」 [内容] 何か「本当のこと」は無垢ではなくて、ある「行為」とその前提をなす「人間観」に導かれている。「知」と「イデオロギー」(ハーバーマス) [授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 「知」の「地平」 [内容] 「地平線」とは中心が設定され、さらに、地球が湾曲してはじめて成立する。それに類比的に「知」の在り方・構造を見る。(フッサール) [授業外学修]返却された小レポートを検討する | | | ⑭ | [テーマ] 「善」と「悪」、「後悔」と「当為」 [内容] ひとは「後悔」する。「悪事」に失敗したときの「後悔」、ひとから利益を得られないかっという「後悔」、ひとを助けられなかった場合の「後悔」等。 [授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 規定可能的未規定性 [内容] 「地平」は絶対的なものではなく、中心の移動にもなって移動する可能性がある。今は未規定であるが、規定可能性を持つ。 [授業外学修] | | | ⑮ | [テーマ] まとめとして、寛容と相互承認 [内容] ひとは「間違い」を犯し、「悪」をなす。しかし同時に「善」への希求もある。それが「お互いさま」であるということについて。 [授業外学修]試験の準備をする |
| ⑧ | [テーマ] 「わたし」の「私」たる所以、「わたしの地平」 [内容] 「わたし」は、「私」、みんな「私」です。「視点」を共有しなければならないし、しかし、全面的にはできないこと。(ヴィットゲンシュタイン) [授業外学修] | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 小レポート数回(50点)(小レポートは、採点して返却する)、最後の試験(50点) | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | — | — | — | — | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 教科書はありません。 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜日14:20-15:50 | | | | その他 |
| | | | | | 小松 恵一研究室A506 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 現代の思想 | | | 担当教員 | 小松 恵一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1～3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 人間は生まれ、成長し、老い、病気になり、そして死ぬ。人間のそうした根本的事実に向き合い、ぎりぎりのところで人間が人間であること、あるいは、人間の尊厳の根拠を、具体的な場面で、例えば、成長、学校、病気、死といった事象から、学生ひとりひとりが自ら考え、理解しようとする授業である。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1. 人間の尊厳や自立、自律という理念を、その理論的な背景を含めて、自らの生き方、他者の生き方にかかわるものとして理解すること。 2. 具体的な事例を見ながら、現実における人間の多様な在り方を、尊厳と自立という観点に関係づけて考察すること。 3. 人間の生き方にかかわる個別的な問題について、自らの考え方を確立し、対処できるようになること。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 人間の在り方に関するさまざまな言説を理解し、それを自分の考え方のなかに位置付ける。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 人間の多様な在り方、生き方にたいして共感を基本とする心性、態度をはぐくむ | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 自分の問題として社会のさまざまな問題を理解し、自らの言葉で表現できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 初めの8回は、「人間とは何か」という問いを扱う。この世界の中で人間のユニークさの根拠を見出す。それ以降は、それまでに学習した考え方や概念を応用し、人間の存在の極限的な事象や問題を取り上げ、それが生じてくる理由、問題の構造を扱う。それによって、問題に対処するための基本的な考え方をはぐくむ。随時、質問、討論、授業内レポートを試みる。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 人間の存在を宇宙のなかに位置付ける [内容] 現代物理学の宇宙論を紹介しながら、そうした認識を獲得するに至る人間の特徴について学ぶ。人間の超越性について。 [授業外学修] シラバスをよく読む | | | ⑨ | [テーマ] ひとを殺してはいけない [内容] その理由をどのように考えるべきなのか。そもそも理由づけるということの意味に遡って吟味する。 [授業外学修] 返却されたレポートを読んで、改善点を考える |
| ② | [テーマ] 進化論における人間の把握 [内容] 進化論は物理学的認識とは異なる。進化論は断片から連続を作り出そうとする認識である。人間の連続性について。 [授業外学修] 生物・動物としての人間の在り方を自らを例として考えてみる | | | ⑩ | [テーマ] いじめの構造 [内容] とくに学校における「いじめ」の事例を通して、そこに見られる人間関係の歪みを見出す。さらに、「いじめ」への対処を考えてみる。 [授業外学修] 自らの学校経験を振り返る |
| ③ | [テーマ] 生命の循環と「誕生」の意味 [内容] ひととは「誕生」する。それは、生命の循環のなかで画然と区切られた、世界での新たな出来事と見ることができる。 [授業外学修] 誕生日を祝い意味を考えてみる | | | ⑪ | [テーマ] 差別問題一般 [内容] この世にはさまざまな差別がある。ひとはなぜ差別するのか。ひとが対等であり、それぞれ違うということ、それらと「差別」の関係について考える。 [授業外学修] 差別の構造を整理する |
| ④ | [テーマ] 生得的なものとは後天的なもの [内容] ひととは遺伝によってどれだけ決定されているのか、あるいは決定されていないのか。生物学上の後成説と前成説との関係を含めて確認する。 [授業外学修] 自らの素質、後から形成されたものを区別して考えてみる | | | ⑫ | [テーマ] 障害者差別問題 [内容] 「やまゆり園」事件の衝撃。犯人の書いた差別的な文章を解読しながら、その論理の歪みを明らかにする。 [授業外学修] 障害者差別の別の事例を見つけ、その防止法を考える |
| ⑤ | [テーマ] 成長と「大人」になること [内容] 「大人」、「成年」、「成人」の意味について、「子供」との対比で考える。「成人」の条件とは何か。「子供」であってはいけないのか。 [授業外学修] 自らの中にある「子供性」と「大人性」を見極める | | | ⑬ | [テーマ] 戦争と国家 [内容] 殺人の究極的な巨大化としての戦争は、国家が起こす。ひとを戦争に動員する国家とは何か。戦争を回避するための個人の営為とは。 [授業外学修] 自分の国家との関係を考える |
| ⑥ | [テーマ] ひとの「多数性」と「個人」であること [内容] ひととはそれぞれ「個人」であるが、その「個人」は多数性という事態の意味について、モラルとの関係で考える。 [授業外学修] それぞれ自分と他者の関係の在り方を顧みる | | | ⑭ | [テーマ] ひととは道徳的であるべきか [内容] 道徳にしたがうことは自明ではない。最近の倫理学のこの問題にたいする動向を紹介する。 [授業外学修] 自らの道徳にたいする態度を顧みる |
| ⑦ | [テーマ] コミュニケーションの構造 [内容] 対話することの前提条件を、対話を形成しない他の人間関係、たとえば命令、恫喝、権威主義などの対比して見出す。 [授業外学修] 自らの日常的なコミュニケーションの在り方を振り返る | | | ⑮ | [テーマ] すべてが滅ぶこの世界で「正しく」生きること [内容] すべては滅ぶ。盛者必衰である。諸行無常である世界で、 [授業外学修] 試験の準備をすること |
| ⑧ | [テーマ] 人間の尊厳と自律 [内容] 人間の尊厳という考え方を、基本的人権の思想史、自由という人間存在の在り方から説明する。レポート。 [授業外学修] レポートを書く | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| レポートと試験によって成績を評価します。レポートは、提示されるレポートとしての形式にしたがっていることが条件となります。レポートはコメントを付けて返却します。試験は、事前に問題の概略を提示します。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | ○ | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ○ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | — | — | — | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | なし | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜日14:20-15:50 | | | | その他 |
| | | | | | 教室で指示します |
| | | | | | 小松 恵一研究室A506 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|----------|-------|---|-----------------------------|
| 授業科目名 | 心理学概論 Introduction to Psychology | | | 担当教員 | 平田 忠 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1/2/3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 心理学は人の行動について研究する学問である。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べる。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説する。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標である。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | さまざまな人の行動の法則性を理解する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 人の行動を客観的に考える態度を身につける。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学修]心理学では何を研究するのかを考えてみる | | ⑨ | [テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学修]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる | |
| ② | [テーマ] 感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学修]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる | | ⑩ | [テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤(複数の動機の競合)と葛藤状態における反応について考える [授業外学修]過去の葛藤場面を考えてみる | |
| ③ | [テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学修]身の回りで経験する錯覚について考えてみる | | ⑪ | [テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学修]自分の性格的特徴は何かを考えてみる | |
| ④ | [テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとまりとしてとらえるという知覚の特徴について考える [授業外学修]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる | | ⑫ | [テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか(遺伝の要因と環境の要因)について考える [授業外学修]自分と両親兄弟の性格を比較してみる | |
| ⑤ | [テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学修]出生後の行動の変化について考えてみる | | ⑬ | [テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法(心理検査)について紹介する [授業外学修]精神的特徴の測定について考えてみる | |
| ⑥ | [テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学修]条件づけの例を身の回りで探してみる | | ⑭ | [テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学修]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる | |
| ⑦ | [テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学修]完全な記憶喪失の状態について想像してみる | | ⑮ | [テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友だちとして選ぶのかについて考える [授業外学修]友人との出会いから現在までを考えてみる | |
| ⑧ | [テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学修]死なないために必要なことを考えてみる | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定する。レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | | 90% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | | 10% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | なし | | | 関連資格 | 社会福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格 |
| 教科書 | 使用しない | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00～12:30 | | | その他 | 連絡先: 平田研究室(A502) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|----------|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | 人の心と行動 Human Mind and Behavior | | | 担当教員 | 平田 忠 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1/2/3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| <p>私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげる。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活している。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのだろうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのだろうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらう。</p> | | | | | (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| <p>「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するすとも、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になる。</p> | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 人の行動を客観的・分析的に考える態度を身につける | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 「衣」に関わるさまざまな話題(装い、化粧、流行、身体イメージなど)について解説する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | <p>[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学修] 自分の「衣」をよく観察してみよう</p> | | | ⑨ | <p>[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学修] 流行に対する自分の態度を振り返ってみる</p> | |
| ② | <p>[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学修] 服を着ることの意味について考えてみる</p> | | | ⑩ | <p>[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学修] 自分の性格と流行との関係について考えてみる</p> | |
| ③ | <p>[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学修] 装いで自分が伝えたいことについて考えてみる</p> | | | ⑪ | <p>テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学修] 顔に注目することについて考えてみる</p> | |
| ④ | <p>[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動どのように変わるかについて考える [授業外学修] なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる</p> | | | ⑫ | <p>テーマ] 化粧② [内容] 髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学修] 自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる</p> | |
| ⑤ | <p>[テーマ] 「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学修] 自分の購入の決断過程を考えてみる</p> | | | ⑬ | <p>[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体(客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ)の関係について考える [授業外学修] 自分の身体についての好き嫌いを考えてみる</p> | |
| ⑥ | <p>[テーマ] 「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学修] 商品のどのような特性を重視するかを考えてみる</p> | | | ⑭ | <p>[テーマ] 身体と被服② [内容] 被服による身体イメージの操作について考える [授業外学修] 被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる</p> | |
| ⑦ | <p>[テーマ] 「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学修] 買った後の後悔経験を振り返ってみる</p> | | | ⑮ | <p>[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学修] 講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる</p> | |
| ⑧ | <p>[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学修] 今年流行したこと・ものを思い出してみる</p> | | | ⑯ | <p>[テーマ] [内容] [授業外学修]</p> | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| <p>レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定する。 レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。</p> | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えよう。 ・授業中、授業に無関係のことをしてはならない。(減点の対象) ・授業中、授業の妨げになることはしてはならない。(減点の対象) |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 90% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | なし | | | 関連資格 | なし | |
| 教科書 | 使用しない。 | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 | |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00~12:30 | | | その他 | 連絡先: 平田研究室(A502) | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-----------------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | ことばと人間A Language and Human Being A | | | 担当教員 | 青沼 一民 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 小・中学校での教員の実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は、「私たちにとってことばは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解、知識について解説する。 | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| ことばを理解することで、日常生活の中で言語表現に配慮しながら、よりの確で適切な表現ができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 言語表現に対する意識を高める。 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 本授業は、毎回一つのトピックスについて考察し、授業展開を重ねるごとにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。毎回授業ごとに前回の授業を振り返りを行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑨ | [テーマ] 比喩的表現について(2) [内容] 比喩的表現の有効性について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ② | [テーマ] ことばは人間にとって何か。 [内容] 我々にとってことばとは何を考える。 [授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑩ | [テーマ] 比喩的表現について(3) [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再考する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ③ | [テーマ] ことばが意味を持つためには(1) [内容] ある表現が成立するための条件について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑪ | [テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ④ | [テーマ] ことばが意味を持つためには(2) [内容] ある表現が成立するための条件について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑫ | [テーマ] わかるとは(1) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ⑤ | [テーマ] 概念について(1) [内容] ことばと概念の関係について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑬ | [テーマ] わかるとは(2) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ⑥ | [テーマ] 振り返り(テストを含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑭ | [テーマ] わかるとは(3) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 概念について(2) [内容] 概念の形式について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑮ | [テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 比喩的表現について(1) [内容] 比喩的表現の構造について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | | | ⑯ | [テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート及びテストの結果で評価する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 使用しない。 | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日 10:20～11:50 | | | その他 | 連絡先: 青沼研究室 (A313) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | ことばと人間 B Language and Human Being B | | | 担当教員 | 鎌田 幸雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 言語学全般に関する基本的概念を理解する。 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 言語学全般に関する基本的概念を理解する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」「語」「文」「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑨ | [テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクレオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ② | [テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑩ | [テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ③ | [テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑪ | [テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語/征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ④ | [テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑫ | [テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学修] ことばとは何かを考える | |
| ⑤ | [テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑬ | [テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ⑥ | [テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名:人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑭ | [テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ⑦ | [テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名:地名の命名法、英米の地名等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑮ | [テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | |
| ⑧ | [テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイデンティティとしての言語、言語と民族等 [授業外学修] 講義の内容を復習する | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験(70%)と出席を含む積極的授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 なお、この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語(例えば英語や日本語)の技能が向上するものと誤解しないようしてください。 |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | | 70% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | ことばと人間 A | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 | 講義の際にその都度紹介します |
| オフィスアワー | 火曜日14:20~15:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | ことばと人間B Language and human B | | | 担当教員 | 菊地 博/ジェリー パランギ |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| In this class, students think about what sports and health are for human being. For this purpose, this class will examine current topics of sports and health. In the later lessons, students make presentations about sports and health. All lessons are given in English. 中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| Students can acquire current knowledges of sports and health. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English. Students also make some presentations about sports and health. | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | To acquire current knowledges of sports and health for human being. | | | | |
| ■ 情意的領域 | To make summaries, write reports and make presentations voluntarily. | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | To write summaries and explain about sports and health. To write reports and make presentations about sports and health for human being. | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| One topic is treated per a class. Students make a summary of the topic and write a report of it. Then students make a presentation about sports and health for human being. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of sports and health for human being. | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] Orientation(Kikuchi) [内容] Explanation of the classes [授業外学修] Read the next topic before class. | | | ⑨ | [テーマ] Word list and explanations (Parangi) [内容] Proof reading of English scripts and feedback regarding over presentation content and continuity. [授業外学修] Students must prepare word lists for their presentations. Rehearsal |
| ② | [テーマ] Vitamin D and our health.(Kikuchi) [内容] Vitamin D helps our bodies in many ways. The latest discovery is how it helps people with breast cancer. V.D also helps other sufferings. [授業外学修] Read the next topic before class | | | ⑩ | [テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations [授業外学修] Decide a new topic of research and prepare a pacing plan |
| ③ | [テーマ] Age and abilities [内容] French man set a record in the 105-year-old category for his one-hour ride. We should do some excise on a daily basis to stay healthy. [授業外学修] Read the next topic before class. | | | ⑪ | [テーマ] Research new topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides and English scripts. |
| ④ | [テーマ] Sports can change the society.(Kikuchi) [内容] Young women train to wrestle in conservative Indian state. Wrestling will improve things for women in patriarchal culture. [授業外学修] Read the next topic before class. | | | ⑫ | [テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. |
| ⑤ | [テーマ] Running in cold weather improves performance.(Kikuchi) [内容] The runners don't let cold temperatures and snow keep them from running outdoors. Running in cold weather has more benefits than one in hot. [授業外学修] Think about the topics you will write about | | | ⑬ | [テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations. Introduction of new topic for next lesson [授業外学修] Find a current affairs article that is sports relevant. |
| ⑥ | [テーマ] Demonstration Power point presentation(Parangi) [内容] An introduction of Traditional Maori culture & games used for eye-hand coordination, balance, strength and rhythm [授業外学修] Develop a pacing plan for first power point presentation | | | ⑭ | [テーマ] Current Affairs sports (Parangi) [内容] Paper cutouts of current sports affairs around the world, presentation and discussion [授業外学修] Research a current sports event to report. |
| ⑦ | [テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. | | | ⑮ | [テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学修] Prepare another article for presentation |
| ⑧ | [テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. | | | ⑯ | [テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| Preparation, summaries, reports of topics, drafts for presentations and performance of presentations are evaluated. Reports and drafts are returned with comments in class. | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | | ◎ | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 授業態度 | | | ◎ | | |
| 出席 | | | ◎ | | 欠格条件 |
| 関連科目 | ことばと人間A,B | | | 関連資格 | |
| 教科書 | | | | 参考書 | Dictionary |
| オフィスアワー | Wednesday 12:40~14:10(A515) | | | その他 | |

(社会分野)

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|----------------------------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 社会学概論 Introduction to Sociology (L.) | | | 担当教員 | 三谷高史 |
| 開講内容 | 学年・学期 | I・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。</p> | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <p>社会における「当たり前」(社会通念や規範)を疑う能力を身につける。自分自身が縛られている「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題を自分自身と関連付けながら、より鮮明に理解できるようになる。</p> | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 社会学の基礎的な概念や学説を理解している | | | |
| ■ | 情意的領域 | 社会的な通念や規範を相対化し、客観視することができる | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| <p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p> | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | <p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学修]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む</p> | | | ⑨ | <p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する</p> |
| ② | <p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑩ | <p>[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ③ | <p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑪ | <p>[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ④ | <p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑫ | <p>[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ⑤ | <p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑬ | <p>[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ⑥ | <p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑭ | <p>[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ⑦ | <p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑮ | <p>[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会(後期近代社会)がもつ特徴や問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> |
| ⑧ | <p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする</p> | | | ⑯ | <p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する</p> |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| <p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | ○ | ◎ | | 50% |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| <p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。</p> | | | | | |
| 関連科目 | 社会構造と人間関係、社会調査法 I | | | 関連資格 | 社会福祉士・介護福祉士 |
| 教科書 | 特に指定せず、毎回自作のレジュメを配布する。参考文献はその都度提示する。 | | | 参考書 | 倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997 |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50 | | | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | 社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.) | | | 担当教員 | 三谷高史 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間、さらに運動部活動に焦点を当てる。 | | | | | (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会(中でも、学校や運動部活動)が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 社会学的な概念や学説を理解している | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 社会的な通念や規範を相対化、客観視することができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 社会問題の問題性を理解し、自分なりの解決策を論理的に提示できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。後半は学校運動部活動について歴史や現状を社会科学的に解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学修]学校運動部活動にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む | | | ⑨ | [テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する | |
| ② | [テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑩ | [テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校を持つ集中性・秩序性・文化性について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ③ | [テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑪ | [テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校におけるリスクの問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ④ | [テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑫ | [テーマ] 運動部活動の教育社会学① [内容] 運動部活動の歴史と制度的位置づけについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ⑤ | [テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑬ | [テーマ] 運動部活動の教育社会学② [内容] 運動部活動における教師の超勤問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ⑥ | [テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑭ | [テーマ] 運動部活動の教育社会学③ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」の問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ⑦ | [テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑮ | [テーマ] 運動部活動の教育社会学④ [内容] 運動部活動の存在意義を「生徒自治」の側面から解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする | |
| ⑧ | [テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑯ | [テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 授業外レポート | | ○ | ◎ | ◎ | 50% | |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 社会学概論、社会調査法 I | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。 | | | 参考書 | 倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 神谷拓『運動部活動の教育学入門』大修館書店、2015 | |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50 | | | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|---------|---|---|
| 授業科目名 | | 消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport | | | 担当教員 | 高成田 享 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。 | | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学修] 自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる | | | ⑨ | [テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学修] クレジットで購入したことがあるか考える | |
| ② | [テーマ] 消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学修] 自分それぞれの消費についてその目的を考える | | | ⑩ | [テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学修] どんな貯蓄や投資があるか調べる | |
| ③ | [テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学修] 万国博について調べる | | | ⑪ | [テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学修] 日本の財政を調べる | |
| ④ | [テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学修] 自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える | | | ⑫ | [テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学修] マクロ経済の意味を調べる | |
| ⑤ | [テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学修] 自分の生活で広告で購入したものがあらかどうか考える | | | ⑬ | [テーマ] 消費社会を超えて [内容] 消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学修] 人間の価値観について考える | |
| ⑥ | [テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学修] ブランドとは何かを考える | | | ⑭ | [テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学修] | |
| ⑦ | [テーマ] 消費するスポーツ(上) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学修] 自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあらかどうか考える | | | ⑮ | [テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文を書く。 [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] 消費するスポーツ(下) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学修] 同上 | | | ⑯ | [テーマ] 予備 [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。 |
| 定期試験 | | | | | 30% | |
| 授業内レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 60% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% | |
| 出席 | | ○ | ○ | ○ | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | | | | | その他 | toru@takanarita.com |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|---|-------|-------------------|---|---------------------------------|
| 授業科目名 | | 世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports | | | 担当教員 | 遠藤保雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3学期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 担当者が国連等での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。 | | | | | | (1)(2)(3)(4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、まず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、これを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎面についての理解を深める。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容] 国際経済・日本経済の現状とそこにおけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学修] GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる | | | ⑨ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟① [内容] 第二次大戦後の東西冷戦下の国際経済の発展と、世界のスポーツの展開過程を考察するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学修] 第二次大戦後の現代史を予習しておくこと | |
| ② | [テーマ] 資本主義経済の考察① [内容] 資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学修] 資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく | | | ⑩ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟② [内容] 冷戦崩壊後の世界経済の変化とスポーツのする、見る、支えるスポーツの展開を考察 [授業外学修] スポーツ産業論参照 | |
| ③ | [テーマ] 資本主義経済の考察② [内容] ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学修] 生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟③ [内容] 第二次大戦後の近代スポーツの二つの流れ、スポーツの商業化、欧米でのプロスポーツの全盛、欧州での多様なスポーツの展開 [授業外学修] スポーツ産業論参照 | |
| ④ | [テーマ] 資本主義経済の考察③ [内容] ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学修] 需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 日本経済の発展とスポーツ① [内容] 我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学修] 明治期から現代までの経済史を学習すること | |
| ⑤ | [テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容] マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場・貨幣市場の関係、マクロ経済を構成要素(家計・企業・政府) [授業外学修] GDPを構成する要素を調べておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 日本経済の発展とスポーツ② [内容] 経済のグローバル化、ソフト化、情報化社会化、少子高齢化等の下での、する、見る、支えるスポーツ経済の効果、スポーツの発展について考察 [授業外学修] 2000年代の日本経済の特徴を予習すること | |
| ⑥ | [テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容] マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレ・デフレ、財政・金融政策、国際経済(貿易、比較優位、国際収支と円高・円安) [授業外学修] マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容] 近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学修] 近代オリンピックの歴史を予習すること | |
| ⑦ | [テーマ] 世界経済の形成とスポーツの概観 [内容] 古代、中世、資本主義成立、近代、現代の世界経済社会の発展と伝統的スポーツ・近代的スポーツを概観 [授業外学修] 古代から現代までの世界史を予習しておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容] 2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学修] 東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容] 英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学修] 英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと | | | ⑯ | [テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | | ◎ | ○ | ○ | 90% | |
| 授業内レポート | | ◎ | ○ | ○ | 10% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | | | | 参考書 | スポーツの経済学(マイケル・A・リース) スポーツ産業論(原田宗彦) | |
| オフィスアワー | 金曜日13～15時 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|------------------------------------|-------|---|------------------------|
| 授業科目名 | 法学 Jurisprudence | | | 担当教員 | 加藤英俊 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑨ | [テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | |
| ② | [テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑩ | [テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | |
| ③ | [テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑪ | [テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | |
| ④ | [テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、離婚、財産分与等 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑫ | [テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告 | |
| ⑤ | [テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑬ | [テーマ] 予備、または、中間考査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学修] | |
| ⑥ | [テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑭ | [テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的な事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | |
| ⑦ | [テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑮ | [テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本事項 [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | ◎ | | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通すこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|---------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 歴史学入門 Introduction to History | | | 担当教員 | 伊達宗弘 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 1コマを2部構成とし視聴覚教材を駆使して、(1)通史としての日本史を紹介する。(2)紹介した時代を代表する人物に的を当て、困難や危機に直面した時、先人はそれをどのように乗り切ったかを紹介する。紹介する人物は次の通り。聖徳太子。中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など14名。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 国際化・情報化など激しく移り変わる変化の中で、(1)日本の素晴らしい歴史や文化について理解を深め(2)それぞれの時代を生きた先人の生き方を通して自信と誇りを持って生き、堂々と世界に伍していくことのできる人材となることを目指す。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語るができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 身の回りのものを優しく謙虚な気持ちで見て、いつも高い志を持って生きることができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得てまた興味を持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生徒手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑨ | [テーマ] 道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] いまの日本の形を整える礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑していた覇者の哲学を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ② | [テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容] 聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令の制定など国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑩ | [テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉から領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても掛けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の壮大な夢と国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ③ | [テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって花開いた国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑪ | [テーマ] 『五輪書』に見る宮本武蔵の生き方 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていく上においてのヒントを提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ④ | [テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑫ | [テーマ] 多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き方を紹介し、生きていく上にヒントとなる情報を提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑤ | [テーマ] 鎌倉幕府の成立と建武中興 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応じて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの在り方を考える。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑬ | [テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し、新しい日本の国づくりに危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識と悲壮な決断を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑥ | [テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容] 戦国時代を生きた武将の名言を紹介し、その中で「地を拓き水を治める」ために腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑭ | [テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 [内容] 国民主体の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の功績を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑦ | [テーマ] 織田信長、天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と情悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を造り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑮ | [テーマ] 私の履歴書 [内容] 自身が失敗と挫折の連続の中で夢を実現するために歩んだ半生を紹介し、学生が生きていく上でのヒントになる情報を提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑧ | [テーマ] 短期間で天下を統一した豊臣秀吉 [内容] 一介の農民から天下統一した秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 50% |
| 授業内レポート | | 20% | 20% | 10% | 50% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 手作り教科書(34頁)と四字熟語(20頁)を配布 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | 図書館専用電話0224-55-2052 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|---------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 歴史と人間 Individual Elements in History | | | 担当教員 | 伊達 宗弘 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 通史としての日本史と、時代を大きく変えて行くために大きな役割を果たした先人の生き方、また名言や四字熟語等を通して、これからの先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する講座とする。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| (1) 世界に冠たる日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識する。(2) 社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語るができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 身の周りのものを優しい気持ちと謙虚な気持ちで見、いつも高い志を持って生き力を養う。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得て、また興味も持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生涯手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家づくりに腐心した、聖徳太子の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑨ | [テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切なのかを考える。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ② | [テーマ] 聖徳太子の意思を継承、大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑩ | [テーマ] 伊達政宗の国づくり [内容] 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦慮の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ③ | [テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止の建言によって育った日本独自の国風文化を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑪ | [テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていく上で何が大切かを学ぶ。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ④ | [テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢実現に腐心した平清盛とその生きた時代を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑫ | [テーマ] 志のある者よ、立ち上がれー吉田松陰ー [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑤ | [テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑬ | [テーマ] 日本の近代化実現のため殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し、郷里鹿児島の人びとの怨嗟の声にもめげず、命がけて新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑥ | [テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の全体を見て将来を見据えた国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑭ | [テーマ] 板垣死すとも自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけて全国遊説し国会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑦ | [テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑮ | [テーマ] 私の履歴書 [内容] 日本の戦後の歴史に自身の半生を重ね合わせ、生きていく上で何が大切であるかを考えるヒントを提供する。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑧ | [テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の知謀と策略、今に通じる人心掌握術を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 50% |
| 授業内レポート | | 20% | 20% | 10% | 50% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 手作り教科書(34頁)と四字熟語(20頁)を配布 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

(自然分野)

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|----------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 生物科学 Biological Science | | | 担当教員 | 千葉 研一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 毎回各講義内容(テーマ)に応じた資料を配布し、適宜視聴覚機器も活用しながら、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に問題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 現代社会に於けるバイオサイエンスの進歩は目覚ましく、体育学や栄養学、医学の基盤領域として生物科学を修得することは必須条件である。本講義では、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけるとともに、バイオサイエンス分野のキーワードを具体的に説明でき、更に今後の自己の行動を決定するための判断基準を獲得することを目標とする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 教養としてのバイオサイエンスを十分理解し、基本的な用語(キーワード)を説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 人間とは何かを深く考え、自己の人生に役立たせることができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 現代のライフサイエンス(特に生物学・医学)は驚くべき速さで進展しており、日々新しい発見と研究成果が生まれている。本講義では、生物の進化やヒトの体内の代謝を中心に人間をミクロ・マクロ両面から捉え、更に最新の生物学についても概要を解説する。また理解をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・グループワーク・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生における判断力向上を目指す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス&科学の方法 [内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、導入として「科学の方法」による「論理的思考」について詳しく解説する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | | | ⑨ | [テーマ] タンパク質合成のしくみと筋肉活動のメカニズム [内容] DNA・RNAの構造を理解し、それらがアミノ酸・ペプチドを経て、タンパク質まで合成していくつながりを系統的に考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ② | [テーマ] 生物の進化と人類の誕生 [内容] 生命の起源、生物の特徴、地質時代の区分、霊長類・人類の進化、人類の分類学上の位置について系統的に学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解 | | | ⑩ | [テーマ] なぜガンはできるのか？ [内容] DNAの損傷のしくみを活性酸素を通して学習し、それを予防する抗酸化物質についても学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ③ | [テーマ] 進化論と日本人のルーツ [内容] 主な進化説の変遷を確認し、ホモ・サピエンスの地理的拡散の歴史とミトコンドリアDNAの分析から日本人のルーツを考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、視聴覚教材利用学習 | | | ⑪ | [テーマ] 免疫システムのしくみ [内容] 人間が外敵から身を守るしくみと、免疫と病気の因果関係についても細胞レベルで理解する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ④ | [テーマ] 課題解決演習(I) [内容] 脳科学と学習・記憶の関係について理解し、実践できるような姿勢を身につける。 [授業外学修]配布資料による内容理解 | | | ⑫ | [テーマ] ES細胞とiPS細胞 [内容] 現代分子生物学の最先端の研究の成果であるES細胞とiPS細胞について学習し説明できる能力を養う。 [授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑤ | [テーマ] 人が生きていくしくみ(I) [内容] 代謝の意味を把握し、消化と吸収について分子レベルで学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | | | ⑬ | [テーマ] 再生医療とは [内容] 再生医療の内容を把握し、その未来における様々な有効利用と問題点を把握する。 [授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑥ | [テーマ] 人が生きていくしくみ(II) [内容] 三大栄養素である炭水化物・タンパク質・脂肪を分解する体内のしくみについて分子レベルで学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解 | | | ⑭ | [テーマ] 課題解決演習(III) [内容] 科学技術の進歩と生命倫理に関わる重要なテーマを深く考察する(ディスカッション・グループワーク・ディベート)。 [授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑦ | [テーマ] 人が生きていくしくみ(III) [内容] 呼吸の本質的な意味についてATPとADPの関係、解糖系・TCA回路・電子伝達系を通して理解する(アスリート対象の考察も) [授業外学修]配布資料による内容理解 | | | ⑮ | [テーマ] 科学技術の進歩と生命倫理 [内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、倫理観を身に着ける。 [授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑧ | [テーマ] 課題解決演習(II) [内容] ディスカッションの重要性を把握し、ディベート力とグループ活動力の向上を目指すとともに、考察することの大切さを学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解 | | | ⑯ | [テーマ] 総合テスト [内容] 「生物学的キーワード」「生体内の重要なしくみや繋がり」「生物科学についての幅広い考察」を文章として論述できる力が必要。 [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 定期試験の評価60%、授業内提出物20%、授業態度(演習を含む)20%として評価する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | (下記に含有) |
| 授業態度 | | | | ○ | 20% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | エコロジー概論 | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 特になし。配布資料提供。 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|---------|---|--|
| 授業科目名 | | エコロジー概論 An Introduction to Ecology | | | 担当教員 | 千葉 研一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 毎回各講義内容(テーマ)に応じた資料を配布し、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に課題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 現在私達が生活している自然環境は、非常に長い年月をかけて地球と生物がつくり上げてきたものである。しかしその反面、人間の経済活動は、私達自らの未来を奪うかもしれないほどの地球環境破壊を行ってきたことも事実である。本授業では、人間を含めたすべての生物(生態系)と地球環境との関わりを中心に、主に環境化学からの視点で分析し、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 教養としてのエコロジーとエコシステムを十分理解し、基本的な用語(キーワード)を説明できる。また、これまで人間活動が引き起こしてきた主要な環境破壊の例やメカニズムについても説明することができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 地球環境保全と人間活動のあり方について深く考えることができ、自己の人生に役立たせることができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 未来の地球環境をよりよく保全する方策を考えるためには、生態系の基礎知識とともに、人間によるこれまでの環境破壊の歴史とメカニズムを理解することは大変重要なことである。そのためにも基本的な化学式・化学反応式の理解は必須である。更に考察をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生における判断力向上を目指す。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス [内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、エコロジーとエコシステムについて解説する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解、確認テスト | | | ⑨ | [テーマ] 新素材と生活環境 [内容] ファインセラミックや形状記憶合金、水素吸着合金等が人間生活と環境にどのように影響を与えていくかを系統的に考察する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解、確認テスト | |
| ② | [テーマ] 水と生命 [内容] 水の惑星である地球と水の特性がどのように生物に影響を及ぼしているかを学習する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解、確認テスト | | | ⑩ | [テーマ] 課題解決演習(II) [内容] 人間生活の向上と環境破壊という相反するテーマに、自己の考えをまとめた確かなディスカッションとディベートができることを目指す [授業外学修] 配布資料による内容理解 | |
| ③ | [テーマ] 課題解決演習(I) [内容] 生態系が地球環境の中で大きな危機に瀕していることをテーマに、的確なディスカッションとディベートができることを目指す。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | | | ⑪ | [テーマ] 生物と環境 [内容] 生物多様性の本質的な意味と環境保全の重要性について学習する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解、確認テスト | |
| ④ | [テーマ] 地球環境と人間活動(I) [内容] グローバルな地球環境の中で、特に地球温暖化とオゾン層の破壊についてのメカニズムを理解する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | | | ⑫ | [テーマ] 絶滅危惧種と外来種 [内容] 動植物における主要な絶滅危惧種と外来種を把握し、保護していく姿勢を身につける。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | |
| ⑤ | [テーマ] 地球環境と人間活動(II) [内容] 地球大気について、特に酸性雨と大気汚染(光化学スモッグ、PM2.5等)についてのメカニズムについて理解する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | | | ⑬ | [テーマ] 環境問題と国際条約 [内容] これまでの国際的な環境問題を歴史的に捉え、それと関わる主要な国際条約を系統的に学習する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | |
| ⑥ | [テーマ] 地球環境と人間活動(III) [内容] 地球上の海や河川について、特に重金属や残留有機物、内分泌かく乱物質(環境ホルモン)の汚染について把握する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | | | ⑭ | [テーマ] 課題解決演習(III) [内容] 科学技術の進歩と地球環境保全に関わるテーマを深く考察する(ディスカッション・グループワーク・ディベート)。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | |
| ⑦ | [テーマ] エネルギーの諸問題 [内容] 人間活動と密接な関係にある石炭・石油・LNG・原子力のエネルギー利用における功罪について比較対象できる能力を養う。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | | | ⑮ | [テーマ] 私たちの地球環境を守るためには [内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、環境保護意識を身につける。 [授業外学修] 配布資料による内容理解 | |
| ⑧ | [テーマ] 化学物質と生活環境 [内容] 日常生活の身の回りにおける食品添加物、医薬品、農薬、合成洗剤、合成樹脂等が生物体や環境に与える影響を考察する。 [授業外学修] 配布資料による内容理解、確認テスト | | | ⑯ | [テーマ] 総合テスト [内容] 「生物・化学のキーワード」「地球環境における人間活動の諸弊害」「環境保全の方策」等を文章として論述できる力が必要。 [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 定期試験の評価60%、授業内提出物20%、授業態度(演習を含む)20%として評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・必要に応じて高校生物・化学の復習をしておくこと(特に基本的な無機化合物は化学式で書けることが望ましい)。 ・「ディスカッション・グループワーク・ディベート」については、より積極的な授業態度が必要である。 |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | ◎ | 60% | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | (下記に含有) | |
| 授業態度 | | | | ○ | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 生物科学 | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし。配布資料提供。 | | | | 参考書 | 生態学関連書籍、高校生物教科書、高校化学教科書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|---|---|---|--------|---------|-------------------|--|-------------------|
| 授業科目名 | | 教養数学 Basic Mathematics | | | 担当教員 | 大内 悦夫 | |
| 開講内容 | | 学年・学期 | 1・2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高等学校の数学の教員の経験を持つ。 |
| | | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 小学校の算数、中学数学の基礎と応用事項、高等学校での既習事項における解法の研究および卒論等で使われる統計学の基礎を履修する、 | | | | | | | (1)(4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりとものにす。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に活用できる統計学の基礎を習得する。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 小・中・高等学校で学んだ算数・数学の基礎を基にして、特徴的である数学的な考え方を体得する。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 他の人の意見を自分のものと対比しながら検討し、自分の考えを確かなものとしてまとめる。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 情意的領域でまとめた自分の考えが発表できる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 配付資料(プリント)による講義、問題演習、そしてその解法の発表という手順により授業を展開していく。算数・数学の内容に加えて、公務員試験の演習やSPIの対策にも触れる。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学修] | | | | ⑨ | [テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ② | [テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑩ | [テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ③ | [テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑪ | [テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ④ | [テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 文章題 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑫ | [テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ⑤ | [テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑬ | [テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ⑥ | [テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑭ | [テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ⑦ | [テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学修] 本日の講義内容の復習 | | | | ⑮ | [テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | |
| ⑧ | [テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業に於いてその内容を検討する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。 | |
| 定期試験 | | ◎ | | | 60% | | |
| 授業内レポート | | ○ | | | 10% | | |
| 授業外レポート | | △ | | | 5% | | |
| 演習・実技 | | ○ | | | 20% | | |
| 授業態度 | | | | △ | 5% | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | なし | | | | 参考書 | なし | |
| オフィスアワー | 火曜日 11:50~12:40 | | | | その他 | 問い合わせ先 A303 大内研究室 | |

(教養演習)

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | 体育系大学の基礎教養 Liberal Arts for Sport-oriented Students | | | 担当教員 | 全専任教員 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。 | | | | | | (1) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体—他の科目—との関わりの中で行えるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回ごとに担当教員が変わることになる)。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、カリキュラムの体系 [内容] 本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。 [授業外学修]各学科のカリキュラムを『学生便覧』で確認する。 | | | ⑨ | [テーマ] 健康福祉学科の体系 [内容] 健康福祉学科のカリキュラム体系および福祉関連資格の意義と重要性について概説する。 [授業外学修]福祉関連資格の基本書を横断的に読む。 | |
| ② | [テーマ] 学士力(1) [内容] 導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学のカリキュラム上の位置づけと各分野の概説。 [授業外学修]中教審の答申を読み、基礎科目の位置づけを確認する。 | | | ⑩ | [テーマ] 運動栄養学科の体系 [内容] 運動栄養学科のカリキュラム体系および栄養関連資格の意義と重要性について概説する。 [授業外学修]栄養関連資格の基本書を横断的に読む。 | |
| ③ | [テーマ] 学士力(2) [内容] 学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎の概説。 [授業外学修]スポーツ科学入門の基本書を横断的に読む。 | | | ⑪ | [テーマ] スポーツ情報マスメディア学科の体系 [内容] スポーツ情報マスメディア学科のカリキュラム体系およびスポーツにおける情報の重要性について概説する。 [授業外学修]情報分析の基本書を横断的に読む。 | |
| ④ | [テーマ] 学士力(3) [内容] 英語の重要性と英語基盤科目の活きた事例。 [授業外学修]英語のライティング(文法等)について復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 現代武道学科の体系 [内容] 現代武道学科のカリキュラム体系および武道の応用展開の重要性について概説する。 [授業外学修]武道および護身術の基本書を横断的に読む。 | |
| ⑤ | [テーマ] 教員養成 [内容] 中・高保健体教諭、小学校教諭、幼稚園教諭の社会的な役割と重要性を概説する。 [授業外学修]教員免許取得までのプロセスを確認する。 | | | ⑬ | [テーマ] 子ども運動教育学科の体系 [内容] 子ども運動教育学科のカリキュラム体系および幼児教育の重要性について概説する。 [授業外学修]幼児教育の基本書を横断的に読む。 | |
| ⑥ | [テーマ] 体育学科コーチング・コースの体系 [内容] 体育学科コーチング・コースのカリキュラム体系およびコーチングの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]コーチング入門の基本書を横断的に読む。 | | | ⑭ | [テーマ] 英語の必要性 [内容] オーラル・コミュニケーションの重要性とスポーツにおける英語の活きた事例。 [授業外学修]「日本のスポーツ政策」について英語でディベートする。 | |
| ⑦ | [テーマ] 体育学科トレーナー・コースの体系 [内容] 体育学科トレーナー・コースのカリキュラム体系およびトレーナーの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]トレーナー入門の基本書を横断的に読む。 | | | ⑮ | [テーマ] カリキュラム体系の総括とレポート作成 [内容] 仙台大学のカリキュラム体系を総括し、授業内レポートを作成する。 [授業外学修]各回の講義内容を復習する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 体育学科マネジメント・コースの体系 [内容] 体育学科マネジメント・コースのカリキュラム体系およびマネジメントの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]マネジメント入門の基本書を横断的に読む。 | | | ⑯ | [テーマ] レポート返却、総評 [内容] 授業内レポートを返却し、授業の総評を述べる。 [授業外学修]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ」の予習をする。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。 ・学部・学科・コース等の教育方針・内容を学、2年次以降の「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」につながる貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。 |
| 定期試験 | — | — | — | — | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | — | 30% | |
| 授業外レポート | — | — | — | — | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | — | — | — | — | 評価対象外 | |
| 授業態度 | ◎ | ○ | ○ | ○ | 70% | |
| 出席 | — | — | — | — | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 仙台大学の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 | 必要に応じて指示する |
| オフィスアワー | クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる | | | | その他 | クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I | | | 担当教員 | 全専任教員 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。 | | | | | (1) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 体育系大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。 | | | ⑨ | [テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。 |
| ② | [テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。 |
| ③ | [テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。 | | | ⑪ | [テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。 |
| ④ | [テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。 | | | ⑫ | [テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。 |
| ⑤ | [テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。 | | | ⑬ | [テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。 |
| ⑥ | [テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的な位置づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。 | | | ⑮ | [テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学修]全15回の授業内容を総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。 | | | ⑯ | [テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考查し、仙台大学の専門教養演習Ⅱ・Ⅲに向けた課題を明確化する。 [授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | — | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | — | — | — | — | 評価対象外 |
| 出席 | — | — | — | — | 欠格事項 |
| 関連科目 | 体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅱ・Ⅲ | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | 各受講クラスの担当教員に確認すること。 | | | その他 | 各受講クラスの担当教員に確認すること。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports & Cultural Context Ⅱ | | | 担当教員 | 全専任教員 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 仙台大学の専門教養演習Ⅰの学修を踏まえ、所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。 | | | | | (1) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得し、深化させる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。 | | | ⑨ | [テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。 |
| ② | [テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。 |
| ③ | [テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。 | | | ⑪ | [テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。 |
| ④ | [テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。 | | | ⑫ | [テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。 |
| ⑤ | [テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。 | | | ⑬ | [テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。 |
| ⑥ | [テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的な位置づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。 | | | ⑮ | [テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学修]全15回の授業内容を総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。 | | | ⑯ | [テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考查し、仙台大学の専門教養演習Ⅲに向けた課題を明確化する。 [授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | — | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | — | — | — | — | 評価対象外 |
| 出席 | — | — | — | — | 欠格事項 |
| 関連科目 | 体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | 各受講クラス担当教員に確認すること。 | | | その他 | 各受講クラス担当教員に確認すること。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-----------------------------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 全学教養演習 Sophomore Seminar | | | 担当教員 | 久能和夫・三谷高史他 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができるのが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | あるテーマについての知識を深め、理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 課題に熱心に取り組む。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。 2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。 3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学修] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。 | | | ⑨ | [テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ② | [テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学修] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学修] 学習した内容をノートにまとめておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。 なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | | 100% |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 特定の関連科目はないが、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。 | | | | 関連資格 |
| 教科書 | プリント・資料を配布する | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 授業中に指示する | | | | その他 |

《教養展開科目》

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | イングリッシュ・トランスレーション English Translation | | | 担当教員 | 鎌田 幸雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 学術論文・レポート・発表等で要求されるアカデミック・ライティングについて、その基礎となるパラグラフ・ライティングを中心に授業を行う。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| アカデミック・ライティングを習得することにより、論理的で明快な文章(英文)が書けるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 論理的文章とそれ以外の文章(情動的/文学的文章など)との違いがわかる | | | | |
| □ | 情意的領域 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | パラグラフ・ライティング形式で文章(英文)を書く | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 本授業は以下の3部から成る。 1) 英語の基本事項(文法)の確認 2) 英文読解 3) パラグラフ・ライティングの説明、およびその形式に従っての英作 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明、およびパラグラフ・ライティングの解説 [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑨ | [テーマ] 強調構文、パラグラフ・ライティング [内容] 英語における強調構文の確認、および最終レポート(英文)のテーマ、パラグラフ構成案の作成 [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ② | [テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング(I) [内容] 英語における形容詞句の確認 パラグラフ・ライティングの解説 [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑩ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ③ | [テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング(II) [内容] 前回到続き、英語における形容詞句およびパラグラフ・ライティングの確認を行う。 [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑪ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ④ | [テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(I) [内容] 関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(日本語で) [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑫ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ⑤ | [テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(II) [内容] 前回到続き関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(日本語で) [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑬ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ⑥ | [テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(III) [内容] 関係代名詞節の確認(関係代名詞を用いた文の作成)、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑭ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ⑦ | [テーマ] 関係副詞節、パラグラフ・ライティング [内容] 関係副詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑮ | [テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員により最終チェックを受ける [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | |
| ⑧ | [テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング [内容] 現在分詞による名詞修飾の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学修] 課題を行い、期日までに提出する | | | ⑯ | [テーマ] 最終レポート提出 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 出席状況、課題の提出状況および最終レポートの出来具合で評価する。最終レポートの返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 学則通り全授業の2/3以上の出席が単位取得には必要となるが、正当な理由なく欠席が重なるときは受講を止めてもらう場合がある。 卒業単位を埋めるためとの理由で履修することは厳に慎んでもらいたい。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | ○ | 40% | |
| 授業外レポート | | | | ◎ | 60% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 必要に応じて指示する | |
| オフィスアワー | 火曜日14:20~15:50 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | | イングリッシュ・リーディングA English Reading A | | | 担当教員 | 鎌田 幸雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学修] 次回の課題の予習をする | | | ⑨ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Weight Training!' Song: Prince 'Wherever U Go, Whatever U Do' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ② | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Cultural Differences Don't Matter' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑩ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Feel-Good fashion' Song: Keb' Mo' 'Closer' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ③ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Nutrition' Song: Jackson 5 'I'll be There' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑪ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Psychology' Song: Lauryn Hill (feat. Bob Marley) 'Turn Your Lights Down low' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ④ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Women's Soccer!' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑫ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Johnny Depp: A modern-Day gentle pirate' Song: Nat "King" Cole 'Smile' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑤ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ryo ishikawa: Japan's Golf Superstar' Song: Bob Dylan 'Blowing in the Wind' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑬ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Green Light for Graffiti?' Song: The Velvet Underground 'I'm Set Free' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑥ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Best friends Forever' Song: R. Flack & D. Hathaway 'You've Got a Friend' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑭ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Germany's Turkish Delight' Song: Sam Cooke 'A Change Is Gonna Come' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑦ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sportsmanship!' Song: Michael Jackson 'Heal the World' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑮ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Night to Remember' Song: Louis Armstrong 'What A Wonderful World' [授業外学修] 今回の課題の復習と期末試験の準備 | |
| ⑧ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ai Miyazato: Swinging towards Far Horizons' Song: Aretha Franklin 'Do Right Woman, Do Right Man' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 ・英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 ・辞書は必ず持参すること。 ・定員20名以下。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 70% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | イングリッシュ・リーディング B | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる | |
| オフィスアワー | 火曜日14:20～15:50 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | イングリッシュ・リーディングB English Reading B | | | 担当教員 | 鎌田 幸雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学修] 次回の課題の予習をする | | | ⑨ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ② | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: The Beatles 'In My Life' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑩ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Bangkok: More Than Meets the Eye' Song: Stevie Wonder 'Living For The City' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ③ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Organic Farms Seek Willing Workers' Song: Bruno Mars 'Just the way you are' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑪ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Singapore Cool' Song: Amy Winehouse 'Love is a Losing Game' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ④ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Guest Workers: A Complex Issue' Song: Donny Hathaway 'Someday We'll All Be Free' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑫ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Zhang Ziyi: Memoirs of an Asian Beauty' Song: Keb' Mo' 'I'll be Your Water' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑤ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The World's Worst Weed' Song: Marvin Gaye & Tammi Terrell 'Ain't No Mountain High Enough' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑬ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Thailand's J-Trend' Song: John Lennon & Yoko Ono 'Happy Xmas (War Is Over)' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑥ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Supplements' Song: Eric Clapton 'Tears in Heaven' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑭ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Chinese New Year Food: A Celebration of Life' Song: Bob Marley 'Redemption Song' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | |
| ⑦ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'How Many Guns Are Enough?' Song: Chuck Berry 'Johnny B. Goode' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑮ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Paralympic Games & Special Olympic World Games' Song: John Lennon 'Imagine' [授業外学修] 今回の課題の復習と期末試験の準備 | |
| ⑧ | [テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Dressing Like a Hippie' Song: Otis Redding 'Try a Little Tenderness' [授業外学修] 今回の課題の復習と次回の課題の予習 | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 辞書は必ず持参すること。 定員20名以下。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 70% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | イングリッシュ・リーディング A | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる | |
| オフィスアワー | 火曜日14:20～15:50 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 英会話A English Conversation A | | | 担当教員 | ジェリー・バラング |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | I have taught at elementary, junior high & high school level 小学校、中学校、高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としめない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics. | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation. | | | | |
| ■ 情意的領域 | The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English. | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities. | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] Introduction of the class & grading. [内容] Description of the class, semester schedule outline + self introduction preparation and key English instructions [授業外学修] Memorize self-introductions and key English phrases | | | ⑨ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学修] Memorize key vocabulary |
| ② | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学修] Conversation model presentation | | | ⑩ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学修] Introduce your family preparation |
| ③ | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学修] Conversation model presentation | | | ⑪ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Compare people [授業外学修] MyEnglishLab online study |
| ④ | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Provide personal information and introduce someone to the group [授業外学修] Grammar + conversation model presentation | | | ⑫ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学修] Textbook assignment + MyEnglishLab online study |
| ⑤ | [テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Accept or decline an invitation [授業外学修] Conversation model presentation | | | ⑬ | Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学修] Memorize key vocabulary |
| ⑥ | [テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学修] Unit 1&2 review - MyEnglishLab - online study | | | ⑭ | [テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学修] Memorize key vocabulary and phrases |
| ⑦ | [テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Make plans to see an event + talk about musical tastes [授業外学修] Study for Unit 1&2 test | | | ⑮ | [テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学修] Unit 3 & 4 review ; study for test |
| ⑧ | [テーマ] Unit 1&2 Test [内容] Test [授業外学修] Reading Unit 3 preview | | | ⑯ | [テーマ] Test Unit 3 & 4 [内容] Test Unit 3 & 4 [授業外学修] None |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | | 35% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | | 35% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 Students serious about improving their English abilities and committed to the 1st & 2nd Semesters should apply to this course. In principle, new students will not be accepted in the 2nd Semester without special approval from the course instructor. Students should attend 2/3 of all classes & achieve more than 60% on their scores to qualify for credit. Instantaneous feedback after all in class assessments. Progress reports will be given in "one to one" interviews, as well as extra advice for improvement. | | | | | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20~11:50 | | | その他 | A棟511、email j-parangi@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|---|--|
| 授業科目名 | | 英会話B English Conversation B | | 担当教員 | ジェリー・バランギ |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | I have taught at elementary, junior high & high school level 小学校、中学校、高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としいない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics. | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation. | | | |
| ■ | 情意的領域 | The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English. | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities. | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] Review of class grading. [内容] Briefing of second semester syllabus. Pair discussion about summer vacation. Then review Unit 3 and continue with unit. [授業外学修] Complete Unit 3 & start Unit 4 | | ⑨ | [テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学修] Conversation model presentation | |
| ② | [テーマ] Food & Restaurants [内容] Introduction of menu categories/ ordering food at restaurants [授業外学修] Memorize the key vocabulary | | ⑩ | [テーマ] Unit 9 - Buying, and reserving tickets [内容] Discuss schedules and buying tickets [授業外学修] Memorize key vocabulary | |
| ③ | [テーマ] Food & Restaurants [内容] Focussing on categories of food/ count/non-count nouns [授業外学修] Study for Unit 4 test if completed | | ⑪ | [テーマ] Unit 9 - Understand airport announcements. [内容] Understand airport announcements. Describe transportation problems. [授業外学修] Complete the review + MyEngLab | |
| ④ | [テーマ] Unit 4 short test + Start Unit 6 - Plan an activity with [内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity. [授業外学修] Conversation model + MyEngLab | | ⑫ | [テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide. [内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab [授業外学修] Study for test | |
| ⑤ | [テーマ] Unit 6 - Discuss fitness and eating habits [内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities. [授業外学修] Conversation model presentation | | ⑬ | [テーマ] Final test study guide [内容] Final Test [授業外学修] None | |
| ⑥ | [テーマ] Complete Unit 6 + review for unit test [内容] Complete this unit then give a study guide [授業外学修] Study for unit test | | ⑭ | [テーマ] Test handback + 英会話 course evaluation [内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations - class discussion. Start the culturally [授業外学修] Media comprehension questions | |
| ⑦ | [テーマ] Unit 6 short test [内容] Short test on Unit 6. Introduce "media study," - sports related [授業外学修] Complete comprehension questions from the movie. | | ⑮ | [テーマ] Media studies [内容] Continue the media study [授業外学修] Complete comprehension questions | |
| ⑧ | [テーマ] Short test handback [内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study." [授業外学修] Complete the comprehension questions | | ⑯ | [テーマ] Farewell ceremony [内容] Farewell ceremony in class [授業外学修] None | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | | 35% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | | 35% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20~11:50 | | | その他 | |
| | | | A棟511, email j-parangi@sendai-u.ac.jp | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|---|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English | | | 担当教員 | マーティ・キーナート / Marty Kuehnert |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) |
| 全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用語となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 学生は英語の知識、読解、聴解力を高め、上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用語にはいりこんだかを学習し、会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用語に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| REMEMBER THE TITANS「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしなが、各テーマの英語フレーズと用法とその背景についても講義する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容とスケジュールの紹介 日米スポーツ業界での実務経験からと英ネイティブスピーカーとして講義を行う。 [授業外学修]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。 | | | ⑨ | [テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ② | [テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑩ | [テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ③ | [テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑪ | [テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ④ | [テーマ] チャプター 4,5,6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑫ | [テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑤ | [テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑬ | [テーマ] Making Documentary 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑥ | [テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑭ | [テーマ] Making Documentary 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑦ | [テーマ] チャプター 14,15,16, [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑮ | [テーマ] 全体総括 [内容] 半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学修] 期末テストへむけて復習 |
| ⑧ | [テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | | | ⑯ | [テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明 [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義受講人数は80人に限定。 この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。 16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。 20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。 講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。 |
| 定期試験 | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 10% | |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 教科書なし。その都度プリント配布。 | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 月曜12:00 - 13:30 | | | その他 | m-kuehnert@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | ドイツ語 I Introduction to German Language I | | | 担当教員 | 小松 恵一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| ドイツ語の初等文法を学ぶ。ゆっくりとしたテンポで一歩ずつ。教科書は用いない。解説および練習問題のプリントを配布する。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 初歩的な文法が分からないと、辞書も引けません。冠詞、名詞、代名詞の格変化、動詞の人称変化を覚える。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | ドイツ語の初等文法を理解し暗記する | | | | |
| ■ 情意的領域 | 興味・関心をもって取り組む | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ドイツ語である程度自己表現ができる | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 毎回、解説と練習を繰り返す。随時、小テストを行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]ドイツおよびドイツ語への導入 [内容]ドイツという国、その文化、政治、経済の概説。ドイツ語の発音。 [授業外学修]ドイツに関して興味あることを調べる。 | | | ⑨ | [テーマ]知らないことを尋ねる。疑問文。時間の言い方。 [内容]いつ、どこで、何を。Wann, wo, was. Wann fährst Du morgen vom Bahnhof ab? Half elf. [授業外学修]時間の言い方を練習する。 |
| ② | [テーマ]ドイツ語による挨拶 [内容] Guten Morgen. Wie geht es Ihnen? ドイツあるいはヨーロッパにおける挨拶と日本のそれとの違い。 [授業外学修]ドイツ語による挨拶を実践してみる。 | | | ⑩ | [テーマ]一日の出来事を記録する。 [内容] Um sieben Uhr stehe ich auf. Gegen elf gehe ich zur Uni. In der Mensa esse ich Nudeln. Am Nachmittag besuche ich die Vorlesung. [授業外学修]日記を現在形で書く。 |
| ③ | [テーマ] Seinの人称変化、特に自己紹介。 [内容] Ich bin Student. Ich bin Studentin. Du bist auch Student. Wir sind alle Studenten. [授業外学修]自己紹介を暗記する。 | | | ⑪ | [テーマ] 報告する(葉書を書く)過去形 [内容] 旅行しているという前提で、何をしたか、それがどうであったかを友人に葉書を書く。Das Wetter hier ist sehr schön. Am Morgen früh gehe ich---. [授業外学修]実際に葉書を書いてみる。 |
| ④ | [テーマ] 動詞の人称変化、自己紹介の続き [内容] Ich studiere Sportwissenschaft. Ich gehe heute zur Uni. Du gehst nicht. [授業外学修]自己紹介を暗記する | | | ⑫ | [テーマ] 予定を言う。目的の言い方。 [内容] ドイツ語では予定を言うとき、未来形はあまり使わない。Ich habe vor, morgen nach Sendai zu fahren, um meinen Freund zu sehen. 小テスト [授業外学修]小テストの復習をする |
| ⑤ | [テーマ] 自己紹介の総括 [内容] 挨拶から自己紹介までの一連の流れを、皆で練習しあい、実演する。小テスト。 [授業外学修]小テストを復習する。 | | | ⑬ | [テーマ]ドイツ映画を見る。 [内容] Pause. [授業外学修]ドイツ映画の感想を書く。 |
| ⑥ | [テーマ] 記述する。(再起動詞) [内容] 興味ある事柄を記述し、他者に説明する。Ich interessiere mich für Fußball in Deutschland. Ich mag Schweinsteiger. Er ist sehr smart. [授業外学修]自分の作文を暗記する。 | | | ⑭ | [テーマ] 全体の復習1 [内容] 自己紹介を含め、これまで学習した表現で作文する。 [授業外学修]来週の予習をする。 |
| ⑦ | [テーマ] 欲求の表現möchte [内容] 私はビールが飲みたい。ドイツビールはうまいか。Ich möchte Bier trinken. Ist deutsches Bier gut? [授業外学修]欲求の表現を応用してみる。 | | | ⑮ | [テーマ] 全体の復習2 [内容] 作文の続き。 [授業外学修]試験に備える。 |
| ⑧ | [テーマ] レストランでよく使う表現 [内容] ich möchte Schweinebraten mit Salat essen. Das Essen ist sehr gut. Dann zahlen bitte. Zusammen oder getrennt? 小テスト [授業外学修]小テストを復習する。 | | | ⑯ | [テーマ] 筆記・口述試験 [内容] schriftliche und mündliche Prüfung [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 出席および授業態度が重要です。授業内での作業が多いので、それに対する取り組みも評価の対象となる。小テスト(30点)(小テストは授業内で解説の上で返却する)、14回、15回目の作文(30点)、最後のテスト(40点) | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | | ◎ | | ◎ | 60% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜日14:20-15:50 | | | | その他 |
| | | | | | 教科書はない。プリントを配布する。 |
| | | | | | 小松 恵一研究室A506 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------------------------|-------|-------------------|--|---------------------------------|
| 授業科目名 | ドイツ語II | | | 担当教員 | 小松恵一 | |
| | Introduction to German Language II | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 自由科目 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| ドイツ語 I を履修していることが前提となる。前期の続きである。現在完了形を主に学習する。語法の助動詞(sollen, müssen, könnenなど)。 | | | | | (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| ドイツ語の初等文法を終えることが目標である。自分史を書いて、自分の過去、現在、未来についてドイツ語で表現してみることができるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | ドイツ語の初等文法を理解し、自分を表現できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 関心をもって、積極的に参加する。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ドイツ語である程度意志疎通できるようになる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 前期と同様。毎回、解説と練習を繰り返す。随時、小テストを行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] タバコをのむべきではない。Sollen [内容] Du sollst nicht so viel rauchen. Vielmehr muss ich unbedingt sagen, du sollst aufhören, zu rauchen. [授業外学修]sollenを使ってみる。 | | | ⑨ | [テーマ] 長文読解1 [内容] ある程度まとまったドイツ語を読む。予定としては、例えば、ある人物の人生の記述。 [授業外学修]復習して理解を確実にする。続きを予習する。 | |
| ② | [テーマ]仲間を激励する。können, müssen 小テスト [内容] Ich kann nicht mitspielen. Du musst aber unbedingt mitspielen. Ich möchte, aber Ich kann wirklich nicht. Bald geht es Dir bestimmt besser. [授業外学修]小テストの復習をする。 | | | ⑩ | [テーマ] 長文読解2 [内容] ある程度まとまったドイツ語を読む。 [授業外学修]復習して理解を確実にする。続きを予習する。 | |
| ③ | [テーマ] 現在完了の形 [内容] ドイツ語の過去分詞の一般的な形。haben+過去分詞、現在完了の枠構造について説明し、練習する。 [授業外学修]現在完了形の復習をする。 | | | ⑪ | [テーマ] 長文読解3 [内容] ある程度まとまったドイツ語を読む。 [授業外学修]復習して理解を確実にする。続きを予習する。 | |
| ④ | [テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了) [内容] ドイツ語では現在完了を多用する。その練習。Ich habe gestern Fußball gespielt. Dabei habe ich im Bein Schmerz gehabt. [授業外学修]自分の出来事について書いてみる。 | | | ⑫ | [テーマ] 自分史を書く1 [内容] これまでの学習を踏まえ、直前の人の生き方に関する文章を参考にして。Zuerst schreibt man kurze Autobiographie auf Japanisch. [授業外学修]自分史を推敲する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了およびdass-Satz)続き [内容] 現在完了形を用いて自分の出来事について書いてみる。定型後置について。小テスト [授業外学修]定型後置を理解する。小テストの復習をする。 | | | ⑬ | [テーマ] 自分史を書く2 Japanische Fassung der Autobiographie fertigbringen. Dabei ist es unbedingt empfehlenswert, die Aussicht auf die Zukunft zu erwähnen. [授業外学修]必要なドイツ語の単語を調べる。 | |
| ⑥ | [テーマ] 報告を読む。従属接続詞wenn, als, weilなど。 [内容] 現在完了形を多用した、比較的簡単な報告を読む。時間的前後関係、条件文、因果関係の表現。 [授業外学修]従属接続詞を使って作文してみる。 | | | ⑭ | [テーマ] 自分史ドイツ語版を作る1 [内容] Japanische Fassung ins Deutsche übersetzen。 [授業外学修]ドイツ語版を推敲する | |
| ⑦ | [テーマ] 報告を読む。従属接続詞wenn, als, weilなど。続き [内容] 現在完了形を多用した、比較的簡単な報告を読む。時間的前後関係、条件文、因果関係の表現。 [授業外学修]報告のテキストを暗記する。 | | | ⑮ | [テーマ] 自分史ドイツ語版を作る2 [内容] Deutsche Fassung der Autobiographie, die die Aussicht auf die eigene Zukunft in sich einschließt, vollenden. [授業外学修]発表の練習をする。 | |
| ⑧ | [テーマ] 願望、評価の表現(形容詞・副詞・比較級) [内容] gern, lieber, am besten. Es ist sehr wunderbar, schön, hervorragend, herrlich, u.s.w. [授業外学修]評価する文を書いてみる。 | | | ⑯ | [テーマ]ドイツ語で発表する [内容] 各自、ドイツ語で自分史を発表する。 [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 成果として、学生みなさんの将来への展望を含む自分史をまとめ文集を作る。それが70点。小テスト30点(小テストは、授業内で解説の上で返却する)。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 70% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | 30% | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | — | — | — | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 教科書はない。プリントを配布する。 | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日14:20-15:50 | | | | その他 | 小松恵一研究室A506 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--------------------------|-------|--|-------------------|
| 授業科目名 | スペイン語 I | | | 担当教員 | 平田 忠 |
| | Introduction to Spanish I | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説する。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もする。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介する。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 以下のようなことが目標である:①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 読み書きの基礎的なルールを理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 異なる文化を理解しようとする態度を持つ。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説する。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をする。また、前回習った内容についてのテストを毎回行う。その他に、スペイン語文化(音楽、祭り、スポーツ、テレビなど)の紹介をする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学修]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう | | ⑨ | [テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ② | [テーマ] 発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑩ | [テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ③ | [テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑪ | [テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ④ | [テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑫ | [テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ⑤ | [テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑬ | [テーマ] 数詞 [内容] 数を表す言葉 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ⑥ | [テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑭ | [テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | |
| ⑦ | [テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑮ | [テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学修]最終回のテストに備えて復習をする | |
| ⑧ | [テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 毎回の授業でテストを行う。その成績(90%)と授業での態度(10%)を総合して成績を決定する。テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 90% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | ◎ | 10% |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スペイン語 II | | | 関連資格 | なし |
| 教科書 | 使用しない。 | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00~12:30 | | | その他 | 連絡先: 平田研究室 (A502) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|--------------------------|---------|---------|--|
| 授業科目名 | スペイン語Ⅱ | | | 担当教員 | 平田 忠 |
| | Introduction to Spanish Ⅱ | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| この授業では、スペイン語Ⅰに引き続き、スペイン語による読み書きの基礎について解説する。また、簡単な日常会話の練習もする。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介する。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 以下のようなことが目標となる:①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②簡単な会話を覚え、場面に応じて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 読み書きの基礎的なルールを理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 異なる文化を理解しようとする態度を持つ。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| スペイン語Ⅰに引き続きスペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説する。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いた表現の練習と簡単な会話の練習をする。また、前回習った内容についてのテストを毎回行う。その他に、スペイン語文化(音楽、祭り、スポーツ、テレビなど)の紹介をする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]動詞ser① [内容]serの活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑨ | [テーマ]動詞querer① [内容]quererの活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ② | [テーマ]動詞ser② [内容]serを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑩ | [テーマ]動詞querer② [内容]quererを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ③ | [テーマ]動詞estar① [内容]estarの活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑪ | [テーマ]動詞poder① [内容]poderの活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ④ | [テーマ]前置詞 [内容]主な前置詞の用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑫ | [テーマ]動詞poder② [内容]poderを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑤ | [テーマ]動詞estar② [内容]estarを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑬ | [テーマ]代名詞 [内容]目的語になる代名詞 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑥ | [テーマ]動詞ir① [内容]irの活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑭ | [テーマ]再帰動詞① [内容]再帰動詞の活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑦ | [テーマ]所有形容詞と指示形容詞 [内容]所有を表す言葉、指し示す言葉 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑮ | [テーマ]再帰動詞② [内容]再帰動詞を用いた表現 [授業外学修]最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ]動詞ir① [内容]irを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 毎回の授業でテストを行なう。その成績(90%)と授業での態度(10%)を総合して成績を決定する。テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 定期試験 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・この科目を受講するためには、「スペイン語Ⅰ」の単位取得が必要である。 ・この授業では声を出すこと。質問にははっきりと答える、大きな声で読むことを心がけよう。 ・欠席した回の小テストは0点である。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなる。できる限り授業に出席しよう。 ・毎回のテストのために復習が必要である。 ・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参すること。 |
| 授業内レポート | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 90% | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 10% | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | スペイン語Ⅰ | | | 関連資格 | なし |
| 教科書 | 使用しない。 | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00~12:30 | | | その他 | 連絡先:平田研究室(A502) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 中国語 I Chinese I | | | 担当教員 | 馬 佳濛 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 母国語で中国との交流実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 中国の文化及び国情に対する理解を深める。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学修] シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] 第5-6課 文法のまとめ [内容] 動詞の文、いろいろな疑問文、もの数え方、ものを指し示す言い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ② | [テーマ]第1課 ピンインの学習 [内容] 単母音、声調、子音、軽声の発音特徴、声調の発音について学んで朗読する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑩ | [テーマ] 第7課 どこにいる、AそれともB [内容] “在”の文、指示代名詞(場所)、選択疑問文、指示代名詞(モノ・コト)について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ③ | [テーマ] 第2課ピンインの学習 [内容] 複合母音、鼻母音の発音、簡単な挨拶について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑪ | [テーマ] 第8課 どれくらいかかる?～するのが好きです [内容] 形容詞の文、前置詞“离”と“从~到...”、動詞“喜欢”、連動文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ④ | [テーマ] 第3課 何月何日?何時? [内容]数、月日、曜日、時刻、時間について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑫ | [テーマ] 第7-8課 文法のまとめ [内容] “在”の文、指示代名詞、形容詞の文、連動文について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 第4課 お名前は?どちらの大学? [内容] 人称代名詞、名前の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]テキストの練習問題をもとに復習する | | | ⑬ | [テーマ] 第9課 くらい?Aよりも~です [内容] 手段・方法の尋ね方、比較文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 第3-4課 文法のまとめ [内容] 数の言い方、人称代名詞、“是”の文について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑭ | [テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリングについて復習する。 [授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ] 第5課 だれ?なに?これは~です [内容] 動詞の文、疑問詞“誰”“什么”、“吗”の疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑮ | [テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑧ | [テーマ] 第6課 いる、ある [内容] “有”と“没有”もの数え方、省略疑問文、反復疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 中国語 II (後期) | | | 関連資格 | HSK中国語検定 |
| 教科書 | はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著 | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20~11:50 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 中国語Ⅱ Chinese II | | | 担当教員 | 馬 佳濛 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語を正確に発音出来るように徹底的に訓練しながら、基礎文法を学び、会話の練習をしていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 中国語で日常会話および常用表現を身につける;初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得して、比較的簡単な文章の読解と作文ができるようになる;中国の文化や社会に対する理解を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 中国の文化及び国情に対する理解を深める。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ピンインを正確に発音できる。中国語で及び簡単な日常会話やコミュニケーションができるようになる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学修] シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] 資料① まだ食事中? [内容] 時間量を表す、様態補語、進行の表現について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ② | [テーマ]前期の復習 [内容] ピンインや前期で学んだ大事なポイントを復習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑩ | [テーマ] 資料② 心配しないで [内容] 回数を表す、結果補語、副詞の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ③ | [テーマ] 第10課～したい、どこで? [内容] 動詞の後ろの“了”、助動詞“想”、文末の“了”、前置詞の“在”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑪ | [テーマ] 資料③ 両親が帰ってくるようにって [内容] 方向補語、使役の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ④ | [テーマ] 第9-10課 文法のまとめ [内容] 手段・方法の尋ね方、比較文、助動詞、前置詞の使い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑫ | [テーマ] 資料④ どうやって解いたらいい [内容] 助動詞、介詞、強調構文の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 第11課 ～できる?～していい? [内容] 助動詞“会”、“能”、“可以”、前置詞“給”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑬ | [テーマ] 資料⑤ 起こされちゃった [内容] 方向補語、可能補語、受け身の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 第12課 ～している、～したことがある [内容] 進行形、禁止の言い方、経験を表す“过”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑭ | [テーマ] まとめ [内容] 後期で学習したことを復習し、テストの説明をする。 [授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ]第11-12課 文法のまとめ [内容] 可能を表す助動詞、禁止の言い方、前置詞、進行形、経験を表すについて復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]次週の発表準備をする | | | ⑮ | [テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑧ | [テーマ] 第6課 発表 [内容] 与えられた課題を作文し、朗読暗記し、発表する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験(予備) [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 講義時間内に指名し、その発音、回答および発表内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ○ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ◎ | 40% |
| 出席 | | ○ | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 中国語Ⅰ(前期) | | | 関連資格 | |
| 教科書 | はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著 | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20~11:50 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------|-------|---------|---|---------------------------------|
| 授業科目名 | 韓国語 I Korean I | | | 担当教員 | 金 賢植 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングルの仕組みから読み方、書き方、日常生活に必要な基礎的な単語および表現を講義する。また、韓国語と関連して、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情など紹介しながら授業を進めていく。 | | | | | (4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音練習(基本母音字母、合成母音字母、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによるスライドや資料をもとにゆくり進み、後期の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、挨拶 [授業外学修] 韓国に関して興味のあることを調べる | | | ⑨ | [テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ② | [テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ③ | [テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問ができるように練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ④ | [テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞を日本語と比較しながら学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ⑤ | [テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] うちとけた表現 [内容] 「です・ます」体の作り方学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ⑥ | [テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体① [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | |
| ⑦ | [テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体② [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑮ | [テーマ] 総括 [内容] 授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする | |
| ⑧ | [テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 70% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 韓国語 I (前期) | | | | 関連資格 | 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定) |
| 教科書 | なし | | | | 参考書 | 『もっとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20～16:00 | | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 韓国語Ⅱ Korean II | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、基礎的な文章を応用し、あいさつ、買い物、道を尋ね、状況別表現などの日常会話を紹介する。また、韓国人とのコミュニケーションができるよう、小グループ型を授業に導入し、会話中心の授業を進めていく。 | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、学生の興味や関心があるテーマ(文化・歴史・教育・スポーツ事情)を取り上げ、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、発音練習(基本母音子音、合成母音子音、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによる知識伝達型や、小グループ型の授業を導入し、実用的な語学力を身につける。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習 | | | ⑨ | [テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ② | [テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] ～くさいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かをお願いする際に使う表現の習得と練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 年齢に関する表現 [内容] 年齢の数え方、数字の数え方 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去形の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 会話練習 [内容] 2回～5回まで学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 動詞の可能表現 [内容] 「～することができる」の可能表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑮ | [テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか」を用いてよく使われる文末表現の学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 | | | | | |
| 関連科目 | 韓国語Ⅰ(前期) | | | 関連資格 | 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定) |
| 教科書 | なし | | | 参考書 | 『もっとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20～16:00 | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

《人生設計科目》

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|---------|--|--|
| 授業科目名 | キャリアプランニング I Career Planning I | | | 担当教員 | クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいる、これをやっているのか)を吟味することを通じ、大学生生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。 | | | | | (4) (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| ライフステージの一段階として大学生生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 職業や進路についての話し合いを進めることに寄与でき、話し合う仲間を見つけることができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | コース選択や科目履修を主体的に計画できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しを考える。 | | | ⑨ | [テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学修] 発表準備。 | |
| ② | [テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学修] 普段の生活態度を問い直す。 | | | ⑩ | [テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者(クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学修] 他者にどう接するべきかを考える。 | |
| ③ | [テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学修] 普段の生活態度を問い直してみよう。 | | | ⑪ | [テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは(クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学修] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。 | |
| ④ | [テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生生活の目標を考えます。 [授業外学修] 進学当時からのことを改めて振り返る。 | | | ⑫ | [テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学修] 改めて自分の将来の姿を考える。 | |
| ⑤ | [テーマ] 「はたらく」とはどういうことか(クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学修] はたらく意味を自分なりに考える | | | ⑬ | [テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学修] 改めて自分の将来の姿を考える。 | |
| ⑥ | [テーマ] 教師になるには?(クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学修] 教師になるまでの道のりについて調べる | | | ⑭ | [テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学修] 職業興味検査の結果をよく検討する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学修] 興味のある職業について考える。 | | | ⑮ | [テーマ] キャリアプランニングⅡに向けて(全クラス合同) [内容] 教員から2年時に履修するキャリアプランニングⅡの概要を説明し、インターンを経験した先輩の講話を聞きます。 [授業外学修] インターンについて調べる | |
| ⑧ | [テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学修] グループ学習。 | | | ⑯ | [テーマ] 1年を振り返り、今後の大学説話を見通す [内容] 授業で学んだ内容を振り返り、今後の大学生生活の見通しを立て、レポートとして書き起こします。 [授業外学修] レポートの準備、執筆 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。 また、全クラス合同、および各クラス単位での授業の実施教室等は、初回授業時に配布するプリントで周知します |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 演習・実技 | | | ○ | ○ | 20% | |
| 授業態度 | | | ◎ | ◎ | 40% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | キャリアプランニングⅡ、キャリアプランニングⅢ | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 「キャリアプランニングⅠ演習資料」(オリエンテーション時に配布) | | | 参考書 | 必要に応じて講義時に紹介します。 | |
| オフィスアワー | クラス担任教員の時間を確認してください | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|---------|--|---|
| 授業科目名 | キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ | | | 担当教員 | キャリアプランニング運営担当教員 プロスポーツ球団インターンシップ担当教員 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| <p>本科目は、キャリアプランニングⅠで学んだことを活かしながら、将来の進路について各々が考えるきっかけやヒントを学ぶ科目である。講義形式での学びやインターンシップ実習(職業体験学習)の機会を通じて、将来への視圏を拡大するとともに、社会のありかたやその中で私たちの過ごし方を理解する。</p> | | | | | (4)(5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 「自分と社会人生活・進路選択」をメインテーマに、自分自身を自覚的に捉え、今後の進路について具体的に考えることができるようになることを目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 職業について、より深い具体的知識を備える。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 職業選択に当たり、自分なりの動機をより鮮明に、より強く持つことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 社会人らしい考え方、話し方をすることができる。職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持ち、表明できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日揭示する。なお、本科目は実習が講義かを選択できる。詳細は第1回ガイダンスで周知するが、事前に夏休み期間の予定を確認すること(実習・講義共に夏季休暇期間の実施がメインとなるため)。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | <p>[テーマ] 第1回オリエンテーション [内容] 本科目の基本的な流れとコース説明、履修の仕方を概説する。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。</p> | | | ⑨ | <p>[テーマ] 社会を知る① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 社会で求められる能力を調べておく。</p> | |
| ② | <p>[テーマ] 第2回オリエンテーション [内容] コースごとの詳細な説明を行い、コース選択を実施する。 [授業外学修] 第1回オリエンテーションの内容を見直す。</p> | | | ⑩ | <p>[テーマ] 社会を知る② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 社会で求められる人格を調べておく。</p> | |
| ③ | <p>[テーマ] 第3回オリエンテーション [内容] コースごとに分かれ、それぞれの今後の進め方を概説する。 [授業外学修] 第2回オリエンテーションの内容を見直す。</p> | | | ⑪ | <p>[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 一般的マナーや礼儀を調べておく</p> | |
| ④ | <p>[テーマ] 将来の進路を考える① [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学修] 自分なりに自己分析の方針を考える。</p> | | | ⑫ | <p>[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 社会的マナーや礼儀を調べておく</p> | |
| ⑤ | <p>[テーマ] 将来の進路を考える② [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学修] わからない職業は自分なりに調べておく。</p> | | | ⑬ | <p>[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 将来の夢や希望を再確認する。</p> | |
| ⑥ | <p>[テーマ] 将来の進路を考える③ [内容] 講義コース:講話 実習コース:事前・事後指導 [授業外学修] 分析結果から見た自分像について考える。</p> | | | ⑭ | <p>[テーマ] キャリアデザイン② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 将来に向かってやるべきことを確認する。</p> | |
| ⑦ | <p>[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 自分のコミュニケーション能力を検討する。</p> | | | ⑮ | <p>[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学修] 提出物などに漏れがないか確認する。</p> | |
| ⑧ | <p>[テーマ] コミュニケーション能力② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 自身のコミュニケーション力を再検討する</p> | | | ⑯ | <p>[テーマ] レポート [内容] 講義コース、実習コースともにレポートを作成し、提出する。実習コースの場合は、実習日誌も完成させ、提出する。 [授業外学修]</p> | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の主材料は出席状況(欠格条件)および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。</p> |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 演習・実技 | | | ◎ | ◎ | 30% | |
| 授業態度 | | | ◎ | ◎ | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅢ | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しません。講義時にレジュメを配布します。 | | | | 参考書 | 必要に応じてガイダンスや集中講義時に紹介します。 |
| オフィスアワー | キャリアプランニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知) | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--|-------|---------|--|
| 授業科目名 | キャリアプランニングⅢ Career Planning III | | | 担当教員 | 学科・コースのグループ担当教員 キャリアプランニング運営担当教員 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 3年次は、将来の進路について明確なイメージを固め、行動する時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。 | | | | | (4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、外部講師を招聘し、職業に対するありべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | それぞれの進路に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、学科やコースのグループごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合には全3年生合同で授業を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。 | | | ⑨ | [テーマ] 大学院という進路(合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学修] 大学院の情報を収集する |
| ② | [テーマ] 自己PRとしての自己紹介(各グループ) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学修]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。 | | | ⑩ | [テーマ] 就職活動の全体像(合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学修] 就活支援サイトをチェックする。 |
| ③ | [テーマ] 就職の道すじ(各グループ) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学修] 就職活動のスケジュールを組み立てる。 | | | ⑪ | [テーマ] 自己プロデュースの方法(合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学修] 前期の学習内容を振り返る。 |
| ④ | [テーマ] 敬語の使いかた・電話のマナー(各グループ) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学修] 敬語等の使い方を調べる。 | | | ⑫ | [テーマ] 対人スキルを磨く(合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学修] 対人スキルを日常で実践してみる。 |
| ⑤ | [テーマ] 自己分析の実際(各グループ) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学修] 自分のアピールポイントを考える。 | | | ⑬ | [テーマ] 訴求点を探す(合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学修] 自分の長所を考える。 |
| ⑥ | [テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各グループ) [内容] 自己PR書を試作してみるにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学修] 他己分析をしてみる。 | | | ⑭ | [テーマ] 視野を広げる(合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学修] 求人票を読む。 |
| ⑦ | [テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各グループ) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学修] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。 | | | ⑮ | [テーマ] 「働く」を疑似体験する(合同) [内容] 体験型の就活ナビゲーションを通じて、新社会人になることを具体的にイメージする。 [授業外学修] 就活に必要な用具などを揃える。 |
| ⑧ | [テーマ] 夏休みの過ごし方(合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学修] 夏休みの行動指針を立てる。 | | | ⑯ | [テーマ] レポート [内容] 講義で学んだ内容を踏まえ、就職活動に向けての筋道見直し、レポートとして書き起こす。 [授業外学修] レポートのための振り返りお行い、情報を収集する。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況(欠格条件)および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | ○ | 40% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅡ | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 「キャリアプランニングⅢ演習資料」(オリエンテーション時に配布) | | | 参考書 | 必要に応じて講義時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 学科・コースのクラス担当教員(オリエンテーション時に告知) | | | その他 | |

2. 專門基礎科目

《講義》

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | スポーツ社会学 Sociology of Sport (L) | | | 担当教員 | 荒牧 亜衣 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 社会との関係から、スポーツの特徴や意義について概説する。特に、日本におけるスポーツの現状と課題について、具体的事例を挙げながら解説する。 | | | | | | (1)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やそのあり方について理解できるようになる。さらに日本のスポーツ文化の特徴やこれからの課題について思考できる能力を身につける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 社会との関係から、スポーツの特徴や意義、役割について説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツに携わる立場から、主体的に考え、多角的にスポーツについてとらえることができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また内容の理解のための確認テストを授業内に実施する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] スポーツ社会学とは [内容] 本授業の計画及び授業の進め方等について説明する。 [授業外学修] 自分とスポーツの関係について発表できるようにしておくこと | | | ⑨ | [テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容] スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト、バーンアウトについて解説する。 [授業外学修]バーンアウトの原因について考えておくこと | |
| ② | [テーマ] 現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、スポーツをめぐる諸問題について特にオリンピック競技大会を中心に説明する。 [授業外学修] スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておく | | | ⑩ | [テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容] 日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学修] 日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと | |
| ③ | [テーマ] スポーツと社会(1) [内容] 近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学修] イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと | | | ⑪ | [テーマ] スポーツ集団(1) [内容] わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学修] 大学スポーツの歴史について調べておくこと | |
| ④ | [テーマ] スポーツと社会(2) [内容] 現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学修] 現代社会はどのような特徴を持つのかを理解しておくこと | | | ⑫ | [テーマ] スポーツと政治・経済(1) [内容] オリンピック競技大会を事例に、スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学修]1936年ベルリン大会について調べておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] スポーツと文化(1) [内容] スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学修] 文化とは何かを調べておくこと | | | ⑬ | [テーマ] スポーツと政治・経済(2) [内容] スポーツにおけるナショナリズムについて、オリンピック競技大会を事例に解説する。 [授業外学修] ナショナリズムとは何かについて調べておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] スポーツと文化(2) [内容] ホイジンガ、カイヨワの議論を参考にプレイとは何かについて解説する。 [授業外学修] ホイジンガやカイヨワについて調べておくこと | | | ⑭ | [テーマ] スポーツと政治・経済(3) [内容] 箱根駅伝を事例として、スポーツとテレビメディアの関係について解説する。 [授業外学修] 箱根駅伝の歴史について調べておくこと | |
| ⑦ | [テーマ] スポーツと文化(3) [内容] スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学修] 自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと | | | ⑮ | [テーマ] スポーツと政治・経済(4) [内容] スポーツにおける商業主義について解説する。 [授業外学修] 商業主義とは何かについて調べておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容] スポーツ参与およびスポーツ的社会的概念について解説する。 [授業外学修] 自らのスポーツ経験について発表できるようにしておくこと | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学修] 参考資料を熟読し、復習しておくこと | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験の成績(60%)、授業内課題及び確認テストの成績(40%)、以上の結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習しておくこと。 ・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。 ・授業計画は進捗状況等に応じて変更することがある。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 60% | |
| 授業内レポート | | ○ | | | 40% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 加点 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 体育原理(1年)、スポーツ経営学(1年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ史(3年) | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版 | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | 木曜3限 | | | その他 | ai-aramaki@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | スポーツ心理学 Sport Psychology (L.) | | | 担当教員 | 栗木一博/菊地直子 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。 | | | | | (1) (3) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツ心理学の基礎的事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(栗木・菊地) [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法及び授業の進め方について解説する。 [授業外学修]シラバスを熟読すること。 | | | ⑨ | [テーマ] スポーツとこころの健康(菊地) [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学修]コミュニケーションということばの意味について調べる。 | |
| ② | [テーマ] スポーツにおける心理アセスメント(栗木) [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学修]どのような心理テストがあるのかを調べておく。 | | | ⑩ | [テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ(菊地) [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学修]「自我同一性」ということばについて調べておく。 | |
| ③ | [テーマ] スポーツにおける動機づけ理論①(栗木) [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学修]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。 | | | ⑪ | [テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント(菊地) [内容] ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学修]自分のストレスについてまとめておく。 | |
| ④ | [テーマ] スポーツにおける動機づけ理論②(栗木) [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学修]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。 | | | ⑫ | [テーマ]スポーツ選手の性格(菊地) [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。 [授業外学修]自分のストレスを評価してみる。 | |
| ⑤ | [テーマ] スポーツにおける目標設定(栗木) [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学修]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。 | | | ⑬ | [テーマ]スポーツカウンセリング①(菊地) [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学修]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。 | |
| ⑥ | [テーマ] スポーツにおける集中力①(栗木) [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学修]「集中力」ということばの意味について調べておく。 | | | ⑭ | [テーマ] スポーツカウンセリング②(菊地) [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学修]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。 | |
| ⑦ | [テーマ] スポーツにおける集中力②(栗木) [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学修]前回学習した「集中力」について確認する。 | | | ⑮ | [テーマ]スポーツカウンセリング③(菊地) [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学修]スランプやプラトーについて調べる。 | |
| ⑧ | [テーマ] スポーツとリーダーシップ(栗木) [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学修]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト(菊地) [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学修]テストの準備をしておく。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は、期末試験を一回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。試験については授業内で返却し、解説する | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 60% | |
| 授業内レポート | | ○ | ◎ | | 40% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 中高保健体育、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、NSCA-CPT、健康運動実践指導者ほか |
| 教科書 | 特に指定しない、必要に応じて資料を配布する | | | | 参考書 | 特に指定しない、必要に応じて授業中に紹介する |
| オフィスアワー | 栗木:前期・月曜日2時間、後期・水曜日3時間 菊地:前期・月曜日2時間、後期・木曜日3時間 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|---|--|
| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.) | | | 担当教員 | 宮西 智久 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツ運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)及びエナジェティクスを中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。</p> | | | | | (1)(2) |
| <p>授業の一般目標 スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。</p> | | | | | |
| <p>授業の到達目標</p> | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツ運動における実践的主観を客観化することにより興味や関心を深めることができ、スポーツや健康運動指導に活かすことができる。 | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | |
| <p>授業計画(全体) 本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講義は、これらのパートについて順に系統だてて進められる。</p> | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等)</p> | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | <p>[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。復習。 [授業外学修] 教科書(1章)の予習と復習</p> | | ⑨ | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力とモーメントアーム、偶力、回転効果、力のモーメント計算、つり合い、てこの原理(第一種、第二種、第三種)のてこ。復習。 [授業外学修] 教科書(6章)の予習と復習</p> | |
| ② | <p>[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位、復習。 [授業外学修] 教科書(2, 3章)の予習と復習</p> | | ⑩ | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] 重心とその測定・算出法、身体部分慣性係数(BSP)、身体重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理、復習。 [授業外学修] 教科書(6章)の予習と復習</p> | |
| ③ | <p>[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動、復習。 [授業外学修] 教科書(3章)の予習と復習</p> | | ⑪ | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則(回転編)、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則、復習。 [授業外学修] 教科書(6章)の予習と復習</p> | |
| ④ | <p>[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係、復習。 [授業外学修] 教科書(4章)の予習と復習</p> | | ⑫ | <p>[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギー変換、力学的効率、復習。 [授業外学修] 教科書(7章)の予習と復習</p> | |
| ⑤ | <p>[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動、復習。 [授業外学修] 教科書(4章)の予習と復習</p> | | ⑬ | <p>[テーマ] 流体力学:空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、比重、密度、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果、復習。 [授業外学修] 教科書(8章)の予習と復習</p> | |
| ⑥ | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 慣性・質量・力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則(並進編)、ダランベールの原理、復習。 [授業外学修] 教科書(5章)の予習と復習</p> | | ⑭ | <p>[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力-長さ・速度・パワー関係)、紡錘状筋と羽状筋、筋収縮様式、SSC、筋収縮モデル、復習。 [授業外学修] 教科書(9章)の予習と復習</p> | |
| ⑦ | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則、復習。 [授業外学修] 教科書(5章)の予習と復習</p> | | ⑮ | <p>[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体(地面、用具、相手他)へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力増大に関わる要因、復習。 [授業外学修] 教科書(9章)の予習と復習</p> | |
| ⑧ | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] システム、フリーボディダイアグラム(FBD)、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係、復習。 [授業外学修] 教科書(5章)の予習と復習</p> | | ⑯ | <p>[テーマ] 試験 [内容] 選択問題(マークシート方式) [授業外学修] 教科書、ノート、配布プリントを復習し試験に万全を期すこと。</p> | |
| <p>成績評価方法(方針) 定期試験、授業外レポート等に基づき評価する(解答掲出)。試験・レポートは解説とともに返却する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。</p> | | | | | |
| <p>成績評価方法(詳細)</p> | | | | <p>履修上の注意(受講学生に望むこと)</p> | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ○ | | | 75% |
| 授業内レポート | | | | | — |
| 授業外レポート | | ○ | | | 25% |
| 演習・実技 | | | | | — |
| 授業態度 | | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年) | | | 関連資格 | 教員免許状、健康運動指導士・同実践指導者、アスレチックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人) 配布プリント | | | 参考書 | スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店) |
| オフィスアワー | 木曜日5時限(16:00-17:30) | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|--|---|
| 授業科目名 | 運動生理学 Exercise Physiology (L) | | | 担当教員 | 内丸 仁 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 運動生理学では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関での取り組みや成果、およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実際の事例などを挙げながら、生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 授業に欠かさず出席する。実際の活動(運動・トレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。 | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎にクイズを実施し、理解を深める。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 運動生理学とは? [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学修] シラバスをよく読んでおくこと | | ⑨ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ [内容] 心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。 [授業外学修] P90~100をよく読んでおくこと | |
| ② | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ [内容] 筋の種類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学修] P1~6をよく読んでおくこと | | ⑩ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学修] P90~100をよく読んでおくこと | |
| ③ | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ [内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する [授業外学修] P6~12をよく読んでおくこと | | ⑪ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅳ [内容] 運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する [授業外学修] P109~117をよく読んでおくこと | |
| ④ | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ [内容] 筋力発揮特性について説明する。骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。 [授業外学修] P13~28をよく読んでおくこと | | ⑫ | [テーマ] 運動と免疫 [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学修] P76~83をよく読んでおくこと | |
| ⑤ | [テーマ] 運動と神経Ⅰ [内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学修] P29~57をよく読んでおくこと | | ⑬ | [テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境と水分摂取・体温調節 [内容] 暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する [授業外学修] P154~162をよく読んでおくこと | |
| ⑥ | [テーマ] 運動と神経Ⅱ [内容] 脳の働きと運動、および神経系のトレーニングの効果について説明する [授業外学修] P29~57をよく読んでおくこと | | ⑭ | [テーマ] 運動と健康および加齢 [内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学修] P121~133をよく読んでおくこと | |
| ⑦ | [テーマ] 運動と内分泌系とストレス [内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学修] P58~75をよく読んでおくこと | | ⑮ | [テーマ] 体力と体力特性とトレーニング [内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心とした体力特性、一般人の体力維持・増進のためのトレーニング、ウォームアップとクールダウンについて説明する [授業外学修] P134~153をよく読んでおくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ [内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気のマニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学修] P84~90をよく読んでおくこと | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学修] これまでの復習をすること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、出席状況や授業態度(評価割合30%、減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 70% |
| 授業内レポート | | | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | ○ | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スポーツ医学概論、スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース関連科目 | | | 関連資格 | JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版 | | | 参考書 | 運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建邦社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 富樫健二編 化学同人 運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで 小山勝弘、安藤大輔編著 三共出版 |
| オフィスアワー | 研究室:C棟2F オフィスアワー:月曜日 16:00~17:00 | | | その他 | 特になし |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--------------------------------|-------|---------|-------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ指導の基礎(含実習) | | | | 担当教員 | 阿部 肇/武石健哉 |
| | Fundamentals of Sports Coaching | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | JOCコーチングディレクター、日本スポーツ協会コーチの実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り、選手の競技力向上を目的とした助言や助動的行為のみならず、スポーツ組織におけるマネジメントの側面での責務も大きい。本講義では、指導者の機能と役割とは何かに始まり、トレーニング構成の諸原則、ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する。</p> | | | | | | (1) (2) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| <p>スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際的な職務を知り、求められる能力を理解できるようなる。そして、実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける。そこには、組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案、実行する選手育成の内容も含まれる。</p> | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | コーチの役割と、その実務における具体的な方法論を説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 指導に関する理論的な思考を持つことができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| <p>本講義では、先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かにについて、トレーニングや試合場面での選手への助言や助動的な行為といった狭義なものから、スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する。その後、指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて、より詳細に講義を進める。</p> | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | <p>[テーマ] 講義ガイダンス(阿部) [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること</p> | | | | ⑨ | <p>[テーマ] トレーニング課題と手段、方法の関係(阿部) [内容] トレーニングにおける「手段・方法・課題」の対応関係を説明する [授業外学修]トレーニング計画の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ② | <p>[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者(武石) [内容] 競技集団にはどのような構造があり、そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学修]集団構造と指導者について資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑩ | <p>[テーマ] トレーニング構成の一般原理(阿部) [内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学修]トレーニング構成の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ③ | <p>[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化(武石) [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学修]コーチと選手の関係についての資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑪ | <p>[テーマ] トレーニング構成の基本単位(阿部) [内容] トレーニングを構成する、課業、ミクロ、メゾ、マクロの基本単位を説明する [授業外学修]トレーニング構成の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ④ | <p>[テーマ] 指導者の機能と役割(武石) [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学修]指導者の役割についての資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑫ | <p>[テーマ] トレーニング構成の計画立案(阿部) [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学修]トレーニングの立案資料を基に復習しておくこと</p> |
| ⑤ | <p>[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック(武石) [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学修]集団構造の資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑬ | <p>[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期)(阿部) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]トレーニング周期の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ⑥ | <p>[テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力(武石) [内容] 組織の構造変化に伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学修]組織内の影響についての資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑭ | <p>[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期)(阿部) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]トレーニング周期の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ⑦ | <p>[テーマ] 組織の基本類型(阿部) [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学修]組織構造の資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑮ | <p>[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期)(阿部) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]トレーニング周期の資料を基に復習しておくこと</p> |
| ⑧ | <p>[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル(阿部) [内容] 組織構造が諸引力(目標、理念)に導かれ変化する様を説明する [授業外学修]組織構造の資料を基に復習しておくこと</p> | | | | ⑯ | <p>[テーマ] テスト(阿部) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学修]テストに全体を備えて復習しておくこと</p> |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| <p>試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。</p> | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。</p> |
| 定期試験 | | ◎ | | | 80% | |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 20% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 無し | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 無し(プリント資料を配布する) | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜 10:00-12:30 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 幼少年体育論 Lecture on physical education in children | | | 担当教員 | 早川 公康 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 幼少年体育指導士としての体育指導の実務経験を活かし、幼少年体育の理論や実践への考え方について講義する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方を学ぶ。 | | | | | (1) (2) (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について説明できる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について説明できる | | | | |
| ■ 情意的領域 | 幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について関心を持つ | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 幼少年における体育・運動の実践について基本的な対応ができる | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| テキストまたは資料等を用いた座学での理論学習および学外での実践活用学習等を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業予定・概要説明 [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑨ | [テーマ] 中間のまとめ [内容] 前半の内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ② | [テーマ] 幼少年の身体 [内容] 幼少年期の体格、運動器の特徴などについて [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑩ | [テーマ] 幼少年期の日常動作の発達 [内容] 幼少年期の日常動作の発達に関わる身体運動科学 [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ③ | [テーマ] 幼少年体育指導に期待されること [内容] 幼少年体育指導に期待されることや、必要な資質等について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑪ | [テーマ] 実技・基本の遊び [内容] 実技・基本の遊びに関する事例紹介 [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ④ | [テーマ] 子どもの生活と健康 [内容] 子どもの健康のための生活のあり方について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑫ | [テーマ] 幼少年体育の指導者に関すること① [内容] 幼少年体育の指導者に必要な資質・人間性について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ⑤ | [テーマ] 幼少年期のからだの発達 [内容] 幼少年期のからだの発達の過程について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑬ | [テーマ] 幼少年体育の指導者に関すること② [内容] 幼少年体育の指導者の能力を高める方法・手段について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ⑥ | [テーマ] 幼少年期のスポーツ・運動 [内容] 幼少年期に適したスポーツ・運動について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑭ | [テーマ] 幼少年体育のまとめ① [内容] 幼少年体育のまとめとして、ディスカッション等を行い、ふりかえる [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ⑦ | [テーマ] 幼少年期のこころの発達、その特徴 [内容] 幼少年期のこころの発達と特徴、およびそれに関わる事例について [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑮ | [テーマ] 幼少年体育のまとめ② [内容] 幼少年体育のまとめとして、ディスカッション等を行い、ふりかえる [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 |
| ⑧ | [テーマ] 配慮が必要な子どもの指導 [内容] 配慮が必要な子どもの指導について、身体的側面・精神的側面・社会的側面から学ぶ [授業外学修] 該当テキストページ等の予習・復習 | | | ⑯ | [テーマ] 定期試験 [内容] 筆記試験を行なう [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢(評価割合50%) および定期試験(評価割合50%) により総合的に評価する。提出されたレポートやテスト等は必要に応じて解説をしながら返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ○ | ○ | | 60% |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | 幼少年体育指導士 |
| 教科書 | 『幼少年のための運動遊び・体育指導』(杏林書院) ※ただし、購入方法は授業で説明します。 | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 月曜14:30~16:00 | | | その他 | 早川公康研究室(F206) km-hayakawa@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 子どもの生活 I Children's life I | | | 担当教員 | 針生 弘 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼児は家庭や保育所・幼稚園での生活における具体的な体験を通して身近な人々や社会、自然と関わっている。本授業では、幼児の自然環境や社会環境との関わり、社会的な生活感覚について説明する。また、環境との関わりの中から生まれる気づきや行動についての基礎的な知識を習得し、その指導や援助の方法について理解させる。 | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 小学校の生活科の観点から、幼児の自然環境や社会環境との関わりや社会的な生活感覚について考え、その気づきや行動、そして幼児に対する指導や援助の方法について理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児の環境との関わりや生活行動について理解することができる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児の環境との関わりや生活行動に対して関心を持ち、授業内容を踏まえながら、援助の在り方を主体的に考えることができる。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 小学校による実務経験を活かし、小学校生活科の観点から講義を行う。また、授業テーマに合わせ、参考文献やパワーポイントの講義を中心とし、必要に応じ資料を配付する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]「オリエンテーション」 [内容] 授業全体、授業の進め方、評価方法について説明する。 [授業外学修]シラバスをよく読んでおく。 | | | ⑨ | [テーマ]「リズム運動と幼児の発達(2)」 [内容]② 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について解説する。 [授業外学修]リズム運動の下調べをしておく。 |
| ② | [テーマ]「育ちのきほん(1)」 [内容] 0歳～3歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かしこさ・自我)について解説する。 [授業外学修]0～3歳児の乳幼児の生活について調べておく。 | | | ⑩ | [テーマ]「幼児と健康」 [内容] 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す、心身の健康について解説する。 [授業外学修]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。 |
| ③ | [テーマ]「育ちのきほん(2)」 [内容] 3歳～5歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かしこさ・自我・友だち)について解説する。 [授業外学修]3～5歳児の幼児の生活について調べておく。 | | | ⑪ | [テーマ]「幼児と人間関係」 [内容] 他の人々と親しみ、支え合って生活するための、自立心、人と関わる力について解説する。 [授業外学修]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。 |
| ④ | [テーマ]「育ちのきほん(3)①」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて解説する。 [授業外学修]小学校児童の生活について調べておく。 | | | ⑫ | [テーマ]「幼児と環境」 [内容] 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力について解説する。 [授業外学修]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。 |
| ⑤ | [テーマ]「育ちのきほん(3)②」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて解説する。 [授業外学修]小学校児童の生活について調べておく。 | | | ⑬ | [テーマ]「幼児と言葉」 [内容] 自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や表現力について解説する。 [授業外学修]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。 |
| ⑥ | [テーマ]「幼児と生活リズム(1)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点について解説する。 [授業外学修]生活リズムの問題点について調べておく。 | | | ⑭ | [テーマ]「幼児と表現」 [内容] 感じたことや考えたことの表現を通して、幼児の感性や表現力、創造性について解説する。 [授業外学修]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。 |
| ⑦ | [テーマ]「幼児と生活リズム(2)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点に対する取り組み方を解説する。 [授業外学修]生活リズム上の課題解決について調べておく。 | | | ⑮ | [テーマ]「まとめ」 [授業外学修]次回の試験に備えて復習をしておく。 |
| ⑧ | [テーマ]「リズム運動と幼児の発達(1)」 [内容]① 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について解説する。 [授業外学修]リズム運動の下調べをしておく。 | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| ミニテスト・レポート(40%)と授業外レポート(20%)、期末試験(40%)に基づき、総合的に評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | | 40% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 子どもの生活 II | | | 関連資格 | 保育士資格・幼稚園教諭1種資格 |
| 教科書 | 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 | | | 参考書 | 小学校学習指導要領解説 生活編 |
| オフィスアワー | 火曜Ⅲコマ | | | その他 | 研究室電話番号 0224-55-1484 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--|-------|--|----------------------|
| 授業科目名 | 子どもの生活Ⅱ Children's life Ⅱ | | | 担当教員 | 針生 弘 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 生活科の領域を中心に幼児の自然環境や社会環境との関わり, 社会的な生活感覚について考え, 幼児を取り巻く現代の社会的状況と課題について理解する。また, 幼児が自分自身や自分の生活について考えたり, 生活上必要な習慣や技能を身に付けたりすることが自立への基礎となることを理解し, その指導や援助の基本を身に付ける。 | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 子どもの社会環境や自然環境との関わりについて考え, 子どもに対する指導の方法や援助の方法について理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 子どもの環境との関わりについて考え, 指導や援助の方法について理解することができる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもと環境との関わりについて関心を持ち, 授業内容を踏まえながら, 指導や援助の方法を主体的に考えることができる。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 小学校による実務経験を活かし, 小学校生活科の観点から講義を行う。また, 授業テーマに合わせ, 参考文献やパワーポイントの講義を中心とし, 必要に応じ資料を配付する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体, 授業の進め方, 評価方法について解説する。 [授業外学修] シラバスをよく読んでおく。 | | ⑨ | [テーマ] 子どもと季節(冬) [内容] 子どもと生活と冬の関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもと生活と冬の関わりについて調べておく。 | |
| ② | [テーマ] 子どもと環境 [内容] 子どもと社会環境や自然環境との関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもを取り巻く環境について調べておく。 | | ⑩ | [テーマ] 子どもの一日 [内容] 子どもの一日の生活を知り, 社会環境や自然環境との関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもの一日の生活で配慮すべき事について調べておく。 | |
| ③ | [テーマ] 子どもの健康及び安全 [内容] 子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である健康及び安全について解説する。 [授業外学修] 子どもと健康や安全について調べておく。 | | ⑪ | [テーマ] 子どもと地域① [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて解説する。 [授業外学修] 地域の一員である子どもと地域との関わりについて調べておく。 | |
| ④ | [テーマ] 子どもと植物 [内容] 子どもが身近な植物に関心を持ち, 世話をし, 継続的に育てる栽培活動の意義について解説する。 [授業外学修] 子どもが行う栽培活動について調べておく。 | | ⑫ | [テーマ] 子どもと地域② [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて解説する。 [授業外学修] 地域の一員である子どもと地域との関わりについて調べておく。 | |
| ⑤ | [テーマ] 子どもと生物 [内容] 子どもが身近な生物に関心を持ち, 世話をし, 継続的に育てる飼育活動の意義について解説する。 [授業外学修] 子どもが行う飼育活動について調べておく。 | | ⑬ | [テーマ] 子どもと公共施設 [内容] 子どもと地域の中にある公共施設との繋がりについて解説する。 [授業外学修] 子どもの周囲にある公共施設について調べておく。 | |
| ⑥ | [テーマ] 子どもと季節(春) [内容] 子どもと生活と春の関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもと生活と春との関わりについて調べておく。 | | ⑭ | [テーマ] 子どもと創作活動 [内容] 子どもと創作活動との関連について解説する。 [授業外学修] 子どもと年齢に応じた物作りとの関連について調べておく。 | |
| ⑦ | [テーマ] 子どもと季節(夏) [内容] 子どもと生活と夏の関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもと生活と夏の関わりについて調べておく。 | | ⑮ | [テーマ] 「まとめ」 これまでの学習内容の復習をする。 [授業外学修] 試験に備え復習をしておく。 | |
| ⑧ | [テーマ] 子どもと季節(秋) [内容] 子どもと生活と秋の関わりについて解説する。 [授業外学修] 子どもと生活と秋との関わりについて調べておく。 | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| ミニテスト・レポート(40%)と授業外レポート(20%), 期末試験(40%)に基づき, 総合的に評価する。その結果については, 提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | | 40% |
| 授業内レポート | | | | | 40% |
| 授業外レポート | | | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 | | | | | |
| 関連科目 | 子どもの生活Ⅰ | | | 関連資格 | 保育士資格・幼稚園教諭1種資格 |
| 教科書 | 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 | | | 参考書 | 小学校学習指導要領解説 生活編 |
| オフィスアワー | 火曜Ⅲコマ | | | その他 | 研究室電話番号 0224-55-1484 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|---------------------------|
| 授業科目名 | 体育講義 Physical education lecture | | | 担当教員 | 郡山 孝幸 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 小学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業では、発達段階に応じた幼児に対する運動遊びの導入から、小学校低学年にかけての体育指導の在り方を、体育の科学的指導法を基盤としながら説明する。 | | | | | (3) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 運動遊びと小学校低学年体育を指導できるスキルを身に付ける。併せて健康と運動・心身の関係について理解を深め、幼児児童の体や心の育て方について学ぶ。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 運動遊びの展開の方法の基礎を身に付ける。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 幼児に体を動かすことの楽しさを伝えることができるように、自らも運動遊びの楽しさを認識することができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 運動遊びを考案し、他学生と共にグループ内で体育の教え合いができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために実技を行う。運動遊びの展開における協力や工夫について評価・確認する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | | ⑨ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ② | [テーマ] 幼児期運動指針について① [内容] 幼児期における身体活動の現状と問題点を知る。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 幼児期運動指針について② [内容] 幼児期における運動の意義「体力・運動能力の基礎を培うための取り組み」について理解を深める。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 器械・器具を使つての運動遊びの指導について [内容] 器械・器具を使つての運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] 走・跳の運動遊びの指導について [内容] 走・跳の運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 水遊びの指導について [内容] 水遊びの方法について知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 発達段階に応じた運動遊びの指導例 [内容] 多様な運動遊びの具体例について知る。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 運動遊びの環境づくりについて及び振り返りテスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 試験は期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合60%)及び授業態度を特に重視する。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 40% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 60% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 子どもとあそび | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 小学校学習指導要領、幼児期運動指針 |
| オフィスアワー | 火曜3コマ | | | その他 | 研究室電話番号 0224-55-1491 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 幼児体育論 Physical education for young children | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育所、幼稚園、幼児体育現場に必要な幼児体育(運動あそび)に関する基礎知識、幼児体育(運動あそび)のあり方や基本理念を解説する。また、現在の社会環境を踏まえながら、身体を使うことの意味を幅広く考えて、心身の発達を保障する身体活動の意味と必要性について講義する。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 幼児の体育を、幼児のための身体活動を通じた教育としてとらえ、運動あそびに視点をおいて、保育の内容を理解し、幼児の発達特性をふまえながら幼児のあそびを豊かに展開するために必要な知識を習得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 幼児体育の必要性を理解し、指導に必要な知識を身につけることができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 幼児体育に興味を持ち、積極的に幼児体育指導に参加することができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 幼児体育(運動あそび)に必要な環境の操作できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 授業の前半は、幼児体育の意義および重要性など基礎的な知識を学習する。後半は、幼児体育指導上の留意事項、体力・運動能力の測定評価、安全管理など現場で必要な実践的な知識を身に付ける。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 幼児体育の意義と役割について考えておく | | | ⑨ | [テーマ] 幼児期の体力・運動能力、運動スキルの発達 [内容] 体力・運動能力、運動スキル、身体認識と空間認知能力 [授業外学修] 幼児期運動指針について調べる |
| ② | [テーマ] 幼児体育とは [内容] 幼児体育の意義と役割、幼児体育のねらい [授業外学修] 近年、子どもたちの体力・運動能力について考えておく | | | ⑩ | [テーマ] 幼児期運動指針とは [内容] 幼児期運動指針の背景、幼児期運動指針が策定された意図 [授業外学修] 幼児体育指導上の留意事項について考えておく |
| ③ | [テーマ] 近年の子どもの体の異変とその対策 [内容] 生活リズムに乱れ、増える体温異常 [授業外学修] 近年、子どもたちの抱える問題について考えておく | | | ⑪ | [テーマ] 幼児体育指導上の配慮 [内容] 幼児体育指導上の留意事項、用具の理解 [授業外学修] 障がい児指導の留意事項について考えておく |
| ④ | [テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習 [授業外学修] 子どもたちの身体活動量について調べる | | | ⑫ | [テーマ] 障がい児の運動あそび① [内容] 視覚障がい児、聴覚障がい児、言語障がい児、知的障がい児 [授業外学修] 障がい児指導の留意事項について考えておく |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの生活と運動 [内容] 運動量の確保、子どもの生活リズムと外あそびの関係 [授業外学修] 子どもの発育発達段階について調べる | | | ⑬ | [テーマ] 障がい児の運動あそび② [内容] 肢体不自由児、発達障がい児 [授業外学修] 体力・運動能力の測定評価について調べる |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの発達と運動 [内容] 乳児期の発育・発達と運動、幼児期の発育・発達と運動 [授業外学修] 脳の構造と役目について調べる | | | ⑭ | [テーマ] 体力・運動能力の測定評価 [内容] 測定・評価の目的、測定・評価方法 [授業外学修] 子どもへの応急処置について調べる |
| ⑦ | [テーマ] 運動と脳の発達 [内容] 脳の構造と役目、年齢別脳発達と運動 [授業外学修] 子どもたちの運動あそびについて考えておく | | | ⑮ | [テーマ] 運動あそびと安全管理 [内容] 運動時におこりやすいけが、病気、応急処置の基本 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 運動発現メカニズム [内容] 意識的運動、運動技術の上達のプロセス [授業外学修] 近年、子どもたちの体力・運動能力について調べる | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学修] テストの準備をしておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合60%)、授業内課題を評価(評価割合30%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 30% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 幼児体育指導論(2年次) | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員 |
| 教科書 | 『コンパス幼児の体育』:前橋 明、建帛社 | | | 参考書 | 『幼児体育(理論と実践)』:日本幼児体育学会 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20~16:00 | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|---------|---|---|
| 授業科目名 | | 子どもと発育 Child development | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもの成長に伴う、からだの発育と機能の発達過程を理解することは、幼児教育者のみならず幼児体育指導員にとって必要な要素である。本授業では、保育士・幼児教育者・幼児体育指導員に必要な発育発達論を学習し、幼児期子どもたちの発育・発達への科学的アプローチについて講義する。 | | | | | | (2) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 子どもの成長における発育・発達の特徴についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育・発達特性を考慮した運動遊びの指導の重要性を認識し、発育・発達への科学的アプローチを理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 子どもの形態の発育、機能の発達を理解し、幼児体育指導員に必要な発育・発達への科学的知識を身につけることができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもの発育特性に関する基礎知識、データ分析方法について関心を持つことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育(運動あそび)環境の操作できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業の前半は、子どもの発育に関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、子どもの発育に影響を及ぼす要因、発育速度の分析、体力の将来予測など現場で必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 近年、幼児の発育・発達状況について考えておく | | | ⑨ | [テーマ] 機能の発達 [内容] 器官や組織の発育・発達の变化、筋力・神経系の機能の発達 [授業外学修] 子どもたちの運動能力構造・変化について考えておく | |
| ② | [テーマ] 発育・発達の基礎 [内容] 発育・発達の概念、身体発達に関する課題 [授業外学修] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる | | | ⑩ | [テーマ] 運動能力構造の变化 [内容] 運動技能の分化と統合の実際、子どもの運動能力構造・変化の実際 [授業外学修] 子どもの生活と健康上の問題について調べる | |
| ③ | [テーマ] 子どもの運動能力の発達 [内容] 神経の発達と運動の発現、投・走・跳運動の発達 [授業外学修] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる | | | ⑪ | [テーマ] 身体発達に影響する要因と問題 [内容] 身体発達に影響する要因、子どもの生活と健康上の問題 [授業外学修] 子どもの年齢特性について調べる | |
| ④ | [テーマ] 子どもの運動能力 [内容] 基礎運動技能の発達、身体運動発現の順序性 [授業外学修] 子どもたちの体格、体力、運動能力測定について調べる | | | ⑫ | [テーマ] 形態発育から見た年齢特性 [内容] 発育現量値からみた年齢特性(0~5歳、6~17歳) [授業外学修] 子どもの発育速度について調べる | |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの運動能力測定 [内容] 投・走・跳技能の測定、複合動作技能(調整力)の測定 [授業外学修] 発育・発達現量値の分析について調べる | | | ⑬ | [テーマ] 子どもの発育速度の分析(0~5歳) [内容] 発育速度の变化の一般的傾向、発育速度の系年齢的变化 [授業外学修] 子どもの体力・運動能力の加齢的变化について調べる | |
| ⑥ | [テーマ] 発育・発達現量値の分析 [内容] 発育・発達基準値と評価尺度の構成、発育・発達パターンの個人内変動 [授業外学修] 近年、子どもたちの運動遊びや体力の低下について考えておく | | | ⑭ | [テーマ] 体力・運動能力の発達 [内容] 横断データ、コーホートデータの比較、子どもの体力・運動能力の加齢的变化 [授業外学修] 年次变化の予測方法について調べる | |
| ⑦ | [テーマ] 子どもの体力の構造と測定 [内容] 体力の構造と定義、運動遊びの不足と体力の低下 [授業外学修] 子どもたちの形態発育の経過や変化について調べる | | | ⑮ | [テーマ] 体力の将来予測 [内容] 年次变化の予測方法、予測に用いるデータ数の決定 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする | |
| ⑧ | [テーマ] 形態の発育 [内容] 形態発育の経過、身体組成の変化 [授業外学修] 身体機能の発達について調べる | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学修] テストの準備をしておく | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合60%)、授業外課題を評価(評価割合30%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講学生に望むこと) ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 30% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 幼児体育論(1年次) | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員 |
| 教科書 | 『子どもの発育発達と健康』青柳 領、ナカニシヤ出版 | | | | 参考書 | 『統計的発育発達学』松浦 義行、不昧堂出版 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20~16:00 | | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

《実技》

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | 子どもとあそび Child and play | | | 担当教員 | 郡山 孝幸 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義・実技 | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 運動遊びについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成、作成した指導案に基づき学生を幼児と見立てて運動遊びの模擬指導を行う。その上で、実際に幼稚園または保育所の幼児とともに運動あそびを実践する。実践後にディスカッションを行い、保育者がどのように準備し見守る必要があるかについて検討する。 | | | | | | (1)(2) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 本授業で設定した運動あそびテーマについて、自分の課題を認識し、幼児に運動遊びをさせていく際の基本的な考え方、準備、見守り等について理解を深めることができるようにする。さらに幼児に運動あそびの楽しさを伝えることができるように、自らもその楽しさを体感することができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児に楽しく運動遊びに取り組みさせるための指導計画案を練り、実践に結び付けることができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児に運動遊びの楽しさを伝えることができるように、自らも一緒に楽しさを体感することができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 幼児に運動遊びの楽しさを伝え、意欲を持たせることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った実技を身につけることが中心であるが、より理解を深めるために幼稚園や保育園において実習を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | | ⑨ | [テーマ] 運動遊びの実際① [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ② | [テーマ] 幼児の運動遊びについて [内容] いろいろな運動遊びの種類や場の作り方について学び、幼児に対して指導できるようにする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておく。 | | | ⑩ | [テーマ] 運動遊びの実際② [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ③ | [テーマ] ホイジンガとカイヨフの遊びの概念を学ぶ① [内容] ホイジンガとカイヨフの遊び概念の定義について論文を要約する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておく。 | | | ⑪ | [テーマ] 運動遊びの実際③ [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ④ | [テーマ] ホイジンガとカイヨフの遊びの概念を学ぶ② [内容] ホイジンガとカイヨフの遊び概念について整理し、幼児にとっての遊びの重要性について解説する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておく。 | | | ⑫ | [テーマ] 運動遊びの実際④ [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ⑤ | [テーマ] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について① [内容] 幼児が意欲をもって継続的に運動遊びに取り組みするようなパターン、バリエーションについて学ぶ。 [授業外学修] 授業の復習をして保育指導案の構想を練る。 | | | ⑬ | [テーマ] 運動遊びの実際⑤(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所に運動遊び指導を実習する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ⑥ | [テーマ] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について② [内容] 幼児が意欲をもって継続的に運動遊びに取り組みするようなパターン、バリエーションについて学ぶ。 [授業外学修] 授業の復習をして指導案作成を進める。 | | | ⑭ | [テーマ] 運動遊びの実際⑥(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所に運動遊び指導を実習する。 [授業外学修] 実習の評価を行い次時への改善を図る。 | |
| ⑦ | [テーマ] 保育指導案の作成① [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学修] 保育指導案を完成させる。 | | | ⑮ | [テーマ] 実習後の振り返り① [内容] 実習の体験を持ち寄り運動遊びの行わせ方を共有する。 [授業外学修] 自分なりの指導の方法についてまとめる | |
| ⑧ | [テーマ] 保育指導案の作成② [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておく。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は期末試験を1回実施する(評価割合35%)。また、演習実技(評価割合50%)や授業態度(評価割合15%)を特に重視する。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にする。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 35% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 50% | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 15% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 | 幼稚園教育要領 |
| オフィスアワー | 火曜3コマ | | | | その他 | 研究室電話番号 0224-55-1491 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | トレーニングの基礎 Fundamentals of Training | | | 担当教員 | 門野・河野・柴山・宮崎・川戸 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 競技スポーツにおいて、体力は競技成績(パフォーマンス)を決定づける要因の一つである。本授業では、効果的に体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論および方法について、実技と講義を交えて説明する。また、体力の測定方法、評価方法についても説明する。 | | | | | (4)(5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| ①体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。 ②体力の測定方法と評価方法を理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。 体力の測定・評価方法が説明できる。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | 体力を向上させるためのトレーニングが実践できる。 体力の測定・評価ができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 体力要素を、①筋力、②スピード・敏捷性、③パワー、④持久力、⑤柔軟性、⑥調整力のカテゴリに分け、それぞれのカテゴリごとにその体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法、体力の測定・評価方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。 [授業外学修]テキストを読んで予習する。 | | | ⑨ | [テーマ] パワーを向上させるためのトレーニング理論と方法(宮崎) [内容] ハイパワーを向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | |
| ② | [テーマ] 形態計測とその評価(門野) [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] | | | ⑩ | [テーマ] 持久力の測定と評価(門野) [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | |
| ③ | [テーマ] 新体力テストの実施とその評価(門野) [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | | | ⑪ | [テーマ] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法(門野) [内容] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | |
| ④ | [テーマ] 筋力の測定と評価(川戸) [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 柔軟性の測定と評価(河野) [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法(川戸) [内容] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | | | ⑬ | [テーマ] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法(河野) [内容] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | |
| ⑥ | [テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価(柴山) [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 調整力の測定と評価(河野) [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | |
| ⑦ | [テーマ] スピードを向上させるためのトレーニング理論と方法(柴山) [内容] スピードと敏捷性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | | | ⑮ | [テーマ] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法(河野) [内容] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修]レポートを作成する。 | |
| ⑧ | [テーマ] パワーの測定と評価(宮崎) [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | | | ⑯ | [テーマ] まとめ(門野) [内容] 授業のまとめを行なう。 [授業外学修]テキストを読んで復習する。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| ・①出席、②授業外レポートによって評価を行なう。 ・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。提出されたレポートはコメントして返却する。 ・授業態度も評価に含む。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・体調をしっかり整えて授業に臨むこと。 ・大学指定ウェアと、ランニングシューズを着用すること。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | | 50% | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 50% | |
| 授業態度 | | ◎ | | | 減点対象 | |
| 出席 | | ◎ | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | 中高保体教諭、JPSUスポーツトレーナー | |
| 教科書 | ガイダンスにて配布するテキストを使用する。 | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | 門野(A408)月曜10:00-11:00 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|--|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 陸上競技 Track and Field | | | 担当教員 | 門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学習する。 | | | | | (4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を理解できる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| グループに分かれ、競走種目(短距離走、リレー、ハードル走)、跳躍種目(走高跳、走幅跳)、投てき種目(砲丸投)を複数回に分けて実施していく。最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。 [授業外学修]授業計画について復習しておく | | | ⑨ | [テーマ] 走高跳②(門野) [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく |
| ② | [テーマ] 短距離走①(名取) [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。 [授業外学修]短距離走のルールについて学習しておく | | | ⑩ | [テーマ] 走高跳③(門野) [内容] 競技会形式で記録を測る。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく |
| ③ | [テーマ] 短距離走②(名取) [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 [授業外学修]リレーのルールについて学習しておく | | | ⑪ | [テーマ] 砲丸投①(宮崎) [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ④ | [テーマ] 短距離走③(名取) [内容] レースを行ない、記録を計測する。 [授業外学修]長距離走のルールについて学習しておく | | | ⑫ | [テーマ] 砲丸投②(宮崎) [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ⑤ | [テーマ] ハードル走①(柴山) [内容] ハードリングの技能について学習する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | | | ⑬ | [テーマ] 砲丸投③(宮崎) [内容] 競技会形式で記録を測る。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ⑥ | [テーマ] ハードル走②(柴山) [内容] インターバルの走り方について学習する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | | | ⑭ | [テーマ] 実技試験①(名取・柴山) [内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく |
| ⑦ | [テーマ] ハードル走③(柴山) [内容] レースを行ない、記録を計測する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | | | ⑮ | [テーマ] 実技試験②(門野) [内容] 跳(走高跳)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく |
| ⑧ | [テーマ] 走高跳①(門野) [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく | | | ⑯ | [テーマ] 実技試験③(宮崎) [内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。 授業態度も評価に含む。 記録、実技試験についてはフィードバックを行う。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | ◎ | | |
| 出席 | | | ◎ | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| | | | | | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | | | | | 参考書 |
| | | | | | |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| 門野(A408)月曜10:00-11:00 | | | | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|------------------------------|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | 器械運動(男子) Apparatus Gymnastics (Men) | | | 担当教員 | 鈴木 良太 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。 | | | | | (1)(2)(3)(4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑨ | [テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振り及びおりの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ② | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑩ | [テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振り及びおりを連結させ連続技に発展させる [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ③ | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑪ | [テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ④ | [テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑫ | [テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑤ | [テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑬ | [テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑥ | [テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑭ | [テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑦ | [テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑮ | [テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑧ | [テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑯ | [テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためははずす。 ・遅刻は原則認めない。 |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 100% | |
| 授業態度 | | | | | 減点対象 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店) | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20~11:50 | | | その他 | 研究室:A棟4階412 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|------------------------------|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | 器械運動(女子) Apparatus Gymnastics (Women) | | | 担当教員 | 鈴木 良太 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。 | | | | | (1)(2)(3)(4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑨ | [テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ② | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑩ | [テーマ] 平均台④ [内容] 得した技を連結させ連続技に発展させる [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ③ | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑪ | [テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ④ | [テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑫ | [テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑤ | [テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑬ | [テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑥ | [テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑭ | [テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑦ | [テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑮ | [テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| ⑧ | [テーマ] 平均台② [内容] 平均台上での前転・ジャンプ系の基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | | | ⑯ | [テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはせず。 ・遅刻は原則認めない。 |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 100% | |
| 授業態度 | | | | | 減点対象 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店) | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20~11:50 | | | その他 | 研究室:A棟4階412 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | | 水 泳 Swimming (P. A.) | | | 担当教員 | 渡邊 泰典 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点(安全管理に関する内容を含む)について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。 | | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。水泳動作のメカニズムと指導法を理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここで一旦泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業は、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者には泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読すること。 | | | ⑨ | [テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。合格者は指導員となり指導体験に移行する。不合格者はノルマ練習を行う。 [授業外学修] 検定結果を踏まえて各自の課題について復習すること。 | |
| ② | [テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。 [授業外学修] 水泳指導の心得について復習すること。 | | | ⑩ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] 指導員は、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い課題に応じて練習を行い泳力向上を目指す。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。 | |
| ③ | [テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。 [授業外学修] 水中安全管理と安全対策について復習すること。 | | | ⑪ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。 | |
| ④ | [テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れの方法を説明する。加えて、クロール及び平泳ぎの泳能力調査を実施する。 [授業外学修] 入水、水慣れの方法について復習すること。 | | | ⑫ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。 | |
| ⑤ | [テーマ] 浮き身・立泳ぎ(巻足)泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。 [授業外学修] 浮き身と立ち泳ぎについて復習すること。 | | | ⑬ | [テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際について、水中ウォーキング等を例に挙げながら解説する。 [授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。 | |
| ⑥ | [テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、両泳法の原理、泳げない原因を解説する。加えてその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。 [授業外学修] クロールと背泳ぎの泳法の違いについて復習すること。 | | | ⑭ | [テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際について、アクアビクス等を例に挙げながら解説する。 [授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。 | |
| ⑦ | [テーマ] 平泳ぎ・バタフライ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。 [授業外学修] 平泳ぎとバタフライの泳法の違いについて復習すること。 | | | ⑮ | [テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 水中運動指導に関わる知識(健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる)、水の原理、水泳の特性、効果等を解説する。 [授業外学修] 水の特性について復習すること。 | |
| ⑧ | [テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの初心者指導法について復習すること。 | | | ⑯ | [テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法とトレーニングについて解説すると共に、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。 [授業外学修] 検定結果について復習すること。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実技は、100m(50m平泳ぎ+50mクロール)完泳が最低合格ラインで(可)評価、これに立泳ぎ1分間か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で(良)評価となる。更に指導体験を2回以上実施した者が(優)評価となる。(秀)評価は前述の全種目で高得点者に与えられる。理論に関わる講義は必ず出席。欠席の場合、レポート課題が課せられ、怠った場合は(不可)評価となる。提出レポートは授業内で解説しながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①教職志望者は受講すること。 ②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。 ③海浜実習の受講希望者が望ましい。 ④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | | ◎ | 80% | |
| 授業態度 | | | ○ | | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 海浜実習、水上安全法(含実習)、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習(渡邊泰典クラス) | | | | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳指導員、日本スポーツ協会公認水泳コーチ、健康運動指導士、健康運動実践指導者 |
| 教科書 | なし | | | | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日12:00~13:00(LC棟2階207研究室) | | | | その他 | 連絡先: ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | バレーボール Volleyball (P.A.) | | | 担当教員 | 石丸出穂・荒牧亜衣 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 高校での教員経験の実務経験を活かし、6人制バレーボールの基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半はバレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループ活動でチームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通してバレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。 | | | | | (1)(3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 仲間との‘繋がり’が、プレーの‘繋がり’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2〜3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘繋がり’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読しておく | | ⑨ | [テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う [授業外学修]パスからスパイク動作を復習しておく | |
| ② | [テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う [授業外学修]高校まで授業で教わったオーバーハンドパスを復習しておく | | ⑩ | [テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する [授業外学修]W型レセプションフォーメーションを確認する | |
| ③ | [テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う [授業外学修]高校まで授業で教わったアンダーハンドパスを復習しておく | | ⑪ | [テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う [授業外学修]パスがセッターに返球できなかった際の攻撃方法を考える | |
| ④ | [テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う [授業外学修]3人組でのパス練習について調査しておく | | ⑫ | [テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う [授業外学修]セッター、サイド、ミドル、リベロの役割を調査しておく | |
| ⑤ | [テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う [授業外学修]スパイクについて調査しておく | | ⑬ | [テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う [授業外学修]アウトオブ・ポジションについて調査しておく | |
| ⑥ | [テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う [授業外学修]スパイクの3ステップについて練習しておく | | ⑭ | [テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う [授業外学修]直上バック(オーバーハンド)パスの練習をしておく | |
| ⑦ | [テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う [授業外学修]コーチングバレーボール基礎編、等の参考書を読んでおく | | ⑮ | [テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う [授業外学修]直上バック(アンダーハンド)パスの練習をしておく | |
| ⑧ | [テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う [授業外学修]サーブからスタートするゲームの流れやルールを理解しておく | | ⑯ | [テーマ] [内容] 期末テストは行わない [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(30%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(40%)、技術向上度(30%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合、成績評価対象外とする。チェックテストについては授業内でフィードバックを行う。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | ◎ | 40% |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ◎ | | ○ | 30% |
| 授業態度 | | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール) | | | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体) JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | Volleypediaバレーボール百科事典、バレークロニクル、 コーチングバレーボール基礎編 |
| オフィスアワー | 石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50 | | | その他 | 石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | バスケットボール Basketball (P.A.) | | | 担当教員 | 児玉 善廣 ・ 菅野恵子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 技術体得のための追究心を持ち、積極的に取り組めること | | | | |
| ■ 情意的領域 | ゲームや諸々の身体運動によって、仲間との連携や協力ができ、楽しさなどを表現できる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スキルの向上が見え、基本技術が出来き、楽しさが理解できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法 [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] ゲームへの展開 I (スクリーン) |
| ② | [テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史の変遷・基本技術とルールの説明 [授業外学修] 配布資料については復習しておく | | | ⑩ | [テーマ] ゲームへの展開 II (スクリーン) |
| ③ | [テーマ] 基礎技術 I [内容] 1)ボールコントロール 2)ボールハンドリング 3)パッシング [授業外学修] 再度スキルの確認をするための復習を行う | | | ⑪ | [テーマ] ゲーム I [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンスとゾーン・ディフェンスについて [授業外学修] プレーを分解しスキルのおさらいをする |
| ④ | [テーマ] 基礎技術 II [内容] シューティング 1)ドリブルとレイアップシュート [授業外学修] 再度スキルの確認をするための復習を行う | | | ⑫ | [テーマ] ゲーム II [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響 [授業外学修] プレーを分解しスキルのおさらいをする |
| ⑤ | [テーマ] 基礎技術 III [内容] シューティング 2)ジャンプシュートとリバウンド [授業外学修] 再度スキルの確認をするための復習を行う | | | ⑬ | [テーマ] ゲーム III [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率とリバウンドの影響 [授業外学修] プレーを区分しスキルのおさらいをする |
| ⑥ | [テーマ] 基礎技術 IV [内容] 1)パッシングとドリブル 2)シューティングとの組み合わせ [授業外学修] 再度スキルの確認をするための復習を行う | | | ⑭ | [テーマ] ゲーム IV [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率とリバウンドの影響 [授業外学修] プレーを分解しスキルのおさらいをする |
| ⑦ | [テーマ] ゲームの試み (3-on-3 or 5-on-5) [内容] ゲームによる競技感覚の体感の試み [授業外学修] 仲間を誘いゲームのトライを試みる | | | ⑮ | [テーマ] オフェンス技術のまとめ [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習(ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートのコンビネーション技術) [授業外学修] 試験に対応する為の各スキルの総合練習を行っておく |
| ⑧ | [テーマ] ゲームにおける基礎技術の活用法 [内容] 1)ドリブル 2)ドリブルターン 3)レイアップシュート 4)ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する。 [授業外学修] 再度スキルの確認をするための復習を行う | | | ⑯ | [テーマ] オフェンス技術の評価(実技テスト) [内容] ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 1・実技試験は期末に実施する。 2・欠欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える。 3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う。以上を総合的に評価を行う。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | 30% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | ○ | ○ | | | 35% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 種目別 コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(3年) スポーツ・コーチング実習(3年) | | | 関連資格 | |
| 教科書 | なし | | | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20 ~12:00 | | | その他 | 研究室32 : 第5体育館3階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | バスケットボール Basketball | | | 担当教員 | 佐藤久夫・菅野恵子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は、高校での教員経験を活かし、バスケットボールの専門的な競技特性について説明しながら実技を行う。競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び、専門分野への応用と人間的成長の礎とする。 | | | | | (1) (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | バスケットボール競技に関する基礎的な知識と技術を理解し、説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | バスケットボール競技の構造特性を理解し、仲間と連携を取りながら、ゲームに楽しく参加できる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | バスケットボール競技の基本的なスキルを習得し、初心者レベルや一般体育で、師範することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明 [授業外学修] 軽度の運動を行い、身体的コンディションを整える | | | ⑨ | [テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担 [授業外学修] zone defenseの特性を調べておく |
| ② | [テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法 [授業外学修] シュートの種類についてポイントを整理しておく | | | ⑩ | [テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担 [授業外学修] 速攻の方法を整理しておく |
| ③ | [テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御 [授業外学修] ディフェンスの種類についてポイントを整理しておく | | | ⑪ | [テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合 [授業外学修] トランディションのポイントを整えておく |
| ④ | [テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防 [授業外学修] コンビネーションプレイについてまとめておく | | | ⑫ | [テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合 [授業外学修] 審判の役割について調べておく |
| ⑤ | [テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防 [授業外学修] スクリーンプレイのコンビネーションプレイをまとめておく | | | ⑬ | [テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法 [授業外学修] チーム戦術について調べておく |
| ⑥ | [テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防 [授業外学修] ポジションの役割を調べておく | | | ⑭ | [テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク [授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく |
| ⑦ | [テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防 [授業外学修] コートのスペーシングについてまとめておく | | | ⑮ | [テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営 [授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく |
| ⑧ | [テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense) [授業外学修] zone defenseとman to man defenseの理解をしておく | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度 [授業外学修] バスケットボールの総合的な技術の整理をしておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 個人のスキルテストの結果と、試合を行った際のチームの勝敗、バスケットボールのルールの理解度も含め、総合して成績評価を行う。授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。尚、個人のスキルテストについては、評価の基準を授業内で説明する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | ◎ | | 30% |
| 出席 | | ◎ | ○ | | 欠格条件 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業における服装は指定されている運動着とする。 ・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 | | | | | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | 教員免許状(中高保体) UPSUSポータルトレーナー |
| 教科書 | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20-12:00 | | | その他 | 菅野・第5体育館 2階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|---|---------------------------------|
| 授業科目名 | ハンドボール Handball(P.A.) | | | 担当教員 | 桑原 康平 | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する | |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | | 1 |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | | |
| 本授業は、ハンドボールの基本的な技術・戦術の実技を身に付けることを中心に展開する。また、ハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについて講義する。 | | | | | (1) (4) | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を習得する。 実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | ハンドボールの基本的な技術・戦術について説明できる。 | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。 | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を習得する。 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | | |
| ① | [テーマ] オリエンテーションおよびハンドボールの特性1 [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け [授業外学修]オリエンテーション資料を読んでおくこと | | | ⑨ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能1、防御局面に必要な個人的技能2 [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況について理解すること | | |
| ② | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能1 [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明 [授業外学修]シュートの種類を整理しておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能2 [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況の攻め方について理解すること | | |
| ③ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能2 [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]シュートの投げ方の違いを理解すること | | | ⑪ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能3 [内容] 数的優位の際の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況の攻め方を自ら組み立てること | | |
| ④ | [テーマ] ハンドボールの特性2とレフェリングの実際1 [内容] 競技規則についての説明映像を視聴した後、国内外の試合映像を視聴、戦術・技術・レフェリングについての説明 [授業外学修]ハンドボール競技のルールを整理しておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能1、レフェリングの実際2 [内容] リーグ戦において、6-0ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること | | |
| ⑤ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能3 [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]ポジション別の役割について整理しておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能2、レフェリングの実際3 [内容] リーグ戦において、5-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること | | |
| ⑥ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能4 [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップの種類を整理しておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能3、スキルの評価とその実際1 [内容] リーグ戦において、3-2-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。スキル評価の観点について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること | | |
| ⑦ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能5 [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップの効果的な使い方を理解すること | | | ⑮ | [テーマ] スキルの評価とその実際2 [内容] 個人スキルの実技テストを行う [授業外学修]得意なフェイントステップを繰り返して練習しておくこと | | |
| ⑧ | [テーマ] 防御局面に必要な個人的技能1 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップを用いた合理的な攻め方を理解すること | | | ⑯ | [テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う [授業外学修]競技全般について理解を深めること | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 授業に対する関心・意欲・態度等(50%)。スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。試験については(授業内で)解説をしながら返却する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 原則、欠席が4回以上になると評価対象外になります。 公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。 実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。) | |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 | その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。 | |
| 授業内レポート | | ○ | | | 20% | | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 50% | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | | 関連資格 | 教員免許状(中・高保健体育) JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | | | | | | 参考書 | 基本が身につくハンドボール練習メニュー200 |
| オフィスアワー | 前期(水)12:40-14:10 後期(木)10:20-11:50 | | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | サッカー Soccer(P.A.) | | | 担当教員 | 吉井秀邦 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れる。また、高校での教員経験を活かし、授業を実際に行う教員の観点から講義を行う。 | | | | | (1) (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意 [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] ベネトレーション(突破)①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの個人攻撃について事前に調べてくる |
| ② | [テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価 [授業外学修] サッカーのルールについて事前に調べてくる | | | ⑩ | [テーマ] ベネトレーション(突破)②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのグループ攻撃について事前に調べてくる |
| ③ | [テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのドリブルについて事前に調べてくる | | | ⑪ | [テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの個人守備について事前に調べてくる |
| ④ | [テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのコントロールについて事前に調べてくる | | | ⑫ | [テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのグループ守備について事前に調べてくる |
| ⑤ | [テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのパスについて事前に調べてくる | | | ⑬ | [テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行う。 [授業外学修] サッカーの戦術について事前に調べてくる |
| ⑥ | [テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのポジショニングについて事前に調べてくる | | | ⑭ | [テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。 [授業外学修] サッカーの審判法について事前に調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの体の使い方について事前に調べてくる | | | ⑮ | [テーマ] ゲーム [内容] 8:8のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] サッカーのオフサイドについて事前に調べてくる |
| ⑧ | [テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのヘディングについて事前に調べてくる | | | ⑯ | [テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] サッカーについて事前に調べてくる |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | | ◎ | |
| 授業態度 | ○ | ○ | | ○ | |
| 出席 | ◎ | ◎ | | ◎ | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 特に指定なし | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 研究室:A棟4F414 木曜日12:40~14:10 | | | | その他 |
| | | | | | ジュニアスポーツ指導員 |
| | | | | | 特に指定なし |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|--|
| 授業科目名 | サッカー Soccer(P.A.) | | | 担当教員 | 黒澤 尚・中屋敷 眞 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での指導経験を有する。 指導現場での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業はサッカーの正しい基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本技術を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを取り入れた授業とする。また、授業内容の充実と指導の徹底のためT&Tにて授業実施する。 | | | | | | (1) (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 指導現場による実務経験を活かし、日本サッカー協会のコーチング法をベースに実技を行う。基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範と言語を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意 [授業外学修] 選択する種目等についてシラバスで確認しておく | | | ⑨ | [テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] ヘディングの技術構造について確認し、練習しておく | |
| ② | [テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価 [授業外学修] 授業で説明された技術やルールを確認し、練習しておく | | | ⑩ | [テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ&パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] トラッピング その2の技術構造について確認し、練習しておく | |
| ③ | [テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] インサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑪ | [テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得 [授業外学修] インステップキックの技術構造について確認し、練習しておく | |
| ④ | [テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] アウトサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑫ | [テーマ] インステップキック その2(ブレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] インステップキックの技術構造について確認し、練習しておく | |
| ⑤ | [テーマ] トラッピング その1(グラウンダーボール) [内容] グラウンダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] トラッピング その1の技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑬ | [テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせパターン練習とスモールサイドゲーム [授業外学修] ドリブルとシュート・パスについて練習しておく | |
| ⑥ | [テーマ] トウキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] 3種類のキックの技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑭ | [テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用 [授業外学修] ポジションとその役割について調べておく | |
| ⑦ | [テーマ] インサイドでのスワープキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] スワープキックの技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑮ | [テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] ゲームで技術を発揮するためのポイントについて調べておく | |
| ⑧ | [テーマ] アウトサイドでのスワープキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] スワープキックの技術構造について確認し、練習しておく | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、及びサッカーのルールに関する2つのレポート提出を達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングは、毎週授業時にウォームアップも兼ねてリフティングタイムを設け、小テスト的に確認するので、達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とせず、向上度を評価基準とする。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・大学指定ウェア着用 ・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意 ・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。 ・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。 ・授業態度は減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% | |
| 演習・実技 | | ◎ | ○ | ○ | 80% | |
| 授業態度 | | | | | 欠格条件 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 種目別コーチング演習 I II (サッカー) | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | 特になし | |
| オフィスアワー | 研究室:A棟409 オフィスアワー:火曜日14:00~15:00 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|--|-------|---------|--|--------------------------|
| 授業科目名 | ラグビー Rugby(P.A.) | | | 担当教員 | 武石 健哉 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を説明し、実技を行いながら解説を加えていく。 | | | | | (1)(2)(3) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を理解し、課題に対して取り組む。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 陣取りゴール型の特徴を説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | チームの中の自分の役割を理解し、ゲーム形式に参加できる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ゲーム形式にて自身のこれまでの運動経験を活かし、ラグビースキルを操作できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| ラグビーの全体像を説明してから実技に入っていく。人数、グラウンドの広さを調整しつつ毎時間ゲームを行う。最終的にタグラグビー、7人制、15人制のいずれかの形式にてテストのゲームを行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーについて説明する [授業外学修]事前にラグビーの歴史・ルールについて調べてくること | | | ⑨ | [テーマ] タグラグビー⑤ [内容] モールを使って攻防を行う [授業外学修]事前にラグビーのモールについて調べてくること | |
| ② | [テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる① [内容] スペースを見つける、パススキル・キャッチングスキルの習得 [授業外学修]事前にラグビーのパスとキャッチのポイントを調べてくること | | | ⑩ | [テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にラグビーの攻撃方法について調べてくること | |
| ③ | [テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる② [内容] パスフォームの定着、パスのタイミングの習得 [授業外学修]事前にパスのタイミングについて調べてくること。 | | | ⑪ | [テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にラグビーの戦術について調べてくること | |
| ④ | [テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる③ [内容] ストレート、スクリュースの投げ分け [授業外学修]事前にパスの種類と投げ方について調べてくること | | | ⑫ | [テーマ] ユニットプレー① [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する [授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること | |
| ⑤ | [テーマ] タグラグビー① [内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。スペースを見つける、相手をかわす、パスをするという1連のスキルをゲームを通して習得していく [授業外学修]事前にタグラグビーのルールについて調べてくること | | | ⑬ | [テーマ] ユニットプレー② [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する [授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること | |
| ⑥ | [テーマ] タグラグビー② [内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。タグを取られてから連続的に攻撃を行う [授業外学修]事前にラグビーの連続攻撃について調べてくること | | | ⑭ | [テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にセットプレーからの攻撃について調べてくること | |
| ⑦ | [テーマ] タグラグビー③ [内容] タグラグビーの攻防を行う。防御者は防御形態を考える。攻撃者は防御形態を見て攻撃を考える [授業外学修]事前にラグビーの防御形態について調べてくること | | | ⑮ | [テーマ] テストのゲーム [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する [授業外学修]事前にラグビーのゲーム構造について調べてくること | |
| ⑧ | [テーマ] タグラグビー④ [内容] オフサイドという境界線の存在を理解し、攻防を行う [授業外学修]事前にラグビーのオフサイドについて調べてくること | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] テストのゲームの振り返りを行う ラグビーの特徴についてまとめて解説する [授業外学修]事前にラグビーの特徴を調べてくること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、テストのゲーム(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2/3以下の場合成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。試験についてはまとめの授業にて振り返りながら解説する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | |
| 定期試験 | | ○ | ◎ | ◎ | 30% | |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | ◎ | 40% | |
| 授業態度 | | | ◎ | ○ | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ | | | | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、PSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 指定しない | | | | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜:10:20~11:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | 柔道 Judo (P. A.) | | | 担当教員 | 川戸湧也 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本授業では、柔道の基本動作および対人的応用技術の行い方と指導方法について学ぶ。本授業で取り扱う内容については、担当教員の実務経験を踏まえ、中学校・高等学校学習指導要領に記載されている内容を取り扱うこととする。 | | | | | (1) (4) (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 柔道の基本動作と対人的応用技術を十分に行うことができるとともに、各技のポイントについて説明できるようになる。柔道を指導するための指導計画を立案できるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 日本傳講道館柔道の概要(歴史、目的)について理解しており、これを説明することができる。国際柔道連盟試合審判規定を理解しており、これに基づく試合の勝敗を判断することができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 仲間と協力して運動課題に取り組むことができる。自分と相手の安全に配慮して活動することができる。仲間と協働して与えられた課題に取り組むことができるとともに、自らの課題について発見しその解決に取り組むことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的な投技5種類・固技3種類を施すことができる。中学校・高等学校における保健体育科の授業で柔道を指導するためのポイントについて理解しており、実践することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は、前半と後半に分ける。前半は、畳の上で素足で運動することになれるところから始めて、基本動作(礼法・姿勢・組み方・進退動作・受身)を学修するとともに基本的な技(膝車・支釣込足・体落・大腰・大外刈・袈裟固・横四方固・上四方固)を学修する。後半は応用的な技(背負投・内股・払腰)を学修する。それぞれの技術について、実技テストを行う。また前半終了時と最終回到講義を行いレポート課題を課す。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要(展開、目標と評価の方法、約束事)の確認とグルーピング [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑨ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ① [内容] 背負投を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ② | [テーマ] 受身を学ぶ [内容] 横受身と後受身を学修する。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑩ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ② [内容] 内股を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ③ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ① [内容] 膝車を学修する。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑪ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ③ [内容] 払腰を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ④ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ② [内容] 支釣込足を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑫ | [テーマ] 得意技を習得する。 [内容] これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ③ [内容] 体落を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑬ | [テーマ] 得意技を習得する。 [内容] これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ④ [内容] 大腰を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑭ | [テーマ] 自由稽古を行う [内容] これまでに学修した技を用いて自由稽古を行う [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ⑤ [内容] 大外刈を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | | | ⑮ | [テーマ] 講義:近年の柔道競技様相について [内容] ルールの変遷について概観し、近年の競技様相について学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 講義:柔道の目的について [内容] 柔道の目的について学び、日常生活との関連性を考える。 [授業外学修]柔道の目的について調査する。 | | | ⑯ | [テーマ] 実技試験を行う [内容] 受身、投技および固技について実技テストを行う。 [授業外学修]柔道の各技について復習を行う。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 本授業では、3つの方法を用いて評価を行う。認知領域について、講義の際に課すレポート課題をもって5点満点で評価する。情意領域について、毎回の学修ノートを用いて5点満点で評価する。技能表現領域について、実技テストを用いて5点満点で評価を行う。 ※欠席が授業の1/3を超える場合は、履修放棄とみなし、成績評価の対象としない。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・柔道は格闘技的性格を有する武道/スポーツです。授業中は、怪我に十分留意するようにしてください。安全に対する配慮を著しく欠く学生については、その後の受講を認めない場合があります。 ・柔道衣は各自で準備してください。(第1回目の授業で購入の手続きを紹介します) ・柔道衣を着用する際は、眼鏡、ピアス、ネックレス、ヘアピンなどの金属類を身に付けないようにしてください。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 40% | |
| 授業態度 | | | ○ | | 30% | |
| 出席 | | | ○ | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 柔道Ⅱ、武道実技(形) | | | 関連資格 | 中高保体・ジュニアスポーツ指導員・講道館柔道初段※有料 | |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | 特になし | |
| オフィスアワー | 川戸研究室(木曜10:20~11:50) | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|------------------------------------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 剣道 Kendo(P.A.) | | | 担当教員 | 齋藤浩二 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。 | | | | | (1) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようにする。また、日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができるようにする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を修得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、礼法テーマ [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導 [授業外学修] 礼法について事前に調べておくこと。 | | | ⑨ | [テーマ] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古 [授業外学修] 切り返しの仕方を調べてくること。 |
| ② | [テーマ] 基本動作の修得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導 [授業外学修] 竹刀の名称について調べておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手一面、小手一胴、約束練習、互格稽古 [授業外学修] 技の種類を調べてくること。 |
| ③ | [テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導 [授業外学修] 稽古時の礼法について調べておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 引き技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古 [授業外学修] 技の種類を調べてくること。 |
| ④ | [テーマ] 打突の仕方、打たせ方の修得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導 [授業外学修] 素振りの種類について調べてくること。 | | | ⑫ | [テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する一打突」のパターンによる練習、約束練習、互格稽古(試合のように実施する) [授業外学修] 技の種類を調べてくること。 |
| ⑤ | [テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる [授業外学修] 剣道具の名称を調べてくること。 | | | ⑬ | [テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験 [授業外学修] 試合規則を調べてくること。 |
| ⑥ | [テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち [授業外学修] 手ぬぐいのつけ方を調べてくること。 | | | ⑭ | [テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験 [授業外学修] 試合規則を調べてくること。 |
| ⑦ | [テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習 [授業外学修] 手ぬぐいのつけ方を練習をしてくること。 | | | ⑮ | [テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合 [授業外学修] 審判規則を調べてくること。 |
| ⑧ | [テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古 [授業外学修] 切り返しとは何かを調べてくること。 | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手一面打ち [授業外学修] 技の動作内容を確認してくること。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。実技試験については(授業内で)解説し伝える。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ○ | | 30% |
| 授業態度 | | | | △ | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 木曜日 11:00~12:30 | | | | その他 |
| | | | | | 中高保体、ジュニアスポーツ指導員、JPSUスポーツトレーナー |
| | | | | | 全日本剣道連盟編『剣道指導要領』 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | ダンス I DANCE I (P.A) | | | 担当教員 | 山梨 雅枝 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 ダンス指導及び小・中・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、教育・保育の現場を想定しながら、音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく音感を育むことも重視する。 | | | | | (1) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 自己の身体に気づくことができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 合理的な身体の動かし方について理解することができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 質の異なる様々な動きに対応することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 毎時間クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。 [授業外学修] 鑑賞した作品についてのレポートを作成する | | | ⑨ | [テーマ] ステップ① [内容] フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。 [授業外学修] 質の違うステップについて確認する |
| ② | [テーマ] 足の動きと手の動き [内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。 [授業外学修] 手足の動きの名称について復習する | | | ⑩ | [テーマ] ステップ② [内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。 [授業外学修] 質の違うステップについて確認する |
| ③ | [テーマ] 両手でバーにつかまってしまう動き [内容] バーを両手で握り、床を踏み動きとバランスの動きを行う。 [授業外学修] 自分の軸について確認する | | | ⑪ | [テーマ] バランスとターン① [内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。 [授業外学修] バランスとターンの動きについて確認する |
| ④ | [テーマ] 片手でバーにつかまる動き [内容] バランスをとりながら、床を踏み動きを行う。 [授業外学修] 自分の軸について確認する | | | ⑫ | [テーマ] ジャンプとターン① [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。 [授業外学修] 床を踏み動きについて確認する |
| ⑤ | [テーマ] バーを用いたジャンプの動き [内容] 床を踏んでからジャンプをするステップを行う。 [授業外学修] 足の裏全体で床を踏み動きを確認する | | | ⑬ | [テーマ] ジャンプとターン② [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。 [授業外学修] 上半身の引き上げについて確認する |
| ⑥ | [テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。 [授業外学修] 両足でバランスをとる | | | ⑭ | [テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容] 13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。 [授業外学修] 音楽を覚える |
| ⑦ | [テーマ] バーを用いたターンの動き [内容] バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。 [授業外学修] 片足でバランスをとる | | | ⑮ | [テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容] 13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。 [授業外学修] 振付を確認する |
| ⑧ | [テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容] フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。 [授業外学修] ターンの時の顔を動きについて確認する | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。 [授業外学修] 音楽に合わせて振付の練習をする |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実技試験で、授業内容の理解度を確認する。また、受講態度や出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 5% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | ◎ | ◎ | 15% |
| 出席 | | | ◎ | | 欠格条件 |
| 関連科目 | ダンス II | | | 関連資格 | 教員免許状(中高保体)、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | | | 参考書 | 片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991 |
| オフィスアワー | 火曜日:13:00~15:30 | | | その他 | 山梨研究室:第4体育館1階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | 海浜実習 Activity & Swim Camp | | | 担当教員 | 渡邊 泰典 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用した水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて7月中旬に3泊4日間の日程で開講する。 | | | | | (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳(約3km・2時間)完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 事前オリエンテーション、事前実技講習有り。実習日程は7月中旬(海の日を含む)に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み(事前に掲示にて告知)。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読すること。 | | | ⑨ | [テーマ] 海浜活動の実践IV【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りでの方向転換の違いを説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ② | [テーマ] 海浜活動の理論I【講義】 [内容] 海浜活動実施上の注意点及び安全管理の方法と万一有事の際の対処方法を解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。 | | | ⑩ | [テーマ] 海浜活動の実践V【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りの方向転換を組み合わせて目標地点まで泳ぐ。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ③ | [テーマ] 海浜活動の理論II【講義】 [内容] 気象と海象の関係について解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。 | | | ⑪ | [テーマ] 海浜活動の実践VI【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、遠泳中の目標地点の変更とその対処方法について説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ④ | [テーマ] 海浜活動の理論III【講義】 [内容] 風と波の関係及び潮汐の変化について解説する。加えて離岸流及び逆潜流の危険性について説明し、対処方法を解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。 | | | ⑫ | [テーマ] 海浜活動の実践VII【実技】 [内容] 泳能力別に目標時間を設定し、泳ぐペースを調整しながら目的地点まで泳ぐ。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 海浜活動の理論IV【講義】 [内容] 遠泳の歴史とその意義について解説すると共に、実習の具体的な運営方法や練習方法について説明する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。 | | | ⑬ | [テーマ] 海浜活動の実践VIII【実技】 [内容] 泳能力別の隊列を解体し、実習生全体の隊列を再編成する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 海浜活動の実践I【実技】 [内容] プールにて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、海浜を想定した隊列泳を実施し、泳力を確認する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。 | | | ⑭ | [テーマ] 海浜活動の実践IX【実技】 [内容] 実習生全体で大遠泳を実施し、全員の完泳を目指す。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 海浜活動の実践II【実技】 [内容] 海浜にて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、泳能力別に隊列泳を実施し、泳力を確認する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | | | ⑮ | [テーマ] 海浜活動の実践X【実技】 [内容] 着衣で落水した場合の対処方法を説明すると共に、落水を想定した体験活動を通して自己保全の方法を解説する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 海浜活動の実践III【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、ペース配分と方向転換の方法を説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | | | ⑯ | [テーマ] 海浜活動の実践XI【実技】 [内容] レクリエーション活動を通して、その他の海浜活動にふれる。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 本実習に関わる全ての日程(オリエンテーション、学内事前指導を含む)に参加し、大遠泳を完泳することが単位修得の条件となる。実習中の取り組みかた、レポート等の課題を総合的に判断して評価する。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない(合否は問わない)。 ②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。 ③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的な受講態度が要求される。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | | 80% | |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | | 20% | |
| 出席 | | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 水泳、水上安全法(含実習) | | | 関連資格 | なし | |
| 教科書 | なし | | | 参考書 | なし | |
| オフィスアワー | 火曜日12:00~13:00(LC棟2階207研究室) | | | その他 | 連絡先: ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--------------------------------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | スキー I Ski I (P.A.) | | | 担当教員 | 岡田 成弘 ・ 高橋 弘彦 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 スキー指導経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スキーの基礎的理論・技術および指導法を習得する。また、学外実習の運営方法を学ぶとともに、集団生活を通して協調性やコミュニケーション力を育む。実習は、2月後半に、山形温泉蔵王温泉スキー場で実施する。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 各技能ごとに班分けを行い、各自のスキー技術習得を目指す。初心者とは全日本スキー連盟バジジテスト3級を目標とし、初級者及び中級者は2級、上級者は1級以上の技能獲得をできるように努める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 各自のレベルにおけるスキー技術について理解している | | | |
| ■ | 情意的領域 | スキー及びスノースポーツに興味を持ち、熱意を持って取り組める | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 自身の上達を実感し、各自のレベルに応じてスキー滑走ができる | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 初日に技術レベルごとに班編成をする。技術習得の効率を高めるため、原則として1班10名程度とする。午前・午後是指導員による講習を受講し、ナイターは各自の課題をもって班ごとの自主練習を行う。最終日には、班ごとにデモンストレーション滑走を行う。 ※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。その際は、4月の履修登録者が優先される。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] スキー用具の取り扱い方、基本的な動作 [内容] スキー用具の名称や取り扱い方、装着方法を理解する。スキーを装着した上での歩行動作、階段登行、転び方、立ち方等を習得する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑨ | [テーマ] パラレルターン2 [内容] ターン弧や身体の傾きを調整して、様々な斜面を滑ることができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ] ブルークファーレン、制動と停止 [内容] ブルーク形状(ハの字)でまっすぐ滑れるようになる。正しいポジションと押し開きによって、停止できるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑩ | [テーマ] パラレルターン3 [内容] リズムやスピードを調整し、パラレルターンの小回りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ] ブルークボーゲン1 [内容] ブルーク形状でターンできるようになる。連続したブルークボーゲンができるようになる(押し開き、外足荷重)。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑪ | [テーマ] カービングターン1 [内容] カービングターンの要素を加え、速度の要素を減らしながらパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] ブルークボーゲン2 [内容] 様々なターン弧・リズムで、ブルークボーゲンができるようになる(ポジション、上下動、荷重)。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑫ | [テーマ] カービングターン2 [内容] カービングの要素を強め、加速しながらスピード感のあるパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] パラレルターンへの展開1 [内容] パラレル形状(板を並行に挿えた状態)で、横滑りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑬ | [テーマ] 不整地 [内容] 様々な雪面に対応できる技術を身につけ、不整地やコブを滑れるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] パラレルターンへの展開2 [内容] シュテムターン(ハの字に開き出してターンし、後半にスキーを挿える)ができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑭ | [テーマ] デモンストレーション1 [内容] 同じ班のメンバーと協働して、各班のレベルに応じたデモンストレーション滑走(フォーメンション)を考案する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] パラレルターンへの展開3 [内容] ブルークボーゲンの外足荷重を強め、内膝を返したブルークターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑮ | [テーマ] デモンストレーション1 [内容] 考案したデモンストレーション滑走を練習し、全体で発表する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] パラレルターン1 [内容] 両足同時操作による、安定したパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑯ | [テーマ] ふりかえり [内容] 学んだスキー技術、指導法、集団生活の過ごし方などをふりかえり、まとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| スキーへの取り組み、講習中およびホテルでの態度を総合的に評価する | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スキー II (3年) | | | 関連資格 | 特になし |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | 日本スキー教程(山と溪谷社) |
| オフィスアワー | 岡田:木曜4限 | | | その他 | 相談・提出は岡田研究室(A棟509)へ |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | スケート Skating(P.A.) | | | 担当教員 | 川口鉄二 児玉善廣 他 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・通年 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 高校, 中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択科目(インラインホッケー、アイスホッケー、フィギュアスケート、スピードスケート)の基礎技能を身につけ、科目特性に応じた楽しさを体験する。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法及びグループ学習や生活を含めて理解する。科目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツにおける発生指導の重要性を理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 日本スケート連盟公認ブレンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 領域は希望により、インラインホッケー(前期)、アイスホッケー(夏休み)、基礎スケーティング(フィギュア、スピード、ホッケー体験含む:2月頃)の各コースのいずれかを選択して実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場及び青根MATOKAを予定。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] 前半学習内容の復讐と選択競技特性の理解 [内容] これまでの学習課題の未習得の部分について各自で課題を設定して練習。フィギュア、ホッケー、スピード競技の特性に応じた応用技術の把握 [授業外学修] |
| ② | [テーマ] スケートの基礎知識 [内容] 生涯スポーツとしての今日の課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。 [授業外学修] | | | ⑩ | [テーマ] 応用課題Ⅰ [内容] 滑走技術の組み合わせ、連続などによる応用課題の練習。スティックワークの練習(ホッケー) [授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 氷上になじむⅠ [内容] 基本姿勢、歩行、V字歩行 [授業外学修] | | | ⑪ | [テーマ] 応用課題Ⅱ [内容] 滑走技術の組み合わせ、連続などによる応用課題の練習。エッジングの確認・修正。スティックワークの練習(ホッケー) [授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 氷上になじむⅡ [内容] 惰力滑走と自力滑走の学習 [授業外学修] | | | ⑫ | [テーマ] 応用課題Ⅲ [内容] 滑走姿勢、エッジワーク、回転技。基本戦術の学習・ミニゲーム [授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] 曲進系滑走技術の習得 [内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの学習 [授業外学修] | | | ⑬ | [テーマ] 応用課題Ⅳ [内容] ショートプログラムの練習・発表。正規ルールによる試合の体験。 [授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 停止系滑走技術の習得 [内容] [授業外学修] | | | ⑭ | [テーマ] 試験課題の提示と評価基準の解説 [内容] 各コースごとのテスト種目と評価対象についての説明及び達成課題を目標とした練習 [授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 後進系滑走技術の習得 [内容] 後進の惰力滑走と自力滑走の学習 [授業外学修] | | | ⑮ | [テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習 [内容] 各コースごとのテスト課題に基づいた技能テスト。日本スケート連盟普及部基礎スケートバジテストC級ないしB級相当レベルを合格基準とする [授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 転向系滑走技術の習得 [内容] フォアバック、バックフォア、モフォークターン、ジャンプター [授業外学修] | | | ⑯ | [テーマ] 学習のまとめ [内容] 実習全体の総括と内容の記録(日誌)、動感達成内容の記録・公開 [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能テスト、レポート内容、授業態度を総合して評価する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 50% | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | A403川口 水曜:13:00-2:00 | | | | その他 |
| | | | | | 基礎スケート指導(日本スケート連盟) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|--|-------------------------|
| 授業科目名 | キャンプ Camp (P.A.) | | | 担当教員 | 岡田 成弘 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | キャンプ指導及びキャンプ指導者育成経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを通して、一般的な野外活動に必要なスキルや、プログラムの運営方法等を、体験を通して学んでもらう。さらに、指導者からは、指導法やキャンプ指導の魅力を伝える。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を促進する。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| ・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。 ・野外活動に必要な知識、技術を身につける。 ・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 野外活動に必要な知識・技術を身につける。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 第一団8月28日(水)～31日(土)、第二団9月2日(月)～5日(木)に、南蔵王野営場で、原始的野外生活と冒険的活動を中心とした3泊4日の実習を行う。6人程度の班を編成し、1班に一人ずつ指導者がついて生活・活動の指導を行う。各実習は定員100名し、希望者多数の場合は抽選とする。キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 野外レクリエーション [内容] 野外レクリエーションを通して、班のメンバーの交流を深める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑨ | [テーマ] 登山準備 [内容]3日目の登山の概要を理解し、登山スキルや装備について学習し、登山の準備をする。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ② | [テーマ] 装備・道具の使い方 [内容] キャンプで使用使用する装備・道具の名称や正しい使い方を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑩ | [テーマ] 野外炊事3 [内容] 2日目の夕食を作成する。実習生が主体的に考え、行動し、協力しながら時間内の完成を目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ③ | [テーマ] テント設営 [内容] 家型テント及びドーム型テントを設営し、テントの設営方法を学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑪ | [テーマ] 登山1 [内容] 縦走登山を体験する。地図やコンパスを使って、自分たちで主体的に登山を行う。登頂時の達成感を味わったり、ストレス環境下で自己理解を深める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ④ | [テーマ] ナタの使い方・薪割り [内容] ナタの正しい使い方を習得し、薪割りの技術を身につける。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑫ | [テーマ] 登山2 [内容] 縦走登山を体験する。困難な状況でも仲間と協力し合い、リーダーシップやフォロワーシップを学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 野外炊事1 [内容] 1日目の夕食を作成する。薪割り、火おこし、調理など、班で協力して時間内の完成を目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑬ | [テーマ] 登山3 [内容] 縦走登山を体験する。高山植物や野生生物などに触れ、自然への興味関心を育む。自然への肯定的感情を育み、自然配慮の精神を養う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 野外炊事2 [内容] 2日目の朝食及び弁当を作成する。前回の体験を活かし、スムーズに野外炊事を進めることを目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑭ | [テーマ] キャンプファイヤー [内容] キャンプでの体験を仲間とともにふりかえる。各班オリジナルのスタンプを作成し、発表する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 沢歩き1 [内容] 沢歩きを体験する。水の中で活動する楽しさや魅力を理解する。また、沢歩きを通して、グループの凝集性を高める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑮ | [テーマ] 撤収 [内容] キャンプ用品の正しい撤収方法を学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 沢歩き2 [内容] 沢歩きを体験する。地図・コンパスの使い方やリスクマネジメントについて学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | ⑯ | [テーマ] ふりかえり [内容] キャンプでの体験をふりかえり、レポートとしてまとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。提出されたレポートについては、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 50% | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 25% | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 25% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | レク実Ⅰ・Ⅱ(1・2年)、スポマネ実習(2年)、野外教育活動論(3年)、野外・レクマネ論(3年)、野外レクマネ実習(3年) | | | 関連資格 | 特になし |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | (公社)日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」 |
| オフィスアワー | 岡田:木曜4限 | | | その他 | 相談・提出は岡田研究室(A棟509)へ |

3. 発展科目

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|---|--|
| 授業科目名 | | 幼児体育指導論 Teaching method of physical education | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育士、幼児教育者および幼児体育指導者にとって必要な運動あそびに関する知識、発育・発達段階に応じた指導法、指導内容、留意事項、運動あそびの環境を理解し、実践できるよう学習する。また、指導計画の立て方や指導案作成上のポイントを説明する。 | | | | | | (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 幼児期の子どもたちに求められる運動のあり方を学び、発育・発達段階に適した運動あそび指導の考え方や指導者の役割を学習する。運動あそびの指導方法および運動指導案の立て方を通して、指導者としての必要な知識を知る。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を身につけることができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育(運動あそび)環境の操作できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業の前半は、運動あそびの指導目標と指導法を学ぶ。後半は、移動遊具を使った運動あそびや固定遊具を使った運動あそびの指導法、運動あそびの安全管理を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 近年、幼児の生活習慣について考えておく | | | ⑨ | [テーマ] 用具を使った運動遊びの指導法 [内容] ボール運動、フープ運動、ティールール遊び [授業外学修] 移動遊具を使った運動遊びについて調べる | |
| ② | [テーマ] 子どもの健康生活 [内容] 基本的な生活習慣、子どもの生活と運動 [授業外学修] 近年、子どものあそびの変化について調べる | | | ⑩ | [テーマ] 移動遊具を使った運動遊びの指導法 [内容] マット運動、平均台運動 [授業外学修] 固定遊具を使った運動遊びについて調べる | |
| ③ | [テーマ] 子どもの遊びの変化 [内容] 運動あそびに関わる変化、デジタルメディアの影響 [授業外学修] 子どもの発育・発達の変化について調べる | | | ⑪ | [テーマ] 固定遊具を使った運動遊びの指導法 [内容] 鉄棒、すべり台、ジャングルジム、遊具の安全管理、安全指導 [授業外学修] 障害物遊びについて調べる | |
| ④ | [テーマ] 子どもの発育・発達 [内容] 身体発達の特徴、身体発達に関する課題 [授業外学修] 近年、子どもの体力・運動能力について調べる | | | ⑫ | [テーマ] 障害物遊びとサーキット遊び [内容] コーナー遊び、障害物遊び、サーキット遊びの実際 [授業外学修] リズム運動遊びについて調べる | |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの体力・運動能力の実態と技能の発達 [内容] 体力・運動能力の実態と技能の発達 [授業外学修] 幼児体育の留意事項について調べる | | | ⑬ | [テーマ] 表現力を育てるリズム運動遊び [内容] リズム体操、身体表現 [授業外学修] 幼児の安全管理について調べる | |
| ⑥ | [テーマ] 幼児体育の指導目標と指導法 [内容] 発育・発達段階に応じた指導法、指導内容および留意事項 [授業外学修] 幼児体育の指導案について調べる | | | ⑭ | [テーマ] 幼児の運動と安全管理 [内容] 運動時における体調の観察、子どもの事故から考える安全 [授業外学修] 靴選びについて調べる | |
| ⑦ | [テーマ] 幼児体育の指導目標と指導法 [内容] 指導計画の立て方、指導案作成上のポイント [授業外学修] 用具を使った運動遊びについて調べる | | | ⑮ | [テーマ] 運動時の安全を考慮した靴選び [内容] 幼児に適した運動靴選び、正しい運動靴の履き方 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする | |
| ⑧ | [テーマ] 体を使った運動遊びの指導法 [内容] 運動遊びの指導と援助 [授業外学修] 用具を使った運動遊びについて調べる | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確かめるための試験を実施する [授業外学修] テストの準備をしておく | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合60%)、授業外課題を評価(評価割合30%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 30% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 幼児体育論(1年次) | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員 | |
| 教科書 | 『元気な子どもを育てる幼児体育』前橋 明、保育出版社 | | | 参考書 | 『幼児体育(理論と実践)』日本幼児体育学会、大学教育出版 | |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20~16:00 | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|---|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 教育の基礎理論B Fundamental Theory of Education B (L.) | | | 担当教員 | 三谷高史 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本講義では、教育にかかる基本的概念、理念、歴史や思想の学習を主たるテーマとする。具体的には、近代以降の教育学、教育制度と、その確立に尽力した思想家たちの哲学や思想が学習の対象となる。 | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 教育者・保育者として必要な、知識、語彙、考え方を理解・習得し、それらを用いて自分の考えを述べることができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 講義で解説された教育の概念や歴史に関する知識を正確に理解している。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 世の中で起きている教育「問題」に関心を持ち、その「問題」に対して批判的な思考ができる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 講義の内容、自分の経験や他者の意見を踏まえて、教育に対する自分の意見を論じることができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 前半は近代教育(学・制度)の確立に貢献した教育(思想)家たちの哲学、思想を解説する。その後、受講者には映像資料を視聴、集団で議論してもらい、それらをもとに中間レポートを作成してもらい。後半は教育(社会教育含む)と保育の制度の歴史と変遷、教育の現代的課題について解説する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 幼稚園教諭・保育士になるためになぜ教育の基礎理論を学ぶのか [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などを説明する。 [授業外学修] 新聞・雑誌記事を探し、読み、まとめる | | | ⑨ | [テーマ] 映像資料を見る:「よい教育」とは何か [内容] 学校や教育を素材にした映画またはドキュメンタリー映像を視聴し、「よい教育」について考える。 [授業外学修] ディスカッションにむけて情報収集し、学習する |
| ② | [テーマ] (子ども)の誕生: 西洋における子ども期の発見 [内容] 人生における固有の一時期としての(子ども)期について、歴史的な視点から解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑩ | [テーマ] グループディスカッション(中間レポート作成) [内容] 前回の映像資料や事前学習を踏まえて、「『よい教育』とはなにか」というテーマについてグループで議論する。 [授業外学修] 中間レポートを作成する |
| ③ | [テーマ] 近代以降の人づくり: 学校・社会・家庭 [内容] 近代以降、人間形成の大部分を学校が担うようになったこと、それにともない社会や家庭の役割がどのように変化したかを解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑪ | [テーマ] 学校教育の制度 [内容] 学校教育の制度が持つ機能について解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする |
| ④ | [テーマ] 教育概念とその類似概念について [内容] 教育の概念と、類似概念である形成や教化、ケアといった概念について解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑫ | [テーマ] 保育の制度: 幼稚園・保育所・こども園 [内容] 保育に関する諸制度を解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする |
| ⑤ | [テーマ] 公教育の原理 [内容] 現代日本の公教育制度・原理の解説と、その原型がフランス革命期にあることを解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑬ | [テーマ] 学校外の教育: 社会教育・生涯学習 [内容] 学校外における教育として、社会教育・生涯教育の歴史、制度について解説する [授業外学修] 本日の講義について復習をする |
| ⑥ | [テーマ] 近代教育学の登場 [内容] 近代以降に登場した、教育を科学的に研究しようとする立場について解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑭ | [テーマ] 社会問題と教育(1): 貧困問題・ジェンダー [内容] 教育における貧困問題、ジェンダーという現代的課題について解説する [授業外学修] 本日の講義について復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 保育の思想: 幼児教育と児童福祉 [内容] 幼児教育、児童福祉の実践・制度化に尽力した思想家について解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑮ | [テーマ] 社会問題と教育(2): 待機児童問題と夜間保育所 [内容] 待機児童問題と夜間保育所の問題について解説する [授業外学修] 本日の講義について復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 近代教育の問い直し: 旧教育と新教育 [内容] 近代教育における旧教育と新教育の差異や対立点について解説する。 [授業外学修] 本日の講義について復習をする | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 授業内容の理解度を問う選択式、記述式の試験を実施する [授業外学修] 講義内容を復習し、試験に備える |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 講義内で課す小レポート(10%)と中間レポート(40%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。小・中間レポートにかんしては、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては個別に対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | △ | ○ | ○ | 10% |
| 授業外レポート | | △ | ○ | ○ | 40% |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 | | | | | |
| 関連科目 | 教育と社会 | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。 | | | 参考書 | 内閣府・他(2017)『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社 |
| オフィスアワー | 火曜日、14:20～15:50 | | | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|---|---|-----------------------------------|
| 授業科目名 | | 子どもの心理学 I Psychology of children I | | | 担当教員 | 足立 智昭 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — | |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 保育を行う上で必要な心理学の基礎を学びます。発達心理学と教育心理学の基礎と重複する内容もありますが、それらの心理学と大きく異なる点は、常に、保育という視点から乳幼児の発達と支援を考察することです。そのために、授業では、保育現場で出会うトピックをもとに、そのトピックの背景にある課題を最新の心理学の知見をもとに解説します。 | | | | | | (1) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 発達心理学の基礎理論を説明できる。 乳幼児期の発達の特性を説明することができる。 それらの理解を保育の現場に活かすことの意味を理解する。 学童期以降の教育への連続性について理解する。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 乳幼児の心身の発達や保育者としてのかかわりについて理解する。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもを理解するための様々な学びに意欲的に取り組む。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 乳幼児とのかかわりについて具体的な事例を通して理解を深め、技術を身につける。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 保育を行う上で、子どもの心の発達とその発達に影響を与える要因について理解することは必須条件となります。保育の心理学 I では、発達心理学の基礎理論について理解を深めるとともに、特に乳幼児期の発達のさまざまな特徴について、具体的なトピックを交えながら学びます。加えて、学童期以降の教育への連続性を理解するために、学童期以降の発達にもふれ、発達生涯心理学的視点から乳幼児期の重要性について学びます。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | | |
| ① | [テーマ] 保育の心理学とは [内容] 保育現場で必要とされる心理学とは何か、子どもの発達を理解する意義について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 感情の発達 [内容] 人間は感情の動物とも言われますが、他者の感情を理解し、自分の感情を表現することは容易なことではありません。乳幼児期の感情の発達を丁寧にたどります。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ② | [テーマ] 胎児期・新生児期の特徴 [内容] 生涯発達の始まりとしての胎児期・新生児期の重要性について学びます。特にこの時期は、環境の影響が大きいこと、またその影響が乳幼児期以降の発達にも及ぶことを学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 性格の発達 [内容] 子どもが生まれつき持っている気質の特徴が、その後の環境との相互作用を通して、その子どもらしい性格としてどのように発達していくのかを学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ③ | [テーマ] 乳幼児期の特徴 [内容] 乳幼児期の発達については第5回目以降の授業で詳しく解説しますが、この回は、この時期の特徴について発達の基礎理論に基づき学習します。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 育児期の親の課題(1) [内容] 親にとって育児はストレスです。その結果として、現在急増している虐待の現状とその発生メカニズムについて学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ④ | [テーマ] 児童期の特徴 [内容] 前回の発達の基礎理論に基づき、幼児期と連続する児童期の特徴について、認知、社会、対人関係を中心に学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 育児期の親の課題(2) [内容] 子ども子育て支援新制度の紹介を通して、育児支援の心理学的効果について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ⑤ | [テーマ] 身体・運動発達 [内容] 乳幼児期の身体・運動発達が、比較的規則的な順序に基づいて発達していくことを理解し、指先などの微細運動、歩行などの粗大運動の発達について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 発達障害の基礎(1) [内容] 発達障害の多くは、乳幼児期にアセスメントされることが殆どです。この回では、それぞれの発達障害とアセスメントのポイントについて学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ⑥ | [テーマ] 認知の発達 [内容] Piagetの認知の発達理論を中心に、乳幼児期の認知の発達の特徴について学びます。 [授業外学修] | | | ⑭ | [テーマ] 発達障害の基礎(2) [内容] 発達障害児の保護者は、その育児に大きな戸惑いを感じる 경우가少なくありません。それらの保護者の心理的特徴について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ⑦ | [テーマ] 言語の発達 [内容] 乳幼児期は言語発達において極めて重要な時期であり、この時期にどのようなメカニズムで言語が獲得されていくか映像などを通して学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] 本講義のまとめを行い、それぞれの受講者の本講義の到達目標が達成されているか確認します。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | |
| ⑧ | [テーマ] 社会性の発達 [内容] 集団で保育を行う上で、最も重要なのが社会性の発達です。仲間や保護者・保育者との関わりを通して、乳幼児が社会性を発達させていく過程について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 3週おきに実施する小テスト、およびレポートにより評価する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。 | |
| 定期試験 | | | | | 50% | | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 50% | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 50% | | |
| 演習・実技 | | | | — | | | |
| 授業態度 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 本郷一夫編「シードブック 保育の心理学 I・II」建帛社(2015年) | | | | | 参考書 | 秦野・山崎編「保育の中の臨床発達支援」ミネルヴァ書房(2011年) |
| オフィスアワー | | | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--|-------------------|---------|--|-----------------------------------|
| 授業科目名 | | 子どもの心理学Ⅱ Psychology of children Ⅱ | | | 担当教員 | 足立 智昭 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — | |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 保育を行う上で必要な実践的、応用的心理学について学びます。特に、実習などを通して、保育現場で体験することが多いトピックを取り上げ、その課題をどのように理解し、どのように解決するか、受講者も主体的に授業に参加し学びます。「気になる子ども」の保育、育児支援の実際、アウトドア環境保育についても、受講者が子ども役、親役、保育者役をロールプレイしながら、体験的に具体的に学びます。 | | | | | | (2) (4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発達と環境要因との関連について説明することが出来る。 ・「気になる子ども」の保育について、心理学的視点から説明ができる。 ・育児支援の必要性について、心理学的視点から説明ができる。 ・現在、保育の主流となりつつあるアウトドア環境保育について説明ができる。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 乳幼児の心身の発達や保育者としてのかわりについて理解する。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもを理解するための様々な学びに意欲的に取り組む。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 乳幼児とのかわりについて具体的な事例を通して理解を深め、技術を身につける。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 保育の心理学Ⅱでは、保育の心理学Ⅰでの学びと保育所・幼稚園での実習での学びに基づき、より実践的に保育に必要な心理学的知見について学びます。また、対応が困難な「気になる子ども」の保育や育児支援のあり方についても学びます。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 | | | | |
| ① | [テーマ] 子どもの発達理解の方法 [内容] アセスメント、発達検査・知能検査の進め方などについて具体的に学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑨ | [テーマ] 遊びの発達と支援の実際(2) [内容] 「気になる子ども」の支援において最も重要なことは、彼らの特性に応じた遊びを支援することです。具体的な保育場面の映像を通して、遊びにおける支援の実際について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ② | [テーマ] 子どもの発達理解の方法 [内容] 保育における記録の取り方(エピソード記録など)や、観察法の基本(参加観察法、実験的観察法、事象見本法など)について、具体的な事例を通して学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑩ | [テーマ] 自己の発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期の心の健康には、適切な自己の発達と支援が必要となります。しかし、乳幼児期の自己主張は、保護者にとって困った行動と評価されるかも知れません。それらの困った行動の意味を理解し、そのような支援を行うべきか事例を通して学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ③ | [テーマ] 子どもの精神的健康と障害 [内容] 「気になる子ども」の中には、家庭における虐待などによりトラウマ反応を生じている子どもも少なくありません。また、発達障害児もそれらの反応と似た行動を示すことがあります。典型的な事例を通して、乳幼児期の心の健康について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑪ | [テーマ] 認知の発達と支援の実際 [内容] 障害児によく見られるように、彼らの認知には特別なスタイルがあり、それをよく理解することが支援の鍵となります。典型的な事例を通して支援の実際について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ④ | [テーマ] 園内研修を通じた発達理解 [内容] 子どもの発達理解は、個別の検査だけでなく、事例検討などを通して多角的視点で行い、保育者間で理解を共有することが必要となります。この授業では、模擬的に数人のグループで事例検討を体験します。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑫ | [テーマ] 言語・コミュニケーションの発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期、さまざまな背景要因により、言葉やコミュニケーション能力の発達が遅れたり、偏ったりすることは少なくありません。これらの発達の背景要因をアセスメントして、その結果を支援に繋げる方法について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ⑤ | [テーマ] 他機関との連携を通じた子どもへの支援 [内容] 現在、さまざまな背景をもつ子どもが保育を受けており、保育機関単独では問題解決が出来ないケースが増えてきています。この授業では、どのような外部機関と連携すべきか、連携する際の留意点は何かについて学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑬ | [テーマ] アウトドア環境保育 [内容] 北欧から世界に広がっているアウトドアの環境を活かした保育について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ⑥ | [テーマ] 親子関係の発達と支援の実際 [内容] 保育の心理学Ⅰでも学んだように、乳幼児の発達に与える保護者の影響は非常に大きいものがあります。したがって、乳幼児の発達を保障するためには、保護者支援は欠かせない重要な課題です。この授業では保護者支援の実際と課題について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑭ | [テーマ] 「気になる子ども」と環境構成 [内容] 「気になる子どもの保育」を実施していく上で重要なことは、それぞれの子どもに特性に応じた環境を提供することです。指示的、管理的にならず、子どもの主体性を尊重しながら、これらの対応が難しい子どもの保育をどのように行うか解説します。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ⑦ | [テーマ] 仲間関係の発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期の仲間関係の発達は児童期以降の仲間関係の発達の雛形となるもので、その発達を支援することは保育者の大きな役割です。発達とともに変化する仲間関係について理解し、支援の方法についても学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] 本講義のまとめを行い、それぞれの受講者の本講義の到達目標が達成されているか確認します。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | | |
| ⑧ | [テーマ] 遊びの発達と支援の実際(1) [内容] 保育は遊びを通して総合的に行うものです。この授業では、乳幼児期の遊びの特性やその治療的意義について学びます。 [授業外学修] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 3週おきに実施する小テスト、およびレポートにより評価する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。なお、前期で『子どもの心理学Ⅰ』の単位を未修得の場合は、履修できません。 | |
| 定期試験 | | | | | | | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 50% | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 50% | | |
| 演習・実技 | | | | — | | | |
| 授業態度 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 本郷一夫編「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」建帛社(2015年) | | | | | 参考書 | 西浦・足立訳「北欧スウェーデンの森の教室」北大路書房(2015年) |
| オフィスアワー | | | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | 子どもリズム表現 | | | 担当教員 | 山梨 雅枝 | |
| | children and rhythm expression | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | こども園での運動・ダンス指導の経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| リズム表現は、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。本授業では、リズム表現が表現活動を取り巻く音楽、造形、言語、動きの総称として位置づけられていることを理解する。 | | | | | (2) (4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| リズム表現は、心で感じるものを、からだをつかって自分なりに表現することで心とからだの協調・調和をつくりだすことができることを理解するとともに、保育の現場を想定した指導プログラムの展開及びイメージ表現発表を到達目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 子どもの年齢や成長に適した動きについて把握する | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 表現することに興味・関心を持つ | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 感じを込めて動きを表現したり、曲調を捉えて動きを生み出す | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 対象年齢を設定し、発育段階にあった音楽の選定を行うとともに音楽に合った動きを創作する。また、表現に効果的だと思われる用具の作成なども行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について。 [授業外学修]子ども発育段階に適した運動について調べる | | | ⑨ | [テーマ] 4歳児対象の身体表現を考える① [内容] 4歳児の運動能力や興味関心を踏まえて、ダンスを創作する [授業外学修]音楽の選定 | |
| ② | [テーマ]動きをまねる [内容] 動物の動きを通して幼児のための柔軟運動について学ぶ [授業外学修]柔軟運動の重要性について調べる | | | ⑩ | [テーマ] 4歳児対象の身体表現を考える② [内容] 4歳児の運動能力や興味関心を踏まえて、ダンスを創作する [授業外学修]種具が衣装などの作成 | |
| ③ | [テーマ] 動くー止まる① [内容] 太鼓の音に合わせて自由に動き、合図で止まる動き(ポーズ)について学ぶ [授業外学修]動物や物のかたちの特徴について理解する | | | ⑪ | [テーマ] 4歳児対象の身体表現の発表 [内容] 4歳児用のダンスを発表する [授業外学修]演出について確認する | |
| ④ | [テーマ] 動くー止まる② [内容] 自分がイメージした動物や物になりきって自由に動き、合図で止まる動き(ポーズ)について学ぶ [授業外学修]動物や物の動きの特徴について理解する | | | ⑫ | [テーマ] 4歳児対象の身体表現の反省 [内容] 披露したダンスを映像で確認する [授業外学修]創作した作品の改善点についてレポートを作成する | |
| ⑤ | [テーマ] 幼児リズム① [内容] 3拍子に合わせて動く [授業外学修]3拍子の音楽を選曲する | | | ⑬ | [テーマ] 5歳児対象の身体表現を考える① [内容] 5歳児の運動能力や興味関心を踏まえて、ダンスを創作する [授業外学修]音楽の選定 | |
| ⑥ | [テーマ] 幼児リズム② [内容] 4拍子に合わせて動く [授業外学修]4拍子音楽を選曲する | | | ⑭ | [テーマ] 5歳児対象の身体表現を考える② [内容] 4歳児の運動能力や興味関心を踏まえて、ダンスを創作する [授業外学修]種具が衣装などの作成 | |
| ⑦ | [テーマ] 音楽の質感を捉える① [内容] 優しい、柔らかい、軽い、落ち着いた、など音楽の質感を捉えて動く [授業外学修]質を示す用語について調べる | | | ⑮ | [テーマ] 5歳児対象の身体表現の発表 [内容] 5歳児用のダンスを発表する [授業外学修]演出について確認する | |
| ⑧ | [テーマ] 音楽の質感を捉える② [内容] 強い、恐怖、不安、怒り、などの音楽の質感を捉えて動く [授業外学修]質を示す用語について調べる | | | ⑯ | [テーマ] 5歳児対象の身体表現の反省 [内容] 披露したダンスを映像で確認する [授業外学修]創作した作品の改善点についてレポートを作成する | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実技試験で、授業内容の理解度を確認する。また、受講態度や出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。 ・体調管理を怠らない。(飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。) ・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。 ①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。 ②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。 ③服装については、授業担当者の指示に従うこと。 |
| 定期試験 | | | | ◎ | 50% | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 5% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% | |
| 授業態度 | | | ◎ | ◎ | 15% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 保育士,幼稚園教諭 |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日:13:00~15:30 | | | | その他 | 山梨研究室:第4体育館1階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|---|
| 授業科目名 | 社会福祉 Social Welfare | | | 担当教員 | 関矢・高橋 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 社会福祉の講義では以下の6点を中心に学習する。第1に現代社会における福祉の意義と歴史の変遷及び子ども家庭支援の視点。第2に、社会福祉の制度や実施体系等。第3に社会福祉における相談援助。第4に社会福祉における利用者の保護と仕組み。第5に、地域福祉と地域ネットワークの仕組み、そして第6に社会福祉の動向と課題についての理解を深めることである。 | | | | | (1)(2)(3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する ・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する ・社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる | | | | |
| ■ 情意的領域 | ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| ラパスに基づいて講義を実施するが、学生は事前準備をして講義を受けることが授業全体の受講条件である。また、この講義の時期に自らの具体的な目標を明確にして各々の受験の準備に備えることも本講義の受講条件とする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス [内容] 本授業のねらいと全体の流れの説明を聞き理解する [授業外学修]社会福祉についての発見を分かち合うための予習 | | | ⑨ | [テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の意義と原則について学ぶ [授業外学修]相談援助についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ② | [テーマ]現代社会における社会福祉の意義 [内容] 社会福祉の理念と概念を理解する [授業外学修]社会福祉についての発見を分かち合うための予習 | | | ⑩ | [テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の方法と技術を学ぶ [授業外学修]相談援助の方法についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ③ | [テーマ] 現代社会における社会福祉の歴史の変遷 [内容] 社会福祉の歴史の変遷を理解する [授業外学修]社会福祉史についての発見を分かち合うための予習 | | | ⑪ | [テーマ] 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み [内容] 情報提供と第三者評価の方法と実際を学ぶ [授業外学修]情報提供と第三者評価についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ④ | [テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉を理解する [授業外学修]児童家庭福祉についての発見を分かち合うための予習 | | | ⑫ | [テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 少子高齢化社会への対応の実際と課題を考察する [授業外学修]少子高齢化についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ⑤ | [テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 児童の人権擁護と社会福祉のかかわりを理解する [授業外学修]人権擁護についての新しい発見を分かち合うための予習 | | | ⑬ | [テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 在宅福祉・地域福祉の推進の現状と課題を考察する [授業外学修]在宅福祉・地域福祉についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ⑥ | [テーマ] 福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学修]福祉制度についての新しい発見を分かち合うための予習 | | | ⑭ | [テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを学ぶ [授業外学修]地域ネットワークについての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ⑦ | [テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉行財政と実施機関とのかかわりを理解する [授業外学修]福祉行財政についての新しい発見を分かち合うための予習 | | | ⑮ | [テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 諸外国の動向を資料を基に考察する [授業外学修]諸外国の福祉についての新しい発見を分かち合うための予習 |
| ⑧ | [テーマ] 福祉行財政についての新しい発見を分かち合うための予習 [内容] 社会福祉の専門職・実施者の現状を学ぶ [授業外学修]福祉専門職についての新しい発見を分かち合うための予習 | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する [授業外学修]これまでの学習をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 定期試験 | ◎ | | | 50% | ・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・常に、日常生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。 学問は、観念的な知識や現実離れた理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。 |
| 授業内レポート | | ◎ | | 10% | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | 40% | |
| 出席 | | | ◎ | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 社会福祉士・介護福祉士・栄養士・社会福祉主事任用資格・高等学校教諭一種免許状(福祉)・保育士 | | | 関連資格 | 社会福祉士・介護福祉士・栄養士・社会福祉主事任用資格・高等学校教諭一種免許状(福祉)・保育士 |
| 教科書 | オリエンテーション時に指示する | | | 参考書 | オリエンテーション時に指示する |
| オフィスアワー | 研究室E棟2階 オフィスアワー金12:40-14:10 関矢 貴秋研 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 児童家庭福祉論 Child and Family Welfare | | | 担当教員 | 千葉喜久也 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 現代社会における子ども家庭福祉の意義と役割について体系的に学ぶ。子ども家庭福祉の理念・制度の体系を理解し子どもが育つ環境として、家庭や家族の現状や課題を学び、子どもや家族を包括的に支援する方法について学びを深める。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。子どもの人権擁護について理解する。子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 子ども家庭福祉について理解した内容を、自らの言葉でレポートに表現することができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 子ども家庭福祉の意義と歴史についての学び、現状と課題を理解する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 子ども家庭福祉の実際を理解し、子ども家庭福祉の現状や課題に更なる関心を持つ。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 子ども家庭福祉への現状と課題を自らの言葉で表現することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 保育者として、子ども家庭福祉の意義や目的について理解を深め、子どもや家族への支援者なることが出来るよう丁寧に教授する。保育における子ども家庭福祉の制度や実施体系についても理解を深める学習を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション。子ども家庭福祉の意義について。 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明。子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷について学ぶ。 [授業外学修] 子どもを取り巻く環境について調べる | | | ⑨ | [テーマ] 子ども家庭福祉の法体系 [内容] 子ども家庭福祉の法体系について [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ② | [テーマ] 少子高齢社会とは [内容] 少子化の影響、要因、背景の理解 [授業外学修] 少子化の影響、要因、背景の理解 | | | ⑩ | [テーマ] 児童福祉法以外の関連法律 [内容] 児童手当法と児童扶養手当法について [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 子ども家庭福祉とは [内容] 子どもを取り巻く環境の変化、子ども家庭福祉の理念について解説する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 児童福祉法の実施体制 [内容] 児童相談所の機能と役割。市町村の役割について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 家族を取り巻く社会的状況について [内容] 大人の貧困と子どもの貧困問題、子ども家庭福祉のあり方について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 子ども家庭福祉の財源と費用負担について [内容] 子ども子育て費用負担について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの権利擁護について [内容] 子どもの権利擁護と成長・発達権について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] 母子保健、医療サービスについて [内容] 母子保健、医療の歩み。健やか親子21について理解する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 子ども虐待と子どもの権利擁護 [内容] 子ども虐待の定義としつけと虐待の違いについて学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 子育て支援と子どもの健全育成について [内容] 子育て、子育てをめぐる問題とその背景について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 子ども家庭福祉の歴史① [内容] 日本の子ども家庭福祉の歴史について学ぶ(明治、大正) [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑮ | [テーマ] 保育サービスの意義 [内容] 保育の現状と新子育て支援の展望 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] 子ども家庭福祉の歴史② [内容] 日本の子ども家庭福祉の歴史について学ぶ(戦前、戦後、現代) [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学修] これまでの学習をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | ◎ | | | | 50% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 10% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | ◎ | 欠格条件 |
| 関連科目 | 社会福祉士・介護福祉士・栄養士・社会福祉主事任用資格・高等学校教諭一種免許状(福祉)・保育士 | | | 関連資格 | 保育士 |
| 教科書 | 『児童・家庭福祉論[第3版]』 みらい 千葉喜久也著 | | | 参考書 | 授業時に指示する |
| オフィスアワー | 水曜日12:40-14:10 | | | その他 | 千葉喜久也研究室F棟2階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 家庭支援論 Child home support theory | | | 担当教員 | 千葉喜久也 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもが育つ環境として、家庭や家族の現状や課題を学び、子どもや家族を包括的に支援する方法について学びを深める。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 子どもを含めた家族への支援を行える保育者の視点を養う。 家庭支援について理解した内容を、自らの言葉でレポートに表現することができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 家庭への支援についての学びを、総合的、総論的に捉える。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 家庭支援の実際に触れ、現代の家族の現状や課題に更なる関心を持つ。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 家庭への支援と保育の相互的な関係性を自らの言葉で表現することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 保育者として家庭を支援する知識や実践力が身に付くように、家庭支援の理論と実際を基礎から丁寧に教授する。保育における家庭支援の方法の学びを深めるための基礎的な知識を身につける。学んだことを保育実践の場で活かすことができるように、演習やプレゼンテーションを取り入れ、実践力を養う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、家庭支援とは [授業外学修] 家庭支援とは何か、調べる | | | ⑨ | [テーマ] 子育て相談についての事例検討 [内容] 事例を基に、子育て相談について検討し、グループ討議を実施する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ② | [テーマ] 家族とは [内容] 家族の意味の理解 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] 子育て相談についての討議内容発表 [内容] グループ毎に、子育て相談についての討議内容を発表する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 家族の機能 [内容] 家族の機能を具体例を挙げながら解説する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 子育て支援サービスの具体例 [内容] 事例を基に、子育て支援サービスについて理解を深める [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 家族を取り巻く社会的状況と支援体制 [内容] 事例を基に、家族を取り巻く社会的状況と支援体制を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 子育て支援の歴史の変遷 [内容] 事例を基に、子育て支援の歴史の変遷を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 家族援助のための社会資源 [内容] 事例を基に、家族援助のための社会資源について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] 子育て支援における関係機関との連携 [内容] 事例を基に、子育て支援における関係機関との連携について理解する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 子育て支援の理論と実際 [内容] 事例を基に、子育て支援の理論と実際を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 子育て支援における関係機関との連携の今後の展望 [内容] 保育者として、今後の子育て支援における関係機関との連携をどのように考えればよいか学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 子育て相談の現状 [内容] 事例を基に、子育て相談の現状について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑮ | [テーマ] 家庭支援の向上をめざして [内容] これからの家庭支援の方向性と課題 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] 子育て相談の課題 [内容] 事例を基に、子育て相談の課題について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する [授業外学修] これまでの学習をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 10% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | ◎ | 欠格条件 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・常に、日常生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。家庭支援の意義と実際を理解したうえで、保育との関連性の理解を深めていただきたい。 ・身近な家庭支援に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。 | | | | | |
| 関連科目 | 保育士 | | | 関連資格 | 保育士 |
| 教科書 | 『家庭支援論(基本保育シリーズ)』中央法規 | | | 参考書 | オリエンテーション時に指示する |
| オフィスアワー | 水曜日12:40-14:10 千葉喜久也研究室F棟2階 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | | 幼児健康教育論 Early childhood health education (L.) | | | 担当教員 | 橋本 実 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼児期に多いケガや病気について解説し、その処置方法や予防法についても説明する。 | | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などが活用できるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などについて理解する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法を、活用するように努力する。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、プリントに書き込みながら理解を深める。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学修] 当日配布するプリントを参照すること | | | ⑨ | [テーマ] 幼児期の病気① [内容] 幼児期に多い疾患について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ② | [テーマ] 幼児期のケガ① [内容] 幼児期のケガの基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑩ | [テーマ] 幼児期の病気② [内容] 幼児期に多い疾患について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ③ | [テーマ] 幼児期のケガ② [内容] 幼児期のケガの基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑪ | [テーマ] 幼児期の病気③ [内容] 幼児期に多い疾患について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ④ | [テーマ] 幼児期のケガ③ [内容] 幼児期のケガの基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑫ | [テーマ] 幼児期の病気④ [内容] 幼児期に多い疾患について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ⑤ | [テーマ] 幼児期のケガ④ [内容] 幼児期のケガの基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑬ | [テーマ] 幼児の生活環境① [内容] 幼児期の生活環境の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ⑥ | [テーマ] 幼児の救急処置① [内容] 幼児期のケガの救急処置について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑭ | [テーマ] 幼児の生活環境② [内容] 幼児期の生活環境の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ⑦ | [テーマ] 幼児の救急処置② [内容] 幼児期のケガの救急処置について説明する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| ⑧ | [テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修] 授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わらないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は掲示し、レポートはICTツールで評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 95% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | 5% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | 特になし | |
| オフィスアワー | オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50 | | | その他 | 研究室:F棟2階 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-----------------------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | 子どもの保健 I ① Child Health I | | | 担当教員 | 和田裕一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもの発育発達を理解し、支援する保健活動を健全に遂行するために、環境やそこに住む大人との関係を含め幅広い視野で学習する。 | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 人の身体の仕組みを理解し、子どもの心と身体の発育発達についての知識を修得すること、また子どものかかりやすい疾病を学び、子どもの異常を察知し対応ができるための知識を修得することを目標とする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 子ども心身の発育発達の把握と変化の認知 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 現代社会における環境と子どもの発達への理解 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 胎児期からの発育発達を理解し、その上でからだの仕組みや健康状態について学ぶ。また 精神の問題について親や社会環境とのふれあいから、幅広い視点で学習する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 講師紹介、授業の進め方 [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] 子どもの発育発達④ [内容] [授業外学修] 教科書42～48P 事前通読 |
| ② | [テーマ] 女性と保健 [内容] 子どもの母である女性の心と身体の年齢による変化 [授業外学修] 教科書 子どもの健康と保健 7～13P事前通読 | | | ⑩ | [テーマ] 子どもの発育発達⑤ [内容] 精神発達について [授業外学修] 教科書 精神機能の発達51～56P 事前通読 |
| ③ | [テーマ] 妊娠、出産、育児1 [内容] この時期の心身の健康 [授業外学修] 配布資料の復習 | | | ⑪ | [テーマ] からだの仕組み① [内容] 呼吸器、循環器の基本 [授業外学修] 配布資料を復習 |
| ④ | [テーマ] 妊娠、出産、育児2 [内容] この時期の心身の異常について [授業外学修] 配布資料の復習 | | | ⑫ | [テーマ] からだの仕組み② [内容] 消化器、泌尿器の基本 [授業外学修] 配布資料③を復習 |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの保健の現状 [内容] 現代におけるこどもの保健の特徴 [授業外学修] 教科書299～313頁 事前通読 | | | ⑬ | [テーマ] からだの仕組み③ [内容] その他 [授業外学修] 配布資料を復習 |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの発育発達① [内容] 受精と胎内発育 [授業外学修] 配布資料復習 | | | ⑭ | [テーマ] 子どもの健康状態の把握 [内容] いろいろな症状のチェック [授業外学修] 配布資料 復習 |
| ⑦ | [テーマ] 子どもの発育発達② [内容] 出生後の身体発育について [授業外学修] 教科書 子どもの発達、発育16～24P事前通読 | | | ⑮ | [テーマ] 子どものかかりやすい病気① [内容] 感染症① [授業外学修] 配布資料 復習 |
| ⑧ | [テーマ] 子どもの発育発達③ [内容] 生理機能の発達について [授業外学修] 教科書 生理機能の発達、31～41P事前通読 | | | ⑯ | [テーマ] 子どものかかりやすい病気② [内容] 感染症② [授業外学修] 配布資料 復習 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績評価方法は下記の通り。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 20% |
| 授業外レポート | | | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 子どもの保健 II | | | 関連資格 | 保育士資格 |
| 教科書 | 子どもの保健 I ななみ書房 | | | 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通すこと |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|---------------|-------|--|------------------------|
| 授業科目名 | 子どもの保健 I ② Child Health I | | | 担当教員 | 和田裕一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもの発育発達を理解し、支援する保健活動を健全に遂行するために、環境やそこに住む大人との関係を含め幅広い視野で学習する。 | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 子どもの生活習慣を理解し、取り巻く環境の中で発生する異常を予知し、適切に対応できるよう知識を修得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 健康安全管理の知識 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 事故防止、安全対策への関心 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 胎児期からの発育発達を理解し、その上でからだの仕組みや健康状態について学ぶ。また 精神の問題について親や社会環境とのふれあいから、幅広い視点で学習する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 配慮を必要とする子どもへの対応 [内容] アレルギー、慢性疾患 [授業外学修] 教科書 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応の項通読 | | ⑨ | [テーマ] 子供の精神活動 [内容] 精神発達と障害 [授業外学修] 配布資料通読 | |
| ② | [テーマ] 障害のある子どもへの対応 [内容] 発達障害 [授業外学修] 配布資料復習 | | ⑩ | [テーマ] 環境衛生管理 [内容] 保育環境と整備 [授業外学修] 環境および衛生管理133～149P 事前通読 | |
| ③ | [テーマ] 事故防止健康安全管理 [内容] 子どもの事故について [授業外学修] 事故防止安全管理 教科書 87～99P事前通読 | | ⑪ | [テーマ] 子どもを取り巻く環境の問題① [内容] スマホ、ゲームの影響 [授業外学修] 配布資料学習 | |
| ④ | [テーマ] 救急時の対応 [内容] 救急1次対応について [授業外学修] 事故防止安全管理 教科書100～122P 通読 | | ⑫ | [テーマ] 子どもを取り巻く環境の問題① [内容] 育児放棄 DVなど [授業外学修] 配布資料学習 | |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの生活習慣 [内容] 子どもの生活習慣と心身の健康 [授業外学修] 子どもの保健と環境の項31～49P 事前通読 | | ⑬ | [テーマ] 災害対策と危機管理 [内容] 震災に向けた準備 [授業外学修] 配布資料学習と考察 | |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの生活習慣 [内容] 子どもの生活習慣と心身の健康 [授業外学修] 配布資料学習 | | ⑭ | [テーマ] 保育についての総合討論 [内容] [授業外学修] | |
| ⑦ | [テーマ] 日常の養護① [内容] 子どもの抱き方、哺乳などの基本 [授業外学修] 子どもの発達援助と保健活動 教科書51～69P | | ⑮ | [テーマ] 災害対策と危機管理 [内容] [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] 日常の養護② [内容] 異常反応の把握など [授業外学修] 同上 | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績評価方法は下記の通り | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 20% |
| 授業外レポート | | | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 子どもの保健 II | | | 関連資格 | 保育士資格 |
| 教科書 | 子どもの保健 II ななみ書房 | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通すこと |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|------------|---------|---------|--|
| 授業科目名 | 子どもの保健Ⅱ Child Health II | | | 担当教員 | 和田裕一 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもの保健1で修得した知識の上に、実際に即した演習を行い、考察する。 | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 講義で修得した知識をもとに保健活動の中で思考力、判断力を養い、周囲とのコミュニケーション能力を養う | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 保健活動の内容の理解 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 保健活動の実践 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 胎児期からの発達発育を理解し、その上でからだの仕組みや健康状態について学ぶ。また 精神の問題について親や社会環境とのふれあいから、幅広い視点で学習する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 子どもの発育 [内容] 胎児の発育 [授業外学修]配布資料学習 | | | ⑨ | [テーマ] よく起こる事故① [内容] 事故いろいろ [授業外学修]演習ノート107～115頁 予習 |
| ② | [テーマ] 子供の発育 [内容] 乳幼児の発育の観察と評価 [授業外学修]演習ノート2～18頁 予習 | | | ⑩ | [テーマ] よく起こる事故② [内容] 安全教育 [授業外学修]演習ノート107～115 予習 |
| ③ | [テーマ] 子どもの発達 [内容] 運動機能の観察と評価 [授業外学修]演習ノート28～35頁 予習 | | | ⑪ | [テーマ] よくかかる病気① [内容] 感染症のいろいろ、グループワーク [授業外学修]演習ノート83～94頁 予習 |
| ④ | [テーマ] 子供の発達 [内容] 精神機能の観察と評価 [授業外学修]演習ノート28～35頁 予習 | | | ⑫ | [テーマ] よくかかる病気② [内容] 病気とその対応 [授業外学修]演習ノート94～101頁 予習 |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの健康観察 [内容] 生理機能のチェック [授業外学修]演習ノート41～46ページ 予習 | | | ⑬ | [テーマ] 応急処置の実際① [内容] 応急処置法 [授業外学修]演習ノート125～133頁 予習 |
| ⑥ | [テーマ] 体調不良児への対応 [内容] 発熱、嘔吐などの症状チェックと対応 [授業外学修]演習ノート125～133頁 予習 | | | ⑭ | [テーマ] 応急処置の実際② [内容] 救急対応の実際 [授業外学修]演習ノート125～133頁 |
| ⑦ | [テーマ] 日常の養育 [テーマ] 養育の基本手技(抱き方、寝せ方など) [授業外学修]演習ノート53～67頁予習 | | | ⑮ | [テーマ] 保健活動の計画 [内容] その意義と作成手順 [授業外学修]子どもの保健1の参考書153～168頁 通読 |
| ⑧ | [テーマ] 日常の養育 [内容] 哺乳、食事について [授業外学修]演習ノート53～67頁予習 | | | ⑯ | [テーマ] 総合討論 [内容] 少子高齢化社会における子育て支援 [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績評価方法は下記の通り | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 30% | |
| 授業外レポート | ◎ | | | 50% | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 20% | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 子どもの保健Ⅰ | | | 関連資格 | 保育士資格 |
| 教科書 | 子どもの保健演習ノート 診断と治療社 | | | 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通すこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|---|--|
| 授業科目名 | | 子どもの食と栄養 Nutrition Science for child | | | 担当教員 | 長橋雅人 / 久保佳子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 保育所現場での栄養士の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 心身共に成長の著しい子どもの栄養について講義する。日本の旬や行事を活用した媒体制作を通して食教育の方法を紹介する。また、実習を通して支援者に求められる知識・技術を明らかにする。保育所での実務経験を活かし、栄養士の観点から演習を行う(⑩、⑫回を除く)。 | | | | | | (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 心とからだの成長が著しい成長期の子どもの栄養、食教育について基本的な知識を学ぶ。また、食物アレルギーや特別な配慮を要する子どもへの対応方法について理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 成長段階に合わせた栄養について学習し、必要な食事が説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもの健康的な食生活に寄与できるよう、栄養の重要性に興味・関心を持つ。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 媒体を用いて食教育を企画実施できるようになる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 教科書やガイドラインなどの資料を用いて子どもの栄養について学び、成長段階や環境、個性に適した食事や食育方法を学ぶ。だしの調理やクッキング実習、食育媒体の制作を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法などについて(長橋/久保) [授業外学修]シラバスに目を通しておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 [内容] 家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養について(久保) [授業外学修]教科書 p155～168を予習する | |
| ② | [テーマ] 子どもの健康と食生活の意義 [内容] 子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について説明(久保) [授業外学修]教科書 p11～32を予習する | | | ⑩ | [テーマ] 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 [内容] 疾病及び体調不良の子ども、障害のある子ども、食物アレルギーのある子どもへの対応について(久保) [授業外学修]教科書 p131～151を予習する | |
| ③ | [テーマ] 栄養に関する基本的知識 [内容] 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能について(久保) [授業外学修]教科書 p35～57を予習する | | | ⑪ | [テーマ] 食育の内容と計画Ⅱ [内容] 日本の旬の食材を用いて、食育媒体を計画(長橋) [授業外学修]日本の旬の食材を調べておく | |
| ④ | [テーマ] 栄養に関する基本的知識 [内容] 食事摂取基準と献立作成・調理の基本について(含む実習:基本だし)(久保) [授業外学修]教科書 p60～63を予習する | | | ⑫ | [テーマ] 食育の内容と計画Ⅱ [内容] 日本の旬の食材を用いて、食育媒体を制作(長橋) [授業外学修]時間内で完成できなかった媒体を制作する | |
| ⑤ | [テーマ] 子どもの発育・発達と食生活 [内容] 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について(久保) [授業外学修]教科書 p66～95を予習する | | | ⑬ | [テーマ] 食育の実施と評価Ⅰ [内容] 食育のための環境(含む実習:クッキング時の注意点や支援のポイント)(久保) [授業外学修]配布された資料に目を通しておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの発育・発達と食生活 [内容] 幼児期・学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活について(久保) [授業外学修]教科書 p95～119を予習する | | | ⑭ | [テーマ] 食育の実施と評価Ⅰ [内容] 食育のための環境(含む実習:クッキング時の注意点や支援のポイント)(久保) [授業外学修]実習内容と考察をレポートにする | |
| ⑦ | [テーマ] 食育の基本と内容 [内容] 食教育における用語と教育の一体性、地域関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援について(久保) [授業外学修]教科書 p169～191を予習する | | | ⑮ | [テーマ] 筆記テスト [内容] これまでの授業内容から振り返りのテストを行う(久保) [授業外学修]授業内容を復習しておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 食育の内容と計画Ⅰ [内容] 日本の行事を活用した食教育の計画をする(久保) [授業外学修]日本の行事について調べておく | | | ⑯ | [テーマ] 食育の実施と評価Ⅱ [内容] 旬の食材を活用した食育媒体の発表と評価(長橋/久保) [授業外学修]発表の準備をしておくこと | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| テスト(評価割合50%)、授業外課題(評価割合30%)、授業態度(評価割合20%)を総合的に評価する。欠席・遅刻(やむを得ない理由を除く)、授業への意欲、実習での協調性は授業態度に含まれ、注意しても改善が見られないと判断した場合は減点となる。携帯電話の使用を禁ずる。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない ・20分以上の遅刻は、欠席とする ・欠席届は、事前に担当教員に提出すること(根拠書類の添付) ・授業計画は、多少前後等変更することがある(その場合、事前に説明する) ・授業内の課題は、指定された期日までに提出すること(レポートの提出遅れは、減点となる) ・講義及び実習時は、席、班を指定する |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | ○ | | ○ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | ○ | | | |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 乳児保育 | | | 関連資格 | 保育士免許 | |
| 教科書 | 子どもの食生活《第3版》 ななみ書房 | | | 参考書 | H27年度乳幼児栄養調査結果の概要他ガイドライン | |
| オフィスアワー | 長橋:木・1コマ(D棟2階) 久保:木・3コマ(A棟5階) | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | 子どもの安全管理 Safety management | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育環境上、起こりうる危険を理解し、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点を説明する。事故起こった場合の対応や報告体系を理解し、事故の対策を考えることができるよう学習する。また、運動あそび場や保育現場など様々な場面で発生する可能性がある外傷や疾患の判断および応急処置を講義する。 | | | | | (2) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 乳幼児の事故現状を把握し、保育園の事故防止とリスクマネジメントを理解する。また、事故情報収集概要、分析システム構築の必要性、安全教育の理解を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保育園での事故防止とリスクマネジメントに関連する基礎知識を理解できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 保育園での安全教育の留意点・問題点について関心を持つことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 事故情報収集と分析システム構築することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 授業の前半は、保育園での事故の特徴、リスクマネジメントの方法と戦略を学ぶ。後半は、事故発生後のリスクマネジメント、子どもの動きの発達と事故を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、「健康」とは何か [授業外学修] 近年、保育園の事故防止について調べる | | | ⑨ | [テーマ] 子どもの発達と事故 [内容] 事故発生後のリスクマネジメント、子どもの動きの発達と事故 [授業外学修] 家庭での事故について調べる |
| ② | [テーマ] 保育園の事故防止とリスクマネジメント [内容] 保育園での事故の特徴、リスクマネジメントの方法と戦略 [授業外学修] わが国の乳幼児事故の現状について調べる | | | ⑩ | [テーマ] 事故情報収集と分析システム [内容] 家庭への事故防止、分析システム構築 [授業外学修] 遊具の安全について調べる |
| ③ | [テーマ] わが国の乳幼児事故の現状 [内容] 事故の定義と種類、保育園の事故の国際比較 [授業外学修] 保育園の事故実態について調べる | | | ⑪ | [テーマ] 遊具安全点検 [内容] 点検方法、判断基準、安全管理 [授業外学修] 遊具の安全について調べる |
| ④ | [テーマ] 保育園の事故 [内容] 年齢・クラス別事故、場所別事故、遊具での事故 [授業外学修] 保育士のケガに対する対応能力について調べる | | | ⑫ | [テーマ] 遊具別劣化点検のポイント [内容] 遊具別の点検方法 [授業外学修] 事故後の対応について調べる |
| ⑤ | [テーマ] リスクマネジメントの現状 [内容] 保育園におけるリスクマネジメントの現状と対応能力 [授業外学修] 保育園での事故の特性 | | | ⑬ | [テーマ] 事故後の応急処置 [内容] 状況別対応、応急手当実施可能確認チェックリスト [授業外学修] 安全教育について調べる |
| ⑥ | [テーマ] 事故の特徴と事故パターン [内容] 事故発生場所別の特徴、主な事故パターンと防止策 [授業外学修] 事故防止チェックリストについて調べる | | | ⑭ | [テーマ] 安全教育 [内容] 子どもを守るための危機管理教育 [授業外学修] 事故以外のリスクマネジメントについて調べる |
| ⑦ | [テーマ] 保育園での事故防止 [内容] チェックリストによる事故防止、指導計画・事故防止 [授業外学修] 事故防止チェックリストの記入について調べる | | | ⑮ | [テーマ] 総括 [内容] 地震、火災、食中毒 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] チェックリストの記入状況からみた事故防止対策 [内容] 年齢別・クラス別の事故防止対策 [授業外学修] 幼児の動きと事故について調べる | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学修] テストの準備をしておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 試験は、期末試験(評価割合60%)、授業外課題を評価(評価割合30%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 30% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 幼児体育指導論(2年次) | | | | 関連資格 |
| 教科書 | なし | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20~16:00 | | | | その他 |
| | | | | | 幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員 |
| | | | | | 『運動遊具の安全管理・安全指導スペシャリスト』日本幼児体育学会、大学教育出版 |
| | | | | | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 幼少年スポーツ教育論 Pedagogy of sports education for children | | | 担当教員 | 郡山 孝幸 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・実技・演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼児の発達を促す運動にはどんなものがあるかを幅広い見地から見出しながら望ましい運動指導の在り方と指導法について学ばせる機会とする。 | | | | | (3)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 幼児の運動について自分なりの課題を認識し、幼児に各スポーツ行わせていく際の基本的な考え方、準備、見守り、指導方法等について理解を深めることができる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 幼児に運動に取り組ませるための地域の連携や人的・物的な諸条件の整備の仕方を理解し伝えることができる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 運動好きな幼児をどのように育成していくかの方向性を定めることができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 幼児に対してのスポーツ指導にあたりまず体験し幼児の見本となる程度の技能を身に付けることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各授業のテーマに沿ったスポーツに関しての講義と実技を行い、その後より理解を深めるために幼児対象の指導現場において指導の実際を学ぶ。主体的な取り組みを促し確かな理解を身に付けることを目的とし、自分なりに得た知見をまとめて発表させる。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | | ⑨ | [テーマ] トランポリンの指導方法について① [内容] トランポリンの指導方法について学ぶ(講義) [授業外学修] トランポリンについて幅広い知識を得ること。 |
| ② | [テーマ] 地域における幼児対象のスポーツ指導の基本を知る [内容] スポーツ少年団や総合型スポーツクラブの幼児向け活動について学ぶ。 [授業外学修] 地域における幼児対象のスポーツ指導について調べておく。 | | | ⑩ | [テーマ] トランポリンの指導方法について② [内容] トランポリンの指導方法について学ぶ(見学と実技) [授業外学修] トランポリンについて幅広い知識を得ること。 |
| ③ | [テーマ] 保育所・幼稚園におけるスポーツ指導について① [内容] 保育所・幼稚園におけるスポーツ指導の現状について学ぶ(講義) [授業外学修] 保育所等におけるスポーツ指導について調べておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] スケートボードの指導方法について① [内容] スケートボードの指導方法について学ぶ(講義) [授業外学修] スケートボードについて幅広い知識を得ること。 |
| ④ | [テーマ] 保育所・幼稚園におけるスポーツ指導について② [内容] 保育所・幼稚園におけるスポーツ指導の現状について学ぶ(見学) [授業外学修] 保育所等におけるスポーツ指導について調べておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] スケートボードの指導方法について② [内容] スケートボードの指導方法について学ぶ(見学と実技) [授業外学修] スケートボードについて幅広い知識を得ること。 |
| ⑤ | [テーマ] ボルダリングの指導方法について① [内容] ボルダリングの指導法について学ぶ(講義) [授業外学修] ボルダリングについて幅広い知識を得ること。 | | | ⑬ | [テーマ] 各種幼児向けのスポーツの有用性について① [内容] 体験した各種幼児向けスポーツに関し有用性についてディスカッションをする。 [授業外学修] 幼児対象の指導現場において指導法を観察する。 |
| ⑥ | [テーマ] ボルダリングの指導方法について② [内容] ボルダリングの指導法について学ぶ(見学と実技) [授業外学修] ボルダリングについて幅広い知識を得ること。 | | | ⑭ | [テーマ] 各種幼児向けのスポーツの有用性について② [内容] 体験した各種幼児向けスポーツに関し有用性についてまとめる。 [授業外学修] 観察した指導事例に関し文献と比較整理する。 |
| ⑦ | [テーマ] パルクールの指導方法について① [内容] パルクールの指導方法について学ぶ(講義) [授業外学修] パルクールについて幅広い知識を得ること。 | | | ⑮ | [テーマ] 各種幼児向けのスポーツの有用性について③ [内容] 体験した各種幼児向けスポーツに関し有用性について発表する。 [授業外学修] 観察した指導事例に関し文献と比較整理する。 |
| ⑧ | [テーマ] パルクールの指導方法について② [内容] パルクールの指導方法について学ぶ(見学と実技) [授業外学修] パルクールについて幅広い知識を得ること。 | | | ⑯ | [テーマ] まとめと振り返り [内容] 学習の理解度、到達度を確かめる。 [授業外学修] 前回までの内容を復習しておく。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 各自の取り組みから得た知見をまとめて発表する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ○ | ○ | 60% |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | ◎ | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 子どもと遊び | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 授業内で紹介 |
| オフィスアワー | 火曜Ⅲコマ | | | その他 | 研究室電話番号 0224-55-1491 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|---|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | 体育原理 Philosophy of Physical Education | | | 担当教員 | 高橋 徹 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業では、体育・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。 | | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。また、スポーツを指導する人間に求められる倫理観や教養を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 体育・スポーツに関する諸概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 一貫して「よい体育の追求」および「よいスポーツ指導の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていく。また、この授業では担当教員の高校教員としての実務経験を活かしつつ、各回ごとに異なるテーマを設定した上で講義を進めていく。主なテーマ「体育とスポーツ」「身体教育」「運動指導」「身体文化教育」「指導者」「スポーツ指導の問題」「競技者」「オリンピック」「ルール」「スポーツと美しさ」「スポーツとコミュニティ」「スポーツとの良好な関係」 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ]「体育原理」についてのオリエンテーション [内容]「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学修] 教科書「はじめに」を読んでください。 | | | ⑨ | [テーマ] スポーツ指導の問題性 [内容] 体罰・暴力のメカニズムを解説した上でスポーツ指導の在り方について解説する。 [授業外学修] 教科書「第6章」を読んでください。 | |
| ② | [テーマ] スポーツとは何か？ [内容] スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義について解説する。 [授業外学修] 教科書「第1章第1節」を読んでください。 | | | ⑩ | [テーマ] 競技者の世界と理想の姿 [内容] 競技者とスポーツ愛好者の違い、競技者が競技に惹きつけられる理由、競技者の理想の姿について解説する。 [授業外学修] 教科書「第7章」を読んでください。 | |
| ③ | [テーマ] 体育とは何か？ [内容] 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素について解説する。 [授業外学修] 教科書「第1章第2節」を読んでください。 | | | ⑪ | [テーマ] オリンピックと世界平和 [内容] オリンピズムの本質、オリンピックの問題点、世界平和とオリンピックとの関係について解説する。 [授業外学修] 教科書「第8章」を読んでください。 | |
| ④ | [テーマ] 教科としての体育の成り立ち [内容] 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷、体育理念の変遷について解説する。 [授業外学修] 教科書「第1章第3節」を読んでください。 | | | ⑫ | [テーマ] スポーツのルールを考える [内容] スポーツにおけるルールの機能、およびルールと選手との関係について解説する。 [授業外学修] 教科書「第9章」を読んでください。 | |
| ⑤ | [テーマ] 身体教育という考え方 [内容] 身体教育が対象とする身体の捉え方、および身体教育としてのスポーツの可能性について解説する。 [授業外学修] 教科書「第2章」を読んでください。 | | | ⑬ | [テーマ] スポーツにおける美しさを考える [内容] スポーツと美しさとの関係、およびスポーツと芸術との関係について解説する。 [授業外学修] 教科書「第10章」を読んでください。 | |
| ⑥ | [テーマ] 運動を指導するための考え方 [内容] 運動実践と運動習得、および運動実践と運動指導について解説する。 [授業外学修] 教科書「第3章」を読んでください。 | | | ⑭ | [テーマ] コミュニティとスポーツをめぐる諸問題 [内容] コミュニティとスポーツの現状と課題、およびコミュニティづくりにおけるスポーツの可能性について解説する。 [授業外学修] 教科書「第11章」を読んでください。 | |
| ⑦ | [テーマ] 身体文化教育という考え方 [内容] 身体文化と教育の関係、芸道と身体、身体の模倣と学びについて解説する。 [授業外学修] 教科書「第4章」を読んでください。 | | | ⑮ | [テーマ] スポーツと人間との良好な関係を考える [内容] スポーツがもつ功罪、スポーツとの良好な関係が崩れてしまう要因、良好な関係づくりに向けて求められるものについて解説する。 [授業外学修] 教科書「第12章」を読んでください。 | |
| ⑧ | [テーマ] 体育・スポーツ指導者 [内容] 体育教師の専門性、運動部活動の指導者、体育・スポーツ指導者の身体について解説する。 [授業外学修] 教科書「第5章」を読んでください。 | | | ⑯ | [テーマ] 論述形式での試験を実施 [内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学修] 試験勉強 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 基本的には、試験(70%)、課題(30%)とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容もちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。レポートの返却については申し出に応じて対応し、評価の高いレポートについては授業中に内容を紹介します。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。 3. 講義中は静寂を保ち、静寂を維持できない方は受講をやめてください。 4. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。 5. 詳細については第一回目の講義で説明します。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 70% | |
| 授業内レポート | | ◎ | ◎ | | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 加点対象 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 教員免許状(中・高 保健体育)取得関連諸科目 | | | 関連資格 | 教員免許状(中・高 保健体育) | |
| 教科書 | 高橋徹編(2018)『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』株式会社みらい. 2,000円(税別) | | | 参考書 | 特に指定なし。必要に応じて授業内で提示。 | |
| オフィスアワー | 前期・後期とも水曜2時限目(予定) | | | その他 | 研究室:G棟2階 アドレス:tr-takahashi@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|---|-------|---------|-------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ医学概論 | | | | 担当教員 | 橋本 実 |
| | Introduction to Sports Medicine (L .) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。 | | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学修] 当日配布するプリントを参照すること | | | | ⑨ | [テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ② | [テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑩ | [テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ③ | [テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑪ | [テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ④ | [テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑫ | [テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑬ | [テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑭ | [テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | | | | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ⑧ | [テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 95% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | 5% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | スポーツ医学概論 講義ノート | | | | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | | 運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury (L.) | | | 担当教員 | 橋本 実 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。 スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。 | | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学修]プリントを配布するので参考にすること | | | ⑨ | [テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | |
| ② | [テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑩ | [テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | |
| ③ | [テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑪ | [テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | |
| ④ | [テーマ] 固定法 [内容] 様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | | | ⑫ | [テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | |
| ⑤ | [テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | | | ⑬ | [テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | |
| ⑥ | [テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | | | ⑭ | [テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる | |
| ⑦ | [テーマ] 頭部外傷 [内容] 頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | | | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | |
| ⑧ | [テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 95% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | 5% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 運動障害救急法 講義ノート | | | | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | | 運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports | | | 担当教員 | 川口鉄二 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半年期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校, 中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 体育教師やスポーツ指導者に必須となる科目です。動物や機械とは異なる人間の運動とは何なのか。巧みな動きがはじめて「できる」ようになり、練習によって自在に動けるようになるまでに現れる身体知について。教える側と教わる側を不可分の関係として捉えた指導法について取り上げていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を具体例を示しながら解説していきます。 | | | | | | (1) (2) (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を教える際に不可欠となる基本的運動認識と観察能力について理解できるようにする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 動きを覚える、教えるための身体知が理解できる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学修] 講義の受講方法を理解する | | | ⑨ | [テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学修] 指導という用語の多義性を復習する | |
| ② | [テーマ] 体育・スポーツ指導者にまつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。 [授業外学修] スポーツにどのような問題があるのかを復習する | | | ⑩ | [テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力づくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学修] 体力概念が曖昧なことを復習する | |
| ③ | [テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学修] スポーツ科学の現状について復習する | | | ⑪ | [テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」と「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学修] 身近なコツとカンの例を復習する | |
| ④ | [テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容] 技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフロジー運動学(金子)の発展を概観する。 [授業外学修] 自然科学と運動の理論の違いを復習する | | | ⑫ | [テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容] 「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学修] コツとカンの特性と相互の関係を復習する | |
| ⑤ | [テーマ] 指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる類型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学修] 現在のスポーツ指導の問題点を復習する | | | ⑬ | [テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学修] 観察能力の重要性を復習する | |
| ⑥ | [テーマ] 運動現象はなぜ因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データ化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学修] 運動現象がなぜ複雑なのかを復習する | | | ⑭ | [テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容] 運動アナログン、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学修] 段階的学習の特性について復習する | |
| ⑦ | [テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学修] 専門用語が曖昧な現象を把握する | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学修] 講義全体の内容を復習する | |
| ⑧ | [テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。教える一覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学修] 教師の専門性について復習する | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学修] 参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。レポートは解説した上で返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・運動学に興味をもっていること ・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない) ・授業内容は毎年進化します ・教員志望者は必須です |
| 定期試験 | | ○ | | | 80% | |
| 授業内レポート | | ○ | | | 20% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | ○ | 減点対象 | |
| 出席 | | ○ | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論 | | | 関連資格 | 保健体育教師教員免許 | |
| 教科書 | 運動学講義(大修館) | | | 参考書 | スポーツ運動学(明和出版) | |
| オフィスアワー | 水曜13:00-14:30 | | | その他 | tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|---|-------|---------|--|
| 授業科目名 | スポーツ栄養学 Sports Nutrition | | | 担当教員 | 岩田 純 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 栄養学を基本としてトレーニング前後や試合前後などのスポーツ特有の場面に応じた食事や運動によって活動量が増加した分の栄養摂取、あるいは増量・減量を含めた競技種目に適した身体作りなどについて講義を行う。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 運動をする人の健康維持やスポーツ選手の競技力向上のための栄養摂取について理解できる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | エネルギーや各栄養素と運動の関係や運動時の様々な場面における食事のとり方を説明できる。 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 教科書および配布資料を使い授業を進める。オリエンテーション後の3週分の授業内容は栄養学の基礎知識に関する説明を多く実施し、その後にスポーツに特有な応用的内容を加えていく。3~4つの単元ごとに小テストを実施する。また、筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業内容と進め方、成績評価の方法、スポーツ栄養学とは何かを説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | | | ⑨ | [テーマ] トレーニング期の食事 [内容] トレーニング期の疲労回復のための食事について説明する。 [授業外学修] テキストのトレーニング期の章を読んでおくこと |
| ② | [テーマ] 運動時のエネルギー源(糖質・脂質) [内容] 運動時にエネルギー源となる糖質と脂質の役割について説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(糖質・脂質)の章を読んでおくこと | | | ⑩ | [テーマ] 体重調節と食事 [内容] 減量や増量を行う際の食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学修] テキストの体づくりの章を読んでおくこと |
| ③ | [テーマ] からだ作りとたんぱく質 [内容] たんぱく質の構造、体内での役割・代謝、必要量などについて説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(たんぱく質)の章を読んでおくこと | | | ⑪ | [テーマ] 試合期の食事 [内容] 試合1週間前から前日、当日などの食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学修] テキストの試合期の食事の章を読んでおくこと |
| ④ | [テーマ] 代謝調節とビタミン・ミネラル [内容] ビタミン・ミネラルの主な働きや体の機能維持にどのような関わりがあるのかを説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(ビタミン・ミネラル)の章を読んでおくこと | | | ⑫ | [テーマ] 小テスト [内容] ⑧~⑪までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ⑨~⑪までの内容を復習し、小テストにそなえること |
| ⑤ | [テーマ] スポーツ選手の身体組成 [内容] スポーツ選手の身体組成の評価方法について説明する。また、授業の最初に②~④までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ②~④までの内容を復習し、小テストにそなえること | | | ⑬ | [テーマ] 運動時の体温調節と水分補給 [内容] 運動時の体温調節の仕組みや水分補給について説明する。 [授業外学修] テキストの熱中症予防と水分補給の章を読んでおくこと |
| ⑥ | [テーマ] 身体組成の測定方法 [内容] 身体組成の測定方法について紹介し、それぞれの長所や短所について説明する。 [授業外学修] 前回の授業で扱った身体組成の評価方法を復習しておくこと | | | ⑭ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの授業内容についてのまとめを行う。また、確認のテストを実施する。 [授業外学修] 確認のテストでわからなかったところを復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 推定エネルギー必要量 [内容] 1日のエネルギー消費量にはどんな因子があり、エネルギー消費量の測定方法や推定式を用いた算出方法を説明する。 [授業外学修] テキストの食事摂取基準の章を読んでおくこと | | | ⑮ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験 [授業外学修] 試験に備えて復習をしておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 日常の食事 [内容] 食事バランスガイドを用いた食事の診断方法を説明する。また、授業の最初に⑤~⑦までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ⑤~⑦までの内容を復習し、小テストにそなえること | | | ⑯ | [テーマ] 試験問題の解説 [内容] 筆記試験問題の解説を行う。 [授業外学修] 不正解だった問題を確認して理解すること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 筆記試験(評価割合100%)で成績評価を行うが、授業内で実施する小テストの点数が6割未満の場合は筆記試験の得点から減点され、8割以上の場合は加点される。筆記試験は翌週に返却して解説を行う。小テストは実施直後に解説をしながら自己採点してもらう。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | ○ | | | 加点・減点あり |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | スポーツ・健康栄養学(化学同人) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 前期:水4時限、後期:月4時限 | | | | その他 |
| | | | | | 岩田研究室:D棟2階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ史 Sport History(L.) | | | 担当教員 | 藪 耕太郎 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は個々のスポーツの成り立ちを講義することではない。スポーツを通じて近代社会の特徴や問題点を析出することを目的とする。なお、近代に着目するのは、この時代こそが私たちが生きる「いま・ここ」の基底をなしており、従って近代と向き合うことは、現代を理解し未来を展望することに繋がるからである。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| スポーツをもって近代という時代・社会を語れる能力を獲得して欲しい。その際、近代の延長上にある現代の諸問題を射程に入れて、つまり現在や未来と過去とを結び付けて考察できればなお好ましい。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 近代スポーツについて多角的に考察でき、かつその眼差しをもって近代という時代、あるいは現代社会を投射できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 批判的思考力を駆使してスポーツの現在・過去・未来を語ることができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 学術的な専門用語や概念を駆使できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各回ごとに異なるひとつのテーマ(視点)に基づいて講義をするが、それらは全て「スポーツを通じて近代社会を理解する(≠スポーツを知る)」という大テーマに基づく。従って、スポーツの何を知っているか、ではなく、スポーツを通じて何を語れるか、という点に力点を置いた授業を展開したい。また、この点の習熟度を判定するために、試験は3回に分けて実施する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 近代という時代 [内容] 現代とは、近代の延長線上にあり、かつそれを乗り越えようとする時代である。ここでは近代を理解する必要性と意義を説明する。 [授業外学修] 図書館などでスポーツ関連の著作に触れておく。 | | | ⑨ | [テーマ] スポーツと栄養・健康 [内容] 養生から衛生、そして健康へと至る過程を通じて、生権力としての健康の意味を検討する。 [授業外学修] 体力章検定について調べる。 |
| ② | [テーマ] 近代体育の誕生 [内容] 市民革命期から近代国民国家の誕生過程を追いながら、国民形成と体育の関係を検討する。 [授業外学修] グーツムツやヤーンについて調べる。 | | | ⑩ | [テーマ] スポーツとメディア [内容] 新聞・ラジオ・テレビを通じて、メディアとスポーツの関係性の歴史的变化がもつ意味を検討する。 [授業外学修] ラジオ体操について調べる。 |
| ③ | [テーマ] スポーツと教育 [内容] パブリックスクールを事例に、スポーツと教育との結合について検討する。 [授業外学修] トマス・アーノルドについて調べる。 | | | ⑪ | [テーマ] スポーツと伝統 [内容] 武道の誕生過程に着目し、それが創られた伝統であることを検討する。 [授業外学修] 柔道の歴史を調べる。 |
| ④ | [テーマ] スポーツと階級 [内容] スポーツを介したコミュニティ形成やシティズンシップの育成について検討する。 [授業外学修] パブリックハウスについて調べる。 | | | ⑫ | [テーマ] スポーツと国民 [内容] スポーツに向けられた「眼差し」に着目し、国民という集合的的身体が可視化される過程を検討する。 [授業外学修] ラジオ体操について調べる。 |
| ⑤ | [テーマ] スポーツと帝国主義 [内容] 植民地支配の道具としてのスポーツとスポーツを介した抵抗の可能性について検討する。 [授業外学修] クリケットの歴史を調べる。 | | | ⑬ | [テーマ] スポーツと政治 [内容] 思想善導の手段としてのスポーツについて、大正-昭和戦前期の日本を事例に検討する。 [授業外学修] 運動会の歴史を調べる。 |
| ⑥ | [テーマ] スポーツとジェンダー/セクシュアリティ [内容] スポーツが生み出す様々な性差の問題について、幾つかの歴史的事例を挙げて検討する。 [授業外学修] 人見絹江について調べる。 | | | ⑭ | [テーマ] 到達度確認テスト①—基礎 [内容] これまでの授業で扱った内容の基礎的な用語や概念を理解したかを判定する。 [授業外学修] 用語などの復習。 |
| ⑦ | [テーマ] スポーツと人種 [内容] スポーツと人種主義について、セントルイス五輪・ベルリン五輪・メキシコ五輪を事例に検討する。 [授業外学修] いずれかの五輪について調べる。 | | | ⑮ | [テーマ] 到達度確認テスト②—展開 [内容] これまでの授業で扱った内容の総合的な理解度を判定する。 [授業外学修] 授業内容全体の復習。 |
| ⑧ | [テーマ] スポーツと労働 [内容] スポーツが気晴らしからレクリエーション(労働力の再生産)へと移行することの意味を検討する。 [授業外学修] 新中間層ということばを調べる。 | | | ⑯ | [テーマ] 到達度確認テスト③—応用 [内容] 近代スポーツ史の知識をもとに現代スポーツの諸問題の所在を的確に抽出し批判できるかを判定する。 [授業外学修] 現代スポーツの問題点の洗い出し。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績の大部分は到達度確認テスト(定期試験)の点数で評価する。また、自学自習(授業外レポート)の提出の有無、回数、内容に応じて加点する。自学自習の提出は執筆要件を含めて任意だが、レポート作成時に利用した文献などの出典は必ず明記すること。それが無い場合は判定しない。優れた自学自習の内容は授業時間を通じてフィードバック(解説)し、添削のうえ提出者に返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スポーツ社会学 体育原理 その他教養科目全般 | | | 関連資格 | 教員免許状(中高保体) |
| 教科書 | 使用しない | | | 参考書 | 授業時に適宜アナウンスする |
| オフィスアワー | 前期:月曜2コマ 後期:水曜2コマ | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|-------------------------------|-------|-------------------|---|--|------------------|
| 授業科目名 | | 衛生・公衆衛生学 Public Health(L.) | | | 担当教員 | 小松正子/高橋弘彦 | |
| 開講内容 | | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 健康診断実務経験を有する(小松) |
| | | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。 | | | | | | | (1)(2)(3) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。 | | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| テキスト、配布資料、パワーポイントをもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるための小問も随時課し、提出させる。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | | |
| ① | [テーマ] 衛生・公衆衛生学とは(小松) [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する。公衆衛生と社会の関わりの実例を学ぶ。 [授業外学修]社会における役割について復習しておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 環境の把握とその評価(1)(高橋) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等)。 [授業外学修]地球環境問題とその影響について復習しておくこと | | |
| ② | [テーマ] 健康の概念、医事法規(小松) [内容] 健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規等の制度についても学ぶ。 [授業外学修]他者に説明できるよう復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] 環境の把握とその評価(2)(高橋) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等)。 [授業外学修]生活環境問題とその人体影響について復習しておくこと | | |
| ③ | [テーマ] 生活習慣病概論(小松) [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。事例として、特定健診・特定保健指導についても学ぶ。 [授業外学修]各自の生活習慣を見直して、考察する。 | | | ⑪ | [テーマ] 環境の把握とその評価(3)(高橋) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等)。 [授業外学修]化学的環境問題とその人体影響について復習しておくこと | | |
| ④ | [テーマ] 健康づくり施策(小松) [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷。健康診断現場での実務経験も活かし、大局的観点から現状をとらえ考察する。 [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 環境の把握とその評価(4)(高橋) [内容] 生物的環境問題について(ウイルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学修]生物的環境問題とその人体影響について復習しておくこと | | |
| ⑤ | [テーマ] 禁煙など [内容] 公衆衛生上の身近な課題として、禁煙(運動の健康行動への影響等)、食中毒、有機溶剤などについて学ぶ。生活習慣変容を理解する。 [授業外学修]各自の生活を見直して、考察する。 | | | ⑬ | [テーマ] 物理的環境要因(1)(高橋) [内容] 気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する。 [授業外学修]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと | | |
| ⑥ | [テーマ] 運動基準・運動指針(小松) [内容] 健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイド等を理解する。 [授業外学修]各自の運動習慣を見直して、考察する。 | | | ⑭ | [テーマ] 物理的環境要因(2)(高橋) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する。 [授業外学修]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと | | |
| ⑦ | [テーマ] 介護予防概論(小松) [内容] 高齢社会で公衆衛生上の重要課題である介護予防について、考え方や実践例について学ぶ [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ(高橋) [内容] 全体を振り返る。 [授業外学修]各自、理解不足の箇所を補習すること | | |
| ⑧ | [テーマ] 軽度認知障害、認知症 [内容] 現代の課題である認知症や関連疾患について学ぶ [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする。 [授業外学修] | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。そのほか、理解度確認のための小問を時折行い、その回答をまとめたものの配布・解説などとする。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。 授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更することがある。 | |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% | | |
| 授業内レポート | | | ○ | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | 注意参照 | | |
| 出席 | | | | | | | |
| 関連科目 | 学校保健学等 | | | 関連資格 | 保体科教諭、健康運動指導士・実践指導者、社会福祉士主任任用資格等 | | |
| 教科書 | 衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション) | | | 参考書 | 特になし | | |
| オフィスアワー | 小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階) | | | その他 | | | |

4. 応用科目

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 日本国憲法 Constitution of Japan | | | 担当教員 | 加藤 英俊 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べるができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| シラバスに挙げた事項につきテキストの関係箇所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス・導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑨ | [テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審(最大判昭42・5・24) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ② | [テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑩ | [テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ③ | [テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位:最高法規性の意味 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑪ | [テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)、 津地鎮祭事件(最大判昭52・7・13) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ④ | [テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑫ | [テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑤ | [テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) 尊属殺重罰違憲判決(最大判昭48・4・4) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑬ | [テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑥ | [テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、日産自動車事件(最判昭56・3・24) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑭ | [テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、板まんだら事件(最判昭56・4・7) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑦ | [テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件(最判昭56・3・24) 三菱樹脂事件(最大判昭48・12・12) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑮ | [テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、警察予備隊違憲訴訟 [授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | ワンステップ憲法(嵯峨野書院) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|-------|---------|--|--|
| 授業科目名 | 教育の制度B System of Education (L.) | | | | 担当教員 | 金井里弥 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について講義する。 | | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| ①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。 ②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 教育法規の基礎を紹介したうえで、教育の様々な側面から具体的な制度の在り様を見ていく。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと。 | | | ⑨ | [テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかんして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学修] 講義内容を予習・復習。 | |
| ② | [テーマ] 教育法規の基礎知識 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学修] 教育法規について予習・復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] 教育職員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。 | |
| ③ | [テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学修] 教育基本法について予習・復習する。 | | | ⑪ | [テーマ] 教育課程と教科書制度 [内容] 教育課程の編成、近年の改革動向、教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。 | |
| ④ | [テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学修] 学校教育法における義務教育制度を予習・復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 日本における学力問題と学力政策 [内容] 学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学修] OECDのPISAが教育に与えた影響について調べる。 | |
| ⑤ | [テーマ] 中央教育行政の理解 [内容] 中央教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学修] 文部科学省および内閣府の教育政策について調べる。 | | | ⑬ | [テーマ] 教員の資質向上と教員政策 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みと政策動向を理解する。 [授業外学修] 近年の教員政策について調べる。 | |
| ⑥ | [テーマ] 地方教育行政の理解 [内容] 地方教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学修] 地方教育行政の仕組みについて予習・復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 教育問題をどう見るか～「教育問題」は作られる～ [内容] 学校教育における事象が教育問題として、解消の対象とされるプロセスを理解し、教育問題の捉え方について考える。 [授業外学修] 近年の教育問題について調べる。 | |
| ⑦ | [テーマ] 学校の設置と管理運営 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学修] 本講義の要点の確認とその復習を行う。 | |
| ⑧ | [テーマ] 学校・学級内の制度 [内容] 出席停止、懲戒、学校の設備を中心に、学校・学級内の制度を理解する。 [授業外学修] 関連法規の主要な条文の内容を予習する。 | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学修] 本講義の要点の確認とその復習を行う。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験を80%、レポート20%とするが、宿題や授業参加の程度によって総合点に点数を加減する。 なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 試験およびレポートの採点結果は、期末試験後に開示する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。 ・毎回の予習(宿題)を必須とする。 ・指定している教科書は毎回必ず持参すること。 ・学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。 ・※学習環境を損なう行為については厳格に対処する。 ・履修希望者は第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。 |
| 定期試験 | | | | | 80% | |
| 授業内レポート | | | | | 20% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | 加減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 教職論C、教職課程論B | | | | 関連資格 | 教員免許状 |
| 教科書 | 『必携教職六法』(2018 or 2019年度版) | | | | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (研究室:A棟304) | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|---|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 教育と社会 Education and Society (L.) | | | 担当教員 | 三谷高史 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) |
| 子どもは社会的な存在であり、その子どもに働きかける教育という営もまた社会的なものである。本講義では教育に関わる誰もが知っているような事柄(学力、不登校など)を取り上げ、主に教育社会学の知見を用いてそれらを解説する。 | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 教育社会学の知識、考え方を理解・習得し、さらには学校と地域との連携、学校及び保育施設の安全への対応に関する知識の理解・習得する。それらを通して、教育を社会的営みとして捉えることができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 講義で解説された知識を正確に理解している。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 世の中で起きている教育「問題」に関心を持ち、その「問題」に対して批判的な思考ができる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 講義の内容、自分の経験や他者の意見を踏まえて、教育に対する自分の意見を論じることができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 毎回、具体的な教育事象や、教育「問題」を取り上げ、主に教育社会学の知見からそれらを解説する。基本的には講義形式となるが、適宜グループディスカッションの機会を設け、受講者同士での意見交換もしてもらう。また、特定のテーマについての小レポートにも取り組んでもらう。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]教育をめぐる常識を問いなおすことがなぜ必要なのか [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などを説明する。 [授業外学修]新聞・雑誌記事を探し、読み、まとめる | | | ⑨ | [テーマ] 学校制度の社会学(2):秩序性 [内容] 学校知識や学校生活が持つ秩序性について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ② | [テーマ] 学校のある社会 [内容] 今の社会にとって学校は当たり前の存在である。その社会の特徴を「学歴社会」「メリトクラシー」といった概念を用いて解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑩ | [テーマ] 学校制度の社会学(3):文化性 [内容] 学校文化(制度文化・教員文化・生徒文化)について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習し、小レポートに取り組む |
| ③ | [テーマ] 階層と教育(1) [内容] 社会階層と教育の関係について、「階層移動」「文化的再生産論」といった概念を用いて解説をする。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑪ | [テーマ] 教育の中のジェンダー [内容] 教育現場・保育現場におけるジェンダーの「問題」について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ④ | [テーマ] 階層と教育(2) [内容] 国内外における学力と階層の問題について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑫ | [テーマ] 教育と経済学:幼児教育無償化 [内容] 幼児教育無償化を素材に、日本における教育経済学の展開とその知見について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑤ | [テーマ] 教師の社会学 [内容] 日本の教師が置かれている状況や役割、変化しつつある教員養成のシステムについて解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑬ | [テーマ] 戦後日本の「地域と教育」論 [内容] 戦後日本において実践と研究が積みかさねられてきた「地域と教育」論について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの社会学(1) [内容] 社会的存在としての子どもについて、「社会化」「有能な行為者」といった概念を用いて解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑭ | [テーマ] 学校・幼稚園・保育施設と安全管理 [内容] 部活動事故や「ヒヤリ・ハット」実践などを取り上げ、学校や幼稚園、保育施設での安全管理について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 子どもの社会学(2) [内容] 子どもの権利条約、現在の子どもが置かれている状況(メディア環境や青年期との接続問題)について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑮ | [テーマ] まとめ:「教育と社会」という問題 [内容] 講義内容を振り返り、教育が社会的営みであることを確認し、教育と社会の相互規定性について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 学校制度の社会学(1):集中性 [内容] 近代学校が多くの資源を必要としてきた/している事を解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 授業内容の理解度を問う選択式、記述式、論述式の試験を実施する。 [授業外学修]講義内容を復習し、試験に備える |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内でレポート(10%)、授業外レポート(20%)、期末試験(70%)で総合的に評価する。レポートにかんしては、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては個別に対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 70% |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 | | | | | |
| 関連科目 | 教育の基礎理論B | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。 | | | 参考書 | 内閣府・他(2017)『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社 |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50 | | | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|-------------------|---|--|
| 授業科目名 | | 幼児理解の理論と方法 Counseling approach for Infant | | | 担当教員 | 氏家靖浩 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 教育相談(カウンセリング)の理論を参照しながら幼児を理解する方法論について講義する。同時に特別支援教育の基礎知識とカンファレンスの技法についても説明し、保育・教育現場に還元できる内容にする。 | | | | | | (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 幼児を理解する姿勢は、実は保育者が自分自身と向き合っていく過程であるということを体験的に理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児理解で必要とされる教育相談の理論について説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児と向き合うために、自らの感性を磨く必要があることを体感する。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 幼児理解で必要とされる行動観察とカンファレンスの技法を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 幼児を理解しようとする際に求められる教育相談の理論と技法については講義を通して学ぶ。感性を磨くためには、自ら意見を述べる教室内のアクティブラーニングから学ぶ。行動観察については、実際にレポートを作成し、相互の批評を通して学ぶ。履修ガイダンスを1回目と中盤で行い、学習のスタイルについても敏感になってもらいたい。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス・幼児理解を学ぶ意義 [内容] ガイダンスによって本授業の学び方を知る。幼児理解の基本的な枠組みを講義する。 [授業外学修]何をどう学ぶかについて整理する。 | | | ⑨ | [テーマ] 気がかりな子どもの特性 [内容] 特別支援教育の初歩的な知識を解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 生涯発達から見た幼児期 [内容] 幼児期の特性について検討する。 [授業外学修]この授業以外で使用している発達系の教科書を熟読すること。 | | | ⑩ | [テーマ] 気がかりな子どもへの対応 [内容] インクルーシブ教育システムの初歩的な知識を解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ③ | [テーマ] 自らの幼児期を振り返る [内容] 教室内アクティブラーニングとして学んだことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学修]体験した内容を再確認しておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 同僚とのチームアプローチ [内容] 幼児理解を促進させる同僚とのチームの組み方を考える。たとえばチーム学校の概念について解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ④ | [テーマ] 幼児を理解するための教育相談におけるカウンセリングのアプローチ [内容] 幼児理解に活かす教育相談のカウンセリング理論について解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] 関係機関とのチームアプローチ [内容] 幼児理解を促進させる関係機関とのチームの組み方を考える。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ⑤ | [テーマ] 心が救われた体験を分かち合う [内容] 教室内アクティブラーニングとして学んだことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学修]体験した内容を再確認しておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] 保護者理解 [内容] 現代の子育ての課題と保護者の苦悩、親理解について解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ⑥ | [テーマ] 行動観察の方法 [内容] 行動観察の基礎的な知識を解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] いわゆるモンスターペアレントを考える [内容] 近年話題になるモンスターペアレントについて解説する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ⑦ | [テーマ] 行動観察の実践 [内容] ビデオエスノグラフィーの手法を体験する。 [授業外学修]体験した内容を再確認しておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] 質問に応じたレポートを教室内で作成し復習する。 [授業外学修]学んだ内容を再確認しておくこと。 | |
| ⑧ | [テーマ] 行動観察の考察 [内容] 教室内アクティブラーニングとして行動観察で気づいたことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学修]体験した内容を再確認しておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業内・外レポートを総合的に評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 たんに授業で学ぶだけではなく、教員と対話することによって体験的に学ぶことに気づいて欲しい。 |
| 定期試験 | | | | | 40% | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 60% | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | ○ | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状 |
| 教科書 | 「スクールカウンセリングと発達支援」ナカニシヤ出版 | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため、教育企画室に問い合わせること。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|--|-------|---------|-------------------|--|----------------|
| 授業科目名 | | 教育方法論B Educational Methodology B(L.) | | | 担当教員 | 荒井 龍弥・佐藤 哲也 | |
| 開講内容 | | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | (荒井)小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する | |
| | | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 指導者の立場から、授業・保育実施にあたり検討すべきことについて検討をおこなう。また授業・保育実践から学ぶべき情報内容と教育研究上での位置づけにつき説明を加える。これらをもとに指導スタイルの確立や改善向上の方法の獲得を目指す。 | | | | | | | (4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| よい授業・保育を創るための方法とその技術をテーマとし、学習を支援するという立場から、指導計画・指導方法に対する学習者の反応や、指導者と学習者の相互作用を予測しながら、教育場面の展開を考え学習指導案を作成することができるようにする。さらに情報機器を活用した効果的な授業や教材の作成・活用に関する基礎的能力を身につける。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 授業・保育のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとする事ができる。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 学習を支援する側の論理や考え方や、学習者側の論理・考え方の双方を理解するとともに関心を持ち、自らも両者の視座に立ち問題を検討しようとする事ができる。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による学習者の反応の違いを予想することができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 授業・保育を実施する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられているのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立や改善向上を目指すべく援助していく。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション・授業の道具立て(荒井・佐藤) [内容] 授業を左右する諸要因について解説し、その必要性と学習結果におよぼす影響を知る。 [授業外学修] 理想的な道具立てについて考えてみる | | | | ⑨ | [テーマ] 板書の方法とノンバーバル・コミュニケーション(荒井) [内容] 板書の際の留意点について検討すると共に、立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。 [授業外学修] 他の授業などでも教師の振る舞いを観察すること | |
| ② | [テーマ] 目標・行動目標と型わけ(荒井) [内容] さまざまな活動に理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学修] 身近な教材で、改めて自らの理解を検討すること。 | | | | ⑩ | [テーマ] 環境構成・再構成に基づく生活と遊びの総合的指導(佐藤) [内容] 幼児の自発的な活動としての遊びを誘発し展開・発展させていく条件としての環境(もの・ひと・こと)について、その構成と再構成の理論を解説する。 [授業外学修] 幼稚園教育要領や幼稚園教育要領解説の総則について熟読すること。 | |
| ③ | [テーマ] 学習指導の理論〜ルレグシステム(荒井) [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレグシステムについて説明をする。さらに教科書の記述を分析してみる。 [授業外学修] 他の単元、テキスト等でも分析してみる。 | | | | ⑪ | [テーマ] 人的環境としての教師の影響(佐藤) [内容] 幼児に与える教師の影響について、姿、服装、声、幼児との関係性等の視点から、解説するとともに、簡単なワークショップを実施する。 [授業外学修] 佐藤哲也編著『子どもの心によりそう保育者論』(福村出版)第1章を熟読すること。 | |
| ④ | [テーマ] 発問とアクティブ・ラーニング(荒井) [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学修] 身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考える | | | | ⑫ | [テーマ] 保育方法の実践展開(佐藤) [内容] 保育実践現場で収集した画像や動画を紹介しながら、保育方法の実際について解説していく。 [授業外学修] ホテトを実施するので、保育方法に関わる授業内容について復習しておくこと。 | |
| ⑤ | [テーマ] 教育評価のサイクル(荒井) [内容] 一連の授業の計画、実施、振り返りにおける教育評価のポイントとその繰り返しによる授業改善の必要性について考える。 [授業外学修] 各時点における評価内容について整理しておくこと。 | | | | ⑬ | [テーマ] 情報機器の活用① 授業で用いられるメディアの発展 [内容] 教育現場で用いられる各種メディアを紹介し、その得失と使用上の留意点を中心に述べる。 [授業外学修] 自分なりにメディアの利用上の得失について検討すること。 | |
| ⑥ | [テーマ] 指導言① 説明・指示(荒井) [内容] 説明の種類とその学習効果、指示の内容とタイミングの重要性について検討するとともに、より有効な説明や指示の方法を考える。 [授業外学修] 様々な場面での説明・指示内容を検討してみる。 | | | | ⑭ | [テーマ] 情報機器の活用② 自作動画の制作と効果 [内容] 教育における映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学修] 任意の内容で自作映像の内容や構成について考えてみる | |
| ⑦ | [テーマ] 指導言③ 発問(荒井) [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学修] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみる。 | | | | ⑮ | [テーマ] 情報機器の活用③ 双方型情報機器の活用・情報モラル [内容] 教育現場で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点、情報モラルの問題を紹介する。 [授業外学修] 教育者の情報モラルについて改めて整理しておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 指導言④ 発問作成練習(荒井) [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学修] 自分が作成した発問案をさらに修正してみる。 | | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] 授業実践を深め、検討する方法についてまとめ、教職を基盤とした自らの人生について改めて考える。 [授業外学修] 自らの指導者としてのライフコースについて改めて考える | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 相互の評価のために、小テスト・授業内レポートをほぼ毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。 教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。 | |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 40% | | |
| 授業内レポート | | ◎ | ○ | △ | 50% | | |
| 授業外レポート | | | | ○ | 10% | | |
| 演習・実技 | | | | | 対象としない | | |
| 授業態度 | | | | | 加減点要素 | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭 | |
| 教科書 | | | | | 参考書 | 宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規 | |
| オフィスアワー | 荒井A309 前期 月 4時限、後期 月3時限 | | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|--|-------|--|-------------------------------|
| 授業科目名 | | 保育内容指導論 Teaching guidelines for childcare | | 担当教員 | 原田 健次 |
| 開講内容 | 学年・学期 | | 授業方法 | 実務経験の有無 | 保育所所長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身につける。具体的に保育現場で行われている保育実践ビデオを視聴し、「ねらい」と「内容」そして「指導・援助方法」を理解し、指導案を計画し模擬保育を行い、振り返りを行うことで省察力を身に付ける。 | | | | | (1)(2)(3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 幼児教育において育みたい資質能力を理解し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」に示された5領域のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動き等を視野に入れた保育内容の重要性を理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する力及び保育を改善する視点を身に付けることができる。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬授業を行い、振り返りを行うことで省察力を身に付ける。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 保育現場で行われている保育実践ビデオを視聴し、「ねらい」と「内容」そして「指導・援助方法」を理解し、指導案を計画し模擬保育を行い、振り返りを行うことで省察力を身に付ける。また、子育て支援、小学校や地域・保護者との連携、障がいのある子どもへの保育など様々な視点から保育を捉え事例をもとに学習を進めていく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 保育・幼児教育の基本 [内容] 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」を読み込む [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | ⑨ | [テーマ] 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」各領域との関連(環境・言葉・表現) [内容] 「環境」「言葉」「表現」と関係の深い「10の姿」を取り上げ幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点について事例をもとに考える。 [授業外学修] 「環境」「言葉」「表現」領域を復習しておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 各領域のねらい及び内容と指導上の留意点(健康) [内容] 幼児が経験し身に付けていく「健康」領域の保育内容を深めていく。 [授業外学修] 「健康」領域を熟読しておくこと。 | | ⑩ | [テーマ] 模擬保育の「指導案の構造理解」「指導計画づくり」 [内容] 運動あそびの「指導計画案」を作成する。 [授業外学修] 「指導案」について復習しておくこと。 | |
| ③ | [テーマ] 各領域のねらい及び内容と指導上の留意点(人間関係) [内容] 幼児が経験し身に付けていく「人間関係」領域の保育内容を深めていく。 [授業外学修] 「人間関係」領域を熟読しておくこと。 | | ⑪ | [テーマ] 模擬保育の実施(1)「教材」の効果的活用 [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] 「教材研究」について復習しておくこと。 | |
| ④ | [テーマ] 各領域のねらい及び内容と指導上の留意点(環境) [内容] 幼児が経験し身に付けていく「環境」領域の保育内容を深めていく。 [授業外学修] 「環境」領域を熟読しておくこと。 | | ⑫ | [テーマ] 模擬保育の実施(2)ITC活用の「振り返り」 [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。ITCを活用し視覚化をする。 [授業外学修] 「振り返り」について復習しておくこと。 | |
| ⑤ | [テーマ] 各領域のねらい及び内容と指導上の留意点(言葉) [内容] 幼児が経験し身に付けていく「言葉」領域の保育内容を深めていく。 [授業外学修] 「言葉」領域を熟読しておくこと。 | | ⑬ | [テーマ] 模擬保育の実施(3)全体協議での「振り返り」 [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。省察について深める。 [授業外学修] 「振り返り」について復習しておくこと。 | |
| ⑥ | [テーマ] 各領域のねらい及び内容と指導上の留意点(表現) [内容] 幼児が経験し身に付けていく「表現」領域の保育内容を深めていく。 [授業外学修] 「表現」領域を熟読しておくこと。 | | ⑭ | [テーマ] 小学校の教科とのつながりの理解 [内容] 「教科学習」の理解と学校教育の実践映像を通して保育を学ぶ。 [授業外学修] 教科と領域の違いについて調べておくこと。 | |
| ⑦ | [テーマ] 「育みたい資質・能力」の3つの柱の理解 [内容] 3つの柱を理解し、園生活の様々な場面や活動について実際の保育実践事例等を通して子どもの育ちを深めていく。 [授業外学修] 保育内容5領域を復習して理解しておく。 | | ⑮ | [テーマ] 保育実践の動向と保育構想の理解 [内容] まとめとして保育内容のねらい及び内容について幼児の発達に応じた保育を構想する方法を学ぶ。 [授業外学修] 保育内容全般を復習しておくこと。 | |
| ⑧ | [テーマ] 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」各領域との関連(健康・人間関係) [内容] 「健康」「人間関係」と関係の深い「10の姿」を取り上げ幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点について事例をもとに考える。 [授業外学修] 「健康」「人間関係」領域を復習しておくこと。 | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習しておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 期末試験(評価割合50%)授業態度(評価割合20%)授業内レポート(評価割合30%)提出されたレポートは授業内で解説をしながら返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 20% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20~15:50 | | | | その他 |
| | | | | | 幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 乳児保育 Infant Care and Education | | | 担当教員 | 柴田千賀子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 乳児保育の理論と実際について、学びを深める。人間形成の基礎時期である乳児保育の理論と知識を具体的事例を通して学び、乳児の理解を深める。 | | | | | (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 子どもの豊かな育ちを願い、子ども理解の探究を続ける保育士を目指す。乳幼児の発育発達について理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 乳幼児の心身の発達や保育者としてのかかわりについて理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもを理解するための様々な学び(子どもを対象とした演習を含む)に意欲的に取り組む。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 乳幼児とのかかわりについて具体的な演習を通して理解を深め、技術を身につける。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 乳幼児の心身の発達の全体像や、保育者としてのかかわり方などについて講義と演習を通して具体的に学ぶ。各年齢の発達およびかかわりについて、講義で学んだ内容について理解を深めるために、観察保育やロールプレイで実践する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス・乳幼児保育の基本 [内容] ガイダンスを実施する。乳幼児保育の基本について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 手作り玩具の製作 [内容] 手作り玩具について、自身の考えのもとに実際に製作する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ② | [テーマ] 乳児の発達と保育 [内容] 乳児の発達と保育について解説する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 手作り玩具の発表① [内容] 作製した玩具について発表する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ③ | [テーマ] 乳児保育の必要性(社会的背景) [内容] 乳児保育の必要性について、具体的な社会的背景をもとに解説する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 手作り玩具の発表③ [内容] 手作りした玩具を用いて、1, 2歳児と共に遊び、玩具の自己評価を実施する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ④ | [テーマ] 乳児保育の実際(さまざまな保育サービス) [内容] 乳児保育の実際について、さまざまな保育サービスがあることを自ら調べ、要点を発表する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 人的環境としての保育者のありかた [内容] 人的環境としての保育者のありかたについて解説する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 乳児の食事 [内容] 乳児の食事について解説し、ミルクや離乳食の実食を通して理解を深める。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 乳児保育における物的環境のありかた [内容] 乳児保育における物的環境のありかたについて解説する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 乳児の睡眠・排泄 [内容] 乳児の睡眠・排泄について解説し、乳児人形を用いた演習を通して技術を身につける。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 乳児期の指導計画・デイリープログラム [内容] 乳児期の指導計画・デイリープログラムについて学び、立案する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 乳児の着脱・沐浴 [内容] 乳児の着脱・沐浴について解説し、乳児人形を用いた演習を通して技術を身につける。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 乳児の発達に即した玩具 [内容] 乳児の発達に即した玩具について解説し、実際に遊具で遊ぶことにより理解を深める。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | | 40% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | | 40% |
| 演習・実技 | | | ◎ | | 20% |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 柴田研究室(LC棟2F) オフィスアワー 火曜日11:50~12:30 | | | | その他 |
| | | | | | 保育士資格 |
| | | | | | 「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|---------|---------|--|
| 授業科目名 | 社会的養護内容 Aspects of Alternative Care in Childhood | | | 担当教員 | 千葉喜久也 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活の支援・自立支援等の方法と技術を理解するとともに、保育者としての支援力を習得する。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1 社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。2 施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する。3 個々の子どもに応じた自立支援計画、児童発達支援計画書等の作成の意味と留意点を理解する。4 児童福祉施設での保育士の役割を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 現代社会における社会的養護の意義と役割について体系的に学ぶ。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 社会的養護を必要とする子どもや施設養護の実際に触れ、社会的養護の現状や課題に更なる関心を持つ。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 社会的養護に関わる相談援助の知識・支援について自らの言葉で表現することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 社会的に養護を必要とする子どもを支援するには、社会的養護の意義と役割について体系的に理解することが必要である。本授業では、こうした知識や実践力が身に付くよう社会的養護について基礎から丁寧に教授する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、子どもの権利擁護 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの説明。子どもの権利擁護について [授業外学修] 子どもの権利擁護について調べる | | | ⑨ | [テーマ] 日常生活支援に関する事例分析 [内容] 事例を基に、心理的支援のあり方を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ② | [テーマ] 社会的養護における保育士等の倫理及び責務 [内容] 社会的養護における保育士等の倫理及び責務の理解 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] 自立支援に関する事例分析 [内容] 社会的養護の子ども退後の進路、自立について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ③ | [テーマ]施設養護の特性及び実際① [内容] 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について具体例を挙げながら解説する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 記録及び自己評価(ケースカンファレンス)について [内容]記録の意義と役割、自己評価について理解を深める [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 施設養護の特性及び実際② [内容] 児童心理治療施設、児童自立支援施設、障がい児施設について具体的な例を挙げながら解説 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 社会的養護における保育士の専門性 [内容] 社会的養護における保育士の専門性について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 家族養護の特性及び実際 [内容] 里親制度、ファミリーホーム事業、養子縁組制度について具体的例を挙げながら解説 [授業外学修] 人権擁護についての新しい発見を分かち合うための予習 | | | ⑬ | [テーマ] 社会的養護におけるソーシャルワークについて [内容] ソーシャルワークの意味と実践について理解する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 会福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 施設の小規模化と地域のかかわりについて、今後の課題と展望 [内容] 施設の小規模化の方向、課題と展望について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 社会的養護におけるケアマネジメント [内容] ケアマネジメントの意味と実際を学ぶ [授業外学修] ケアマネジメントの意味と実際を学ぶ | | | ⑮ | [テーマ] 今後の社会的養護の課題と展望 [内容] 社会的養護の大転換の背景と取り組みについて学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] 自立支援計画の作成 [内容] 自立支援計画とは何か、自立支援計画の実際を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する [授業外学修] これまでの学習をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講学生に望むこと) ・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。社会的養護の意義と実際を理解したうえで、保育士のかかわり、専門性について理解を深めていただきたい。 社会的養護に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。 |
| 定期試験 | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | ◎ | | 10% | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | 40% | |
| 出席 | | | ◎ | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 社会福祉主事任用資格・保育士 | | | 関連資格 | 社会福祉主事任用資格・保育士 |
| 教科書 | 『社会的養護2(基本保育シリーズ)』 中央法規 相澤 仁編集 | | | 参考書 | 授業時に指示する |
| オフィスアワー | 水曜日12:40-14:10 | | | その他 | 千葉喜久也研究室F棟2階 |

2019年度 子ども運動教育学科

| | | | | | | | |
|--|--|---|---------|--|--|-----------------------------------|----------|
| 授業科目名 | | 相談援助 Counseling Aid | | | 担当教員 | 青沼 一民 | |
| 開講内容 | | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 小・中学校での教員経験を有する | |
| | | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) | |
| 相談援助は幼児指導、遊び指導と同様に重要な機能概念である。本授業は幼児教育相談として、その理論と内容・方法・指導体制・心理査定・関係心理学等を体系的に講義するものである。さらに、「相談援助」として発達障害、虐待、育児放棄といった現場で直面している課題を小・中学校での実務経験を活かし、どのような支援・対応が望ましいのかについて演習を行う。 | | | | | | (1) (2) (3) (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 幼稚園における相談援助活動の意義や原理、目的、方法、内容、技法、背景となる心理学的基礎、指導体制、幼児理解や心理アセスメントを理解する。さらに、幼稚園における発達障害、虐待、育児放棄等の様々な相談援助上の現状と課題を把握・理解し、相談援助の基礎的技法を知り、現場での活用に繋げられるように考察する。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 相談援助の歴史、意義、原理、目的、方法、内容、技法、背景、関係心理学、指導体制等について理解し、説明できるようにする。また、相談援助の現状と課題を把握・指摘し、より望ましい相談援助のあり方を説明できる。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児のより良い人格の発達や有意義で、興味深く、充実した幼稚園生活が送れるような相談援助に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の職員と協働しながら相談援助活動に参加する意思・意欲を持つことができる。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な支援活動を通して教員としての幼児教育相談の活用を身に付けることができるようにする。さらに、相談援助上の諸問題について様々な情報網を使いながら、実践力を高めることができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 各授業やのテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取り組みや教育ボランティア等を勧める。さらに、実践的事例の演習、また現場参観実習を通して、相談援助の周辺領域に係る科目(学校保健・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することを勧めながら、より効果的に行う。また、外部講師等を招いて実務経験を活かした講義を行う。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許取得における位置づけ、授業計画、授業の進め方、成績評価の方法、その他留意事項について説明する。 [授業外学修] シラバス・印刷プリントを準備しておく。 | | | ⑨ | [テーマ] 相談援助のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(2) [内容] 相談援助を支える様々なカウンセリング理論や心理療法等について、視聴覚教材を活用しながらその手法をまとめながら深化を図る。 [授業外学修] 図書館、Web等で復習し、学習を深める。 | | |
| ② | [テーマ] 相談援助の歴史と概念(沿革と発展) [内容] 我が国の相談援助の歩み、アメリカにおけるスクールカウンセリングの発展、日本とアメリカのカウセラー制度について概説する。 [授業外学修] 学習プリントで復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] 相談援助の課題(1)ー① [内容] 幼稚園現場で発生している様々な課題などを理解と支援のあり方並びに現状と対策について解説する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | |
| ③ | [テーマ] 相談援助の意義・目的・役割・機能など [内容] 相談援助の意義、目的、役割、機能等について説明する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | | ⑪ | [テーマ] 相談援助の課題(1)ー② [内容] 幼児を取り巻く養育環境の理解と支援のあり方について、幼稚園教諭を招きながら解説と議論を行うことで相談の取り組みをまとめ深化を図る。 [授業外学修] 図書館学習、新聞、Web等で課題の記事を読み考察する。 | | |
| ④ | [テーマ] 相談援助と幼児指導、相談援助の資質・方法・形態など [内容] 相談援助と幼児指導との関係、相談援助の特質、方法、形態、領域等について解説する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 相談援助の課題(1)ー③ [内容] 幼児の養育環境などの構造・態様・変容などの理解と支援のあり方と現状と対策について解説する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | |
| ⑤ | [テーマ] 幼稚園内外の相談体制と各教員の役割、相談の基本 [内容] 幼稚園内外における相談の体制づくりと教員をはじめとする様々な教員による相談のあり方の基本を解説する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | | ⑬ | [テーマ] 相談援助の課題(2)ー① [内容] 幼児の養育環境などの理解と支援について、実際に関わっている幼稚園教員から課題を取り上げて学生と討論しながら事象を深める。 [授業外学修] 新聞、Web等で養育環境の記事を読み考察する。 | | |
| ⑥ | [テーマ] 相談援助と幼児指導、相談援助の資質・方法・形態など幼児理解(心) [内容] 効果的な相談援助を支える幼児理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。 [授業外学修] 幼児理解の方法を図書館学習・学習プリントを復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 相談援助の課題(2)ー② [内容] 「発達障害」「虐待」「育児放棄」の理解と支援のあり方並びに現状と対策について解説する。 [授業外学修] 学習プリントをもとに復習する。 | | |
| ⑦ | [テーマ] 相談援助を支える関係心理学の基礎的知見 [内容] 相談援助を支える幼児期の心理と発達、欲求と行動や葛藤並びに適応(防衛)機能の特徴等について解説する。 [授業外学修] 関連授業等での復習で心理学的知見をさらに深める。 | | | ⑮ | [テーマ] 相談援助の課題(2)ー③ [内容] 「発達障害」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら特別支援教育の取り組みをまとめながら解説する。 [授業外学修] 新聞、Web等で発達障害関連の記事を読み考察する。 | | |
| ⑧ | [テーマ] 相談援助のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(1) [内容] 相談援助の進め方や相談を深めるカウンセリング理論や心理療法等を解説する。 [授業外学修] 関連授業、Web等で復習し、学習を深める。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う。 [授業外学修] これまでの学習の復習をしっかりと行い対策を図る。 | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 定期の筆記試験の結果(40%)に、授業内受講態度や授業内レポート・意欲(60%)を加味して評価する。尚、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を総授業回数のうち6回以上の者は評価対象外(放棄:定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)とする。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①幼稚園教諭になろうという強い意欲の学生の受講が基本 ②私語、遅刻、意欲、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退学扱いとする。また、20分以上の遅刻は欠席とする。 ③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる。 ④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので、欠席する場合は事前相談を必ず行うこと。 ⑤授業の進度については、内容の前後や変更の可能性もあり得ること。 | | | |
| 定期試験 | ○ | | △ | | | | 40% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | ○ | | | | 授業態度含 |
| 授業外レポート | | | | | | | 実施せず |
| 演習・実技 | | | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | △ | ◎ | △ | | | | 減点(欠席)あり |
| 出席 | | ◎ | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | なし | | |
| 教科書 | 使用しない。 | | | 参考書 | 授業の中で指示する。 | | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | | | その他 | 青沼 一民 A313 14 55-1374(直通) | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 社会的養護 Enhancement of social care | | | 担当教員 | 千葉喜久也 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学修する。具体的には社会的養護の制度や実施体制等について理解を深める。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。2子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。3社会的養護の制度や実施体制について理解する。4社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。5社会的養護の現状と課題について理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を体系的に学ぶ。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 社会的養護を必要とする子どもの人権を擁護し施設養護の実際に触れ、社会的養護の現状や課題に更なる関心を持つ。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 社会的養護に関わる自立支援計画の作成、支援内容について自らの言葉で説明することができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 社会的養護を必要とする子どもを支援するには、社会的養護の意義と役割について体系的に理解することが必要である。本授業では、社会的養護の基本を丁寧に教授する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、子どもを取り巻く環境 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの説明。子どもの権利擁護について [授業外学修] 子どもを取り巻く環境について調べる | | | ⑨ | [テーマ] 社会的養護の対象 [内容] 社会的養護の対象について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ② | [テーマ] 社会的養護の理念と概念 [内容] 社会的養護の理念について理解 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] 家庭養護と施設養護 [内容] 家庭養護と施設養護の在り方について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ③ | [テーマ]社会的養護の歴史の変遷を理解する [内容] 社会的養護の歴史の変遷を理解説明する。戦前、戦後の社会的養護の変化を通じて、施設養護の在り方について学ぶ。 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 社会的養護に関わる専門職 [内容]社会的養護に関わる専門職の役割について理解を深める [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 社会的養護の基本原則 [内容] 社会的養護の基本原則と施設ケアについて解説 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 社会的養護に関する社会的状況 [内容] 社会的養護の現状と課題について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 社会的養護における保育士等の倫理と責務 [内容] 社会的養護における保育士等の役割や職務について解説 [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] 社会的養護における施設管理について [内容] 施設の管理運営について理解する [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 社会的養護の制度と法体系 [内容] 社会的養護の制度と法体系を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 被措置児童の虐待防止 [内容]施設内虐待の防止について学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 社会的養護の仕組みと実施体制 [内容] 社会的養護の仕組みと実施体制について学ぶ [授業外学修] ケアマネジメントの意味と実際を学ぶ | | | ⑮ | [テーマ] 社会的養護と地域福祉 [内容] 社会的養護と地域福祉の取り組みについて学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] 自立支援計画の作成 [内容] 自立支援計画とは何か、自立支援計画の実際を学ぶ [授業外学修] テキスト該当箇所を読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する [授業外学修] これまでの学習をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50% | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | ◎ | | 10% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | ◎ | 欠格条件 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。社会的養護の意義と実際を理解したうえで、保育士のかかわり、専門性について理解を深めていただきたい。 ・社会的養護に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。 | | | | | |
| 関連科目 | 保育士 | | | 関連資格 | 保育士 |
| 教科書 | 『社会的養護 I (基本保育シリーズ)』中央法規 | | | 参考書 | 授業時に指示する |
| オフィスアワー | 水曜日12:40-14:10 | | | その他 | 千葉喜久也研究室F棟2階 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | 障害児保育 Practice for child with a disability child care | | | 担当教員 | 渡邊康男 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 県教育委員会・特別支援教育センターで障害幼児の療育相談・就学相談、教育相談に従事した実経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 人間の一生の中で心身の発達が最も著しいのは乳幼児期であり、障害のある乳幼児は様々な領域で発達への制限や支障が生ずる。さらに療育者である親の精神的な動揺も大きく影響する。ここでは、知的障害や発達障害等の障害のある子供の特性を明らかにし、実務経験を活かし適切な支援の方法等を具体的に解説する。 | | | | | | (3)(4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 障害児保育に必要な基礎的知識を身につけるとともに、障害に応じた支援の在り方を考える。プレゼンテーションやグループでの話し合いをとおして、障害のある幼児の育ちと支援について自分なりに考えることができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児にみられる様々な障害について理解する。障害に応じた支援の仕方を概説できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 障害のある幼児の親や家族の心情をしり、連携の仕方を考えることができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 障害特性を整理し、支援の仕方等を発表できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 障害のある幼児の障害特性やその支援方法について講義と演習をとおして具体的に学ぶ。幼児にみられる障害やつまづきについて、プレゼンテーションやロールプレイ等で実践する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション 障害児保育の歴史と概念 [内容] 授業の進め方、評価や等について確認する。障害児保育の歴史やその考え方について [授業外学修] 障害のある幼児保育について、自分の考えをまとめておくこと。 | | | ⑨ | [テーマ] 障害のある幼児のアセスメント [内容] 遠城寺式乳幼児分析的発達検査について [授業外学修] 考えられる発達検査等について事前に調べておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 障害とはなにかを考える [内容] ICIDHとICF について、解説する。 [授業外学修] 国際障害分類と国際生活機能分類について事前に調べておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 成育歴を読む① [内容] 成育歴から支援を考える。グループごとに検討し発表する。 [授業外学修] 遠城寺式乳幼児分析的発達検査について復習しておくこと | |
| ③ | [テーマ] 障害特性の理解と支援① [内容] 視覚障害・聴覚障害について [授業外学修] 感覚障害について整理してまとめておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 成育歴を読む② [内容] 成育歴から支援を考える。グループごとに検討し発表する。 [授業外学修] 遠城寺式乳幼児分析的発達検査について復習しておくこと | |
| ④ | [テーマ] 障害特性の理解と支援② [内容] 知的障害について [授業外学修] 知的障害について整理してまとめておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 障害のある幼児の保護者との連携 [内容] 保健・福祉・医療との連携 [授業外学修] 保健福祉の窓口について事前に調べておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] 障害特性の理解と支援③ [内容] 肢体不自由について [授業外学修] 肢体不自由について整理してまとめておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 支援方法の工夫① [内容] 事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討し発表する。 [授業外学修] 障害特性と支援・アセスメントについて復習しておくこと。 | |
| ⑥ | [テーマ] 障害特性の理解と支援④ [内容] LD・ADHDについて [授業外学修] LD・ADHDについて整理してまとめておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 支援方法の工夫② [内容] 事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討し発表する。 [授業外学修] 障害特性と支援・アセスメントについて復習しておくこと。 | |
| ⑦ | [テーマ] 障害特性の理解と支援⑤ [内容] 自閉症について [授業外学修] 自閉症について整理してまとめておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 個別の支援計画・学校教育・インクルーシブ教育システムについて [内容] 個別支援計画の作成や学校教育への連携 インクルーシブ教育システムの構築について [授業外学修] 個別支援計画やインクルーシブ教育システムについて、調べてお | |
| ⑧ | [テーマ] 障害特性の理解と支援⑥ [内容] その他の障害について [授業外学修] その他の障害について整理してまとめておくこと | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの講義・演習の内容を振り返り、自らの理解度を確認する。 [授業外学修] 理解不足の内容については、確認の上、復習しておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業内のプレゼンテーションやグループワーク(25%)と授業内レポート(25%) 定期試験(50%)等の結果により総合的に評価する。試験や授業内レポートは解説しながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・演習として、グループワーク、プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるので積極的に考え発言すること。 ・電子黒板やタブレット端末を活用するので、各自安全なusbを準備すること。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | | | | 25% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | ○ | ◎ | 25% | |
| 授業態度 | | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 乳幼児保育 | | | 関連資格 | 保育士資格 | |
| 教科書 | 使用しない | | | 参考書 | 気になる子どもの保育と育児 村井憲男他 福村出版 | |
| オフィスアワー | 木 10:20-11:50 | | | その他 | A315 渡邊康男 研究室 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|-------------------------|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | | 保育相談支援 Aid exercises | | | 担当教員 | 青沼 一民 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 小・中学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 援助演習は保育指導・相談援助と同様に重要である。その理論と内容・方法・技術・園内指導体制・園外機関との連携・こども理解・関係心理学等を体系的に講義する。また、保育現場の実務経験を活かし、虐待、発達障害等の直面する問題の現状と課題を把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて講義・演習形式で解説する。さらに、外部講師を招いて、専門的知見を活かし講義・演習を行う。 | | | | | | (1) (2) (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 相談援助活動の歴史、意義と原理、目的、方法、内容、技法、関連する心理学的基礎、指導体制、こども理解等を理解する。さらに、虐待・発達障害等の様々な相談上の現状と課題を把握・理解し、現場での活用に繋げられるよう考察する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 援助演習の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制、こども理解等について理解する。また、援助の現状と課題を把握・理解し、望ましい援助相談や対応を説明する。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | こどものよりよい生育の発達や有意義で興味深く、充実した生活が送れるような援助相談を理解し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、援助を実践する力を養うことができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 子どもの保育に関する専門的知識・技術を背景として安定し援助業務及び援助技術を身に付けることが出来る。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った講義・演習が中心となり、実践的力が高められるように学外学習を取り入れ、自主的な保育ボランティア等の体験を勧める。また、実践事例の紹介を通して対応の在り方を考察する。さらに、援助演習の周辺領域に係る科目(子どもと保育・子どもの生活Ⅰ、Ⅱ・子どもの心理学Ⅰ、Ⅱ・家庭支援論)等を並行受講することで更なる地域の定着と構造化が図られる。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項について説明する。 [授業外学修]シラバス・教科書を準備する。 | | | ⑨ | [テーマ] 相談援助の進め方、技法、保護者面接等について基礎理論等について [内容] 相談援助の進め方と技法と保護者面接の在り方、基礎理論、心理療法等を開説して視聴覚資料で補充する。 [授業外学修]学習配布プリント及びPCで調べ学習を行う。 | |
| ② | [テーマ]援助の歴史と理念 [内容] 我が国の保育援助の歴史について解説する。 [授業外学修]プリントで復習し、興味ある箇所をさらに追求する。 | | | ⑩ | [テーマ] 保育相談支援の方法と技術 [内容] 保育相談支援の実践例を挙げながら、保育技術における生活援助と母子の状態を分析しながら考察する。 [授業外学修]学習配布プリント・PC等で考察する。 | |
| ③ | [テーマ] 保育相談援助の意義・目的・役割・機能などについて [内容] 保育相談援助の意義、目的、役割、機能等について解説する。 [授業外学修]参考資料をもとに考察する。 | | | ⑪ | [テーマ] 保育相談支援の実施 [内容] 保育支援体制を展開する中で職員の連携の重要性、保育に関して報告、連絡、相談、協議等について実践事例を交えて展開する。 [授業外学修]図書館、新聞、PC等で関連する記事で考察する。 | |
| ④ | [テーマ] 保育相談援助の特質・方法・形態などについて [内容] 保育相談援助の特質、方法、形態などについて解説する。 [授業外学修]学習配布プリントをもとに復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] 保護者との信頼関係を形成 [内容] 「不登校」保育相談支援は、保護者との信頼関係を基礎として信頼を得ることが重要視されている事などを事例を踏まえて解説する。 [授業外学修]学習配布プリント・PC等で考察する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 相談援助と対外連携、教員・保育士の役割、援助支援の基本などについて [内容] 対外的な援助支援体制づくりと連携、学級担任を中心とした多様な教員による援助支援のあり方を解説する。 [授業外学修]学習配布プリントをもとに演習を行う。 | | | ⑬ | [テーマ] 保護者への保育相談支援 [内容] 保育相談支援は日常的な関わりの中で保育士が意図して行うこと等保護者のニーズをくみ、適切に働きかけることの重要性について解説する。 [授業外学修]図書館、新聞、PC等で関連する記事で考察する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 相談援助と子ども理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な相談援助の実践を支える子ども理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。 [授業外学修]学習配布プリント及び図書館学習で考察する。 | | | ⑭ | [テーマ] 保育相談支援の手段と評価 [内容] 保育相談支援は、さまざまな手段を直接的・間接的に行い、保護者への直接的な関与、室内環境の構成などの間接的な手法で行うことを解説する。 [授業外学修]学習配布プリント、PC等で復習する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 相談援助を支える関係心理学について解説する。(1) [内容] 相談援助を支える子どもの心理と発達、様々な欲求と行動、欲求不満、心の構造等について解説する。 [授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行い発表して議論する。 | | | ⑮ | [テーマ] 保育相談支援の実践場面 [内容] 保育相談支援の実践場面として様々なケースが挙げられ、地域子育て支援における保育所のあり方等について考察する。 [授業外学修]学習配布プリント、新聞、PC等で関連の記事を読み考察する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 相談援助を支える関係心理学について解説する。(2) [内容] 相談援助を支える関係心理学において葛藤、適応と不適応並びに適応(防衛)機制の特徴等について解説する。 [授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行い発表して議論する。 | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度、達成度を確かめるために試験を実施する。 [授業外学修]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 定期の筆記試験の結果(80%)に、受講態度や授業内レポート・意欲・関心(20%)を加味して評価する。なお、学則に従い総授業回数のうち3/2以上の出席のない者定期試験の受験資格がない。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% | ①幼稚園教諭志望で意欲のある学生の受講を基本 ②授業態度や確認小テストも評価の観点として加点、自己都合による20分以上の遅刻は欠席 ③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届け出を提出しても欠席 ④授業は意欲や視力、希望等を考慮した座席指定制として初回授業で決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行うこと。 ⑤授業の進捗で内容の前後や変更の可能性もあり得る。詳細は初回授業で説明する。大学設置基準で定められている時間の授業外学修を行うこと。 |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 30% | |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 子どもと保育、子どもの生活Ⅰ・Ⅱ、子どもの心理学Ⅰ・Ⅱ、家庭支援論 | | | 関連資格 | 幼稚園教諭免許 | |
| 教科書 | 特になし | | | 参考書 | 特になし | |
| オフィスアワー | 火曜日の10:20～11:50 | | | その他 | 連絡先: 青沼研究室(A313) | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 教職論C Introduction to Teaching Profession C | | | 担当教員 | 柴田千賀子／高橋 亮 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 幼稚園での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業は、保育者・幼稚園教諭に求められる役割、資質、使命について理解を深める学習を展開する。前半は、保育者・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深める。後半は、保育者・幼稚園教諭としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方等を実践的模擬学習を実施する。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 本科目のねらいは、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて実践活動を通して理解を深めることである。授業形態は、アクティブラーニング(学生主体型授業)で実施する。また、ディスカッションなどを通して教職に関する理解を深め、教職への意欲を明確なものにすることが本科の目的である。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度を学び、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(柴田) [内容] 幼稚園教育・保育とは何か、教職を目指す動機を問うことを中心にオリエンテーションを進める。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 教師に求められるもの・好奇心や想像力、表現力(高橋) [内容] 自分の本当の夢を語り、どのようにすればそれを達成できるかについて具現化する方法を探索する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ② | [テーマ]幼稚園教諭・保育士になるまでのステップ(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士になるまでのステップを具体的に解説する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑩ | [テーマ] 求められる理想の教師像(高橋) [内容] 求められる教師像について探索し、伝記から読み解き自分にあてはめる活動を考える。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ③ | [テーマ] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際について解説する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑪ | [テーマ] 教員の教育力と研究力:事例・実践研究(高橋) [内容] 教育力と研究力について自ら調べ紹介する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ④ | [テーマ] 保育者の職務の実際(柴田) [内容] 幼稚園教諭の勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等について具体的に解説する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑫ | [テーマ] 教育力の実践と評価(高橋) [内容] 教育の実践を評価する方法を検討し、実際に自らを評価してみる。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ⑤ | [テーマ] 服務と身分保障(職務命令の要件と違反、分限と懲戒等)(柴田) [内容] 教職における 職務命令の要件と違反、分限と懲戒等について解説する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑬ | [テーマ] 探求力の実践と評価(高橋) [内容] 探求力をつけるために必要な事を考えて、その事を評価する手段を検討する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ⑥ | [テーマ] 保育者の仕事の内容と実際(柴田) [内容] 教職の仕事の内容と実際について具体的に解説する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑭ | [テーマ] 創造力と即興力の実践と評価(高橋) [内容] 想像力と即興力について自らその場で考えた事柄を表現し、相共に感動するツボについて確認し評価する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ⑦ | [テーマ] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割について理解を深める。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑮ | [テーマ] まとめと評価(高橋) [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する |
| ⑧ | [テーマ] 自身の保育観を振り返る(柴田) [内容] 自分の理想の保育者像を探索し、具体的にどのようにすればそうなれるか考え意見を交換する。 [授業外学修]授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する | | | ⑯ | [テーマ] 筆記試験(柴田)(高橋) [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学修]これまでの学修をまとめておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。試験については解説をしながら返却する。授業時数の2/3以上の出席を必要とする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | ◎ | 95% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 5% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 「子どもと共に育ちあうエピソード保育者論」(みらい) 「必修教職六法」(協同出版) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | (代表)柴田研究室(LC棟2F)火曜日11:50~12:30 | | | | その他 |
| | | | | | 幼稚園教諭一種、保育士資格 |
| | | | | | 「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 音楽表現 I Music Expression I | | | 担当教員 | 重川 真紀 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育や教育の場における音楽表現は、遊びを豊かに発展させたり、子どもの内面を表出したり、活動の様々な場面で展開されています。子どもとともに豊かな音楽表現を行うためには、保育者・教育者自身が感性豊かであり、音楽の基礎知識や技能を身につけていることが求められます。そのため、基本的な楽典を理解し、手遊びやわらべうた、挨拶のうたや季節の歌を歌い、ピアノ伴奏による弾き歌いの力を身につけます。 | | | | | (1) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎的知識を理解し、歌うことによって読譜力を高める。 ・基本的なピアノ奏法を習得し、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。コードについて理解し、コード譜を見て伴奏ができるようにする。 ・手遊び、わらべうた、挨拶のうたや季節の歌を歌い、歌の引き出しを増やす。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 認知的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | ピアノ伴奏による弾き歌いの能力を高める。手遊び、わらべうた、季節の歌を数多く歌えるようにする。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 手遊びやわらべうたを毎回一つ覚える。楽典の基礎知識を段階的に身につける。歌唱力、ピアノ演奏力を高め、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、楽典の基礎(1) [内容] 音楽経験についてのアンケート。階名、拍と拍子、音符と休符。 [授業外学修] 授業内容の復習 | | | ⑨ | [テーマ] 楽典の基礎(9) [内容] 省略記号。コード奏。「かわはよんでいる」弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 |
| ② | [テーマ] 楽典の基礎(2)、5指の練習 [内容] 拍と拍子、五線と加線、バルトーク『マイクロコスモス』を弾く。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑩ | [テーマ] 楽典の基礎(10) [内容] 強弱記号、速度標語。「こぎつね」の弾き歌い。 [授業外学修] 次回の小テストに向けた楽典の復習。弾き歌い練習。 |
| ③ | [テーマ] 楽典の基礎(3)、弾き歌い [内容] 音部記号と譜表、音名、「ちょうちょう」の弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑪ | [テーマ] 楽典の基礎の確認 [内容] 楽典の基礎についての試験。「たきび」 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。 |
| ④ | [テーマ] 楽典の基礎(4)、弾き歌い [内容] 変化記号、楽典の小テスト。「メリーさんの羊」弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑫ | [テーマ] 弾き歌いの力を高める(1) [内容] 「朝のうた」「おかえりのうた」 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。 |
| ⑤ | [テーマ] 楽典の基礎(5)、弾き歌い [内容] 音程。「ぶんぶんぶん」弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑬ | [テーマ] 弾き歌いの力を高める(2) [内容] 「山の音楽家」「大きな古時計」 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。 |
| ⑥ | [テーマ] 楽典の基礎(6)、弾き歌い [内容] 長3度と短3度。「きらきらぼし」弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑭ | [テーマ] 弾き歌いの力を高める(3) [内容] 「お正月」「めだかの学校」 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。 |
| ⑦ | [テーマ] 楽典の基礎(7)、弾き歌い [内容] 長音階の音の並び。「むすんでひらいて」弾き歌い。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑮ | [テーマ] 弾き歌い試験 [内容] 弾き歌い実技試験。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。 |
| ⑧ | [テーマ] 楽典の基礎(7)、弾き歌い [内容] 短音階の音の並び。コード・ネーム。学習した今日を移調して弾く。 [授業外学修] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。 | | | ⑯ | [テーマ] 手遊びのまとめ [内容] 手遊びの試験。 [授業外学修] ピアノ弾き歌い練習。手遊びの練習。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度20%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | ◎ | 20% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 小林義実監修「子どものうた100」チャイルド本社 「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のための ピアノテキスト」カワイ出版 全国大学音楽教育学会九州地区学会編 | | | | 幼稚園教諭1種免許、保育士資格 |
| オフィスアワー | | | | | 参考書 |
| | | | | | その他 |
| | | | | | 連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|--------------------------------------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 音楽表現Ⅱ Music Expression II | | | 担当教員 | 重川 真紀 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育や教育の場において、音楽表現活動をより豊かに展開するために必要と考えられる基本的な知識と技術の習得を目指します。楽典の基礎を確認し、コード奏による子どもの歌の弾き歌い及び簡易楽器を用いた合奏を行い、保育及び教育現場での活用方法を考えます。最後に弾き歌い実技試験を行います。 | | | | | (2) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の現場に必要な伴奏法の知識や技能としてコードネームを学習し、コード奏による弾き歌いができるようにする。 ・手遊びやわらべうたを歌い、保育現場で用いることができるようにする。 ・弾き歌いや簡易楽器の合奏の発表を通して、人前で表現する経験を積み、表現する楽しさを体験する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 認知的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | 子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。簡易楽器の奏法を身につける。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 全ての回を通じて、ピアノ弾き歌いのレッスンをを行い、よく使われるコード伴奏による弾き歌いの力を高める。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、楽典の基礎、わらべうた [内容] 授業の説明。わらべうた、手遊び。楽典の基礎知識を確認する。発声の基本を習得する。挨拶の歌を歌う [授業外学修] 授業で行ったわらべうたを覚えてくる。 | | | ⑨ | [テーマ] 合唱の発表 [内容] グループごとに合唱の発表を行う。 [授業外学修] グループごとに合唱の練習、弾き歌い練習。 |
| ② | [テーマ] コードネーム奏(1) へ長調C、Gコード [内容] コードネーム奏の基本。C、Gコードによる伴奏。「かえるの合唱」「かたつむり」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑩ | [テーマ] ボディ・パーカッション [内容] ボディ・パーカッションを行う。グループごとに発表する。 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ③ | [テーマ] コードネーム奏(2) C、G、Fコード [内容] C、G、Fコードによる伴奏。「きらきらぼし」「やきいもグーチャーバー」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑪ | [テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(1) [内容] 弾き歌い実技試験の課題曲を選曲する。 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ④ | [テーマ] コードネーム奏(3) セヴンス・コード [内容] セヴンス・コードの理解。「うちゅうせんのうた」「大きなくりの木の下で」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑫ | [テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(2) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「ゆき」「1ねんせいになったら」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ⑤ | [テーマ] コードネーム奏(4) へ長調 [内容] へ長調のコードネーム奏。「チューリップ」「はたけのポルカ」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑬ | [テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(3) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「おぼけなんてないさ」「きのこ」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ⑥ | [テーマ] コードネーム奏(5) へ長調、二長調 [内容] へ長調及び二長調のコードネーム奏。「うみ」「このぼり」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑭ | [テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(4) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「さんぽ」 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ⑦ | [テーマ] コードネーム奏試験、楽典の基礎知識の確認。 [内容] これまで学習した楽曲によるコードネーム奏の試験を行う。 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑮ | [テーマ] 弾き歌い実技試験リハーサル [内容] 弾き歌い実技試験のリハーサルを行う。 [授業外学修] 弾き歌い練習。 |
| ⑧ | [テーマ] 楽典の小テスト。合唱。 [内容] 楽典の理解度の確認のための小テスト。合唱曲「ショショローザ」を歌う。 [授業外学修] 弾き歌い練習。 | | | ⑯ | [テーマ] 弾き歌い実技試験 [内容] 弾き歌い実技試験を行う。 [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度20%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | ◎ | 20% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 『こどものうた100』、『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭のためのピアノテキスト』 | | | | 幼稚園教諭1種免許、保育士資格 |
| オフィスアワー | | | | | 参考書 |
| | | | | | その他 |
| | | | | | 連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 絵画・造形表現 I Painting, Artistic Expression I | | | 担当教員 | 志賀 圭子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 児童は造形活動を通して様々な体験をし、豊かな感性を育て、自己表現力を養っていく。この授業では、現場のエピソードや作品等から、児童の造形活動の実態を知り、自らも様々な材料や教材の特徴、表現の方法や技術を習得していく。そして、児童の造形的な創造活動の基礎能力を育て、色や形を通して社会との豊かなコミュニケーション力が育めるよう、絵画・造形活動における発達段階を学ぶものとする。 | | | | | (2) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 小学校学習指導要領に基づいた図画工作全般の指導法の基礎を身に付けると共に、幼児教育に携わる学生自身が、造形する事に興味関心を持ち、積極的に製作に挑む事。そして、自らが五感を通して体験し、その必要性を実感する。さらにその上で、理論を通してより幼児造形表現の理解を深める。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 図画工作の学習指導要領を学ぶとともに、画材・材料・絵本画集などの理解を深める | | | | |
| ■ 情意的領域 | 表現することの楽しさ、工夫することのおもしろさを自らの活動の中で体感することができる | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 絵画(平面)的技術、工作(立体)的技術を習得し、色彩感覚・構成能力等を磨く | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料(直感教材・絵本等)を使用し、講義と実技を行う。前半は様々な素材体験が中心となるが、後半はその体験を活かして自分らしい表現(作品)を目指す。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]造形あそび「色彩・クレヨン・クレパス」 [内容]用具の特徴を知り「自分の色」をつくる(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑨ | [テーマ]立体あそび「新聞紙アート」 [内容]新聞紙を自由自在に変化させて遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ② | [テーマ]造形あそび「切る・つなげる」 [内容]用具・道具の特長を活かして行為を楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑩ | [テーマ]立体あそび「塊財と出会う」 [内容]土粘土の感触を全身で体感する(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ③ | [テーマ]造形あそび「曲げる・のぼす」 [内容]線材を使って遊ぶ楽しさを体感する(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑪ | [テーマ]「自分」をつくる [内容]自分の好きな物・自分を表す物で作品を作る(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ④ | [テーマ]造形あそび「場を感じる① 春・夏編」 [内容]自然の中で作品を生かしながら遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑫ | [テーマ]「発表」と「鑑賞」と [内容]第11回の作品をめぐるディスカッションとしての鑑賞(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ⑤ | [テーマ]絵画の魅力「イメージする」 [内容]お話を聞いて情景を想像する(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑬ | [テーマ]幼児造形表現の意義 [内容]幼児の造形表現の意味と意義 [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ⑥ | [テーマ]絵画の魅力「絵の具と出会う」 [内容]絵の具の特徴を知り、お話を描く(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑭ | [テーマ]幼児造形表現の目標と内容 [内容]「感性」と「表現」 [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ⑦ | [テーマ]工作あそび「封筒人形」 [内容]身近にある材料「封筒」で人形を作る(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑮ | [テーマ]幼児造形教育の方法① [内容]指導の実際「描画」について [授業外学修]本日の講義について復習すること |
| ⑧ | [テーマ]工作あそび「演じる」 [内容]作った人形で演じることを楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑯ | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実技授業での製作・作品は必ず提出する事。提出された作品がテーマにおける目標に達しているかで評価(評価割合70%)。作品が無い場合は、授業に対するレポートの提出に代える。授業態度、参加意欲がそのまま作品に反映される事の評価(評価割合30%)。欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | ◎ | ○ | 30% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | アトリエ自遊楽校 工作レシピ「封筒人形」 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | | | | | その他 |
| | | | | | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 実技・ワークショップ中心の活動なので、動きやすい服装で参加のこと。 各自の準備物もその都度必要となるので、忘れずに持参すること。 受け身で無い積極的な参加姿勢が必要。授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|--|-------------------------------|
| 授業科目名 | 絵画・造形表現Ⅱ Painting, Artistic Expression II | | | 担当教員 | 志賀 圭子 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — | |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | 2 |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| この授業では、実際に子ども達が取り組んだ際のエピソードの紹介や作品紹介はもちろん、内外のアーティストの作品やワークショップと出会い、自らも新たな技術を習得し、より幅広く自分の表現を深める。そして、造形活動を通して「道具や材料を活用・応用していく能力」や「演じる・発表する・鑑賞する事等で育まれる人間関係を築く能力」などのコンピテンシーの必要性について学ぶものとする。 | | | | | (2) (3) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 小学校学習指導要領に基づいた図画工作全般の指導法の基礎を身に付けると共に、幼児教育に携わる学生自身が、造形する事に興味関心を持ち、積極的に製作に挑む事。そして、自らが五感を通して体験し、その必要性を実感する。さらにその上で、理論を通してより幼児造形表現の理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 図画工作の学習指導要領を学ぶとともに、画材・材料・絵本画集などの理解を深める | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 表現することの楽しさ、工夫することのおもしろさを自らの活動の中で体感することができる | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 絵画(平面的)技術、工作(立体的)技術を習得し、色彩感覚・構成能力等を磨く | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料(直感教材・絵本等)を使用し、講義と実技を行う。前半は様々な素材体験が中心となるが、後半はその体験を活かして自分らしい表現(作品)を目指す。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ]造形あそび「色彩・絵の具」 [内容]用具の特徴を知り、ダイナミックに遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑨ | [テーマ]立体あそび「ダンボールアート」 [内容]箱の中にイメージの世界を広げる(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ② | [テーマ]造形あそび「形態・コラージュ」 [内容]形を組み合わせて遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑩ | [テーマ]立体あそび「塊材と出会う」 [内容]小麦粉粘土・紙粘土の楽しみを知る(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ③ | [テーマ]造形あそび「立てる・積み上げる」 [内容]紙材を使って遊ぶ楽しさを体感する(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑪ | [テーマ]「美術作品」になってみる [内容]「美術作品になる」事による作品理解と解釈(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ④ | [テーマ]造形あそび「場を感じる②秋・冬編」 [内容]自然の中で作品を生かしながら遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑫ | [テーマ]「美術作品」と「鑑賞」と [内容]思いを話す事による鑑賞の楽しさを味わう(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ⑤ | [テーマ]絵画の魅力「イメージする」 [内容]音楽を聴いて、イメージをふくらませる(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑬ | [テーマ]幼児造形表現の発達 [内容]幼児から児童までの描画の発達 [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ⑥ | [テーマ]絵画の魅力「墨と出会う」 [内容]墨と和紙の特徴を知り音楽を描く(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑭ | [テーマ]幼児造形教育の目標と内容 [内容]図画工作 [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ⑦ | [テーマ]工作あそび「紙コップ人形」 [内容]身近にある材料「紙コップ」で人形を作る(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑮ | [テーマ]幼児造形教育の方法② [内容]指導の実際「立体・工作」について [授業外学修]本日の講義について復習すること | |
| ⑧ | [テーマ]工作あそび「演じる」 [内容]作った人形で演じることを楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学修]本日の講義について復習すること | | | ⑯ | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実技授業での製作・作品は必ず提出する事。提出された作品がテーマにおける目標に達しているかで評価(評価割合70%)。作品が無い場合は、授業に対するレポートの提出に代える。授業態度、参加意欲がそのまま作品に反映される事の評価(評価割合30%)。欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ◎ | 70% | |
| 授業態度 | | ○ | ◎ | ○ | 30% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 教員免許状 |
| 教科書 | アトリエ自遊楽校 工作レシピ「紙コップ人形」 | | | | 参考書 | 図画工作指導要領 絵本・画集・児童の作品・児童の活動写真等 |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため教育企画室を通して行うこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | | 運動・身体表現 I Exercise, physical expression | | | 担当教員 | 原田 健次 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 保育所所長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どものこころとからだの発達と運動機能や身体表現に関する知識と保育技術を習得するための理論と実践を学ぶ。また、様々な幼児の表現を支える保育内容や保育者の役割について実際のビデオを観察し、省察し、指導上の留意点や保育技術を学ぶ。実際のあそびや表現演技を体験し、保育的意義を深めるとともに、遊びの立案や表現演技を創作し発表する。 | | | | | | (1)(2)(3) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探求心や創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる保育を展開するために、まずは自分自身が表現することを楽しみ、PDCAサイクルの実践を通して、保育実践力を身に付けることをねらいとする。また、子どものあそびを豊かに展開するために必要な知識や技能を習得することを目標とする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 楽しく運動遊びに取り組みせるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料を用いた講義と実技を行い、理論と実践の融合を図る。前半期は遊びの保育的視点を深める講義、中半期には子ども役になり遊びを体験、後半期は指導(保育)者としての視点を持ち、リズムダンスの創作、模擬保育を実践することができるようになる。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | | ⑨ | [テーマ] 表現あそび②(リズムダンス創作その①) [内容] グループになり、発達に合った曲の選び方、振付の付け方、構成の仕方を学び、実際につくる。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 「遊び」の保育的意義 [内容] 子どもの発達に応じた「遊び」について学ぶ [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 表現あそび③(リズムダンスあそび創作その②) [内容] 実際につくったダンスの見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ③ | [テーマ] 仲間づくり運動①(ありあいまーブメント) [内容] 力合わせと力比べのふれあいあそびを体験。幼児教育の課題を探り仲間づくりあそびの保育的意義について考察する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 表現あそび④(リズムダンス発表と振り返り) [内容] グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ④ | [テーマ] 仲間づくりあそび②(仲間集めいす取りゲーム) [内容] 従来のいす取りゲームの保育的意義を考察し、仲間集めいす取りゲームの保育的意義について深める。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] 模擬保育①(指導案作成、PDCAサイクルについて) [内容] 指導案について学び、実際に表現あそびの指導案を作成し、次回の実践に向けて準備を調える。 [授業外学修] 指導案について復習しておく。 | |
| ⑤ | [テーマ] 仲間づくり運動④(仲間集めリレーあそび) [内容] 安易に勝ち負けをつけるリレーではなく、幼児期に大切な楽しいリレーあそびについて深める。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] 模擬保育②(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習しておく。 | |
| ⑥ | [テーマ] 運動会における表現演技①(発達に応じた演技2・3歳児) [内容] 発達に応じた運動会の表現演技を観ることで、あそびから演技への保育のプロセスを学ぶ。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] 模擬保育③(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習しておく。 | |
| ⑦ | [テーマ] 運動会における表現演技①(発達に応じた演技4・5歳児) [内容] 発達に応じた運動会の表現演技を観ることで、あそびから演技への保育のプロセスを学ぶ。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ(指導上の留意点) [内容] 模擬保育の振り返りから、指導上の留意点をまとめていく。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ⑧ | [テーマ] 表現あそび①(リズムダンスあそびの保育的意義) [内容] 実際のリズム遊びを体験し、幼児期におけるリズムあそびの保育的意義について学ぶ。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習しておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験(評価割合50%)授業態度(評価割合20%)授業内レポート(評価割合30%)提出されたレポートは授業内で解説をしながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんにしまうこと。 ・授業中は私語を慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み具合により多少前後することがある。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | | | ◎ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | 幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 | |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20~15:50 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | | 運動・身体表現Ⅱ Exercise, physical expression | | | 担当教員 | 原田 健次 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 保育所所長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 運動・身体表現Ⅰの学びを通して、子どものこころとからだの発達と運動機能や身体表現に関する知識と保育技術を深める。実践を通して理論と実践を学ぶことで、様々な幼児の表現を支える保育内容や保育者の役割について理解する。具体的には、あそびや表現演技を体験し、子どもの経験や様々な表現活動、身体活動を立案し、模擬保育を行い、振り返り省察の知識と技術を習得する。 | | | | | | (1)(2)(3)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 運動・身体表現Ⅰの学びを通して、より豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。具体的には、実際の保育現場で行われている表現演技について、あそびから演技に向けた保育のプロセスを学び、保育的意義を深めるとともに、表現演技を創作し発表し、模擬保育を行い保育者としての姿勢と技術を身に付ける。また、子どものあそびを豊かに展開するための環境づくりに必要に知識と技能を習得する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児への運動あそびを行うにあたり保育・指導者が果たす役割を理解し、運動あそびの指導案を立案実践を行うことができるようにする。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 運動あそびに対して自らが問題意識を持ち、課題を探究し、主体性をもって課題解決に取り組むことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付け、保育技術を相手に的確に伝えることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料を用いた講義と実技を行い、理論と実践の融合を図る。前半期は指導(保育)者としての視点を持ち、パラバルーン・組立体操の創作を行い。後半は模擬保育を実践し、保育者としての振り返りができるようにする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | | | ⑨ | [テーマ] 表現あそび⑧(組立体操演技発表と振り返り) [内容] グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 表現あそび①(パラバルーンあそびの保育的意義) [内容] パラバルーンあそびを行い、保育的意義について深める。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 模擬保育①(指導案作成、PDCAサイクルについて) [内容] 指導案について学び、実際に表現あそびの指導案を作成し、次回の実践に向けて準備を調える。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ③ | [テーマ] 表現あそび②(パラバルーン演技作成その①) グループになり、発達に合った曲の選び方、振付の付け方、構成の仕方を学び、実際につくる。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 模擬保育②(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習をしておく。 | |
| ④ | [テーマ] 表現あそび③(パラバルーン演技作成その②) [内容] 実際につくったパラバルーン演技の見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] 模擬保育③(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習をしておく。 | |
| ⑤ | [テーマ] 表現あそび④(パラバルーン演技発表と振り返り) [内容] グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] 模擬保育④(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習をしておく。 | |
| ⑥ | [テーマ] 表現あそび⑤(組立体操あそびの保育的意義) [内容] 組立体操あそびを行い、保育的意義について深める。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] 模擬保育⑤(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学修] PDCAサイクルについて復習をしておく。 | |
| ⑦ | [テーマ] 表現あそび⑥(組立体操演技作成その①) [内容] グループになり、発達に合った演技構成の仕方を学び、実際につくる。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ(指導上の留意点) [内容] 模擬保育の振り返りから、指導上の留意点をまとめていく。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | |
| ⑧ | [テーマ] 表現あそび⑦(組立体操演技作成その②) [内容] 実際につくった組立体操演技の見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 期末試験(評価割合50%)授業態度(評価割合20%)授業内レポート(評価割合30%)提出されたレポートは授業内で解説をしながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんにしまうこと。 ・授業中は私語を慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み具合により多少前後することがある。 ・この授業の受講は運動・身体表現Ⅰの習得者に限る。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 50% | |
| 授業内レポート | | | | ◎ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 | 幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20~15:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 保育原理 Early Child Care and Education | | | 担当教員 | 大宮勇雄 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 1) 日本国憲法・児童福祉法・保育所保育指針にもとづいて保育の意義と目的を論じる。2) 保育実践の記録や事例をもとにして乳幼児期の理解に基づく保育の基本的原理について説明する。3) 今日の保育を作3) 今日の保育を作り出してきた歴史と主たる思想や典型的実践について解説する。 | | | | | (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 1) 保育の社会的意義とその目的を理解すること、2) 乳幼児期の発達特性と保育の基本原則を実践的に理解すること、3) 歴史と思想の一端を学ぶことで保育を広い視野からとらえることができるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保育所・幼稚園で保育を行うために必要な基本的事項について理解することを目標とする | | | | |
| ■ 情意的領域 | 保育者としての使命感や倫理観を高め、人間性を育むことを目標とする。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 保育の原理に関する専門的知識や判断力を習得する | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 講義内容の概要を理解し、課題とされるレポートを作成し提出する。受講に際し、テキストと資料・参考図書を精読することによって、予習や復習(基礎理論の習得)に励むこと。また、他の授業科目と関連させながら、保育者に求められる責務や倫理観、実践力を養っていただきたい。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 「保育を必要とする子どもを保育する」とはどのようなことか、解説する。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑨ | [テーマ] 1・2歳児の発達の特徴と保育実践 [内容] 1・2歳児の発達を身体・認識・言語・表現の面から取り上げ、その時期にふさわしい保育実践のあり方を考える。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ② | [テーマ] 「子どもの最善の利益」とは何か？ [内容] 「子どもの最善の利益」という視点から、今日の子育て・家庭のあり方を見つめ直しながら、子どもの声に基づく保育とは何かを考える [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑩ | [テーマ] 3・4・5歳児の発達の特徴と保育実践(1) [内容] 幼児期の発達の特徴と、多様で創造的な実践の数々を紹介し議論する。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ③ | [テーマ] 保育の基本原則(1) 養護と教育の一体性について [内容] 保育という言葉が幼・保を問わず長年使われ続けている理由と歴史を辿りながら、養護と教育との関係についての諸説を提示し自分なりの考えを深める [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑪ | [テーマ] 3・4・5歳児の発達の特徴と保育実践(2) [内容] 幼児期の保育の、計画・記録・評価について概説する。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ④ | [テーマ] 保育の基本原則(2) 信頼関係と子ども理解 [内容] 子どもの発達にとって身近な大人との親密で安定した関係が重要である理由を説明し、信頼関係を築く過程、子ども理解の方法について提示する。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑫ | [テーマ] 保育の思想と歴史(1) [内容] 日本における託児施設や保育所の誕生と発展、およびそれを担った先人の思想や即席を紹介する。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 保育の基本原則(3) 子どもの自発性と環境を通じた発達 [内容] 子どもの発達は、環境へのその能動的な働きかけ(相互作用)によって促される事実を示しつつ、保育環境の豊かさとは何かについて検討する。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑬ | [テーマ] 保育の思想と歴史(2) [内容] 戦後の児童福祉法の成立、保育所作り運動、待機児童問題の発生、保育者処遇をめぐる歴史など、法制面での展開を解説する。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 保育の基本原則(4) 保育の共同性と労働環境の質 [内容] 保育は、「協働的性格」をもっており、それゆえ大人同士の「関係の質」と職場の「労働環境の質」が重要であること示す。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑭ | [テーマ] 保育の思想と歴史(3) [内容] 世界の保育の歴史を、主たる思想家や研究を取り上げ、ごく大まかに概説する。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 乳幼児期の発達の特徴と保育実践(1) [内容] おおよそ6か月までの発達と、それに応じた保育実践を紹介し学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑮ | [テーマ] 保育の思想と歴史(4) [内容] 今日の先駆的保育実践と理論を紹介し、自分なりの保育理論を形作ることの重要性を語る。 [授業外学修] テキストを読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] 乳幼児期の発達の特徴と保育実践(2) [内容] おおよそ1歳3か月程度までの発達と、それに応じた保育実践のあり方を学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んでおく | | | ⑯ | [テーマ] 期末テスト [内容] 授業で取り上げた実践や思想家などを取り上げ、テーマを決めて、自分なりの保育理論を作り上げ、その説明をレポートして提出する。 [授業外学修] テストの準備をしておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 学習態度40%・期末試験60%をもとにして、以下の観点から総合的に評価する。なお、授業内レポートやテストの内容に対してはできるだけ授業内容に反映し応答するようにしたい。1) 保育の社会的意義とその目的を理解すること、2) 乳幼児期の発達特性と保育の基本原則を実践的に理解すること、3) 歴史と思想の一端を学ぶことで保育を広い視野からとらえることができるようになる | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | ○ | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | | 100% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | ◎ | | 40% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 『学びの物語の保育実践』(ひとなる書房)/保育所保育指針 | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 大宮研究室 随時事前にメールで連絡すること | | | | その他 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 保育課程論 Curriculum in Early Childhood Education and Care | | | 担当教員 | 佐藤哲也 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼稚園、保育所、認定こども園のカリキュラム・全体的な計画について、様々な視点から学んでいく。カリキュラムの基礎理論や今日的課題について解説するとともに、実践展開を紹介しながら、指導計画作成や評価、指導(保育)要録作成についても理解を深めていく。 | | | | | (2)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| カリキュラムの基礎理論を理解した上で、就学前保育・教育に展開していく上での知見を身に付ける。様々な保育・教育課程について学び、その実践的意義について理解する。保育課程をめぐる今日的課題について理解する。日案をはじめ指導案(指導計画)を作成するためのスキルを身に付ける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保育カリキュラムの理論を説明できる。保育カリキュラムや全体的な計画の作成に関わるポイントを指摘できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 保育カリキュラム・全体的な計画の作成・評価・再構築に際して主体的かつ協同的に参画することができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 保育をめぐる日案・週案・月案・期案・年間計画の概要を理解して、必要に応じて指導計画を作成したり評価したりすることができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 講義を中心として授業を進める。理論的知識に関わる内容については小テストを実施して理解をより確実なものとする。指導案等の実践展開を理解するために、画像やビデオを利用して保育現場の様子を紹介していく。また指導案作成演習やその評価をめぐるグループディスカッションを行い、実践力を磨いていく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 保育計画・幼児教育教育カリキュラムの意義 [内容] 保育・教育について、その基礎理論を復習した上で、実践を組織化・構造化するための計画の必要性について考察する。 [授業外学修] テキストの第1章を熟読すること。 | | | ⑨ | [テーマ] 指導要録と保育要録 [内容] 小学校就学時に幼稚園・保育所・認定こども園から送付することが法令で定められている指導要録・保育要録について理解する。 [授業外学修] テキストの第14章及び配付資料を熟読すること。 |
| ② | [テーマ] 保育カリキュラムの基礎知識 [内容] 保育カリキュラムの背景にある考え方や教育・心理学説について解説する。 [授業外学修] 第3回目の授業で小テストを行うので、授業内容を復習しておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 地域・社会にひらかれた保育カリキュラム [内容] 園外保育、地域の老人との交流、歳事や芸能、イベント等、幼児の人とかかわる力や社会的関心を開いていくための保育計画について解説する。 [授業外学修] ネットを検索して実践事例について調べておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 保育カリキュラムの構造 [内容] 日案・週案・月案・期案・年間計画等、保育カリキュラムの構造、それぞれのねらい、内容、環境構成・再構成、援助の観点等々について解説する。 [授業外学修] テキストの第8章を熟読すること。 | | | ⑪ | [テーマ] 異年齢混合保育のカリキュラム [内容] 異年齢交流、異年齢混合保育、異年齢混合クラス等、年齢が異なる幼児が友に暮らし・遊び・学び・クラス保育について考察する。 [授業外学修] ネットを検索して実践事例について調べておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 保育内容の変遷と教育課程(明治・大正) [内容] 保育内容と国が示した基準の概要を理解するために、明治・大正期の保育項目について、規定や勅令を参照しながら解説する。 [授業外学修] 授業内容に関わる参考文献を紹介するので、各自講読すること。 | | | ⑫ | [テーマ] 保幼小連携・接続カリキュラム [内容] 保幼小連携活動について、その背景、取り組み、実践理論、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムについて理解を深める。 [授業外学修] 宮城県教育委員会(義務教育課と企画課)作成資料を熟読すること。 |
| ⑤ | [テーマ] 幼稚園教育要領の変遷(昭和・平成) [内容] 幼稚園教育要領の変遷とその背景(社会状況や教育課題等)について解説する。 [授業外学修] テキスト第4章や過去の幼稚園教育要領の内容を確認すること。 | | | ⑬ | [テーマ] 特別支援保育のカリキュラム [内容] 発達障害(自閉症スペクトラム、ADHD、LD等)の幼児のための環境構成や援助法、個別の指導計画、統合保育の計画について解説する。 [授業外学修] 発達障害の特徴について、文献等で確認しておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 保育所保育指針の概要 [内容] 保育所保育指針の変遷とその背景(社会状況や教育課題等)について解説する。 [授業外学修] テキスト第4章や過去の保育所保育指針の内容を確認すること。 | | | ⑭ | [テーマ] 人権保育カリキュラム [内容] 人権保育(同和保育、ジェンダーフリー、多文化保育、国際理解保育)の概要について紹介するとともに、その計画と実践について解説する。 [授業外学修] 授業配付資料を熟読して、その実践展開について理解しておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 [内容] 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂とその背景(社会状況や教育課題等)について解説する。 [授業外学修] テキスト第4章や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を確認すること。 | | | ⑮ | [テーマ] カリキュラム・デザインの未来 [内容] 保育カリキュラムをめぐる今日的課題と将来展望について、保育・教育改革の動向を踏まえながら考察する。 [授業外学修] 授業配付資料を熟読して、問題意識を喚起しておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 保育評価とPDCAサイクル [内容] 幼児理解に基づく環境の構成・再構成、保育者の援助、保育内容の展開等、評価と実践の連関について実践的な理解を深める。 [授業外学修] テキストの第2章・第3章を熟読すること。 | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] 授業内容を振り返るとともに、保育指導案作成の演習を行う。 [授業外学修] これまでの授業内容について復習して、ポイントを理解しておくこと。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業中に実施する復習テスト(合計3点×10回:30点/30パーセント)、指導案の作成(20点/20%)、試験(50点/50%) | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 50% | |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 20% | |
| 授業態度 | | ○ | | 評価対象外 | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容総論・保育内容演習 | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 佐藤哲也編著、子どもの心によりそう保育・教育課程論、福村出版、2018年 | | | 参考書 | 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 |
| オフィスアワー | | | | その他 | 非常勤講師のため、教育企画室を通して連絡を取ること |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | | 子どもとことば I Children and words (L) | | | 担当教員 | 久能和夫 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小学校での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) |
| 認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領で示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」をもとに、書写を含む小学校国語の目的とその意義を理解することを通して、コミュニケーションの手段としてだけでなく、物を認識したりする際に欠かすことができない言葉に対する感覚や表現する力を養う。 | | | | | | (3)(4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 小学校の教科の目標を踏まえながら、国語の特質に関する内容構成の理解をとおして、幼児に対してどのような国語教育をなすべきかを理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領国語科の内容について学ぶ。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための間接的支援について理解する。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 保育者として領域言葉、教科国語を教えるために必要とされる学習方法を身に付ける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は、基本的にはプリントを用意し、それを基に講義中心に行うが、多くの機会にレポートを提出、常に幼稚園教育要領等の領域言葉と小学校国語科教育についての関連性、課題意識を持つようにする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] 子どもとことばにおける国語教育とは何か [内容] 国語教育が幼児に与える意義、間接的支援とは何かについて、発達段階を考慮した支援の仕方について学ぶ [授業外学修] 国語教育に関連する書籍を読む | | | | ⑨ | [テーマ] 小学校教科国語「読むこと」の内容構成② [内容] 教科国語「読むこと」の低・中・高学年の内容及び構成について理解する [授業外学修] 「読むこと」の学年ごとの内容構成に関する書籍を読む |
| ② | [テーマ] 幼稚園教育要領等の領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」について [内容] 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針において示されている領域「言葉」の内容構成について把握する [授業外学修] 教育要領・保育指針の領域「言葉」の内容項目について調べる | | | | ⑩ | [テーマ] 小学校教科国語「伝統的な言語文化と国語の特質」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の系統を理解する [授業外学修] 「言語文化、国語の特質」の系統性に関する書籍を読む |
| ③ | [テーマ] 国語教育の理論① [内容] 国語科学習指導要領の内容構成について把握する [授業外学修] 小学校学習指導要領国語の変遷について調べる | | | | ⑪ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究① [内容] 小学校低学年国語科教科書の「話すこと・聞くこと」に関する教材研究を行い、単元構成を考える [授業外学修] 小学校国語科教科書(話すこと・聞くこと)教材の授業構成を考える |
| ④ | [テーマ] 国語教育の理論② [内容] 国語科学習指導要領の内容構成について把握する [授業外学修] 学習指導要領の内容項目について調べる | | | | ⑫ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究② [内容] 小学校低学年国語科教科書の「書くこと」に関する教材研究を行い、単元構成を考える [授業外学修] 小学校国語科教科書(書くこと)教材を調べ、授業構成を考える |
| ⑤ | [テーマ] 国語教育の理論③ [内容] 国語科学習指導要領の内容構成について把握する [授業外学修] 学習指導要領の内容項目について調べる | | | | ⑬ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究③ [内容] 小学校低学年国語科教科書の「読むこと」に関する教材研究を行い、単元構成を考える [授業外学修] 小学校国語科教科書(読むこと)教材を調べ、授業構成を考える |
| ⑥ | [テーマ] 小学校教科国語「話すこと・聞くこと」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「話すこと・聞くこと」の系統を理解する [授業外学修] 「話すこと・聞くこと」の系統性に関する書籍を読む | | | | ⑭ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究④ [内容] 小学校低学年国語科教科書の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材研究を行い、単元構成を考える [授業外学修] 小学校国語科教科書(言語文化、特質)教材の授業構成を考える |
| ⑦ | [テーマ] 小学校教科国語「書くこと」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「書くこと」の系統を理解する [授業外学修] 「書くこと」の系統性に関する書籍を読む | | | | ⑮ | [テーマ] 小学校低学年国語科における音読・文字指導 [内容] 領域言葉との系統性を押さえた小学校低学年国語科における音読及び書写の単元構成について理解する [授業外学修] 授業の復習 |
| ⑧ | [テーマ] 小学校教科国語「読むこと」の内容構成① [内容] 領域言葉と教科国語「読むこと」の系統を理解する [授業外学修] 「読むこと」の系統性に関する書籍を読む | | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 本授業を学習してのまとめを行う [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 提出されたレポートについては、その都度ディスカッションを取り入れてフィードバックする。また、筆記試験の結果にレポートその他のポートフォリオ評価の内容及び受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義を中心に進めるが、自分が学習した国語科教育を振り返りながら、教師を目指す者として、常に課題意識を持って学んで欲しい。 |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% | |
| 授業内レポート | | | ○ | ◎ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容演習(言葉) | | | | | |
| 教科書 | 認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領解説「国語編」。 | | | | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 久能研究室(A307)金(10:20～11:50) | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | | 子どもとことばⅡ Children and words (L) | | | 担当教員 | 久能和夫 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小学校での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) |
| 認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領で示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」をもとに、書写を含む小学校国語の目的とその意義を理解した上で、コミュニケーションの手段、物の認識に欠かすことのできない言葉に対する現場で求められる実践力の基礎となる力を養う。 | | | | | | (3)(4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」で求められている実践力を小学校の教科の目標を踏まえながら、幼児に対して求められる現場での保育者としての汎用力をアクティブラーニングの手法を取り入れながら実践的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼保小の接続・連携を基にして、認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領国語科の内容について学ぶ。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 言葉の習得が幼保小の接続・連携過程において進められる保育者としての間接的支援の実践的取り組みについて理解する。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領において保育者として教える「言葉」「国語」での実践的な学習方法を身に付ける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 授業は、基本的には認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」及び小学校学習指導要領「国語」で示されている内容と、実践的な現場での資料プリントを用意し、それを基に講義中心に行う。より「国語」に関する汎用力をつけるために幼保小の接続・連携に関連する課題について実際の授業場を視聴することなどを通して、幼稚園教育要領等の領域言葉と小学校国語科教育についての応用実践の力を持つようにする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 子どもとことばにおける国語教育とは何か [内容] 国語教育が幼児に与える意義、間接的支援とは何かについて、発達段階を考慮した支援の仕方について学ぶ [授業外学修] 国語教育に関連する書籍を読む | | | ⑨ | [テーマ] 幼保小における「読むこと」の内容構成② [内容] 領域言葉と教科国語「読むこと」の系統を理解し、使用教材について実践的検討を行う。 [授業外学修] 「読むこと」の系統性に関する書籍を読む | |
| ② | [テーマ] 幼稚園教育要領等の領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」について① [内容] 幼稚園教育要領、認定子ども園教育・保育要領及び保育所保育指針において示されている領域「言葉」の内容構成について把握する [授業外学修] 教育要領・保育指針の領域「言葉」の内容項目について調べる | | | ⑩ | [テーマ] 幼保小における「伝統的な言語文化と国語の特質」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の系統を理解し、使用教材について実践的検討を行う。 [授業外学修] 「言語文化、国語の特質」の系統性に関する書籍を読む | |
| ③ | [テーマ] 幼稚園教育要領等の領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」について② [内容] 幼稚園教育要領、認定子ども園教育・保育要領及び保育所保育指針において示されている領域「言葉」の内容構成について把握する [授業外学修] 教育要領・保育指針の領域「言葉」の内容項目について調べる | | | ⑪ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究① [内容] 小学校低学年国語科教科書の「話すこと・聞くこと」に関する教材研究を行い、実際の授業の様子についての映像を見る。 [授業外学修] 小学校国語科教科書(話すこと・聞くこと)教材の授業構成を考える | |
| ④ | [テーマ] 国語教育の理論① [内容] 国語科学習指導要領の内容構成について把握し、使用されている教科書内容を概観する。 [授業外学修] 小学校学習指導要領国語の構成を学修する | | | ⑫ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究② [内容] 小学校低学年国語科教科書の「書くこと」に関する教材研究を行い、実際の授業の様子についての映像を見る。 [授業外学修] 小学校国語科教科書(書くこと)教材を調べ、授業構成を考える | |
| ⑤ | [テーマ] 国語教育の理論② [内容] 国語科学習指導要領の内容構成と教科書教材の組み立て方を理解する。 [授業外学修] 小学校学習指導要領国語の内容配列と教科書の配列を調べる | | | ⑬ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究③ [内容] 小学校低学年国語科教科書の「読むこと」に関する教材研究を行い、実際の授業の様子についての映像を見る。 [授業外学修] 小学校国語科教科書(読むこと)教材を調べ、授業構成を考える | |
| ⑥ | [テーマ] 幼保小における「話すこと・聞くこと」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「話すこと・聞くこと」の系統を理解し、使用教材について実践的検討を行う。 [授業外学修] 「話すこと・聞くこと」の系統性に関する書籍を読む | | | ⑭ | [テーマ] 小学校低学年国語科教材研究④ [内容] 小学校低学年国語科教科書の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材研究を行い、授業の様子についての映像を見る。 [授業外学修] 小学校国語科教科書(言語文化、特質)教材の授業構成を考える | |
| ⑦ | [テーマ] 幼保小における「書くこと」の内容構成 [内容] 領域言葉と教科国語「書くこと」の系統を理解し、使用教材について実践的検討を行う。 [授業外学修] 「書くこと」の系統性に関する書籍を読む | | | ⑮ | [テーマ] 小学校低学年国語科における音読・文字指導 [内容] 領域言葉との系統性を押さえた小学校低学年国語科における音読及び書写の単元構成について理解し、授業の様子についての映像を見る。 [授業外学修] 授業の復習 | |
| ⑧ | [テーマ] 幼保小における「読むこと」の内容構成① [内容] 領域言葉と教科国語「読むこと」の系統を理解し、使用教材について実践的検討を行う。 [授業外学修] 「読むこと」の系統性に関する書籍を読む | | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 本授業を学習してのまとめを行う [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 提出されたレポートについては、その都度ディスカッションを取り入れてフィードバックする。また、筆記試験の結果にレポートその他のポートフォリオ評価の内容及び受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義を中心に進めるが、自分が学習した国語科教育を振り返りながら、教師を目指す者として、常に課題意識を持って学んで欲しい。 |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 60% | |
| 授業内レポート | | | ○ | ◎ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 10% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容演習(言葉) | | | | | |
| 教科書 | 認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領解説「国語編」。 | | | 参考書 | 授業時に紹介する | |
| オフィスアワー | 久能研究室(A307)金(10:20~11:50) | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 保育内容総論 Introduction to Child Care and Education | | | 担当教員 | 柴田千賀子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 幼稚園での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育内容を理解し、総論と演習の学びを整理しながら保育内容全体の学びを深める。 | | | | | (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 乳幼児期の教育・保育の理解を深めるために、保育内容の概要、歴史的背景、保育実践とのつながりについて学ぶ。学んだ内容について、自身の保育観と照らし合わせて語ることができるようにする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 保育内容と保育実践について理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組む。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 幼児教育、保育の基本と保育内容、保育者としてのかかわり方などについて講義を通して具体的に学ぶ。各年齢の発達およびかかわりについて、講義で学んだ内容について理解を深めるために、ロールプレイや発表等のアクティブラーニングを展開する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス・幼児教育、保育の基本 [内容] ガイダンスを実施する。幼児教育、保育の基本について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 3歳児の保育内容 [内容] 3歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ② | [テーマ] 幼児教育、保育の保育内容 [内容] 幼児教育、保育の保育内容について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 4歳児の保育内容 [内容] 4歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ③ | [テーマ] 保育の一日の流れと保育内容 [内容] 保育園、幼稚園での保育の一日の流れと保育内容について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 5歳児の保育内容 [内容] 5歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ④ | [テーマ] 子どもの育ちと保育内容 [内容] 子どもの育ちとは、乳幼児の発達の特徴について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 保育の計画と観察・記録と評価 [内容] 保育の計画と観察・記録と評価の理論と実際について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 保育内容の展開 [内容] 養護と教育が一体的に展開する保育、子どもの主体性を尊重する保育について自身の考えをまとめ発表する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 保育内容の歴史の変遷 [内容] 保育内容の歴史の変遷がどのようなものであるか現代との比較を交えながら講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 0歳児の保育内容 [内容] 0歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 多様な保育ニーズと保育内容 [内容] 特別な保育ニーズ、外国籍の子どもと多文化共生の視点について講義する。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 1歳児の保育内容 [内容] 1歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 保育内容の向上をめざして [内容] これからの保育と課題について自らの考えをまとめる。 [授業外学修]これまでの学修内容をまとめておく |
| ⑧ | [テーマ] 2歳児の保育内容 [内容] 2歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえロールプレイに取り組む。 [授業外学修]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと | | | ⑯ | [テーマ] これからの保育内容 [内容] これからの保育と課題について自らの考えを発表する。 [授業外学修]これまでの学修内容をまとめておく |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | | 40% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | | 40% |
| 演習・実技 | | | ◎ | | 20% |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 「子どもと共に学びあう演習・保育内容総論」(みらい) | | | | 関連資格 |
| オフィスアワー | 柴田研究室(LC棟2F) オフィスアワー 火曜日 11:50~12:30 | | | | 参考書 |
| | | | | | その他 |
| | | | | | 幼稚園教諭一種免許状、保育士資格 |
| | | | | | 「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|---|-------|---------|---|--|
| 授業科目名 | 保育内容演習(健康) | | | | 担当教員 | 金 賢植 |
| | Child care and education (health) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「健康領域」の内容に関する、健康の意識、指導上の留意点・問題点など子どもの健康にかかわる身体的側面、健康的側面、精神的側面の発達などについて視聴覚教材などのICTを活用した講義を行う。</p> | | | | | | (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| <p>幼児教育・保育における保育内容(健康)のねらいおよび内容を理解する。また、乳幼児期の身体・精神・心理的発達の理解、子どもを取り巻く環境の理解を深める。</p> | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 保育内容「健康」領域に関連する基礎知識を理解できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもの健康に関する意識、指導上の留意点・問題点について関心を持つことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 基礎知識を活用して、子どもの身体・精神・心理的発達を促す保育のあり方を見通すことができる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| <p>幼児教育者・保育士における保育内容「健康」のねらい及び内容をわかりやすく教授する。子どもの健康にかかわる身体的側面、健康的側面、精神的側面の発達を理解するための基礎知識を身につける。学んだことを教育・保育実践の場で活用することができるよう、演習プレゼンテーションを取り入れ、実践力を養う。</p> | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | <p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明、授業紹介、「健康」とは何か [授業外学修] 近年、子どもの健康問題について調べる</p> | | | ⑨ | <p>[テーマ] 0～2歳児の身近自立・生活習慣の獲得 [内容] 身近自立・生活習慣の獲得の姿 [授業外学修] 0～2歳児のあそびについて調べる</p> | |
| ② | <p>[テーマ] 子どもの心と体の健康 [内容] 子どもの生活リズムの変化、身体をよく動かす子どもを育てるために必要な指導 [授業外学修] 子どもの体格、体力、運動能力について調べる</p> | | | ⑩ | <p>[テーマ] 0～2歳児の遊びの実際 [内容] 生活の中にある遊びと戸外遊びの理解 [授業外学修] 3～5歳児の生活習慣について調べる</p> | |
| ③ | <p>[テーマ] 子どもの身体発達 [内容] 子どもの身長・体重、骨の形成など生理的機能の発達 [授業外学修] 子どもの運動発達の特徴について調べる</p> | | | ⑪ | <p>[テーマ] 3～5歳児の生活習慣の獲得 [内容] 3～5歳児の生活習慣の現状と問題の理解 [授業外学修] 3～5歳児のあそびについて調べる</p> | |
| ④ | <p>[テーマ] 運動能力と動きの獲得 [内容] 体力・運動能力低下の背景、生活習慣の確立と関連動作の発達 [授業外学修] 園内のケガや事故について調べる</p> | | | ⑫ | <p>[テーマ] 3～5歳児の運動遊びの実際 [内容] 多様な動きの経験と子どもの主体性の理解 [授業外学修] 運動あそび指導の留意点について調べる</p> | |
| ⑤ | <p>[テーマ] 安全の指導 [内容] ケガ・事故の実態、幼児の安全指導の理解 [授業外学修] 領域「健康」のねらいについて調べる</p> | | | ⑬ | <p>[テーマ] 3～5歳児の運動遊び指導のポイント [内容] 内発的動機づけを高める子どもの経験 [授業外学修] 園内のケガのリスクとハザードについて調べる</p> | |
| ⑥ | <p>[テーマ] 領域「健康」のねらいと内容 [内容] 領域の考え方、「健康」のねらいと内容 [授業外学修] 領域「健康」のガイドラインについて調べる</p> | | | ⑭ | <p>[テーマ] 安全への配慮 [内容] 「リスク」と「ハザード」の実際 [授業外学修] 子どもの育ちの理解について調べる</p> | |
| ⑦ | <p>[テーマ] 領域「健康」の内容の取扱い [内容] 子どもに多様な経験をみだし、生活の自立を促すために必要な指導 [授業外学修] 0～2歳児の動きについて調べる</p> | | | ⑮ | <p>[テーマ] 総括、保護者の役割 [内容] まとめ、保護者の役割の理解 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする</p> | |
| ⑧ | <p>[テーマ] 0～2歳児の生活と動き [内容] 乳幼児の動きとアクシデントの理解 [授業外学修] 0～2歳児の生活習慣について調べる</p> | | | ⑯ | <p>[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学修] テストの準備をしておく</p> | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| <p>試験は、期末試験(評価割合40%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、演習(評価割合40%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p> | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。</p> |
| 定期試験 | | ◎ | | ○ | 40% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 20% | |
| 演習・実技 | | ○ | | ◎ | 40% | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 幼児体育指導論(2年次) | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員 |
| 教科書 | 『コンパス保育内容(健康)』:前橋 明、建帛社 | | | | 参考書 | 『子どもの未来づくり健康(保育)』:明研図書、前橋 明 |
| オフィスアワー | LC棟203室:水曜日14:20～16:00 | | | | その他 | メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|--|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 保育内容演習(人間関係) | | | | 担当教員 | 越中康治 |
| | Seminar of Childcare and Education (Human Relations) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本授業では、保育内容「人間関係」の基礎的事項を踏まえた上で、保育現場における実践事例にふれながら、演習を通して、幼児期の社会性・道徳性の発達とそれを支える保育者の役割について説明する。 | | | | | | (2) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 本授業では、(1)幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容に関する基本的な知識を習得する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼児期の社会性・道徳性の発達とそれを支える保育者の役割について考える意欲を持つ。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 保育内容「人間関係」の基礎的事項を踏まえた上で、保育現場における実践事例にふれながら、演習を通して、幼児期の社会性・道徳性の発達とそれを支える保育者の役割について説明する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法について説明する。 [授業外学修]シラバスを読んでおくこと。 | | | | ⑨ | [テーマ] 幼児期における関係性攻撃の事例と保育者の対応 [内容] 保育現場における事例に基づく課題を提示し、幼児期における関係性攻撃の事例と保育者の対応について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ② | [テーマ]領域「人間関係」に関する基礎的事項について [内容] 領域「人間関係」に関する基礎的事項について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑩ | [テーマ] 小学校への接続期における人とのかかわり [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、小学校への接続期における人とのかかわりについて説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ③ | [テーマ] 乳児期から幼児期にかけての人とのかかわり [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、乳児期から幼児期にかけての人とのかかわりについて説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑪ | [テーマ] 幼小の連携と交流活動の実際 [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、幼小の連携と交流活動の実際について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ④ | [テーマ] 幼児期における社会性・道徳性の発達 [内容] 幼児対象の調査研究課題に基づく演習を実施し、幼児期における社会性・道徳性の発達について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑫ | [テーマ] 保護者とのかかわり [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、保護者とのかかわりについて説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ⑤ | [テーマ] 入園期の様子と援助のあり方 [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、入園期の様子と援助のあり方について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑬ | [テーマ] 特別な配慮を必要とする子どもたちの人とのかかわり [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、特別な配慮を必要とする子どもたちの人とのかかわりについて説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ⑥ | [テーマ] 子ども集団と保育の環境 [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、子ども集団と保育の環境について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑭ | [テーマ] 領域「人間関係」と指導案の立案及び評価 [内容] 領域「人間関係」と指導案の立案及び評価について演習を行う。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ⑦ | [テーマ] 幼児期における仲間関係の発達の変化と保育者の援助 [内容] 映像資料に基づく課題を提示し、幼児期における仲間関係の発達の変化と保育者の援助について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑮ | [テーマ] まとめ [内容] 指導案の立案及び評価についてまとめを行う。 [授業外学修]授業内容の復習 |
| ⑧ | [テーマ] 幼児期におけるいざこざ・対人葛藤と保育者の援助 [内容] 幼児対象の調査研究に基づく演習を実施し、幼児期におけるいざこざ・対人葛藤と保育者の援助について説明する。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験 [授業外学修]授業内容の復習 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 毎回の授業で提示する小課題等(70%)と期末試験(30%)により評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 30% | |
| 授業内レポート | | | ◎ | ◎ | 60% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | ○ | 10% | |
| 出席 | | | ○ | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容総論 | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | | | | | 参考書 | 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 |
| オフィスアワー | 担当者は非常勤のため、教育企画室を通して連絡を取ること | | | | その他 | 非常勤講師のため、教育企画室を通して連絡を取ること |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|---------|--|--|
| 授業科目名 | 保育内容演習(環境) | | | | 担当教員 | 山崎 裕 |
| | Seminar of Childcare and Education (Environment) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 子どもたちが周囲の様々な環境(自然・季節、いのち、もの、社会)に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことを目的とし、子どもの生活や遊びを領域「環境」の観点から捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、幼児教育者としての資質を高めるための授業を行う。 | | | | | | (1) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 保育の環境は、子どもに自由感を与え、遊びを成立・発展させるものでなければならない。子どもたちに関わる保育の環境を構成するモノについて具体的に引き上げ、触れたり調べたり作ったりしながら、彼らを育てるための環境づくりと指導法について共に考える。到達目標として、幼児を取り巻く環境を分析でき、また保育環境を設定できるようになる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 子どもの生活や遊びを領域「環境」の観点から捉え、保育を展開していくための方法や技術を理解できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 子どもたちが周囲の様々な環境(自然・季節、いのち、もの、社会)に好奇心や探究心を持って関わるができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 子どもを取り巻く環境の実態や状況に即した援助や関わりについて、幼児教育者として支援できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 論理講義の他に、野外活動や実験、実物や画像を用いた観察・分析など、演習内容を盛り込む。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 幼児教育の基本 [内容] 講義内容のガイダンス。保育の中での「環境」とは。 [授業外学修] 配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑨ | [テーマ] 自然環境と保育(2)ー植物の栽培 [内容] 子どもの発達と環境のかかわり(4歳児を取り巻く環境)。花壇や野菜作りの意義。 [授業外学修] 教科書第7・10・11章を予習。配布資料で復習。 | |
| ② | [テーマ] 子どもの発達と保育内容 [内容] 5領域の中での環境の位置付け。 [授業外学修] 教科書第1章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑩ | [テーマ] 自然環境と保育(3)ー動物の飼育 [内容] 子どもの発達と環境のかかわり(5歳児を取り巻く環境)。子どもと昆虫などの動物、そして安全。 [授業外学修] 教科書第8・10章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | |
| ③ | [テーマ] 領域環境のねらいと内容 [内容] 5領域の中での環境の位置付けの変遷と今後。 [授業外学修] 教科書第1章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑪ | [テーマ] 自然環境と保育(4)ーピオトープ、里山探検など [内容] 幼児のためのピオトープ。里山から学ぶもの。野外活動の安全。 [授業外学修] 教科書第10・11章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | |
| ④ | [テーマ] 子どもの遊びと環境構成 [内容] 人間の生活と環境、その中でも子ども。子どもと遊びの関係。 [授業外学修] 教科書第2・3章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑫ | [テーマ] 社会的行事と保育 [内容] 幼児の地域行事参加、祭など伝統行事の教育効果。地域の人々とのふれあい。 [授業外学修] 教科書第8・11・12章を予習。配布資料で復習。 | |
| ⑤ | [テーマ] 人的環境としての保育者の役割 [内容] 子どもを取り巻く人々、友だち。 [授業外学修] 教科書第2章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑬ | [テーマ] 保育内容・環境の指導と計画 [内容] 保育施設(保育所・幼稚園)における指導案の作成(環境という観点から)。 [授業外学修] 教科書第9・10・11章を予習。配布資料で復習。 | |
| ⑥ | [テーマ] 物的環境と保育(1)ー絵本、人形 [内容] 子どもの発達と環境のかかわり(未満児を取り巻く環境)。絵本、人形の役目。 [授業外学修] 教科書第4・9章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑭ | [テーマ] 環境教育の内容と方法 [内容] 一般的環境教育の内容と幼児教育における環境教育の意義。幼児にとつての数字や記号とは。模擬授業。 [授業外学修] 教科書第12章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | |
| ⑦ | [テーマ] 物的環境と保育(2)ー玩具、園庭遊具 [内容] 子どもの発達と環境のかかわり(2・3歳児を取り巻く環境)。玩具の役目。園庭について。 [授業外学修] 教科書第5・9章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | | | ⑮ | [テーマ] これからの保育環境の課題 [内容] 環境という観点から見た保育の変遷。これからの保育に求められるものと理想の保育。 [授業外学修] 教科書第3章を予習。配布資料で関連事項の復習。 | |
| ⑧ | [テーマ] 自然環境と保育(1)ー草花あそび [内容] 子どもの発達と環境のかかわり(3歳児を取り巻く環境)。草花遊びと安全。 [授業外学修] 教科書第6・10・11章を予習。配布資料で復習。 | | | ⑯ | [テーマ] まとめと学修確認 [内容] 学修内容確認定期試験実施 [授業外学修] 全15回配布資料の重要項目に付箋を付けると良い。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 理解度だけではなく努力を重視し評価する。毎回の講義への積極的取り組みも総合的に評価する。試験では知識確認だけではなく、独創性や論理的思考を重視する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・配布資料は講義レジュメや要点ではなく、自主学習のための参考資料である。各受講者が主体的に学ぶため、可能な限り加工を加えない「生」の情報重視したい。そのため枚数が嵩張るが、趣旨を理解のうえ十分に活用願いたい。 ・×10倍程度のルーペとピンセットの準備を推奨 |
| 定期試験 | | ◎ | ◎ | ○ | 40% | |
| 授業内レポート | | ◎ | ○ | ◎ | 20% | |
| 授業外レポート | | ○ | ◎ | ○ | 10% | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ◎ | 10% | |
| 授業態度 | | ○ | ○ | ○ | 20% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容総論 | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格 |
| 教科書 | 中沢和子『新訂子どもと環境』、萌文書林 必要に応じて資料を配布する。 | | | | 参考書 | 熊谷清司「花草あそび」文化書房博文社 文部科学省「幼稚園教育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」 |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通すこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | 保育内容演習(言葉) | | | | 担当教員 | 飯島典子 |
| | Seminar of Childcare and Education (Language) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背景紙参照) |
| 子どもの言葉に対する感性と話す・聞く・伝える・考える力を保育を通して育成する意義について解説する。また、幼児園教育要領、保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらいおよび内容についてその背景となる発達を基に、子どもの主体的で対話的な学びが実現する指導方法と援助のあり方について解説する。 | | | | | | (2) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育の目標である「言葉」の領域について、その背景となる乳幼児期の言語発達過程について領域固有の発達と人間関係など連関発達の観点から理解を深める。その上で、乳幼児期に相応しい教育のあり方を絵本などの文化財の活用やごっこ遊びの展開などから理解する。さらに、それらを指導案にまとめ、実践することにより、保育を考案・実施する技能を身につける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | ①領域「言葉」のねらいと内容を他の領域と関連づけながら、ねらいと内容の意義を説明できる。 ②言葉とコミュニケーション、思考の発達過程とそれを育むために必要な幼児期の経験およびその保育のあり方を考察できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | ③乳幼児の言葉の発達を促すために保育を創意工夫することができる。 ④仲間とのよりよい保育の創造に寄与することができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ⑤幼児の主体的な学びを援助するための教材を使用できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 領域「言葉」に関する基本的知識を理解した上で、具体的な指導法について解説をする。子どもの言葉の感性を育む保育、ごっこ遊び、話し合い活動、文字への理解については、教材と指導案について説明する。これらを踏まえ、各自で年齢を設定し、年齢にあった教材研究(ペープサートなど)と実践を通して、指導法についての理解を深められるようにすすめていく。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 幼児教育の特質および幼稚園教育要領における領域「言葉」と他の領域との関連 [内容] 領域「言葉」のねらいと内容について学ぶ [授業外学修]ねらいと内容および解説を熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] ごっこ遊びの指導と援助(指導案理解) [内容] ごっこ遊びを促す場面設定および環境について考える [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | |
| ② | [テーマ]幼稚園教育要領の領域「言葉」と小学校教育および教科との学びの連続性 [内容] 領域「言葉」の育ちの系統的な発達と学びの連続性について学ぶ [授業外学修]小学校学習指導要領を熟読すること | | | ⑩ | [テーマ] 言葉による伝え合い、文字を活用する力を育む保育(教材研究) [内容] 話し合い活動および遊び場面に文字の取り入れた活動について学ぶ [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | |
| ③ | [テーマ] 言語発達を育む人との関わり [内容] 乳幼児の言語発達過程とそれを育む人的環境との関連について学ぶ [授業外学修]子ども心理学Ⅰを復習しておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 言葉による伝え合い、文字を活用する力を育む保育の計画と援助(指導案理解) [内容] 話し合いや文字を取り入れた活動の展開について考える [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | |
| ④ | [テーマ] 言語発達を育む環境 [内容] 乳幼児の言語発達過程とそれを育む物的環境との関連について学ぶ [授業外学修]子どもの心理学Ⅰを復習しておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 乳幼児の言葉を育む保育の実践(模擬授業) [内容] これまでの授業内容を踏まえ各自で保育を実践する [授業外学修]実践の反省点、課題と解説策をまとめておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] 教育・保育のカリキュラムマネジメント(情報機器の操作を含む) [内容] 乳幼児の言語発達過程を踏まえたカリキュラムと振り返り方法について学ぶ [授業外学修]絵本などの身近な教材について考えをまとめておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 教育・保育の記録と改善 [内容] 模擬保育の実践を振り返り、保育の改善についてディスカッションする [授業外学修]第14回にむけて準備をしておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] 言葉の感性を育む保育(教材研究) [内容] 言葉の感性を育む保育で活用できる教材に触れる [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 教育・保育の再構成と領域の統合 [内容] 新たに指導案を作成する [授業外学修]指導案を完成させる | |
| ⑦ | [テーマ] 言葉の感性を育む保育の計画と援助(指導案理解) [内容] 第6回を踏まえた援助のあり方を考える [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 外国語教育および外国籍幼児に対する援助と保育者の役割 [内容] 発達の観点から外国語教育および外国籍幼児の保育に関する課題を考える [授業外学修]これまでの学びを復習し、自分なりの考えをまとめること | |
| ⑧ | [テーマ] ごっこ遊びと言葉の育ち(教材研究) [内容] ごっこ遊びの発展と言葉の育ちについて学ぶ [授業外学修]第12回に向け本講義の内容を踏まえ準備をしておくこと | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| テーマのまとめりとごとに何を学んだのか、どのように活かすのかについてレポートを求める。提出されたレポートは総合的に判断して評価を行う。なお、提出されたレポートへのフィードバックは授業内で解説を加えてコメントする。技能表現的領域では、授業内のパフォーマンスに加えて指導案に示された保育の創造性も評価の対象とする。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | ○ | | 20% | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ○ | 40% | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ◎ | 40% | |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | 加点対象 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 保育内容総論・保育内容演習 | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状、保育士資格 |
| 教科書 | 内藤知美・新井美保子編著 コンパス保育内容言葉 建帛社 | | | | 参考書 | 『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通すこと。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|-------|---------|-------------------|--|----------------|
| 授業科目名 | 保育内容演習(表現) | | | | 担当教員 | 志賀圭子 |
| | Seminar of Childcare and Education (Expression) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 養護と教育に関わる5領域「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」のねらいを理解し、保育を展開していくための方法や技術、援助や関わり方について具体的に学べるような授業を行う。そして、保育内容を総合的に展開していくための知識、技術、判断力を習得し、自らの保育者としての感性や表現力を養う。 | | | | | | (2) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 5領域「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」のねらいを理解し、その上で「表現」と他の領域の関係性について学ぶ。「表現」における子どもの発達段階について学び、保育を展開していくための方法や技術を、実践を通して身に付けていく。子どもの表現活動に対する保育者のかかわり、援助について理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保育の5領域とそれぞれの関連性について説明することができる。「表現」における発達段階と、活動形態に応じた援助の役割について説明することができる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 子どもの「表現」に対してその思いを読み取り、どう関わればいいのか、その援助について、自分の思いを述べるすることができる。意欲を持って、研究・製作に挑むことができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 「造形表現」に必要な材料や用具・道具を適切に使用できる。保育の現場における道具や用具使用に関して発達に応じた指導ができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業のテーマに沿った資料(直感教材・絵本等)を使用し、講義と実技を行う。領域「表現」を他の領域と関係づけ、保育者としての働きかけを学ぶものとする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 保育・幼児教育の「ねらい」と「内容」 [内容] 保育・幼児教育において育みたい資質・能力について学ぶ。 [授業外学修]「保育のねらいと内容についてまとめること」 | | | ⑨ | [テーマ] 教材研究「環境と遊び」②自然物 [内容] 身近な自然、動植物、人との関わりについてディスカッションし、自分なりの考えをまとめる。 [授業外学修]「身近な自然、動植物、人との関わりについて調べてくること」 | |
| ② | [テーマ]保育の5領域「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」 [内容] 5領域と子どもの生活との関係性について学ぶ。 [授業外学修]「保育の5領域についてまとめること」 | | | ⑩ | [テーマ] 教材研究「言葉と表現」 [内容] 絵本や物語、言葉遊びと子どもの成長についてディスカッションし、自分なりの考えをまとめる。 [授業外学修]「ディスカッションに適する絵本や物語について調べてくること」 | |
| ③ | [テーマ] 5領域の中の「表現」の位置づけ [内容] 「表現」と他の4つの領域の関係性について学ぶ。 [授業外学修]「表現」の位置づけについてまとめること | | | ⑪ | [テーマ] 保育者のかかわりと援助① [内容] 保育者の役割、発達に即した援助について学ぶ。 [授業外学修]「保育者の役割・援助についてまとめること」 | |
| ④ | [テーマ]「表現」のなかの造形表現(描く)について①(理論) [内容] 描画の発達段階について学ぶ [授業外学修]描画の発達段階についてまとめること | | | ⑫ | [テーマ] 保育者のかかわりと援助② [内容] 間接的な援助、直接的な援助について学ぶ。 [授業外学修]「保育者の間接的・直接的な援助についてまとめること」 | |
| ⑤ | [テーマ]「表現」のなかの造形表現(描く)について②(実践) [内容] 描画の発達段階を自ら実技を通して学ぶ。 [授業外学修]「自分の実践したい年齢の描画について調べてくること」 | | | ⑬ | [テーマ] 模擬保育① [内容] 領域「表現」の指導計画を立て、模擬保育を行う。 [授業外学修]「指導計画をまとめること」 | |
| ⑥ | [テーマ]「表現」のなかの造形表現(つくる)について①(理論) [内容] 「つくる」表現の発達段階について学ぶ。 [授業外学修]「つくる」発達段階についてまとめること | | | ⑭ | [テーマ] 模擬保育② [内容] 領域「表現」の指導計画を立て、模擬保育を行う。 [授業外学修]「指導計画をまとめること」 | |
| ⑦ | [テーマ]「表現」のなかの造形表現(つくる)について②(実践) [内容] 「つくる」表現の発達段階を自ら実技を通して学ぶ。 [授業外学修]「自分の実践したい年齢の製作物について調べてくること」 | | | ⑮ | [テーマ] 全体のまとめ [内容] 全体のまとめ [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] 教材研究「環境と遊び」①人工的なもの [内容] 身近な物や遊具との関わりについてディスカッションし、自分なりの考えをまとめる。 [授業外学修]「身近な物・遊具について、遊びとの関わりについて調べてくること」 | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 参加型授業形態である。まずは出席することが大前提。授業の毎、製作またはレポートで自ら学んだことをまとめ提出することで評価する。(評価割合70%) 授業態度・参加意欲が、そのまま作品・レポートに反映されることの評価(評価割合30%)。欠席は原則として、3分の一以上は評価対象外とする。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義以外に実技・製作・ワークショップ・ロールプレイ等の活動を行うため、動きやすい服装で参加のこと。各自の準備物もその都度必要となるので、忘れずに持参すること。受け身でない積極的な参加姿勢が必要。授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 | |
| 定期試験 | | | | | } | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ○ | 70% | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| 授業態度 | ○ | ◎ | ○ | 30% | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | 絵画・造形表現Ⅰ、絵画・造形表現Ⅱ | | | 関連資格 | 幼稚園教諭第1種免許状、保育士資格 | |
| 教科書 | | | | 参考書 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育保育要領・絵本・画集・幼児の作品・幼児の活動写真等 | |
| オフィスアワー | | | | その他 | 非常勤講師のため、教育企画室を通して連絡を取ること | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | スポーツコーチング概論 | | | | 担当教員 | 武石/阿部肇/石丸/吉井/桑原/門野/柴山/黒澤/名取/宮崎/渡邊(泰)/河野/川戸/林/小野寺 |
| | Introduction to Coaching | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| この授業では測定系種目、判定系種目、評定系種目、武道各種目のコーチング方法について講義を行う。スポーツコーチング演習(専門的なコーチング)、スポーツコーチング実習(実践的なコーチング)との関連性を踏まえ講義を行う。 | | | | | | (2) (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 測定系種目、評定系種目、判定系種目、武道各種目のコーチングの同じ点、異なる点を知り、スポーツコーチングのポイントを理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 測定系種目、評定系種目、判定系種目、武道の各種目のコーチングの特徴について説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツコーチングのあるべき姿を追求すべく、多様な人とコミュニケーションを取りながら授業に参加できる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 授業にて得た知識を自身の専門競技におけるパフォーマンス発揮やスポーツ指導に活用できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 測定系種目:陸上競技、漕艇、水泳、判定種目:新体操、判定系種目:野球、テニス、バレーボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、武道の各種目を講義していく。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(武石) [内容] スポーツコーチングについて 担当教員紹介、評価方法 [授業外学修]事前にスポーツコーチングを調べておくこと | | | ⑨ | [テーマ] 判定系種目 バドミントン(林) [内容] バドミントンのコーチング方法 [授業外学修]事前にバドミントンの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ② | [テーマ]測定系種目 陸上競技(門野・柴山) [内容] 陸上競技のコーチング方法 [授業外学修]事前に陸上競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑩ | [テーマ] 判定系種目 バレーボール(石丸) [内容] バレーボールのコーチング方法 [授業外学修]バレーボールの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ③ | [テーマ] 測定系種目 陸上競技(宮崎・名取) [内容] 陸上競技のコーチング方法 [授業外学修]事前に陸上競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑪ | [テーマ] 判定系種目 ハンドボール(桑原) [内容] ハンドボールのコーチング方法 [授業外学修]ハンドボールの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ④ | [テーマ] 測定系種目 漕艇 (阿部肇) [内容] 漕艇競技のコーチング方法 [授業外学修]事前に漕艇競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑫ | [テーマ] 判定系種目 サッカー男子(吉井) [内容] サッカーのコーチング方法 [授業外学修]事前にサッカーの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] 測定系種目 水泳 (渡邊) [内容] 水泳競技のコーチング方法 [授業外学修]事前に水泳競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑬ | [テーマ] 判定系種目 サッカー女子(黒澤) [内容] サッカーのコーチング方法 [授業外学修]事前にサッカーの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] 評定系種目 新体操(河野) [内容] 新体操のコーチング方法 [授業外学修]事前に新体操の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑭ | [テーマ] 判定系種目 ラグビー(武石) [内容] ラグビーのコーチング方法 [授業外学修]事前にラグビーの特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ⑦ | [テーマ] 判定系種目 野球(小野寺) [内容] 野球のコーチング方法 [授業外学修]事前に野球の特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑮ | [テーマ] 武道 柔道(川戸) [内容] 柔道のコーチング方法 [授業外学修]事前に柔道の特性とコーチングの方法を調べておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 判定系種目 テニス(佐藤周) [内容] テニスのコーチング方法 [授業外学修]事前にテニスの特性とコーチングの方法を調べておくこと | | | ⑯ | [テーマ] 試験(武石) [内容] 各種目のコーチング方法・共通の課題について [授業外学修]事前にこれまでの講義内容をノートから確認しておくこと | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。試験レポート課題について1回目のオリエンテーションにてポイントを説明する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中に入ってしまうこと。授業計画は多少前後することがある。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 80% | |
| 授業内レポート | | ○ | | | 20% | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 | |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | スポーツコーチング演習、スポーツコーチング実習 | | | | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、NSCA-CPT、CSCS |
| 教科書 | 指定しない | | | | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜10:20~11:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツトレーナー概論 Introduction to Sports Trainer | | | 担当教員 | 山口貴久/竹村英和/小勝健司 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツトレーナーにとって最も基礎的な内容について、実務経験を活かして講義する。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | スポーツトレーナーの各種活動について説明できる。身体能力測定の目的と方法について説明できる。スポーツを科学的視点か捉えることができる。 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 授業テーマに沿った内容について資料を用いて解説する。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | | | ⑨ | [テーマ] アスレティックトレーナー(以下AT)とは(山口) [内容] ATの役割、歴史的背景、活動と資質、および必要な専門領域について解説する [授業外学修] ATの役割について授業資料を基にまとめること |
| ② | [テーマ] 運動と健康・体力増進の関係(竹村) [内容] 運動が健康・体力増進に及ぼす影響について説明する。また、パーソナルトレーナーなどの関連資格との関係を併せて説明する。 [授業外学修] 運動と健康・体力増進の関係について資料を基に要約する | | | ⑩ | [テーマ] 検査・測定と評価(山口) [内容] ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する [授業外学修] 検査・測定と評価について授業資料を基にまとめること |
| ③ | [テーマ] 運動プログラムを作成する際の留意点(竹村) [内容] 目的に応じた運動プログラムを作成するための留意点等について説明する [授業外学修] 運動プログラム作成の留意点について資料を基に要約する | | | ⑪ | [テーマ] スポーツ傷害の予防(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する [授業外学修] スポーツ傷害の予防について授業資料を基にまとめること |
| ④ | [テーマ] 運動・栄養・休養とコンディショニング(竹村) [内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する [授業外学修] 運動・栄養・休養とコンディショニングについて要約する | | | ⑫ | [テーマ] スポーツ現場における応急処置(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する [授業外学修] スポーツ現場の応急処置について授業資料を基にまとめること |
| ⑤ | [テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学修] 持久力とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する | | | ⑬ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション(小勝) [内容] ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する [授業外学修] アスリハについて授業資料を基にまとめること |
| ⑥ | [テーマ] 筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 筋力・筋パワーがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学修] 筋力・筋パワーとパフォーマンスについて資料を基に要約する | | | ⑭ | [テーマ] コンディショニング(小勝) [内容] ATの主要業務のひとつであるコンディショニングについて解説する [授業外学修] コンディショニングについて授業資料を基にまとめること |
| ⑦ | [テーマ] 調整力・柔軟性とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 調整力(敏捷性・巧緻性・平衡性)や柔軟性がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学修] 調整力・柔軟性とパフォーマンスについて資料を基に要約する | | | ⑮ | [テーマ] 健康管理と組織運営・ATの倫理と関係法規(小勝) [内容] ATが担当健康管理および組織運営とATに必要な倫理および関係法規について解説する [授業外学修] 関係法規について授業資料を基にまとめること |
| ⑧ | [テーマ] 発育・発達・老化とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 発育・発達・老化がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学修] 発育発達老化とパフォーマンスについて資料を基に要約する | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 筆記試験 [授業外学修] 期末試験の振り返りを実施すること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナー実習/演習、体力相談と運動処方、S&C演習、FTI実習、JSPO-AT必修の各科目 | | | 関連資格 | NSCA-CSCS |
| 教科書 | 特に指定しない | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口:木曜12:40-14:10 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント概論 | | | 担当教員 | 永田秀隆/岡田成弘/弓田恵里香/馬佳濠 |
| | Introduction to Sports Management(L) | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について概説する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を説明し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から理解を深める。 | | | | | (1) (2) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について理解する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を理解し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から考察できるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | スポーツマネジメントを構成する諸領域を知り、それぞれの現状や課題について説明できる。 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 本授業は、スポーツマネジメント・コース教員によるオムニバス形式で開講する。担当者がそれぞれ授業を担当する。スポーツマネジメントの基礎となる理論について学習することを主とし、具体的には生涯スポーツ、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった領域について取り上げる。基本的な内容を幅広く理解することを念頭に置き、各教員が授業を展開していく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(馬) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法について説明する。生涯スポーツの意義について概説する。 [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] スポーツクラブのマネジメント(弓田) [内容] クラブビジネス、組織のマネジメントについて解説し、現状や課題について考える。 [授業外学修]学習内容を復習すること |
| ② | [テーマ] ヘルスプロモーション(馬) [内容] ヘルスプロモーションの考え方や、それを基本戦略とした健康増進施策について学ぶ。現場における健康づくりの実践例を紹介する。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑩ | [テーマ] スポーツファンのマネジメント(弓田) [内容] 地域密着の必要性やマーケティングとの関連性について理解し、日本におけるファンマネジメントの課題について考える。 [授業外学修]学習内容を復習すること |
| ③ | [テーマ] 身体活動・運動(馬) [内容] 身体活動・運動の身体的、心理的、社会的および環境の効果を解説する。健康支援について考える。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑪ | [テーマ] スポーツリーグのマネジメント(弓田) [内容] リーグの類型や役割について概説し、ガバナンスの重要性と課題について考える。 [授業外学修]学習内容を復習すること |
| ④ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの重要性(岡田) [内容] 野外教育やレクリエーションなどの言葉の定義について解説する。野外教育・自然体験活動の事例紹介も行う。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑫ | [テーマ] スポーツマネジメントの概説(永田) [内容] スポーツマネジメントについて、学問や立場によって捉え方が様でないことを前11回の講義も含め理解する。 [授業外学修]学習内容を復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際①プログラム編(岡田) [内容] 野外・レク事業のプログラムについて学ぶ。事業の評価の視点や企画の際に必要なプログラムデザインについて解説する。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑬ | [テーマ] スポーツ事業論①(永田) [内容] スポーツ経営の仕組みとスポーツ事業論(A.S. P.S. C.S.)について解説する。 [授業外学修]スポーツ事業とは何か、調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際②マネジメント編(岡田) [内容] 野外・レク事業のマネジメントについて学ぶ。事業の事前準備に必要なマネジメントをあげ、それぞれの必要性を解説する。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑭ | [テーマ] スポーツ事業論②(永田) [内容] スポーツ事業論(A.S. P.S. C.S.)を用い、事例により運動生活の現状を理解する。 [授業外学修]自身の児童・生徒時代のスポーツとの関わりを考えておく |
| ⑦ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際③まとめ(岡田) [内容] 野外・レク事業の運営方法について学ぶ。事前、事中、事後のマネジメントについて整理し、事業運営に必要な知識を身につける。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑮ | [テーマ] スポーツ事業論③及びまとめ(永田) [内容] 前2回で学んだスポーツ事業論(学校を基盤とした理解)が、学校以外の領域においてどのように応用できるか考える。 [授業外学修]学校以外の領域でのスポーツ経営の仕組みについて考えておく |
| ⑧ | [テーマ] クラブ系のマネジメント 導入(弓田) [内容] スポーツマネジメントの発展経緯、スポーツ現場で求められるマネジメントを3つのレベルに分けて紹介する。 [授業外学修]学習内容を復習すること | | | ⑯ | [テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 馬(授業内レポート25%)、岡田(授業内レポート25%)、弓田(授業内レポート25%)、永田(授業内レポート25%) 授業内レポートは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 100% |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 減点アリ |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スポーツマネジメント実習、スポーツマーケティング論、野外教育・活動論、スポーツマネジメント演習、など | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 柳沢和雄他「テキスト体育・スポーツ経営学」大修館書店(永田担当分) | | | 参考書 | 授業時に各教員から紹介する(永田以外) |
| オフィスアワー | 馬(火4)、岡田(木4)、弓田(火4)、永田(火2) | | | その他 | 永田(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|---------|--|
| 授業科目名 | ジュニアスポーツコーチング論 Coaching of Junior Sports | | | 担当教員 | 川口・中屋敷・柴田 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | 高校, 中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| ジュニアスポーツ指導における「運動の楽しさ」を中心とした基本的な考え方を示し、身体的発達に応じた具体的な指導を実際に体験しながらジュニア世代特有の指導のあり方について理解を深めていく。 | | | | | (1) (2) (3) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 幼児、子供のスポーツ指導の基本的な知識と能力を身に付ける。ジュニアスポーツを取り巻く現状の理解と目指すべき方向性を理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 子供の身体特性と運動能力の形成特性について理解する | | | | |
| ■ 情意的領域 | 運動の楽しさの本質と運動感覚の発生と共感への方法論について理解する | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 3人の教員によるオムニバス形式によって行う。授業時間内に小テストの実施やレポートを提出することがあります。一部は実技を通して理解を深めていく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(川口) [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行う。 [授業外学修]講義の受講方法を理解する | | | ⑨ | [テーマ] あそびの写真から、運動財を考える。(柴田) [内容] 1枚の写真に隠されている動きの世界を知る。 [授業外学修]自分で、写真やVTRから情報を収集する。 |
| ② | [テーマ] ジュニア期の年齢別カテゴリーの分類(中屋敷) [内容] 発育発達上の特徴からジュニア期は3つの年齢カテゴリーに分類される事を解説する [授業外学修]配布資料中の性差や個体差について調べてくること | | | ⑩ | [テーマ] 言葉の上達は競技を上達させる。(柴田) [内容] 冷静な結果や現状を知り、次なるステップに向けた目標設定を決める。 [授業外学修]「ジュニアから大人への成長に向けて」レポート作成。 |
| ③ | [テーマ] ジュニア期スポーツ指導の心得について(中屋敷) [内容] コーチング領域からのジュニア期指導の心得と保護者の心得についての内容を説明する [授業外学修]配布資料の心得について各自の過去をあてはめて回答するように | | | ⑪ | [テーマ] ジュニアスポーツの指導者とは(柴田) [内容] 今日の学校スポーツ、クラブスポーツ、幼児体育指導における具体的諸問題を取り上げ、発生指導の立場から問題点を浮き彫りにする。 [授業外学修]スポーツ指導にまつわる問題を復習する |
| ④ | [テーマ] ゴールデンエイジ その1(中屋敷) [内容] プレゴールデンエイジの発育発達上の特徴を解説し、その指導法を説明する。 [授業外学修]配布資料を読んでおくこと | | | ⑫ | [テーマ] 子供の動きの発達と動感コミュニケーション(川口) [内容] スポーツ運動の習熟位相及び局面構造の理解とともに、ジュニア期に重要となる「原志向位相」「探索位相」における共感指導について具体的に解説する。 [授業外学修]コミュニケーションの意味について復習する |
| ⑤ | [テーマ] ゴールデンエイジ その2(中屋敷) [内容] ゴールデンエイジの発育発達上の特徴を解説し、その指導法を説明する [授業外学修]ゴールデンエイジの特徴を復習する | | | ⑬ | [テーマ] ジュニアスポーツと生涯スポーツ(川口) [内容] ジュニア期にどのような運動経験を体験することで生涯スポーツとしての基礎が作られるのかを学習位相との関係から説明する。 [授業外学修]生涯スポーツの本質を復習する |
| ⑥ | [テーマ] ジュニアスポーツとは。(中屋敷) [内容] スポーツは子どもを大人にし、大人を紳士、淑女にする。 [授業外学修]子どものあそびを観察する。 | | | ⑭ | [テーマ] ジュニア期におけるタレント発掘の捉え方(川口) [内容] 子供の能力・才能を早期に確定しようとする背景に何が潜んでいるのか。旧東側諸国の発掘事業を振り返りながら問題点を把握する。 [授業外学修]タレント発掘と評価の違いを復習する |
| ⑦ | [テーマ]言葉がジュニアを育てる。(柴田) [内容] スポーツと言葉、動きを言葉にし、言葉を文字にする。 [授業外学修]スポーツ選手の言葉(コメント)を収集する。 | | | ⑮ | [テーマ] まとめ(川口) [内容] 授業のまとめとテスト課題 [授業外学修]授業のまとめを復習する |
| ⑧ | [テーマ] あそびにまつわる、冒険・挑戦と危険性(柴田) [内容] あそびとスポーツについて考える。 [授業外学修]遊びの中の目的について復習する | | | ⑯ | [テーマ] 試験(川口) [内容] 記述形式を中心とした問題 [授業外学修]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| オムニバスそれぞれのテスト及び出席率と受講態度をもとに評価します。レポートは解説した上で返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ○ | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | スポーツ技術観察論、スポーツコーチング実習、運動学(含む方法学) | | | | 関連資格 |
| 教科書 | スポーツ運動学(明和出版) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜13:00-14:30 | | | | その他 |
| | | | | | 新しい体育授業の運動学(明和出版) |
| | | | | | tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|---------|---|
| 授業科目名 | テーピング Taping | | | 担当教員 | 高橋陽介・小田桂吾・山口貴久・小勝健司 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習し、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。 | | | | | (1) (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | テーピングの目的を的確に説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | テーピングの効果を選手に指導できる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 目的に応じたテーピングが巻ける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返しおこなう。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、テーピングの購入方法、授業の進め方、成績・評価の説明 [授業外学修]教科書p214～p223を読んで予習する | | | ⑨ | [テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法をスピードでできるよう復習する |
| ② | [テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生メカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明 [授業外学修]教科書p214～p223を読んで復習、p224を読んで次回の予習をする | | | ⑩ | [テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法をスピードでできるよう復習する |
| ③ | [テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明 [授業外学修]配布資料を参考にしながら方法を復習する | | | ⑪ | [テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技 [授業外学修]教科書p224～225を参考にしながら方法を復習する |
| ④ | [テーマ] 足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | | | ⑫ | [テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技 [授業外学修]教科書p238～240を参考にしながら方法を復習する |
| ⑤ | [テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | | | ⑬ | [テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技 [授業外学修]教科書p247～248を参考にしながら方法を復習する |
| ⑥ | [テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | | | ⑭ | [テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技 [授業外学修]教科書p251～253を参考にしながら方法を復習する |
| ⑦ | [テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | | | ⑮ | [テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価 [授業外学修]教科書p214～253を参考にしながら実技試験の準備 |
| ⑧ | [テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技 [授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | | | ⑯ | [テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価 [授業外学修]教科書p214～253を参考にしながら実技試験の準備 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実技テスト90%、授業態度10%で評価する。実技テストについては、授業内で個別に解説し評価する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | | | | 有 |
| 演習・実技 | | ◎ | | ◎ | 90% |
| 授業態度 | | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | コンディショニング論 | | | | 関連資格 |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥ | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | 水曜日 12:40～14:10 | | | | その他 |
| | | | | | 連絡先: 第4体育館研究室(3) 高橋(陽)研究室 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | レクリエーション実技 I | | | | 担当教員 | 小池・高崎 |
| | Practical Skill on Recreation I (P.A.) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目(レクリエーション財)を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめる、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。 | | | | | | (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション (小池) (高崎) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑨ | [テーマ] 体力づくりゲーム(高崎) [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ② | [テーマ] 室内ゲーム1(小池) [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソング。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑩ | [テーマ] 体解しゲーム(高崎) [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ③ | [テーマ] 室内ゲーム2(小池) [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソング。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑪ | [テーマ] 生涯スポーツ1(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ) [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ④ | [テーマ] 福祉レクリエーションを意識したレクリエーション活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑫ | [テーマ] 生涯スポーツ2(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:パタンク)※インドア、アウトドア両方 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ⑤ | [テーマ] コミュニケーション・ワーク(小池) [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑬ | [テーマ] 生涯スポーツ3(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ⑥ | [テーマ] レクリエーションダンス(小池) [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンスやシンギングゲーム。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑭ | [テーマ] 生涯スポーツ4(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー) [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ⑦ | [テーマ] 室外ゲーム1(小池) [内容] 鬼ごっこなど身体活動系のレクリエーション活動。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑮ | [テーマ] 生涯スポーツ5(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| ⑧ | [テーマ] 室外ゲーム2(小池) [内容] 鬼ごっこなど身体活動系のレクリエーション活動。 [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | | | ⑯ | [テーマ] 総括(小池) (高崎) [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する [授業外学修]レクリエーション実技ノートに授業のまとめを書く | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業参加及びレクリエーション実技ノートにて評価する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度が悪い(私語等)学生は、成績評価から減点する。 ・授業内容は毎回指定されたレクリエーション実技ノートにまとめて、授業終了後提出する。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | | 50% | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | | 50% | |
| 授業態度 | | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | レクリエーション実技 II | | | | 関連資格 | レクリエーション・インストラクター、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーションワーカー |
| 教科書 | 特になし | | | | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 小池和幸(F201) 高崎義輝(F216) 水14:20~15:50 | | | | その他 | なし |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|--|---|
| 授業科目名 | 体操(含体づくり運動) Gymnastic(P.A.) | | | 担当教員 | 溝口 絵里加 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教育現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。教育現場での実務経験を活かして、体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。 | | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導や手本ができる。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 様々な基本動作の内容を論理的に説明できる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 仲間と協力して身体表現をすることができる。周囲の学生に対し適切なサポートをすることができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 指導者としてふさわしい手本を見せることができる。対象者に応じた体操を創ることができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 体操とはなにかを理解し、基本的な運動を身に付けていく。リズム体操の個人技能試験や、対象者に応じた創作体操の発表により、体操の仕方や手本の仕方を学んでいく。また個人学習ノート(リフレクティブジャーナル)の記入(評価割合30%)を毎回の授業で行う。実技試験や授業に取り組む態度等を総合して成績評価を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修] | | | ⑨ | [テーマ] 組み体操、組み立て体操(基礎) [内容] 2人組みや多人数での基礎的な動きを修得する。 [授業外学修] | |
| ② | [テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。 [授業外学修] | | | ⑩ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。 [授業外学修] | |
| ③ | [テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリエーションストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。 [授業外学修] | | | ⑪ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。 [授業外学修] | |
| ④ | [テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。 [授業外学修] | | | ⑫ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について [授業外学修] | |
| ⑤ | [テーマ] リズム体操(応用) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。 [授業外学修] | | | ⑬ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄が良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。 [授業外学修] | |
| ⑥ | [テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について [授業外学修] | | | ⑭ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。 [授業外学修] | |
| ⑦ | [テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について [授業外学修] | | | ⑮ | [テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。 [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について [授業外学修] | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 個人技能の出来栄とグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・4回以上欠席をした学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・10分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・服装や身だしなみを整えて(体育指導者としてふさわしい恰好で)受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 70% | |
| 授業態度 | | | | | 減点対象 | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 教員免許状(中高保体)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士 |
| 教科書 | 特になし | | | | 参考書 | 体づくり運動―授業の考え方と進め方―文部科学省 |
| オフィスアワー | 前期:火曜日3限 後期:金曜日2限 | | | | その他 | 溝口研究室(第3体育館5階) |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|-------|---------|-------------------|---|----------------|
| 授業科目名 | | 新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A) | | | 担当教員 | 神野未来 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | (公財)日本スポーツ協会 公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を有する | |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。(公財)日本スポーツ協会公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を活かし、競技・指導者育成の観点から授業を行う。 | | | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 様々な基本動作の内容が説明できる。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 新体操の演技をフレーズで創ることができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方 [授業外学修] 軽度の運動を行い、身体のコンディションを整える | | | | ⑨ | [テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作を覚える。 | |
| ② | [テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作について、ポイントを整理する。 | | | | ⑩ | [テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にフープの操作方法について復習してくる。 | |
| ③ | [テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作を覚える。 | | | | ⑪ | [テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作について、ポイントを整理する。 | |
| ④ | [テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にロープの操作方法について復習してくる。 | | | | ⑫ | [テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作を覚える。 | |
| ⑤ | [テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作について、ポイントを整理する。 | | | | ⑬ | [テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にリボンの操作方法について復習してくる。 | |
| ⑥ | [テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作を覚える。 | | | | ⑭ | [テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作について、ポイントを整理する。 | |
| ⑦ | [テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にボールの操作方法について復習してくる。 | | | | ⑮ | [テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作を覚える。 | |
| ⑧ | [テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作について、ポイントを整理する。 | | | | ⑯ | [テーマ] 演技発表会 [内容] ・創作した演技を発表する。 [授業外学修] 事前に創作した演技を復習してくる。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 個人の創作演技の内容と、発表会でのスキル、新体操への理解度も含め、総合して成績評価を行う。授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。尚、発表会で求める個人のスキルについては、評価の基準を授業内で説明する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 | |
| 定期試験 | | | | ◎ | 70% | | |
| 授業内レポート | | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | | |
| 演習・実技 | ○ | | | ○ | 20% | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 10% | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | | | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20～15:50 | | | | その他 | 研究室:第4体育館1階 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|--|---|
| 授業科目名 | エアロビックダンス Aerobic Dance | | | 担当教員 | 渋谷 祐子 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | インストラクターとしての実務経験あり | |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | 1 |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。 | | | | | (3) (4) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について。 [授業外学修] 授業の振り返り | | | ⑨ | [テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解 | |
| ② | [テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する。 [授業外学修] 授業の振り返り | | | ⑩ | [テーマ] 指導法2 [内容] 集団の運動指導について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解 | |
| ③ | [テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。 [授業外学修] 授業の振り返り | | | ⑪ | [テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解 | |
| ④ | [テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する。筋力トレーニング(自重負荷運動)について説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。 [授業外学修] 授業の振り返り | | | ⑫ | [テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う(グループ発表)プログラムを覚え指導練習をすること。 [授業外学修] 指導練習の反復 | |
| ⑤ | [テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解 | | | ⑬ | [テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表) [授業外学修] 指導練習の反復 | |
| ⑥ | [テーマ] メインエクササイズの種類について [内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する。配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解 | | | ⑭ | [テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表)テストに備えて復習をすること。 [授業外学修] 復習 | |
| ⑦ | [テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する。 [授業外学修] 授業の振り返り | | | ⑮ | [テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テスト対策 | |
| ⑧ | [テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する。 [授業外学修] テスト対策 | | | ⑯ | [テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テスト対策 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 試験は、実技試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内筆記テスト(評価割合30%)と、学習態度(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | |
| 定期試験 | | | | ◎ | 60% | |
| 授業内レポート | | ◎ | | ◎ | 30% | |
| 授業外レポート | | | | | 予定なし | |
| 演習・実技 | | | ◎ | | 10% | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | 健康運動実践指導者・健康運動指導士 |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | 参考書 | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、「エアロビックダンスEX理論」(社)日本フィットネス協会 |
| オフィスアワー | | | | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通じること。 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|--|-------|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | テニス Tennis (P.A.) | | | | 担当教員 | 佐藤周平 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 国立競技場体育指導員(テニス)の経験有 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。ボールを打つという動作において共通して必要とされる能力を考え、実践していく。 | | | | | | (1)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 滞りの無い試合の実践。スポーツのもつ背景などを理解し、基本技術の修得だけではなく、広く、歴史や審判方法、試合の運営等についても理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 基本技術の修得とゲームでの実践 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説 [授業外学修]テニスの試合を動画にて観戦し、動作のイメージを作ってくる | | | | ⑨ | [テーマ] テニスの基礎知識その1 [内容] テニスのルールと運用 主審、副審の体験 [授業外学修]ルールをまとめる。審判の方法を事前に調べてくる |
| ② | [テーマ] 基本技術その1 (ミニテニス) [内容] ワンバウンドでボールを打ち合う(グランドストローク) ダイレクトでボールを打ち合う(ボレー&ボレー) [授業外学修]力の調整や回転について、コツを考えてくる | | | | ⑩ | [テーマ] テニスの基礎知識その2 [内容] テニスの歴史 講義の実施 [授業外学修]テニスの歴史についてまとめる |
| ③ | [テーマ] 基本技術その2 グラウンドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グランドストローク(フォアハンド) [授業外学修]ボールを飛ばす角度について事前に調べてくる | | | | ⑪ | [テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解その1 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]ポジションにより変化する役割についてまとめる |
| ④ | [テーマ] 基本技術その3 サービス [内容] サービスの基本を学ぶ [授業外学修]肩の動き方について事前に調べてくる | | | | ⑫ | [テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解その2 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]攻撃のパターンをまとめる |
| ⑤ | [テーマ] 基本技術その4 ボレー [内容] ボレーの基本を学ぶ [授業外学修]握り方と打ち方を事前に調べてくる | | | | ⑬ | [テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解その3 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]リカバリーのポジショニングについてまとめる |
| ⑥ | [テーマ] 基本技術その5 スマッシュ [内容] スマッシュの基本を学ぶ [授業外学修]サーブとの違いを事前に調べてくる | | | | ⑭ | [テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解その4 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]ANDについて調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] 基本技術その6 サービス&リターン [内容] サービス&リターンの基本を学ぶ [授業外学修]リターンでやるべきことを事前に調べてくる | | | | ⑮ | [テーマ] 実技テスト [内容] 基本技術の習得度をテストする オンコートにて解説と練習 [授業外学修]それぞれの技術を復習してくる |
| ⑧ | [テーマ] 基本技術その7 アプローチショット [内容] 攻めや守りの、展開となる動きを学ぶ [授業外学修]ポジションの変更によって変化する打ち方をまとめる | | | | ⑯ | [テーマ] テニスの基本知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする [授業外学修]ルール、歴史、専門用語について予習してくる |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業参加度、実技テスト、筆記テストの結果を総合して評価する。 提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・テニスコートの関係で、受講者の制限をします。(40名以内) 初回授業日に、抽選を行い受講者を決定します。 詳細は別途掲示します。 ・コートを傷めないシューズ(テニスシューズ)を各自準備すること。 ・ラケット,ボールは貸し出します。 |
| 定期試験 | | | | | 10% | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 10% | |
| 授業外レポート | | | | | 10% | |
| 演習・実技 | | | | ◎ | 30% | |
| 授業態度 | | | ◎ | | 40% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | |
| 教科書 | | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前 木10:20-11:50 後 金14:20-15:50 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | ボランティア活動実践A Voluntary Activity Practice A | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。 | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40~14:10 | | | | その他 |
| | | | | | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | ボランティア活動実践B Voluntary Activity Practice B | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。 | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | | | | 参考書 |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40~14:10 | | | | その他 |
| | | | | | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|---|---|
| 授業科目名 | ボランティア活動実践C Voluntary Activity Practice C | | | 担当教員 | 大山 さく子 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。 | | | | | (4) (5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する | | | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる | |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | | | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。 ・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。 対象学年の学生のみとする。 ・一年を通じた活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 50% | |
| 授業態度 | | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | | | | 関連資格 | | |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40~14:10 | | | その他 | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 海外短期研修A | | | 担当教員 | 国際交流センターセンター長 |
| | Brief Seminar Abroad A | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p> | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p> | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| <p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p> | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| <p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。各研修は日程にあわせて適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク リンベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤーニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開講している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| <p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと ・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること ・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 ・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開講されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 ・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。 |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% | |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% | |
| 授業態度 | | ○ | | 50% | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 海外短期研修B・C・D | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | | | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|---|
| 授業科目名 | 海外短期研修B Brief Seminar Abroad B | | | 担当教員 | 国際交流センター長 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p> | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p> | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| <p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p> | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| <p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせて適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク リンベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤーン応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| <p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと ・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること ・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 ・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 ・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。 |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% | |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% | |
| 授業態度 | | ○ | | 50% | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 海外短期研修A・C・D | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | | | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|---------|-------------------|
| 授業科目名 | 海外短期研修C Brief Seminar Abroad C | | | 担当教員 | 国際交流センター長 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| <p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p> | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| <p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p> | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| <p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p> | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| <p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ事情比較セミナー デンマーク リレバルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| <p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p> | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | | ○ | | 50% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 海外短期研修A・B・D | | | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | | | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | | | その他 | |

5. 資格関連科目

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|-------------------|---|----------------|
| 授業科目名 | 保育実習 I | | | | 担当教員 | 佐々木和、千葉喜久也、東義也 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 認定こども園保育教諭・教頭、幼稚園教諭 | |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 4 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 保育実習 I は、「保育所及び認定こども園における実習」(10日間)と「児童福祉施設等における実習」(10日間)があり、保育士資格取得のための必修科目である。実習を通して、実習現場の役割や機能、子どもへの理解、保育及び保護者への支援、保育の計画・観察・記録及び自己評価などについて、具体的に理解する。 | | | | | | | (4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 保育所及び認定こども園、児童福祉施設等の役割や機能、子どもへの理解、保育及び保護者への支援を総合的に理解する。保育の計画・観察・記録及び自己評価や、保育士の業務内容や職業倫理等について、具体的に理解する。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保育実習に向けて、社会的常識(社会人としてのマナー等)、保育士としての職業倫理の理解や知識を習得する。 | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 保育実習に臨むための意欲や、乳幼児とのかかわり方や援助の仕方について、体験を通して習得する。 | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 保育実習における観察実習、参加実習、部分実習(立案、実践)を体験し、総合的な学びを習得する。 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 認定こども園勤務による実務経験を活かし、保育実習現場の理解(保育所、認定こども園、施設)、保育実習時の態度、社会人としてのマナー、指導計画の作成及び評価の理解等について、事前指導・事後指導を含めて行う。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(佐々木、千葉、東) [内容] 担当教員の紹介、実習に向けての注意事項、シラバスの理解、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを読んでおくこと | | | | ⑨ | [テーマ] オリエンテーション(千葉、佐々木、東) [内容] 施設実習に向けての注意事項 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ② | [テーマ] 保育実習前の準備と留意点①・②(佐々木) [内容] 保育実習に向けて、具体的な準備物・注意事項等を確認する [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑩ | [テーマ] 施設実習前の準備と留意点①・②(千葉) [内容] 施設実習に向けて、具体的な準備物・注意事項等を確認する。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ③ | [テーマ] 保育実習①② [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | | | | ⑪ | [テーマ] 施設実習①② [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | |
| ④ | [テーマ] 保育実習③④ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | | | | ⑫ | [テーマ] 施設実習③④ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | |
| ⑤ | [テーマ] 保育実習⑤⑥ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | | | | ⑬ | [テーマ] 施設実習⑤⑥ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備 | |
| ⑥ | [テーマ] 保育実習⑦⑧ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備、部分実習立案 | | | | ⑭ | [テーマ] 施設実習⑦⑧ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、準備、部分実習立案 | |
| ⑦ | [テーマ] 保育実習⑨⑩ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、部分実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、まとめ | | | | ⑮ | [テーマ] 施設実習⑨⑩ [内容] 保育実習園での、観察実習、参加実習、部分実習、行事への参加 [授業外学修]実習日誌の記録、まとめ | |
| ⑧ | [テーマ] 実習報告会(東、佐々木、千葉) [内容] 保育実習を体験して学んだこと、配慮点、課題などについて発表をする。 [授業外学修]今後の課題を明確にする | | | | ⑯ | [テーマ] 実習報告会(東、佐々木、千葉) [内容] 施設実習を体験して学んだこと、配慮点、課題などについて発表をする。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 実習園からの評価と実習関連提出書類(レポート、課題発表等)を総合して、評価する。「保育実習指導 I」とセットでの単位修得となるので、特に留意すること。提出されたレポートは、授業内で解説をしながら、返却する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・開講は不定期であるため、指示に従って受講すること。 ・保育士をみざすものとして常に課題意識を持ち、自発的に受講すること。 ・併せて、ピアノのレッスンも積極的にこなすこと。 | |
| 定期試験 | | | | | | | |
| 授業内レポート | | ○ | ○ | | 10% | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 10% | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | ◎ | 70% | | |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | 10% | | |
| 出席 | | | ○ | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | 保育実習指導 I、保育実習指導 II | | | | 関連資格 | 保育士 | |
| 教科書 | 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 | | | | 参考書 | 実習中は、「保育実習の手引き」「保育実習日誌」を持参すること。 | |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20~15:50 | | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|---|--|-------|-------------------|---------|---|----------------|
| 授業科目名 | | 保育実習指導 I Child care training I | | | 担当教員 | 佐々木和、千葉喜久也、柴田千賀子 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 認定こども園保育教諭・教頭、幼稚園教諭 | |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 3年次で実施される保育実習 I の事前指導(実習現場に理解、指導計画の基礎、保育実習への心構え等)及び、事後指導を行う。保育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。 | | | | | | | (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 保育実習に参加する基礎的・基本的な知識、技能を習得し、併せて保育実習(保育所、施設)に臨む心構えや態度等を身につける。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得する。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 保育実習に参加するための、意欲と見通しをもつ。 | | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 保育実習の基礎的・基本的技能(絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等)を習得する。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 認定こども園勤務による実務経験を活かし、保育実習現場の理解(保育所、認定こども園、施設)、保育実習の心構え、保育実習の方法と流れ、指導計画の作成及び評価の理解等について、講義(又は演習)を行う。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(佐々木、千葉、柴田) [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、シラバスの理解、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを読んでおくこと | | | | ⑨ | [テーマ] 指導計画案について②(佐々木) [内容] 指導計画案(部分実習)を、立案する。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ② | [テーマ]保育実践の理解(佐々木) [内容] 保育実践の現状を理解する [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑩ | [テーマ] 指導計画案について③(佐々木) [内容] 指導計画案の添削及び再考を行う。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ③ | [テーマ] 保育実習の種類と方法①(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解する。 [授業外学修] | | | | ⑪ | [テーマ] 保育実習と子ども理解(柴田) [内容] 保育実習の前に、子どもとの関わりについて理解を深める。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ④ | [テーマ] 保育実習の種類と方法②(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑫ | [テーマ] 施設実習について(千葉) [内容] 施設実習の実際を学び、実習の意義を理解する。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ⑤ | [テーマ] 保育実習の種類と方法③(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。持参する書類や教材の確認を行う。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑬ | [テーマ] 施設実習の種類と方法①(千葉) [内容] 施設実習の種類と方法の実際について、理解する。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ⑥ | [テーマ] 実習における計画と実践①(佐々木) [内容] 実習の計画と実践を知り、理解を深める。絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び等に触れる。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑭ | [テーマ] 施設実習の種類と方法②(千葉) [内容] 施設実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ⑦ | [テーマ] 実習における計画と実践②(佐々木) [内容] 実習における観察、記録及び評価について、理解を深める。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑮ | [テーマ] 施設実習の指導計画について(千葉) [内容] 指導計画案の実際に触れ、理解を深める。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| ⑧ | [テーマ] 指導計画案について①(佐々木) [内容]実際の指導計画案に触れ、必要性や理解を深める。 [授業外学修]授業内容の復習 | | | | ⑯ | [テーマ] まとめ(佐々木、千葉、柴田) [内容] これまでの授業を総括し、実習への理解を深める。実習に行くにあたってのマナー、オリエンテーションについて理解する。 [授業外学修]授業内容の復習 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 出席及び実習関連提出書類(レポート、課題発表等)を中心に、評価する。提出されたレポートは、コメントを付したり、授業内で解説をしたりしながら、返却する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・開講は不定期であるため、指示に従って受講すること。 ・保育士をみざすものとして常に課題意識を持ち、自発的に受講すること。 ・併せて、ピアノのレッスンも積極的にこなすこと。 | |
| 定期試験 | | | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | ◎ | | 50% | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 30% | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | ○ | 10% | | |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | 10% | | |
| 出席 | | | ○ | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | 保育実習 I | | | | 関連資格 | 保育士 | |
| 教科書 | 保育所保育指針 | | | | 参考書 | 授業時に紹介する | |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50 | | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | 保育実習指導Ⅱ Child care training Ⅱ | | | 担当教員 | 原田 健次 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 保育所所長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 3年生で実施される保育実習Ⅰの保育所実習及び施設実習の事前指導(実習準備等)、事後指導(振り返り、報告会等)を行う。また、4年生で実施する保育実習Ⅱの事前・事後指導も含む。 | | | | | (3)(4)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。保育実習Ⅰや既習の科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | 実習を通して、事前の準備、事後の自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明らかにする。 | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 保育の観察、記録および自己評価を踏まえた保育の改善について、理解する。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 前期、保育所実習事前事後に実施。後期、施設実習事前事後に実施。4年時、保育実習事前事後に実施。内容は実習準備、振り返り、報告会を実施。開講時期は不定期であるが実習に参加するものは必ず出席すること。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 保育実習指導Ⅰを振り返り、実習に向けての復習を行う。 [授業外学修]保育実習指導Ⅰで配布された資料を熟読しておく。 | | | ⑨ | [テーマ] 施設実習事後指導 [内容] 施設の観察、記録、自己評価を行う。 [授業外学修]実習記録簿を全て整える。 |
| ② | [テーマ] 保育所実習に向けての準備 [内容] 実習簿を配布。実習計画作り。 [授業外学修]実習計画を事前に考えておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 実習報告会のための資料作り [内容] 施設の概要、実習報告、振り返り、自己評価、改善点等を含めた報告会資料作り。 [授業外学修]自己評価、改善点をまとめておく。 |
| ③ | [テーマ] 実習計画について [内容] 保育の全体計画に基づく計画づくり [授業外学修]実習に関係する書類を整えておく | | | ⑪ | [テーマ] 実習報告会の実施 [内容] 各自、実習での学びと今後の課題を報告する。 [授業外学修]実習報告書を完成させて持参すること。 |
| ④ | [テーマ] 保育所実習事後指導 [内容] 保育の観察、記録、自己評価を行う。 [授業外学修]実習記録簿を全て整える。 | | | ⑫ | [テーマ] 保育所実習に向けての準備 [内容] 実習簿を配布。実習計画作り。 [授業外学修]実習計画を事前に考えておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 実習報告会のための資料作り [内容] 園の概要、実習報告、振り返り、自己評価、改善点等を含めた報告会資料作り。 [授業外学修]自己評価、改善点をまとめておく。 | | | ⑬ | [テーマ] 実習計画について [内容] 保育の全体計画に基づく計画づくり [授業外学修]実習に関係する書類を整えておく |
| ⑥ | [テーマ] 実習報告会の実施 [内容] 各自、実習での学びと今後の課題を報告する。 [授業外学修]実習報告書を完成させて持参すること。 | | | ⑭ | [テーマ] 保育所実習事後指導 [内容] 保育の観察、記録、自己評価を行う。 [授業外学修]実習記録簿を全て整える。 |
| ⑦ | [テーマ] 施設実習に向けての準備 [内容] 実習簿を配布。実習計画作り。 [授業外学修]実習計画を事前に考えておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] 実習報告会のための資料作り [内容] 園の概要、実習報告、振り返り、自己評価、改善点等を含めた報告会資料作り。 [授業外学修]自己評価、改善点をまとめておく。 |
| ⑧ | [テーマ] 実習計画について [内容] 施設実習の全体計画に基づく計画づくり [授業外学修]実習に関係する書類を整えておく | | | ⑯ | [テーマ] 実習報告会の実施 [内容] 各自、実習での学びと今後の課題を報告する。 [授業外学修]実習報告書を完成させて持参すること。 |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 実習関連書類(評価割合40%) 実習報告会(評価割合30%) 授業態度(評価割合30%) 提出された実習関連書類、レポートは授業内で解説をしながら返却する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | | | 30% |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 保育実習Ⅱ | | | 関連資格 | 保育士 |
| 教科書 | 指定なし | | | 参考書 | 保育所保育指針 |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20～15:50 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|--|-------|-------------------|--------------------------|---|
| 授業科目名 | | 幼稚園教育実習 I Teaching Practice I | | | 担当教員 | 柴田千賀子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3~4 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 幼稚園での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 幼稚園で行う教育実習の事前・事後指導 | | | | | | (1) (2) (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 実習を行う上で求められる子どもとのかかわり方や教材研究について具体的に理解する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 幼稚園での保育実践に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | 幼稚園教諭に求められる資質を理解する。 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | 子どもとのかかわり方や教材研究について具体的に理解する。 保育指導案を作成できる。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 幼稚園教育実習の心得や保育指導案の作成について、具体的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法等 [授業外学修] シラバスを熟読すること。 | | | ⑨ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ② | [テーマ] 幼稚園における教育実習の心得 [内容] 実習に臨むに当たったの諸注意 [授業外学修] 教育実習の手引きを熟読すること。 | | | ⑩ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ③ | [テーマ] 幼稚園教育実習の実際 [内容] 子ども理解について [授業外学修] 子どもとのかかわり方について考えておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ④ | [テーマ] 保育指導案の実際 [内容] 指導内容・方法を考える。 [授業外学修] 教科書を熟読しておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ⑤ | [テーマ] 保育指導案の作成① [内容] ポートフォリオを活用した保育計画立案について学ぶ。 [授業外学修] 教科書を熟読しておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ⑥ | [テーマ] 保育指導案の作成② [内容] 保育指導案を立案する。 [授業外学修] 教科書を熟読しておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ⑦ | [テーマ] 模擬保育 [内容] 指導案をもとに模擬保育を実施し、課題や反省点をまとめる。 [授業外学修] 教科書を熟読しておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| ⑧ | [テーマ] 実習での課題のまとめ [内容] 実習前の学びと実習後の課題を照らし合わせ、今後学ぶべき観点をまとめる。 [授業外学修] 実習での学びをまとめておくこと | | | ⑯ | [テーマ] [内容] [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 作成する保育指導案(80%)・授業外レポート(20%) 提出された保育指導案やレポートは、解説しながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・幼稚園教育実習 I の履修許可基準を満たしていること。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | 80% | |
| 授業外レポート | | | ◎ | | 20% | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 幼稚園教諭関係の全ての科目 | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状 |
| 教科書 | 「楽しく学ぶ運動遊びのすすめ:ポートフォリオを活用した保育実践力の探求」(みらい) | | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 柴田研究室(LC棟2F)オフィスアワー火曜日11:50~12:30 | | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|---|---|-------|-------|---------|-------------------|---|
| 授業科目名 | 教職総合演習(幼稚園) | | | | 担当教員 | 柴田千賀子 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 幼稚園での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| これまでの幼児教育に関する科目横断的な学習能力を確認しながら演習に取り組む。幼児教育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 | | | | | | (3) (4) (5) |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| 幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。また、関連科目等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、幼児教育に関する現代的課題についての現状を分析し、課題への対応として幼稚園、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 幼稚園教諭の実践的指導について理解する。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 幼稚園教諭の実践的指導の理解と指導力形成のための演習に積極的に参加する。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 幼稚園教諭の実践的指導についての基本的技能を習得する。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| これまでの幼児教育に関する科目横断的な学習能力を確認しながら演習を実施する。自身の実践についての課題の分析、省察を行う。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | | ⑨ | [テーマ]保育指導案の立案① [内容] これまでの学びを活かして指導案を立案する。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める |
| ② | [テーマ]グループ討議「幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術」 [内容] これまでの学びを活かして、幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術についてグループ討議を行う。 [授業外学修]配布資料を熟読しておくこと | | | | ⑩ | [テーマ]保育指導案の立案② [内容] 指導案をもとに環境構成を考える。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める |
| ③ | [テーマ]グループ討議発表 [内容] 幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術についてグループ毎に発表を行う。 [授業外学修]配布資料を熟読しておくこと | | | | ⑪ | [テーマ]保育指導案の立案③ [内容] 指導案をもとに教材教具を考え、実際に遊んでみる。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める |
| ④ | [テーマ]演習「模擬保育」(第一回目) [内容] 模擬保育に向けてグループを編成し、どのような実践にするか討議をする。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める | | | | ⑫ | [テーマ] 模擬保育の振り返り(グループ討議) [内容] 模擬保育での保育者と子どものかかわり方、課題や反省点についてグループで討議する。 [授業外学修]討議の内容をまとめておくこと |
| ⑤ | [テーマ]保育指導案の立案① [内容] これまでの学びを活かして指導案を立案する。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める | | | | ⑬ | [テーマ] 模擬保育の振り返り(発表) [内容] 模擬保育での保育者と子どものかかわり方、課題や反省点についてグループで討議した内容を発表する。 [授業外学修]発表内容をまとめておくこと |
| ⑥ | [テーマ]保育指導案の立案② [内容] 指導案をもとに環境構成を考える。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める | | | | ⑭ | [テーマ] 保育の課題に向き合う [内容] 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 [授業外学修]配布資料を熟読しておくこと |
| ⑦ | [テーマ]保育指導案の立案③ [内容] 指導案をもとに教材教具を考え、実際に遊んでみる。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める | | | | ⑮ | [テーマ] 保育の課題に向き合う(発表) [内容] 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討について発表する。 [授業外学修]配布資料を熟読しておくこと |
| ⑧ | [テーマ]演習「模擬保育」(第二回目) [内容] 模擬保育に向けて第一回目とは異なるグループを編成し、どのような実践にするか討議をする。 [授業外学修]子どもの発達と遊びについて学びを深める | | | | ⑯ | [テーマ] まとめ [内容] これまでの演習、グループ討議についての総括を行う。 [授業外学修]配布資料を熟読しておくこと |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 本演習で取り上げる内容は、幼稚園教諭として必ず身に付けておかねばならないものであるため、各時間ともに真剣に受講すること。幼稚園教諭になることを希望する学生が中心に受講することになるので、各テーマにおける演習では積極的に取り組むこと。 |
| 定期試験 | | | | | 実施しない | |
| 授業内レポート | | | ○ | | 10% | |
| 授業外レポート | ◎ | | ◎ | | 10% | |
| 演習・実技 | ◎ | | ○ | ◎ | 80% | |
| 授業態度 | ○ | | ◎ | ○ | 減点アリ | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | 既習の教職関連科目 | | | | 関連資格 | 幼稚園教諭一種免許状 |
| 教科書 | 使用しない | | | | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 柴田研究室(LC棟2F)火曜日11:50~12:30 | | | | その他 | |

6. 自由科目

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|--|-------|---------|---|
| 授業科目名 | レクリエーション実技Ⅱ Practical Skill on Recreation II (P. A.) | | | 担当教員 | 仲野・小池・高崎・岡田 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 岡田:支援実習3(スタッツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する。 | | | | | (1)(3)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 創作や演出の基本や留意点が理解できる | | | |
| ■ | 情意的領域 | 人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | レクダンス・レクゲーム・スタッツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| <ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・岡田) | | | | | |
| ①クラス(1体→4体→剣道) ②クラス(4体→剣道→1体) ③クラス(剣道→1体→4体) 各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する・アイスブレイクの技法アイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ [授業外学修] 授業ノート・1回目に記入 | | | ⑨ | [テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ [授業外学修] 授業ノート・9回目に記入 |
| ② | [テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野2 [内容] その1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる [授業外学修] 授業ノート・2回目に記入 | | | ⑩ | [テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)学習の必要性、2)基本的な創作方法、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。 [授業外学修] 授業ノート・10回目に記入 |
| ③ | [テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野3 [内容] その2 リピートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する [授業外学修] 授業ノート・3回目に記入 | | | ⑪ | [テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。 [授業外学修] 授業ノート・11回目に記入 |
| ④ | [テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。 [授業外学修] 授業ノート・4回目に記入 | | | ⑫ | [テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。 [授業外学修] 授業ノート・12回目に記入 |
| ⑤ | [テーマ] レクリエーションダンス(創作) 仲野5 [内容] 設定されたテーマ曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをし、レクダンスを創作する。 [授業外学修] 授業ノート・5回目に記入 | | | ⑬ | [テーマ] スタッツとは 岡田1 [内容] スタッツがどのようなものかを体験的に学ぶ。スタッツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタッツを作成し、発表する。 [授業外学修] 授業ノート・13回目に記入 |
| ⑥ | [テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] 発表会:オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。 [授業外学修] 授業ノート・6回目に記入 | | | ⑭ | [テーマ] スタッツのバリエーション 岡田2 [内容] 楽しく面白いスタッツを作るための導入ゲームを紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタッツの練習を行う。 [授業外学修] 授業ノート・14回目に記入 |
| ⑦ | [テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価 [授業外学修] 授業ノート・7回目に記入 | | | ⑮ | [テーマ] スタッツの発表 岡田3 [内容] グループごとにスタッツを発表し、受業生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタッツを用いる際の留意点を説明する。 [授業外学修] 授業ノート・15回目に記入 |
| ⑧ | [テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 [授業外学修] 授業ノート・8回目に記入 | | | ⑯ | [テーマ] 総括 仲野・小池・高崎・岡田 [内容] 授業の振り返り及び、体験学習したレクリエーション種目を各自がレクリエーション授業ノートにまとめて指定された期日までに提出する [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する 提出された授業ノートは、コメントを付した上で返却する | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | 0% |
| 授業内レポート | | | | | 70% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | | 0% |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | | 30% |
| 授業態度 | | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | レク実技Ⅰ、レジャー・レク論、レク支援論など | | | 関連資格 | 各種レクリエーション指導者資格 |
| 教科書 | 特に無し | | | 参考書 | 『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他 |
| オフィスアワー | 仲野:月3限、小池:水4限、高崎:水4限、岡田:木4限 | | | その他 | A棟508、F棟2F、F棟2F、A棟509 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|---|---|---------|---|-------------------------------------|
| 授業科目名 | | レジャー・レクリエーション論 Theory of leisure and recreation (L.) | | 担当教員 | 仲野 隆士 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実務経験の有無 | レク指導者養成テキスト作成の実務経験あり |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| 本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。レク指導者養成テキスト作成等の実務経験を活かし、国内外におけるレジャー・レクの現状や課題、意義や価値といった観点から講義を行う。 | | | | | (1) (2) (4) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| 社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | 時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる | | | |
| ■ | 情意的領域 | レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと | | ⑨ | [テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | |
| ② | [テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学修] 配布資料で復習しておくこと | | ⑩ | [テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | |
| ③ | [テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | | ⑪ | [テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | |
| ④ | [テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | | ⑫ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1 高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | | ⑬ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2 少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | | ⑭ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3 地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | |
| ⑦ | [テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | | ⑮ | [テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | | ⑯ | [テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学修] | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。レポート及び筆記試験については、必要に応じて解説する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 |
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 50% | |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 50% | |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 | |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 | |
| 授業態度 | | | | 減点あり | |
| 出席 | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | レク支援論、野外・レク・マネジメント論(含演習)など | | | 関連資格 | レクリエーション・インストラクター レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編 | | | 参考書 | 『やさしいレクリエーション実践』(財)日本レクリエーション協会編 |
| オフィスアワー | 金曜日2限(10:20-11:50) | | | その他 | A棟508・仲野研究室 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|---|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント実習 | | | 担当教員 | 岡田成弘・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・馬佳濛・荒牧重衣 | |
| | Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.) | | | | | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | 1 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の間を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。実習施設は、宮城県蔵王自然の家、宮城県志津川自然の家、国立花山青少年自然の家を予定している(自分で実習先を選ぶことはできないが、夏季や冬季の希望は出せる)。 | | | | | (1)(2)(3)(4)(5) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 実習先の業務内容を理解し、説明できる。 | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。 | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。体育学科スポーツマネジメントコース(コース必修)は4月、それ以外のコース・学科の学生(選択)は5月に最初のオリエンテーションを行う。実習施設の代表者による最終オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によって異なる。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション、導入 [内容] 授業の概要を理解する。社会教育施設の意義や現状、実習の意味を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑨ | [テーマ] 施設的环境整備1 [内容] 施設内外を点検し、活動しやすいように改善する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ② | [テーマ] 施設の理解1 [内容] 施設職員からの説明を受け、受入先の施設の特徴、歴史、活動及び実習の内容を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑩ | [テーマ] 施設的环境整備2 [内容] 活動前は備品の準備・点検、活動中は利用者への貸出・管理、活動後は備品の確認を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ③ | [テーマ] 施設の理解2 [内容] 施設を利用しながら、施設の利用方法、利用者への説明の仕方などを学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑪ | [テーマ] 指導演習準備1 [内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ④ | [テーマ] 指導体験1 [内容] 朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操などの指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑫ | [テーマ] 指導演習準備2 [内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑤ | [テーマ] 指導体験2 [内容] レクリエーションやゲーム・ソングなどの指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑬ | [テーマ] 指導演習1 [内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑥ | [テーマ] 指導体験3 [内容] 団体利用者に対して、野外炊事の指導・支援を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑭ | [テーマ] 指導演習2 [内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑦ | [テーマ] 指導体験4 [内容] 団体利用者に対して、ハイキングやクラフトなどの野外活動の指導・支援を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑮ | [テーマ] 指導演習の評価 [内容] 指導演習及び実習を評価する。職員や利用者からフィードバックをもとに、自身の指導の良かったところ・改善点を整理する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| ⑧ | [テーマ] 利用者の生活指導 [内容] 施設利用者に対して、施設内の利用の仕方や生活指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | | | ⑯ | [テーマ] ふりかえり [内容] 実習を通して学んだことをふりかえり、実習日誌にまとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。実習日誌は学生に返却し、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・事前オリエンテーション(3回)には、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。中途半端な態度のものは、実習に行かせないこともある。 ・予定調整は5月中旬に行い、6月中旬には実習先及び日時が決定する。 ・実習費は、15,000円程度を予定。 |
| 定期試験 | | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | | ○ | 50% | |
| 授業態度 | ○ | ○ | | ○ | 50% | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年) | | | | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター、レクリエーション・インストラクター、ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 特になし | | | | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 岡田:木曜4限 | | | | その他 | 相談・提出は各施設担当者へ |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|--|---|-------|-------------------|---------|---|--|
| 授業科目名 | | アスレティックトレーニング論 I Athletic Training I (L) | | | 担当教員 | 山口貴久/小田桂吾/高橋陽介/小勝健司 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する | |
| | 履修の方法 | 自由科目 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| スポーツトレーナーに必要な不可欠な運動器の機能解剖について、実務経験を活かしてスポーツトレーナーの観点から講義する。 | | | | | | (1) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 関連分野へ応用できる程度まで運動器の機能解剖を理解する。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 認知的領域 | 様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 情意的領域 | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 技能表現的領域 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 概論に続き、各論では身体部位ごとに、1)骨 2)関節と靭帯 3)筋・腱 4)その他の重要な軟部組織について解説する。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学修] 教科書p2-26を熟読し理解してくる | | | | ⑨ | [テーマ] 体幹の機能解剖 I (小勝) [内容] 頸部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p41-44を熟読し理解してくる | |
| ② | [テーマ] 概論 I (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 骨・関節・靭帯の概論について事前に調べてくる | | | | ⑩ | [テーマ] 体幹の機能解剖 II (小勝) [内容] 胸部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p45-54を熟読し理解してくる | |
| ③ | [テーマ] 概論 II (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 骨格筋の概論について事前に調べてくる | | | | ⑪ | [テーマ] 体幹の機能解剖 III (小勝) [内容] 腰部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくる | |
| ④ | [テーマ] 概論 III (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 教科書p106-123を熟読し理解してくる | | | | ⑫ | [テーマ] 上肢の機能解剖 I (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくる | |
| ⑤ | [テーマ] 下肢の機能解剖 I (高橋) [内容] 足部・足関節・下腿の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p96-105を熟読し理解してくる | | | | ⑬ | [テーマ] 上肢の機能解剖 II (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p65-77を熟読し理解してくる | |
| ⑥ | [テーマ] 下肢の機能解剖 II (高橋) [内容] 膝関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p90-105を熟読し理解してくる | | | | ⑭ | [テーマ] 上肢の機能解剖 III (山口) [内容] 肘関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p78-89を熟読し理解してくる | |
| ⑦ | [テーマ] 下肢の機能解剖 III (高橋) [内容] 股関節・大腿の解剖と機能について解説する [授業外学修] 中間テストに備える | | | | ⑮ | [テーマ] 上肢の機能解剖 IV (山口) [内容] 手関節と手の解剖と機能について解説する [授業外学修] 期末テストに備える | |
| ⑧ | [テーマ] 中間試験 [内容] 運動器の機能解剖の概論と下肢の機能解剖に関する筆記試験 [授業外学修] 教科書p27-40を熟読し理解してくる | | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験 [内容] 体幹と上肢の機能解剖に関する筆記試験 [授業外学修] 期末試験の振り返りを実施すること | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 中間および期末試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・本科目は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること ・非常に情報量の多い科目なので、必ず授業外学修を行うこと。これを前提に講義を展開していく。講義の進行は非常に速いので、授業外学修を行わなければ講義についてこれないことを認識し、講義に臨むこと ・アスレティックトレーニング論 II を履修予定の学生は、必ず履修すること ・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない | |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% | | |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 | | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | | |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 | | |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | JSPO-AT必修の各科目 | | | | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー | |
| 教科書 | 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② | | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | 山口:水曜12:40-14:10 | | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | | |
|--|---|---|-------|-------------------|---------|--|--|
| 授業科目名 | トレーニング方法論 Training Methods | | | | 担当教員 | 柴山一仁/中屋敷眞/門野洋介/黒澤尚 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | - | |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | | |
| 授業の概要 | | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| 本講義では、トレーニングの一般原則ならびに競技力向上を狙いと各種トレーニングの方法論を概説する。また、実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる、個々のトレーニングをいかに組み合わせ、配置するかについて、トレーニング構成の諸原則に基づき説明する。 | | | | | | (1) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | |
| 主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般理論およびそれらの具体的な方法論を理解する。また、短期、中期、長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え、実際の計画立案ができるようになる。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツトレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる。トレーニング計画の理論的な立案ができるようになる。 | | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツトレーニング理論に関して、積極的な興味関心を持てるようになる。 | | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | |
| 本講義では、競技力向上を目的とした運動(手段)すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え、筋力、スピード、持久力、柔軟性、調整力を養成する各種体力トレーニングの方法論について講義を行う。その後、個々のトレーニングをいかに構成するかについて、大きく週間、月間、年間でのトレーニング周期に分けて、各々における諸原則を示す。 | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] ガイダンス(柴山) [内容] 担当教員の紹介および授業の内容、成績評価方法等について説明する [授業外学修]シラバスを熟読すること | | | | ⑨ | [テーマ] スキルの獲得とその獲得過程(黒澤) [内容] スキルの獲得とその獲得過程について説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ② | [テーマ] トレーニングとは(中屋敷) [内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑩ | [テーマ] 技術・戦術トレーニング(黒澤) [内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ③ | [テーマ] トレーニングの一般原則(中屋敷) [内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑪ | [テーマ] トレーニング構成の一般原理(黒澤) [内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ④ | [テーマ] トレーニング負荷(中屋敷) [内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑫ | [テーマ] 競技的状態(スポーツ・フォーム)(門野) [内容] 競技的状態とは何か、その周期的発達特性を含めて説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ⑤ | [テーマ] 筋力の養成法(柴山) [内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑬ | [テーマ] トレーニングの期分け(門野) [内容] トレーニングの期分けについて説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ⑥ | [テーマ] スピード・パワーの養成法(柴山) [内容] スピードおよびパワーの種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑭ | [テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成(門野) [内容] 1週間、1ヶ月、1年間で基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ⑦ | [テーマ] 持久力の養成法(柴山) [内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑮ | [テーマ] トレーニング分析と管理(門野) [内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | |
| ⑧ | [テーマ] 巧緻性の養成法(柴山) [内容] 巧緻性とは何か、そしてその具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと | | | | ⑯ | [テーマ] テスト(全教員) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学修]試験内容の確認をしておくこと | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | |
| 試験は期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポートを課す場合がある(評価割合30%)。提出されたレポートは必要に応じて解説しながら返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・私語等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。 ・授業計画は授業の進み具合により変更する場合がある。 | |
| 定期試験 | | ◎ | | | | | |
| 授業内レポート | | ◎ | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | | 減点あり | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | | |
| 関連科目 | | | | | 関連資格 | アスレティックトレーナー | |
| 教科書 | | | | | 参考書 | | |
| オフィスアワー | 柴山研究室 A棟415 オフィスアワー 金曜4限 | | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ医学A Sports Medicine A (L.) | | | 担当教員 | 橋本 実 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。 | | | | | (1) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。 | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。 | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学修] 当日配布するプリントを参照すること | | | ⑨ | [テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ② | [テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑩ | [テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ③ | [テーマ] 顔面頸部外傷 [内容] 顔面頸部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑪ | [テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ④ | [テーマ] 腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑫ | [テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑬ | [テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑭ | [テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | | | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ⑧ | [テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | | | ⑯ | [テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠けや受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 95% |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | 5% |
| 演習・実技 | | | | | |
| 授業態度 | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書 | スポーツ医学A 講義ノート | | | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50 | | | その他 | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|--|--|
| 授業科目名 | スポーツ医学B Sports Medicine B | | | 担当教員 | 小澤輝高/柴原茂樹/橋本 実 | |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) | |
| スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。 | | | | | (1) | |
| 授業の一般目標 | | | | | | |
| スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。 | | | | |
| ■ | 情意的領域 | スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。 | | | | |
| □ | 技能表現的領域 | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | |
| 毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。 | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 | |
| ① | [テーマ] 生活習慣病(1) メタボリックシンドローム(小澤) [内容] メタボリックシンドロームについて解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑨ | [テーマ] 生活習慣病(6) 脂質異常症(小澤) [内容] 脂質異常症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ② | [テーマ] 生活習慣病(2) 肥満と肥満症(小澤) [内容] 肥満、肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑩ | [テーマ] 生活習慣病(7) 糖尿病(小澤) [内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ③ | [テーマ] 運動療法(1)(柴原) [内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑪ | [テーマ] 生活習慣病(8) 虚血性心疾患(小澤) [内容] 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ④ | [テーマ] 運動療法(2)(柴原) [内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑫ | [テーマ] 生活習慣病(9) ガン(小澤) [内容] ガン(悪性新生物)について解説した後、その予防法などについて解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ⑤ | [テーマ] 服薬者の運動プログラム(柴原) [内容] 服薬者の運動プログラム作成上の注意について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑬ | [テーマ] 生活習慣病に対する運動療法プログラム(小澤) [内容] 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成上の注意について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ⑥ | [テーマ] 生活習慣病(3) 骨粗鬆症(柴原) [内容] ロコモティブシンドロームの骨粗鬆症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑭ | [テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患(小澤) [内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ⑦ | [テーマ] 生活習慣病(4) 関節リウマチと変形性関節症(橋本) [内容] 運動器退行性疾患の関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑮ | [テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患(小澤) [内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | |
| ⑧ | [テーマ] 生活習慣病(5) 高血圧症(小澤) [内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | | | ⑯ | [テーマ] 試験(小澤) [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。 [授業外学修] 授業内容(配布資料)についてよく復習しておくこと。 | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | |
| 授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。 | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。 |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% | |
| 授業内レポート | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | |
| 演習・実技 | | | | | | |
| 授業態度 | | | | | | |
| 出席 | | | | | 欠格条件 | |
| 関連科目 | スポーツ医学概論、スポーツ医学A | | | 関連資格 | 健康運動指導士、日本スポーツ協会公認AT、JPSUスポーツトレーナー | |
| 教科書 | 特に指定しない。プリントを使用する。 | | | 参考書 | 健康運動指導士養成講習会テキスト | |
| オフィスアワー | 小澤研究室:F棟2階 水曜日 14時20分～15時50分 | | | その他 | | |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|--|--|--|-------|-------------------|---|
| 授業科目名 | コンディショニング論 Introduction to Conditioning | | | 担当教員 | 高橋陽介／小田桂吾 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 高橋陽介／小田桂吾 高校・大学・プロ現場でアスレティックトレーナー経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を具体的な事例を交え解説する。 | | | | | (1) (2) (3) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ | 認知的領域 | コンディショニングの基礎的事項を説明できる。 | | | |
| □ | 情意的領域 | | | | |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。 | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション(高橋) [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学修]シラバスの熟読 | | | ⑨ | [テーマ] トレーニング計画②(高橋) [内容] トレーニング計画の立案、設計について説明 [授業外学修]教科書p70-84を読んで予習と復習をする |
| ② | [テーマ]コンディショニングとは(小田) [内容] コンディショニングの概念、目的について説明 [授業外学修]教科書p2-10を読んで復習と予習をする | | | ⑩ | [テーマ] ストレッチング(高橋) [内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p178-208;p272-277を読んで復習と予習をする |
| ③ | [テーマ] コンディショニングの要素①(小田) [内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明 [授業外学修]教科書p6-21を読んで復習と予習をする | | | ⑪ | [テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン(高橋) [内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p272-277;p93-97を読んで復習と予習をする |
| ④ | [テーマ] コンディショニングの要素②(小田) [内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明 [授業外学修]教科書p12-24を読んで復習と予習をする | | | ⑫ | [テーマ] レジスタンス・パワートレーニング①(高橋) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p95-97;p120-135を読んで復習と予習をする |
| ⑤ | [テーマ] コンディショニング評価①(小田) [内容] コンディショニング評価の目的、方法について説明 [授業外学修]教科書p27-50を読んで復習と予習をする | | | ⑬ | [テーマ] レジスタンス・パワートレーニング②(高橋) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p120-135;p87-93;p139-147を読んで復習と予習をする |
| ⑥ | [テーマ] コンディショニング評価②(小田) [内容] コンディショニング評価の目的、方法について説明 [授業外学修]教科書p35-59を読んで復習と予習をする | | | ⑭ | [テーマ] アジリティ・スタビライゼーショントレーニング(高橋) [内容] アジリティ・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p87-93;p139-147を読んで復習する |
| ⑦ | [テーマ] トレーニングの基礎(高橋) [内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p52-64を読んで復習と予習をする | | | ⑮ | [テーマ] 総括・復習(小田) [内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える [授業外学修]これまでカバーした教科書の内容を復習する |
| ⑧ | [テーマ] トレーニング計画①(高橋) [内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p60-76を読んで復習と予習をする | | | ⑯ | [テーマ] 期末試験(小田) [内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう [授業外学修] |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | コンディショニング実習 | | | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥ | | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10 | | | その他 | 連絡先:第4体育館1階研究室(3)高橋(陽)研究室 |

2019年度 子ども運動教育科

| | | | | | |
|---|--|-------|-------|-------------------|--|
| 授業科目名 | コンディショニング実習 Conditioning Practicum | | | 担当教員 | 小田桂吾・山口貴久・高橋陽介・小勝健司 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | |
| 授業の概要 | | | | | DPとの関連性(背表紙参照) |
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、競技力向上および傷害予防を目的としたコンディショニング指導に必要な知識と技術の向上を図る。 | | | | | (1)(3)(5) |
| 授業の一般目標 | | | | | |
| アスレティックトレーナーによる実務経験を生かし、その観点からアスレティックトレーナーとして種目別の競技特性を理解し、実際に指導を実践できることを目標とする。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| ■ 認知的領域 | アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る知識を習得する。 | | | | |
| ■ 情意的領域 | 選手、スタッフ、他領域の専門家とコミュニケーションが取れるようにする。 | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る技術を習得する。 | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | |
| 各テーマに合わせた内容の実習を行う。各実習終了後、実技テストを行い理解度、到達度の確認を行う。 | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | 回 | 授業テーマとその内容 |
| ① | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学修]シラバスの熟読 | | | ⑨ | [テーマ] サーキットトレーニング [内容] サーキットトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書162～168ページを参照に復習する。 |
| ② | [テーマ]コンディショニング概論 [内容] コンディショニングの基礎知識を学ぶ。 [授業外学修]配布資料を参照に復習する。 | | | ⑩ | [テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書178～213ページを参照に復習する。 |
| ③ | [テーマ] 代謝系トレーニング [内容] 代謝系トレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書91～97ページを参照に復習する。 | | | ⑪ | [テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン [内容] ウォーミングアップとクーリングダウンの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書272～279ページを参照に復習する。 |
| ④ | [テーマ] コーディネーショントレーニング [内容] コーディネーショントレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書119～126ページを参照に復習する。 | | | ⑫ | [テーマ] フィットネチェック(基礎体力チェック) [内容] フィットネチェックの基礎知識を学び、フィットネテストの企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書280～288ページを参照に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ] スタビリティトレーニング [内容] スタビリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書127～135ページを参照に復習する。 | | | ⑬ | [テーマ] フィールドテスト(専門体力テスト) [内容] フィールドテストの基礎知識を学び、フィールドテストの企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書289～294ページを参照に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ] アジリティトレーニング [内容] アジリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書139～147ページを参照に復習する。 | | | ⑭ | [テーマ] 身体測定 [内容] 身体組成測定の基礎知識を学び、身体組成検査の企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書295～302ページを参照に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] スプリントトレーニング [内容] スプリントトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書149～158ページを参照に復習する。 | | | ⑮ | [テーマ] 実技テスト① [内容] 授業理解度の確認のため上肢の実技試験を行なう [授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |
| ⑧ | [テーマ] エンデュランストレーニング [内容] エンデュランストレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書158～161ページを参照に復習する。 | | | ⑯ | [テーマ] 実技テスト② [内容] 授業理解度の確認のため下肢の実技試験を行なう [授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |
| 成績評価方法(方針) | | | | | |
| 評価は実技試験の結果に基づき評価する。試験については授業内で解説しながらフィードバックする。 | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | 履修上の注意(受講学生に望むこと) | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
| 定期試験 | | | | | |
| 授業内レポート | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | コンディショニング論、アスレティックトレーニング論Ⅰ | | | 関連資格 | ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・ ・JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥ | | | 参考書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト①～⑤、⑦～⑨ |
| オフィスアワー | 担当:小田(水曜日12:40～14:10) | | | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |